

新
井
遺
跡

新 井 遺 跡

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇二二一

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2022

新 井 遺 跡

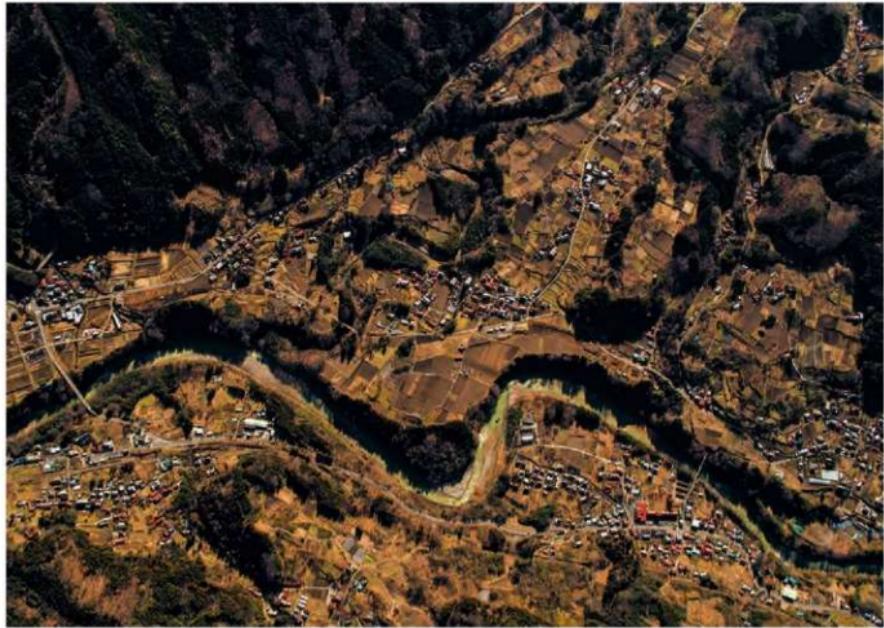
上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



吾妻川中流域 新井遺跡遠景(東上方より)



吾妻川と温川合流域 新井遺跡遠景(上方より)

口絵 . 2



新井遺跡と背後に聳える岩櫃山(南斜上方より)



新井遺跡とすぐ北を東流する呉妻川(東斜め上方より)



D 2.4号墳穴建物出土状況(上方から)

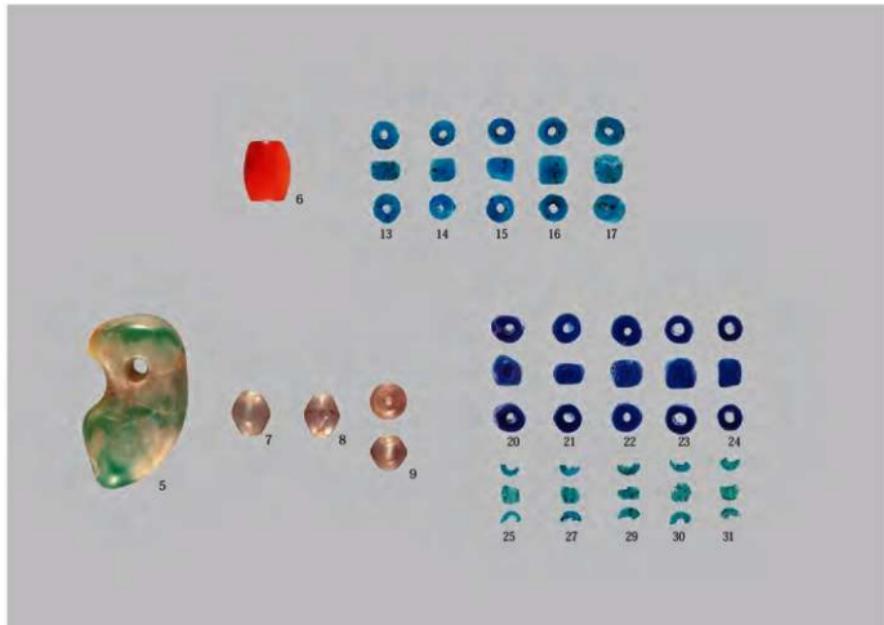


D24号墳穴建物出土土器集合

口絵 . 4



D 4号方形周溝墓完掘状況(上方から)



D 4号方形周溝墓出土玉類集合(上段第1主体部 下段第2主体部)



D区古墳・方形周溝墓・円形周溝墓検出状況(上方から)



D 2号墳検出状況(上方から)

序

上信自動車道は、渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジ付近から、吾妻地域を経て長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジ付近につながる高規格道路です。この道路建設に伴う発掘調査が群馬県東吾妻町の新井遺跡において、平成26年度から平成30年度にかけて行われました。本書はその調査報告となります。

発掘調査では、縄文時代から中近世の遺構が調査されました。縄文時代は、早期から後期までの竪穴建物が24棟も検出されました。弥生時代では、焼失した竪穴建物から、大量の土器や炭化した建物部材などが出土しました。古墳時代には方形周溝墓と古墳が複数構築され、当地が墓域として利用されていたことが判明しました。古代以降中近世も、建物や畠などが検出され、新井の地が、古くから人々が住まい、開発してきた土地であることが今回の調査により分かったのです。

今回の報告書刊行に至るまでには、群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県中之条土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、東吾妻町教育委員会、及び地元関係者の皆さまに多大なご尽力を賜りました。感謝を申し上げます。

今回の報告書が地域の歴史解明の資料として活用がなされることを願い序とします。

令和4年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

1. 本書は、平成26～28年度、平成30年度の新井遺跡の発掘調査の成果を報告する。
2. 遺跡の所在地は、群馬県吾妻郡東吾妻町大字厚田字新井649-1, 650-2, 652-2, 671-1, 672, 674, 675（以上26年度）、B785-1, B708-3, 708-27, B689, B690-2, B乙691, B690-1, B707, B甲691-2, B甲691-1, B706-1, B646-3, B647, B645-1（以上平成27年度）、B786-1（平成28年度・平成30年度）である。
3. 事業主体は、群馬県上信自動車道建設事務所である。
4. 調査主体は、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
5. 調査期間及び調査体制は以下の通りである。

平成26年度発掘調査

履行期間 平成26年8月1日～平成26年11月30日 調査期間 平成26年8月1日～平成26年11月30日

調査担当 関 俊明（主任調査研究員） 小林茂夫（主任調査研究員）

遺跡掘削請負工事 吉澤建設株式会社

委託 遺構測量・デジタル編集業務 技研コンサル株式会社

平成27年度発掘調査

履行期間 平成27年8月1日～平成27年12月31日 調査期間 平成27年8月1日～平成27年12月31日

調査担当 松村和男（主任調査研究員） 立野喜紀（調査研究員）

遺跡掘削請負工事 測研・技研コンサル・瑞穂建設 吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経営
共同企業体

委託 遺構測量・デジタル編集業務 株式会社 測研

平成28年度発掘調査

履行期間 平成28年8月1日～平成28年12月31日 調査期間 平成28年8月1日～平成28年12月31日

調査担当 坂本和之（主任調査研究員） 木津博明（専門調査役）

遺跡掘削請負工事 飯塚・高澤・宮下・吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経営共同企業体

委託 遺構測量・デジタル編集業務 株式会社 測研

平成30年度発掘調査

履行期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日 調査期間 平成30年4月1日～平成30年5月18日

調査担当 関口博之（主任調査研究員） 坂本和之（主任調査研究員）

遺跡掘削請負工事 飯塚・高澤・宮下・吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経営共同企業体

委託 遺構測量・デジタル編集業務 株式会社 測研

空中写真撮影 技研コンサル株式会社

6. 整理事業の期間及び体制は以下のとおりである。

平成28年度

履行期間 平成28年3月31日～平成29年3月31日 整理期間 平成28年4月1日～平成28年9月30日

整理担当者 神谷佳明（専門調査役）

編集・遺物写真撮影：神谷佳明（専門調査役） 石坂 茂（専門調査役） 津島秀章（資料2課長（統括） デジタル編集：齊田智彦（主任調査研究員・資料統括）

遺物実測・観察表 石器・石製品：津島秀章 繩文土器：石坂 茂 土師器・須恵器：神谷佳明

令和2年度

履行期間 令和2年3月31日～令和3年3月31日 整理期間 令和2年6月1日～令和3年3月31日

整理担当者 杉山秀宏(上席調査研究員(資料統括))

編集・遺物写真撮影：杉山秀宏 松村和男(上席調査研究員)神谷佳明 山口逸弘(専門調査役) デジタル編集：齊田智彦(主任調査研究員・資料統括)

遺物実測・観察表 石器・石製品：松村和男 繩文・弥生土器：山口逸弘 土師器・須恵器：神谷佳明

令和3年度

履行期間 令和3年3月31日～令和4年3月31日 整理期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

編集・遺物写真撮影：杉山秀宏(専門調査役) 山口逸弘 岩崎泰一(専門調査役) デジタル編集：齊田智彦(主任調査研究員・資料統括)

遺物実測・観察表 石器・石製品：岩崎泰一 繩文・弥生土器 山口逸弘 土師器・須恵器：神谷佳明 金属製品：杉山秀宏

執筆 第7章第1節 関 邦一(専門調査役) 第2節 佐々木由香(金沢大学) 第3節 杉山秀宏

7. 石材同定は飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。

8. 記録資料及び出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

9. 発掘調査及び整理事業・本報告書の作成には下記の個人・機関によりご指導・ご教示をいただいた。

小玉秀成(弥生土器) 大賀克彦・田村朋美(ガラス玉蛍光X線分析評価) 群馬県地域創生部文化財保護課、東吾妻町教育委員会

10. 専門的な自然科学分析や考察については、専門機間に依頼・委託した。

分 析

火山灰検出同定分析 (株)火山灰考古学研究所

炭化種実試料のAMS法による放射性炭素年代測定・炭化種実同定・炭化材樹種同定 株式会社パレオ・ラボ
赤色顔料分析 志賀智史(九州国立博物館)

土師器・埴輪薄片作製胎土分析 株式会社パレオ・ラボ

ガラス玉・石製管玉蛍光X線分析 群馬大学機器分析センター

繩文早期土器・炭化米塊X線CT 群馬県立群馬産業技術センター

凡　例

1. 本書で使用した座標値は、国家座標(世界測地系2000平面直角座標IX系)を用いた。遺構図中に記した座標値については、国家座標軸X・Y値の下3桁のみを用いて表記した。
2. 遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北であり、真北方向は、 $+0^{\circ}14'$ 、 $43.30''$ (東偏)である。
3. 遺構平面図、遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示し、遺物実測図と遺物写真は原則として同縮率とした。
4. 遺構平面図や遺構断面図に表示した数値は標高であり、単位はメートルである。
5. 本書で使用したスクリーントーン及びマークは以下のとおりである。

遺構 焼土■　灰面■　粘土□　カクラン■　ベンガラ■

遺物 暗褐色物質■　焼■　黒色■　砂目■　炭化物■　焼■　磨り面□　強い磨り面□　灰釉■

6. 遺構平面図中の遺物は次のことを示す。

土器：●　　石器：▲　　鉄器：■　　ガラス玉：□

7. 遺構の主軸方向・走行は、長軸方向で北から 90° 以内を主軸とした。表記は北を基準とし、東に傾いた場合は、 $N-○^{\circ}-E$ とした。竪穴住居の主軸方向については、南を意識した入口が多いので、基本的に南側を下にして配置した。遺構の面積は上端を計測し、計測はプランメーターで3回を行い、その平均値を採用した。遺構の計測値は、縮尺1/20の図面を用いて計測し、m単位で表した。
8. 掘立柱建物の柱間寸法は、柱筋に沿った柱穴心々間をメートル法計測した。
9. 遺構土層注記及び土器・陶磁器類の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所監修『新版標準上色帖』に準拠している。
10. 本書で使用した地図は以下のものを使用した。

第1・8図 吾妻町都市計画図 二千五百分の1 (1978年) を元に編集

第3・10~14図 国土地理院 5万分の1地形図 中之条 を元に編集

第4・9図 国土地理院 色別標高図 を元に編集

第5図 群馬県 土地分類基本調査 中之条 5万分の1地形分類図 を元に編集

第6図 吾妻郡域の段丘面区分図 (山口一俊作製『四戸遺跡』2020)を元に編集

第7図 群馬県 地質図 10万分の1 を元に編集

目 次

口論	第6章	自然科学分析	251
序	第1節	分析の目的と成果	251
例言	第2節	火山灰検出同定分析	254
凡例	第3節	炭化種実試料のAMS法による 放射性炭素年代測定	260
目次	第4節	炭化種実同定	263
第1章 調査の経過と方法	第5節	炭化材樹種同定	267
第1節 調査に至る経過	第6節	ガラス玉・石製管玉の 螢光X線分析	276
第2節 調査区とグリッド設定	第7節	赤色顔料分析	281
第3節 調査の方法	第8節	土師器・埴輪の薄片作製胎土分析	286
第4節 調査の経過	第9節	縄文早期土器X線CT撮影	299
第2章 地形的環境と地質	第10節	炭化米塊X線CT撮影	300
第1節 地形的環境	第7章	考察	
第2節 遺跡付近の地質	第1節	縄文早期土器のX線CT画像分析による 成形技法の検討	301
第3章 歴史的環境	第2節	炭化米塊のX線CT画像解析	306
第1節 はじめに	第3節	新井遺跡の周溝墓と古墳について	309
第2節 吾妻地域と古墳時代の道	新井遺跡 遺構計測表	317	
第3節 歴史的環境の概要	遺物観察表	329	
第4章 基本土層	写真図版		
第5章 発見された遺構と遺物	付図		
第1節 旧石器時代			
第2節 縄文時代			
第3節 弥生時代			
第4節 古墳時代			
第5節 古代			
第6節 中近世			
第7節まとめ			

挿図目次

第1図	新井遺跡調査区設定図	1
第2図	新井遺跡グリッド配置図	2
第3図	新井遺跡周辺地形図	6
第4図	新井遺跡周辺地形高図	6
第5図	新井遺跡周辺地形分類図	7
第6図	新井遺跡周辺岸段丘面区分図	7
第7図	吾妻川流域地質分類図	8
第8図	新井遺跡調査区及び周辺地形図	10
第9図	吾妻地域古墳高図及び古墳時代型別定道	11
第10図	吾妻川中・下流域縦断時代遺跡分布図	19
第11図	吾妻川中・下流域弥生時代遺跡分布図	16
第12図	吾妻川中・下流域古墳時代遺跡分布図	17
第13図	吾妻川中・下流域古代道路分布図	18
第14図	吾妻川中・下流域古墳分布図	26
第15図	基本上層図・基本上層設定位置図	31
第16図	旧石器時代遺構・遺物確認調査トレンチ設定図	
・上層断面図		32
第17図	縄文時代遺跡時期別分布図	34
第18図	C 6号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・出土遺物図		35
第19図	D 26号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・出土遺物図		36
第20図	C 16・19号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・出土遺物図		37
第21図	D 32号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・炉平断面図		39
第22図	D 32号竪穴建物出土遺物図	40
第23図	C 8号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・出土遺物図		41
第24図	D 33号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図・出土遺物図	42
第25図	C 17号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・出土遺物図		43
第26図	C 14号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・出土遺物図		44
第27図	D 29号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・出土遺物図		45
第28図	D 30・31号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・出土遺物図 I		46
第29図	D 30・31号竪穴建物 出土遺物図 II	47
第30図	C 13号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	48
第31図	C 13号竪穴建物出土遺物図	49
第32図	C 10号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・出土遺物図		50
第33図	C 15号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・出土遺物図		51
第34図	C 9号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・出土遺物図		52
第35図	C 11号竪穴建物遺物出土状況図・上層断面図	53
第36図	C 11号竪穴建物平面・上層断面図・炉平断面図	54
第37図	C 11号竪穴建物出土遺物図 I	55
第38図	C 11号竪穴建物出土遺物図 II	56
第39図	C 18号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・出土遺物図		57
第40図	C 18号竪穴建物出土遺物図	58
第41図	C 5号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・炉平断面図		59
第42図	C 5号竪穴建物出土遺物図	60
第43図	D 27号竪穴建物平面・遺物出土状況図・上層断面図	
・出土遺物図		61
第44図	C 7号竪穴建物平面図・上層断面図	62
第45図	C 20号竪穴建物平面図・上層断面図	62
第46図	D 28号竪穴建物平面図・上層断面図	62
第47図	D 34号竪穴建物平面図・上層断面図	63
第48図	D 2号竪穴状構横面・上層断面図・出土遺物図	64
第49図	C 19・20・23・D 117・153・号土坑平面・遺物出土状況図	
・上層断面図		65
第50図	C 5・74・78・D 180・188・212・213号土坑平面図	
・上層断面図		67
第51図	C 25・D 119・249・262号土坑平面図・上層断面図	
第52図	C 48・59・66・77・D 243・257・C 269号土坑平面	
・遺物出土状況図・上層断面図		70
第53図	D 125・182・215・218・232・248・271号土坑平面	
・遺物出土状況図・上層断面図		71
第54図	C 60・63・80・97・D 199・274・283号土坑平面	
・遺物出土状況図・上層断面図		73
第55図	C 15・16・D 255・276号土坑平面図・遺物出土状況図	
・上層断面図		75
第56図	C 84・91・D 230・237号土坑平面図・遺物出土状況図	
・上層断面図		76
第57図	C 21・36・40・44・45・69・73・D 279号土坑平面	
・遺物出土状況図・上層断面図		78
第58図	C 10・88・87・93・D 252・270号土坑平面図	
・遺物出土状況図・上層断面図		80
第59図	C 14・37・68・70・72・80・90・D 150・272・273号	
土坑平面図・遺物出土状況図・上層断面図		82
第60図	C 2・D 141・216・239・241・285号土坑平面図	
・遺物出土状況図・上層断面図		83
第61図	C 27・30・D 245・246・281号土坑平面図・遺物出土状況図	
・上層断面図		84
第62図	C 33・46・49・51・53・55・64・81号土坑平面図	
・上層断面図		85
第63図	C 65・67・71・75・76・82・85・92・96号土坑平面図	
・上層断面図		86
第64図	C 98・100・D 114・115・120・122号土坑平面図	
・上層断面図		87
第65図	D 124・126・127・129・131・133号土坑平面	
・上層断面図		88
第66図	D 134・136・146・147・149・157・160・162・163号	
土坑平面・上層断面図		89
第67図	D 168・170・171・176・177・179・184・185・204号	
土坑平面・上層断面図		90
第68図	D 207・209・211・214・225・226・234・238号土坑平面	
・上層断面図		91
第69図	D 240・242・247・250・253・254・256・258・261	
・265号土坑平面・上層断面図		92
第70図	D 264・266・268・275・277・278・280・282・284	
・286号土坑平面・上層断面図		93
第71図	C 5・19・20・23・25・78・D 117・119・153・180	
・188号土坑出土遺物図		94
第72図	C 48・59・66・77・89・D 125・215・218・243	
・257号土坑出土遺物図		95
第73図	D 182・199・232・248・271・283号土坑出土遺物図	
・上層断面図		96
第74図	C 16・97・D 255・274号土坑出土遺物図	
・上層断面図		97
第75図	C 60・84・91・D 237・276号土坑出土遺物図	
・上層断面図		98
第76図	C 44・D 230・279号(1)土坑出土遺物図	
・上層断面図		99
第77図	D 279号土坑出土遺物図(2)	
・上層断面図		100
第78図	C 21・36・40・45・62・63号土坑出土遺物図平面図	
・上層断面図		101
第79図	C 69・73・87・88・93・D 270号土坑出土遺物図	
・上層断面図		102
第80図	C 10・15・74・D 252号土坑出土遺物図	
・上層断面図		103
第81図	C 37・68・70・72・D 150・272・273号土坑出土遺物図	
・上層断面図		104
第82図	C 24・14・86・90・D 141・216・239	
・285号土坑出土遺物図		105
第83図	D 244・246・281号土坑出土遺物図	
・上層断面図		106
第84図	C 329・331・343・344・348・359・360・363・366	

· 367号ビット平面図・上層断面図・出土遺物図	108
第85回 C 2・3号柱上平面図・上層断面図・出土遺物図	108
第86回 C 2号集石平面図・上層断面図・出土遺物図	109
第87回 C 1号列石平面図・上層断面図	109
第88回 D 1～5号配石平面図・出土遺物図	110
第89回 D区楓木平面図・上層断面図・出土遺物図	111
第90回 A・B区道構外縄文時代出土遺物図	112
第91回 C区道構外縄文時代出土遺物図(1)	113
第92回 C区道構外縄文時代出土遺物図(2)	114
第93回 C区道構外縄文時代出土遺物図(3)	115
第94回 C区道構外縄文時代出土遺物図(4)	116
第95回 C区道構外縄文時代出土遺物図(5)	117
第96回 C区道構外縄文時代出土遺物図(6)	118
第97回 D区道構外縄文時代出土遺物図(1)	119
第98回 D区道構外縄文時代出土遺物図(2)	120
第99回 D区道構外縄文時代出土遺物図(3)	121
第100回 D区道構外縄文時代出土遺物図(4)	122
第101回 D区道構外縄文時代出土遺物図(5)	123
第102回 井生時代道構分布図	124
第103回 D24号豎穴建物平面図・土層断面図	125
第104回 D24号豎穴建物遺物・炭化材出土状況図・断面図	126
第105回 D24号豎穴建物出土状況図	127
第106回 D24号豎穴建物出土遺物図(1)	128
第107回 D24号豎穴建物出土遺物図(2)	129
第108回 D24号豎穴建物出土遺物図(3)	130
第109回 D25号豎穴建物平面図・土層断面図	132
第110回 D25号豎穴建物上層断面図・断面図	133
第111回 D25号豎穴下層建物平面図・土層断面図・断面図	134
第112回 D25号豎穴建物遺物出土状況図	135・136
第113回 D25号豎穴建物遺物・炭化材出土状況図・断面図	137
第114回 D25号豎穴建物出土遺物図(1)	138
第115回 D25号豎穴建物出土遺物図(2)	139
第116回 D25号豎穴建物出土遺物図(3)	140
第117回 D25号豎穴建物出土遺物図(4)	141
第118回 D25号豎穴建物出土遺物図(5)	142
第119回 C 4号豎穴状道構平面・遺物出土状況図・土層断面図 ・出土遺物図	143
第120回 D 1号豎穴状道構平面・遺物出土状況図・土層断面図 ・出土遺物図	144
第121回 C 4号土坑平面・遺物出土状況図・土層断面図 ・出土遺物図	145
第122回 C 17号土平平面・遺物出土状況図・土層断面図 ・出土遺物図	146
第123回 C 302号ビット平面・遺物出土状況図・土層断面図 ・出土遺物図	146
第124回 D 2号方形周溝平面向図・土層断面図	147
第125回 D 2号方形周溝基部平面図・土層断面図 ・出土遺物図	148
第126回 D 2号円形周溝平面向図・主体部平断面図 ・出土遺物図	149
第127回 D 1号円形周溝基盤平面図・主体部平断面図 ・出土遺物図	150
第128回 A区道構外出土遺物図(1)	151
第129回 A区道構外出土遺物図(2)	152
第130回 C区道構外出土遺物図	153
第131回 D区道構外出土遺物図	154
第132回 古墳時代道構分布図	155
第133回 A 6号豎穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図	156
第134回 A 6号豎穴建物前方平面図・出土遺物図	157
第135回 C 1号豎穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図	158
第136回 C 1号豎穴建物前方平面図・カマド平面図 ・土層断面図	159
第137回 C 1号豎穴建物出土遺物図	160
第138回 D 1号方形周溝基盤平面図・遺物出土状況図	162
第139回 D 1号方形周溝基盤主体部平面・遺物出土状況図 ・土層断面図	163
第140回 D 1号方形周溝基第2主体部平面・断面図 ・周溝基出土遺物図	164
第141回 D 4号方形周溝基平面図・土層断面図	165
第142回 D 4号方形周溝基主体部平面・遺物出土状況図 ・土層断面図	166
第143回 D 4号方形周溝基第2主体部土坑平面図	167
第144回 D 4号方形周溝基出土遺物図	168
第145回 C 1号集石遺構・断面図・瓶形平面図・出土遺物図	169
第146回 D 1号古墳石及び浮石出土状況平面向図	170
第147回 D 1号古墳石出土状況図	171
第148回 D 1号古墳石・周塀平面図	172
第149回 D 1号古墳石断面図・断面図	173
第150回 D 2号古墳平面図	175
第151回 D 2号古墳土層断面図	176
第152回 D 2号古墳土体掘方平面図・土層断面図・断面図	177
第153回 D 2号古墳敷石(舗石)平面図・断面図・断面図	178
第154回 D 2号古墳出土遺物図	179
第155回 D 3号古墳平面図・土層断面図	180
第156回 D 3号古墳出土遺物図	181
第157回 古墳時代道構出土遺物図	181
第158回 古代遺構分布図	182
第159回 A 2号豎穴建物・カマド平面・遺物出土状況図 ・土層断面図	183
第160回 A 2号豎穴建物出土遺物図	184
第161回 A 1号豎穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図	185
第162回 A 1号豎穴建物出土遺物図(1)	186
第163回 A 1号豎穴建物出土遺物図(2)	187
第164回 A 3号豎穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図	188
第165回 A 3号豎穴建物・1号カマド平面図・土層断面図	189
第166回 A 3号豎穴建物出土遺物図(1)	190
第167回 A 3号豎穴建物出土遺物図(2)	191
第168回 C 2号豎穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図	192
第169回 C 2号豎穴建物掘方平面・遺物出土状況図 ・カマド平面図	193
第170回 C 2号豎穴建物出土遺物図	194
第171回 C 3号豎穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図	195
第172回 C 3号豎穴建物前方平面図・カマド平面 ・土層断面図	196
第173回 C 3号豎穴建物出土遺物図	197
第174回 D 23号豎穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図 ・出土遺物図	198
第175回 A 5号豎穴建物平面・土層断面図・出土遺物図	199
第176回 A 1・2号獨立社建物平面図・断面図・出土遺物図	200
第177回 B 1号土坑群平面・遺物出土状況図・土層断面図 ・出土遺物図	201
第178回 B 2号土坑群平面図・土層断面図	202
第179回 A 4～10・15号土坑平面図・遺物出土状況図 ・土層断面図	203
第180回 A 11～14・16号土坑平面図・土層断面図 ・土坑出土遺物図	204
第181回 A 4・C207・235・236・246号ビット平面図 ・土層断面図	205
第182回 A 2・3号溝平面図・土層断面図・出土遺物図	206
第183回 A 1号溝平面図・土層断面図	207
第184回 C 2・D32号溝平面図・土層断面図	208
第185回 A 3・7・8号坑上平面図・土層断面図・出土遺物図	209
第186回 A 1・2・5号坑上平面図・土層断面図・出土遺物図	210
第187回 D 3号集石平面図・遺物出土状況図・断面図・瓶形図	211
第188回 D 3号集石出土遺物図	212
第189回 A 11号島平面図・出土遺物図	213
第190回 A 9・10号島平面図・断面図	214
第191回 A区道構外出土遺物図(1)	214
第192回 A区道構外出土遺物図(2)	215
第193回 A区道構外出土遺物図(3)	216
第194回 A区道構外出土遺物図(4)	217
第195回 A区道構外出土遺物図(5)	218

第196図	B～D区遺構外出土遺物図	219
第197図	中近世遺構分布図	220
第198図	B 3号土坑群平面図・土層断面図・出土遺物図	221
第199図	B 4号土坑群平面図・土層断面図	222
第200図	A 1号土坑平面図・土層断面図	223
第201図	B 8・9号土坑平面図・土層断面図・出土遺物図	224
第202図	B 11～14号土坑平面図・土層断面図・出土遺物図	225
第203図	B 15～19号土坑平面図・土層断面図・出土遺物図	226
第204図	C 1号・D 165号土坑平面図・土層断面図	227
第205図	C 1号・D 165号土坑平面図・土層断面図	227
第206図	D 3～5号柱穴判別平面図・土層断面図・断面図	228
第207図	A・C区、D区(1)ビット平面図・土層断面図	229
第208図	D区ビット平面図・土層断面図(2)	230
第209図	D区ビット平面図・土層断面図(3)	231
第210図	D区ビット平面図・土層断面図(4)	232
第211図	D区ビット平面図・土層断面図(5)	233
第212図	D区ビット平面図・上層断面図(6)	234
第213図	C 1号塙上平面図・土層断面図	235
第214図	C 1・3号溝 平面・遺物出土状況図・上層断面図	236
第215図	C 1号溝出土遺物図	237
第216図	C 1号烟平面図	237
第217図	A 5・6号烟平面図・断面図	238
第218図	A 1～4号烟、A 1号道、A 1号石垣、 A 1号ヤックラ平面図、A 1号烟・土層断面図	240
第219図	A 1号烟、A 1号ヤックラ、A 1号石垣断面図	241
第220図	A 2号烟、A 3・4号烟・1号石垣断面図	242
第221図	A 7・8号烟・復旧坑・A 2・3号ヤックラ ・A 2号土坑平面図	244
第222図	復旧坑、A 2・3号ヤックラ断面図	245
第223図	A 2号土坑平面図・土層断面図・出土遺物図	246
第224図	A・B区遺構外遺物	247
第225図	C区遺構外遺物	248

表 目 次

第1表	吾妻川流域の地質一覧	9
第2表	吾妻川中・下流域縦文～古代遺跡(除古墳)一覧表	23
第3表	吾妻川中・下流域古墳一覧表	27

第6章 分析篇 挿図・表・写真目次

第2節	火山灰検出同定分析	
表1	新井遺跡におけるテフラ検出分析結果	257
表2	履歴率測定結果	257
1図	D区深堀トレンチの土層柱状図	258
2図	D区南壁の土層柱状図	258
写真1	D区深堀トレンチ・輕石D(透過光)	259
写真2	D区深堀トレンチ・輕石D(透過光)2	259
第3節	炭化穀実試料の加速度質量分析(AM S法)による放射性炭素年代測定	
表1	測定試料および処理	260
表2	放射性炭素年代測定および曆年較正の結果	261
1図	曆年較正結果	262
第4節	炭化穀実判定	
表1	新井遺跡から出土した炭化穀実	263
表2	クリ炭化子葉の大きさ	265
1図	新井遺跡から出土した炭化穀実	266
第5節	炭化材樹種同定	
表1	遺構と器種別の樹種の定點集	267
表2	建築部材の樹種と木取り	270
表3	樹種判定結果一覧	270～272
図1	新井遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)	273
図2	新井遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)	274
図3	新井遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(3)	275
第6節	ガラス玉・石製玉の蛍光X線分析	
表1	奈良文化財研究所標準試料XRF分析結果	276
表2	新井遺跡から出土したガラス玉・玉類のXRF 分析結果(検出された元素)	277～280
表3	新井遺跡から出土したガラス玉・玉類のXRF 分析結果(元素を單一の酸化物として再計算したもの) の)	277～280
第7節	赤色顔料分析	
表1	新井遺跡出土の赤色顔料分析結果一覧	282
1図	赤色顔料の顕微鏡写真	284
2図	偏光X線スペクトル図	285
3図	X線回折図	285
第8節	土師器・埴輪の薄片作製胎土分析	
表1	分析試料の詳細	286
表2	試料の粘土中の微化石類と砂粒組成の特徴記載	288
表3	粘土中の粘土および砂粒の特徴一覧表	289
表4	岩石片の起源と組み合わせ	290
表5	器種別の砂粒組成と粘土の種類	290
図1	新井遺跡と周辺の地質	293
図版1	分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真(1)	294
図版2	分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真(2)	295
図版3	分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真(3)	296
図版4	分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真(4)	297
図版5	胎土の偏光顕微鏡写真	298
第9節	構文早期土器のX線CT撮影	
写真1	試料土器1・1検査前	299
CT画像1	試料土器1 Xy-plane0734	299
CT画像2	試料土器1 Xz-plane069	299
CT画像3	試料土器1 Yz-plane0266	299
CT画像4	試料土器2 Xy-plane0625	299
CT画像5	試料土器2 Xz-plane0103	299
CT画像6	試料土器2 Yz-plane0129	299
第10節	炭化米穀のX線CT撮影	
写真1	炭化米穀(上から)	300
CT画像1	Xy-plane344	300
CT画像2	Xz-plane0766	300
CT画像3	Yz-plane0735	300

第7章 考察篇 挿図・表・写真目次

第1節	縄文早期土器のX線CTによる成形技法の検討	
写真1～10	試料の出土状況・破片部近接	
写真など	303・304	
C T画像1	Xz-plane052	304
C T画像2	Yz-plane0538	304
C T画像3	Xy-plane1839	304
C T画像4	Xy-plane0670	304
C T画像5	Xy-plane0660	304
C T画像6	Xz-plane076	304
C T画像7	Yz-plane0212	305
C T画像8	Yz-plane0280	305
C T画像9	Yz-plane0350	305

C T 画像10	Yz plane#0415	305
C T 画像11	Yz plane#0500	305
C T 画像12	Xz plane#087	305
C T 画像13	Xz plane#092	305
C T 画像14	Xz plane#094	305
第2節	炭化米塊×X線C T画像解析	
図版1	新井遺跡出土炭化米塊×X線C T画像(1)	307
図版2	新井遺跡出土炭化米塊×X線C T画像(2)	308

第3節	新井遺跡周溝墓と古墳について	
図1	吾妻川中・下流域の周溝墓平面図	310
図2	吾妻川中・下流域円墳・方墳平面図	312
図3	吾妻川中・下流域周溝墓・方墳編年図(1)	314
図4	吾妻川中・下流域周溝墓・方墳編年図(2)	315
表1	考察使用周溝墓・円墳・方墳一覧表	316

遺物観察表 表・図目次

表1	縄文・弥生土器の胎土分類表	329
表2	縄文原体分類表	329

図1	鉢器計測部位位置図	331
----	-----------	-----

写真目次

口絵. 1	上 吾妻川中流域 新井遺跡遠景(東上方より) 下 吾妻川と温川合流域 新井遺跡遠景(上方より)	
口絵. 2	上 新井遺跡と背後に聳える岩櫃山(南斜め上方より) 下 新井遺跡とすぐ北を東面する吾妻川(東斜め上方より)	
口絵. 3	上 D24号豊穴建物遺物出土状況(上方から) 下 D24号豊穴建物出土器皿合	
口絵. 4	上 D 4号方形周溝墓出土玉類集合 (上段第1主体部・下段第二主体部) 下 D 4号方形周溝墓・円錐周溝墓完掘状況(上方から)	
口絵. 5	上 D区古墳・方形周溝墓・円錐周溝墓完掘状況(上方から) 下 D 2号古墳完状況(上方から)	
P L. 1	1 吾妻川中流域 吾妻川・温川合流域 新井遺跡遠景(東上方より) 2 吾妻川中流域 吾妻川・温川合流域 新井遺跡遠景(西上方より)	
P L. 2	1 新井遺跡と背後に聳える岩櫃山(南斜め上方より) 2 新井遺跡と背後に聳える岩櫃山(南方より)	
P L. 3	1 基本上層① 南東より 2 基本上層② 北より 3 基本上層③ 北より 4 基本上層④ 北より 5 基本上層⑤ 東より	
P L. 4	1 旧石器⑤セクション 東より 2 旧石器⑥セクション 西より 3 旧石器⑦セクション 西より 4 旧石器⑧セクション 西より 5 旧石器⑨セクション 西より	
P L. 5	1 A 3号古代遺構検出状況 2 B・C区古代遺構検出状況	
P L. 6	1 C区縄文時代遺構検出状況(西より)	
P L. 7	1 C区古墳時代・古代遺構検出状況(西より)	
P L. 8	1 D区中央部縄文時代遺構検出状況(東より) 2 D区西部古墳時代遺構検出状況(西より)	
P L. 9	1 C 6号豊穴建物全景 南西より 2 C 6号豊穴建物Aセクション 南西より 3 C 6号豊穴建物炉セクション 南より 4 C 6号豊穴建物P 1全景 南より 5 C 6号豊穴建物P 10全景 東より	
P L. 10	1 D26号豊穴建物全景 南東より 2 D26号豊穴建物炉 全景 南西より	
P L. 11	1 C 16・C 19号豊穴建物全景 南東より 2 C 16・C 19号豊穴建物Bセクション 南東より 3 C 16号豊穴建物炉 P 1全景 南より 4 C 16号豊穴建物炉 P 2全景 南より	

P L. 12	5 19号豊穴建物No 6・8遺物出土状況 南東より 1 D32号豊穴建物全景 北西より 2 D32号豊穴建物遺物出土状況 北西より 3 D32号豊穴建物Aセクション 南東より 4 D32号豊穴建物炉セクション 南西より 5 D32号豊穴建物炉全景 南西より	
P L. 13	1 C 8号豊穴建物全景 南東より 2 C 8号豊穴建物炉Cセクション 南西より	
P L. 14	1 D33号豊穴建物全景 南より 2 D33号豊穴建物Aセクション 南より 3 D33号豊穴建物遺物出土状況 南より 4 D33号豊穴建物遺物出土状況 南より	
P L. 15	1 C 17号豊穴建物全景 南より 2 C 17号豊穴建物Aセクション 南より 3 C 17号豊穴建物B遺物出土状況 南より 4 C 17号豊穴建物C遺物出土状況 南より 5 C 17号豊穴建物Dセクション 南より	
P L. 16	1 C 14号豊穴建物Aセクション及び全景 南より 2 C 14号豊穴建物遺物出土状況 南より	
P L. 17	1 D29号豊穴建物全景 北より 2 D29号豊穴建物Aセクション 南より 3 D29号豊穴建物No 5遺物出土状況 南より 4 D29号豊穴建物遺物出土状況 南より 5 D29号豊穴建物P 1全景 南より	
P L. 18	1 D30・D31号豊穴建物Aセクション 北より 2 D30号豊穴建物P 2全景 東より 3 D30号豊穴建物P 14全景 東より 4 D31号豊穴建物P 5全景 南東より 5 D31号豊穴建物P 12全景 南より	
P L. 19	1 C 13号豊穴建物全景 南東より 2 C 13号豊穴建物遺物出土状況 南東より 3 C 13号豊穴建物P 1セクション 西より 4 C 13号豊穴建物P 1全景 西より	
P L. 20	1 C 10号豊穴建物全景 北より 2 C 10号豊穴建物Aセクション 北東より 3 C 10号豊穴建物No 3遺物出土状況 北より 4 C 10号豊穴建物No 4遺物出土状況 北より	
P L. 21	1 C 15号豊穴建物全景 東より 2 C 15号豊穴建物Bセクション 南より 3 C 15号豊穴建物炉全景 南より 4 C 15号豊穴建物P 1全景 西より 5 C 15号豊穴建物P 5全景 西より	
P L. 22	1 C 9号豊穴建物全景 東より 2 C 9号豊穴建物Aセクション 南東より 3 C 9号豊穴建物Bセクション 南西より	

	4	C 9号竪穴建物Bセクション拡大 南西より	6	D34号竪穴建物P10全景 北より
	5	C 9号竪穴建物遺物出土状況 南より	7	D34号竪穴建物P11全景 北より
P.L. 23	1	C11号竪穴建物全景 南東より	8	D34号竪穴建物P14全景 北より
	2	C11号竪穴建物全景 北西より	9	D34号竪穴建物P15全景 北より
P.L. 24	1	C11号竪穴建物Bセクション 西より	10	D34号竪穴建物P17全景 北より
	2	C11号竪穴建物掘方全景 南東より	11	D34号竪穴建物P18全景 北より
	3	C11号竪穴建物掘方全景 北西より	12	D34号竪穴建物P19全景 北より
	4	C11号竪穴建物柱穴跡 東より	13	D34号竪穴建物P21全景 北より
	5	C11号竪穴建物1回目遺物出土状況 南東より	14	D34号竪穴建物P24全景 北より
	6	C11号竪穴建物遺物出土状況 東より	15	D34号竪穴建物P25全景 北より
	7	C11号竪穴建物遺物出土状況 南東より	P.L. 34	1 D2号竪穴状遺構全景 西より
	8	C11号竪穴建物遺物出土状況 東より	2 D2号竪穴状遺構Aセクション 南より	
P.L. 25	1	C11号竪穴建物石圓炉Cセクション 南より	3 D2号竪穴状遺構Bセクション 西より	
	2	C11号竪穴建物石圓炉Dセクション 西より	4 D2号竪穴状遺構Pセクション別定 西より	
	3	C11号竪穴建物石圓炉全景 南東より	5 D2号竪穴状遺構遺物出土状況 西より	
	4	C11号竪穴建物石圓炉検出状況 西より	P.L. 35	1 D117号土坑全景 南東より
	5	C11号竪穴建物P1全景 南より	2 D117号土坑セクション 東より	
	6	C11号竪穴建物P2全景 西より	3 C19号土坑全景 北西より	
	7	C11号竪穴建物P3全景 南より	4 C19号土坑セクション 北より	
	8	C11号竪穴建物P4全景 南より	5 C20号土坑全景 北より	
	9	C11号竪穴建物P6全景 南より	6 C20号土坑セクション 西より	
	10	C11号竪穴建物P7遺物出土状況 南より	7 C23号土坑全景 北より	
P.L. 26	1	C11号竪穴建物P8全景 南より	8 C23号土坑セクション 北より	
	2	C11号竪穴建物P9全景 西より	9 D153号土坑全景 北より	
	3	C11号竪穴建物P10全景 南より	10 D153号土坑セクション 北より	
	4	C11号竪穴建物P11全景 南より	11 D180号土坑全景 北より	
	5	C11号竪穴建物P12全景 西より	12 D180号土坑セクション 北より	
	6	C11号竪穴建物P13全景 東より	13 D188・D212・D213号土坑全景 北より	
	7	C11号竪穴建物P14全景 西より	14 C5号土坑全景 南より	
	8	C11号竪穴建物P15全景 西より	15 C5号土坑セクション 南より	
	9	C11号竪穴建物P16全景 西より	P.L. 36	1 C74・C78号土坑全景 西より
	10	C11号竪穴建物P17全景 西より	2 C74・C78号土坑セクション 東より	
	11	C11号竪穴建物P18全景 南より	3 C74・C78号土坑遺物出土状況 西より	
	12	C11号竪穴建物P19全景 南より	4 C25号土坑全景 西より	
	13	C11号竪穴建物P20全景 北西より	5 C25号土坑セクション 西より	
	14	C11号竪穴建物P21全景 南より	6 D119号土坑全景 西より	
	15	C11号竪穴建物P23全景 西より	7 D119号土坑セクション 北東より	
P.L. 27	1	C18号竪穴建物全景 北より	8 D249号土坑全景 南西より	
	2	C18号竪穴建物P5全景 南西より	9 D249号土坑セクション 南西より	
	3	C18号竪穴建物P8全景 北より	10 D262号土坑全景 西より	
	4	C18号竪穴建物P10全景 西より	11 D262号土坑セクション 西より	
	5	C18号竪穴建物P11全景 西より	12 D269号土坑全景 南より	
P.L. 28	1	C5号竪穴建物全景 東より	13 D269号土坑セクション 西より	
	2	C5号竪穴建物全景 北より	14 D257号土坑全景 東より	
P.L. 29	1	C5号竪穴建物Aセクション 東より	15 D257号土坑セクション 東より	
	2	C5号竪穴建物Bセクション 北より	P.L. 37	1 C89号土坑遺物出土状況 南より
	3	C5号竪穴建物遺物出土状況 東より	2 C89号土坑セクション 南より	
	4	C5号竪穴建物炉石 南より	3 C89号土坑遺物出土状況 南より	
	5	C5号竪穴建物I遺物出土状況 南より	4 D243号土坑全景 南より	
	6	C5号竪穴建物No.2遺物出土状況 南より	5 D243号土坑セクション 南より	
	7	C5号竪穴建物No.3遺物出土状況 南西より	6 C66号土坑全景 西より	
	8	C5号竪穴建物P3全景 西より	7 C66号土坑セクション 西より	
P.L. 30	1	D27号竪穴建物Bセクション 北東より	8 C48号土坑全景 北より	
	2	D27号竪穴建物Aセクション 東より	9 C48号土坑セクション 北より	
P.L. 31	1	C7号竪穴建物全景 西より	10 C48号土坑No.29遺物出土状況 北より	
	2	C7号竪穴建物炉全景 南より	11 C59号土坑全景 西より	
	3	C7号竪穴建物P1全景 北西より	12 C59号土坑セクション 西より	
	4	C7号竪穴建物P2全景 西より	13 C59号土坑遺物出土状況 南より	
	5	C7号竪穴建物P3全景 西より	14 C77号土坑全景 南より	
P.L. 32	1	C20号竪穴建物全景 南より	15 C77号土坑セクション 南より	
	2	D28号竪穴建物全景 南より	P.L. 38	1 D125号土坑全景 南西より
P.L. 33	1	D34号竪穴建物P1(左) P2(右)全景 北より	2 D125号土坑セクション 南西より	
	2	D34号竪穴建物P3全景 北より	3 D215号土坑全景 南より	
	3	D34号竪穴建物P5全景 北より	4 D215号土坑セクション 南東より	
	4	D34号竪穴建物P7全景 北より	5 D215号土坑遺物出土状況 南より	
	5	D34号竪穴建物P8全景 北より	6 D218号土坑全景 東より	

7	D218号土坑セクション 東より	13	C69号土坑遺物出土状況 西より
8	D182号土坑全景 北より	14	C93号土坑全景 西より
9	D182号土坑セクション 北より	15	C93号土坑セクション 西より
10	D271号土坑全景 南東より	P L. 43	1 C87・C88号土坑全景 南より
11	D271号土坑セクション 南東より	2	C87号土坑セクション 南より
12	D271号土坑No.39遺物出土状況 北東より	3	C88号土坑セクション 南より
13	D271号土坑No.46遺物出土状況 南より	4	C88号土坑遺物出土状況 南より
14	D232号土坑全景 南より	5	D270号土坑全景 南より
15	D232号土坑セクション 南より	6	D270号土坑セクション 南より
P L. 39	1 D283号土坑全景 西より	7	D270号土坑No.165遺物出土状況 南より
2	D283号土坑セクション 南より	8	D252号土坑全景 南より
3	D283号土坑遺物出土状況 東より	9	D252号土坑セクション 南より
4	D283号土坑全景 南西より	10	D252号土坑遺物出土状況 南より
5	D248号土坑セクション 南西より	11	C10号土坑全景 南より
6	D199号土坑・D543号ピットセクション 北より	12	C10号土坑セクション 南より
7	D274号土坑全景 西より	13	C37号土坑全景 東より
8	D274号土坑セクション 西より	14	C37号土坑セクション 南より
9	D274号土坑遺物出土状況 南より	15	C37号土坑No.188遺物出土状況 東より
10	D274号土坑遺物出土状況 南東より	P L. 44	1 C68号土坑全景 北より
11	C97号土坑全景 南西より	2	C68号土坑セクション 北より
12	C97号土坑セクション 北より	3	C72号土坑全景 西より
13	C60・C62号土坑セクション 西より	4	C72号土坑全景セクション 西より
14	C60号土坑遺物出土状況 東より	5	C72号土坑遺物出土状況 西より
15	C60号土坑遺物出土状況 西より	6	D150号土坑No.193遺物出土状況 北より
P L. 40	1 C62・C63号土坑セクション 南より	7	D150号土坑セクション 北より
2	C63号土坑セクション 南より	8	D272・D273号土坑全景 南より
3	C62号土坑全景 南より	9	D272(左)・D273(右)号土坑セクション 南より
4	C63号土坑全景 南より	10	D272号土坑遺物出土状況 南より
5	C80号土坑全景 南より	11	D273号土坑遺物出土状況 東より
6	C15・C16号土坑全景 南西より	12	C70号土坑全景 西より
7	C15・C16号土坑Bセクション 東より	13	C70号土坑遺物出土状況 南より
8	C15号土坑遺物出土状況 南西より	14	C70号土坑遺物出土状況 南より
9	C16号土坑遺物出土状況 西より	15	C14号土坑全景 南東より
10	D255号土坑全景 南より	P L. 45	1 C14号土坑セクション 東より
11	D255号土坑セクション 南より	2	C86・C90号土坑全景 西より
12	D276号土坑遺物出土状況 西より	3	C86号土坑セクション 北より
13	D276号土坑セクション 西より	4	C86号土坑No.203遺物出土状況 西より
14	D237号土坑全景 北西より	5	C90号土坑セクション 西より
15	D237号土坑セクション 南西より	6	D285号土坑全景 南より
P L. 41	1 C84号土坑セクション 西より	7	D285号土坑セクション 南より
2	C91号土坑全景 南より	8	D285号土坑遺物出土状況 南より
3	C91号土坑No.94遺物出土状況 南より	9	C2号土坑全景 西より
4	D230号土坑全景 北より	10	C2号土坑セクション 西より
5	D230号土坑セクション 北より	11	C2号土坑No.209遺物出土状況 西より
6	D230号土坑遺物出土状況 北より	12	D216号土坑全景 東より
7	D230号土坑遺物出土状況 東より	13	D216号土坑セクション 東より
8	C44号土坑全景 西より	14	D216号土坑No.211遺物出土状況 東より
9	C44号土坑セクション 西より	15	D141号土坑全景 南より
10	C44号土坑遺物出土状況 西より	P L. 46	1 D141号土坑セクション 南より
11	D279号土坑全景 西より	2	D239号土坑全景 南より
12	D279号土坑セクション 西より	3	D239号土坑セクション 南より
13	D279号土坑遺物出土状況 南より	4	D239号土坑遺物出土状況 南より
14	C36号土坑遺物出土状況 西より	5	D244号土坑全景 西より
15	C36号土坑セクション 西より	6	D244号土坑セクション 西より
P L. 42	1 C21号土坑全景 西より	7	D244号土坑No.214遺物出土状況 南より
2	C21号土坑遺物出土状況 南より	8	D245号土坑全景 西より
3	C40号土坑全景 西より	9	D245号土坑セクション 西より
4	C40号土坑セクション 西より	10	D245号土坑No.215遺物出土状況 南より
5	C40号土坑遺物出土状況 北より	11	D246号土坑全景 西より
6	C45号土坑全景 西より	12	D246号土坑セクション 西より
7	C45号土坑セクション 西より	13	D246号土坑遺物出土状況 西より
8	C45号土坑遺物出土状況 西より	14	D281号土坑全景 南より
9	C73号土坑全景 南より	15	D281号土坑セクション 南より
10	C73号土坑セクション 南より	P L. 47	1 D281号土坑遺物出土状況 南より
11	C69号土坑遺物出土状況 南西より	2	C27号土坑全景 南より
12	C69号土坑セクション 西より	3	C27号土坑全景 西より

4	C28号土坑全景	北より	10	D134号土坑セクション	北より		
5	C28号土坑セクション	南より	11	D136号土坑全景	北より		
6	C29号土坑全景	北西より	12	D136号土坑セクション	北より		
7	C29号土坑セクション	北西より	13	D146号土坑全景	北より		
8	C30号土坑全景	西より	14	D146号土坑セクション	北より		
9	C30号土坑セクション	西より	15	D147号土坑全景	北より		
10	C30号土坑第157番No.7遺物出土状況	西より	P L. 52	1	D147号土坑セクション	北より	
11	C33号土坑全景	西より		2	D148号土坑全景	北より	
12	C33号土坑セクション	北西より		3	D148号土坑セクション	北より	
13	C46号土坑全景	西より		4	D157号土坑全景	北より	
14	C46号土坑セクション	西より		5	D157号土坑セクション	北より	
15	C49号土坑全景	西より		6	D160号土坑全景	北より	
P L. 48	1	C49号土坑セクション	西より		7	D160号土坑セクション	北より
	2	C51号土坑全景	東より		8	D162号土坑全景	北より
	3	C51号土坑セクション	西より		9	D162号土坑セクション	北より
	4	C53号土坑全景	西より		10	D163号土坑全景	北より
	5	C53号土坑セクション	西より		11	D163号土坑セクション	北より
	6	C55号土坑全景	北より		12	D168号土坑全景	北より
	7	C55号土坑セクション	北より		13	D168号土坑セクション	北より
	8	C64号土坑全景	南より		14	D170号土坑全景	北より
	9	C64号土坑遺物出土状況	北より		15	D170号土坑セクション	北より
	10	C81号土坑セクション	西より	P L. 53	1	D171号土坑全景	北より
	11	C65号土坑全景	南より		2	D171号土坑セクション	北より
	12	C65号土坑セクション	南より		3	D176号土坑全景	北西より
	13	C67号土坑遺物出土状況	西より		4	D184号土坑全景	北より
	14	C67号土坑セクション	東より		5	D184号土坑セクション	北より
	15	C75号土坑全景	南より		6	D185号土坑全景	北より
P L. 49	1	C75号土坑セクション	南より		7	D185号土坑セクション	北より
	2	C76号土坑全景	南より		8	D195号土坑全景	北より
	3	C76号土坑セクション	南より		9	D195号土坑セクション	北より
	4	C82号土坑全景	南より		10	D204号土坑全景	北より
	5	C82号土坑セクション	南より		11	D204号土坑セクション	北より
	6	C85号土坑遺物出土状況	東より		12	D207号土坑全景	北より
	7	C85号土坑セクション	東より		13	D207号土坑セクション	北より
	8	C92号土坑全景	西より		14	D209号土坑全景	北より
	9	C92号土坑セクション	南より		15	D209号土坑セクション	北より
	10	C96号土坑全景	南より	P L. 54	1	D211号土坑全景	北より
	11	C98号土坑全景	南より		2	D225号土坑全景	東より
	12	C98号土坑セクション	南より		3	D225号土坑セクション	南東より
	13	C98号土坑遺物出土状況	南より		4	D226号土坑全景	北東より
	14	C99号土坑全景	南より		5	D226号土坑セクション	北東より
	15	C99号土坑赤色顔料	南より		6	D234号土坑全景	南より
P L. 50	1	C100号土坑全景	西より		7	D234号土坑セクション	南より
	2	C100号土坑セクション	西より		8	D238号土坑全景	南より
	3	C100号土坑遺物出土状況	西より		9	D238号土坑セクション	南より
	4	D114号土坑全景	北より		10	D240号土坑全景	南より
	5	D115号土坑全景	北より		11	D240号土坑セクション	南より
	6	D120号土坑全景	東より		12	D241号土坑全景	南より
	7	D120号土坑セクション	東より		13	D241号土坑セクション	南より
	8	D122号土坑全景	東より		14	D242号土坑全景	南より
	9	D122号土坑セクション	東より		15	D242号土坑セクション	南より
	10	D124号土坑全景	南西より	P L. 55	1	D247号土坑全景	南より
	11	D124号土坑セクション	南より		2	D247号土坑セクション	南より
	12	D126号土坑全景	南西より		3	D250号土坑全景	北より
	13	D126号土坑セクション	西より		4	D250号土坑セクション	西より
	14	D127号土坑全景	北より		5	D253(左)・D254(右)号土坑全景	南より
	15	D127号土坑セクション	北より		6	D253(左)・D254(右)号土坑セクション	南より
P L. 51	1	C129号土坑全景	北より		7	D256号土坑全景	南より
	2	D129号土坑セクション	北より		8	D256号土坑セクション	南より
	3	D130号土坑全景	北より		9	D258号土坑全景	南より
	4	D130号土坑セクション	南より		10	D258号土坑セクション	南より
	5	D131号土坑全景	北より		11	D259号土坑全景	南より
	6	D131号土坑遺物出土状況	北より		12	D259号土坑セクション	南より
	7	D133号土坑全景	南より		13	D260号土坑全景	南より
	8	D133号土坑セクション	北より		14	D260号土坑セクション	南より
	9	D134号土坑全景	北より		15	D261号土坑全景	西より

P L. 56	1 D261号土坑セクション 西より 2 D264号土坑全景 西より 3 D264号土坑セクション 西より 4 D265号土坑セクション 西より 5 D266号土坑全景 北西より 6 D266号土坑セクション 南西より 7 D268号土坑全景 南より 8 D268号土坑セクション 南より 9 D275号土坑全景 南より 10 D275号土坑セクション 南より 11 D275号土坑遺物出土状況 南より 12 D277号土坑全景 西より 13 D277号土坑セクション 西より 14 D278号土坑全景 北西より 15 D278号土坑セクション 西より	P L. 63	1 D24号堅穴建物No.9・11遺物出土状況 北西より 2 D24号堅穴建物No.22遺物出土状況 北西より 3 D24号堅穴建物No.26遺物出土状況 南西より 4 D24号堅穴建物No.7 遺物内部架出上状況 南より 5 D24号堅穴建物No.7 遺物内部架出大
P L. 57	1 D280号土坑セクション 南西より 2 D282号土坑全景 南より 3 D282号土坑セクション 南より 4 D284号土坑全景 西より 5 D284号土坑セクション 南西より 6 D286号土坑全景 南より 7 C329号ビットセクション 西より 8 C331号ビットセクション 北より 9 C343号ビットセクション 東より 10 C344号ビットセクション 東より 11 C348号ビットセクション 南より 12 C359号ビットセクション 西より 13 C360号ビットセクション 南より 14 C363号ビットセクション 北より 15 C366号ビットセクション 西より	P L. 64	1 D24号堅穴建物アズキ出土状況 南より 2 D24号堅穴建物出土炭化材 南西より 3 D24号堅穴建物出土炭化材 北より 4 D24号堅穴建物出土炭化材 北西より 5 D24号堅穴建物出土炭化材 東より
P L. 58	1 C2号土坑全景 南より 2 C2号焼土全景 西より 3 C3号焼土全景 南より 4 C2号集石全景 南西より 5 C2号集石セクション 南東より 6 C2号集石搬方全景 南より 7 C1号集石全景 西より 8 D1号配石全景 南より 9 D2号配石全景 南より 10 D3号配石全景 南より 11 D4号配石全景 南より 12 D5号配石全景 南より 13 D区割別セクション 東より	P L. 65	1 D25号堅穴建物全景 北西より 2 D25号堅穴建物下面土質 南より 3 D25号堅穴建物全A・Bセクション 東より 4 D25号堅穴建物Aセクション 北東より 5 D25号堅穴建物Bセクション 南東より
P L. 59	1 D24号堅穴建物全景 南西より 2 D24号堅穴建物全景 北東より 3 D24号堅穴建物セクション 南東より 4 D24号堅穴建物Aセクション 東より 5 D24号堅穴建物炉全景 北東より	P L. 66	1 D25号堅穴建物P1全景 南より 2 D25号堅穴建物P2全景 南より 3 D25号堅穴建物P3全景 南より 4 D25号堅穴建物P4全景 南より 5 D25号堅穴建物P5全景 南より 6 D25号堅穴建物P6全景 北より 7 D25号堅穴建物P7全景 南より 8 D25号堅穴建物P8(右)・P12(左)全景 東より 9 D25号堅穴建物P9全景 北より 10 D25号堅穴建物P10(右)・P11(左)全景 北より 11 D25号堅穴建物P13全景 北より 12 D25号堅穴建物P14全景 東より 13 D25号堅穴建物P15全景 東より 14 D25号堅穴建物P16全景 北より 15 D25号堅穴建物P1セクション 東より
P L. 60	1 D24号堅穴建物 P1全景 南より 2 D24号堅穴建物 P2全景 南より 3 D24号堅穴建物 P3全景 南より 4 D24号堅穴建物 P4全景 南より 5 D24号堅穴建物 P5全景 南より 6 D24号堅穴建物 P6全景 北西より 7 D24号堅穴建物 P7全景 南より 8 D24号堅穴建物 P8全景 南より	P L. 67	1 D25号堅穴建物炉全景 南東より 2 D25号堅穴建物No.1遺物出土状況 北東より 3 D25号堅穴建物遺物出土状況 北西より 4 D25号堅穴建物No.2 遺物出土状況 北東より 5 D25号堅穴建物No.8・15・18・20遺物出土状況 北より
P L. 61	1 D24号堅穴建物遺物出土状況 北西より 2 D24号堅穴建物北部遺物出土状況 南西より 3 D24号堅穴建物北部遺物出土状況 東より 4 D24号堅穴建物南部遺物出土状況 北西より 5 D24号堅穴建物No.2 遺物出土状況 南より	P L. 68	1 D25号堅穴建物No.5(左)・15(右)遺物出土状況 南東より 2 D25号堅穴建物No.17(右)・19(左)遺物出土状況 南東より 3 D25号堅穴建物No.19遺物出土状況 北より 4 D25号堅穴建物No.22遺物出土状況 北西より 5 D25号堅穴建物No.27・28・31遺物出土状況 南西より 6 D25号堅穴建物No.32遺物出土状況 南より 7 D25号堅穴建物No.32遺物出土状況 北西より 8 D25号堅穴建物出土シガラ 南東より
P L. 62	1 D24号堅穴建物No.2遺物はか出土状況 東より 2 D24号堅穴建物No.4遺物出土状況 南西より 3 D24号堅穴建物No.4遺物出土状況 北西より 4 D24号堅穴建物No.5遺物出土状況 北西より 5 D24号堅穴建物No.7遺物出土状況 東より	P L. 69	1 D25号堅穴建物出土炭化材 北東より 2 D25号堅穴建物出土土器集合
P L. 70	1 C4号堅穴建物全景 北より 2 C4号堅穴建物Bセクション 西より 3 C4号堅穴建物Aセクション 東より	P L. 70	1 C4号堅穴建物全景 北より 2 C4号堅穴建物Bセクション 南より 3 C4号堅穴建物Aセクション 東より
P L. 71	1 C4号堅穴建物遺物出土状況 南より 2 C4号堅穴建物遺物出土状況 南より 3 C4号堅穴建物G3遺物出土状況 南より 4 C4号堅穴建物G3・4遺物出土状況 南より 5 C4号堅穴建物G3・4遺物出土状況 南より	P L. 71	1 C4号堅穴建物遺物出土状況 西より 2 C4号堅穴建物遺物出土状況 南より 3 C4号堅穴建物G3遺物出土状況 南より 4 C4号堅穴建物G3・4遺物出土状況 北より 5 C4号堅穴建物G3・4遺物出土状況 南より
P L. 72	1 D1号堅穴状遺構全景 北東より 2 D1号堅穴状遺構遺物出土状況 北より	P L. 72	1 D1号堅穴状遺構全景 北東より 2 D1号堅穴状遺構遺物出土状況 南より 3 D1号堅穴状遺構No.1・2 遺物出土状況 東より 4 D1号堅穴状遺構No.3 遺物出土状況 北より 5 D1号堅穴状遺構No.5・7 遺物出土状況 北より
P L. 73	1 D2号堅穴状遺構Aセクション 南より 2 D1号堅穴状遺構北部遺物出土状況 南より 3 D1号堅穴状遺構No.1・2 遺物出土状況 東より 4 D1号堅穴状遺構No.3 遺物出土状況 北より 5 D1号堅穴状遺構No.5・7 遺物出土状況 北より	P L. 73	1 D2号堅穴状遺構Aセクション 南より 2 D1号堅穴状遺構北部遺物出土状況 南より 3 D1号堅穴状遺構No.1・2 遺物出土状況 東より 4 D1号堅穴状遺構No.3 遺物出土状況 北より 5 D1号堅穴状遺構No.5・7 遺物出土状況 北より
P L. 74	1 C4号土坑Aセクション 南より 2 C4号土坑Aセクション 南より 3 C4号土坑No.3遺物出土状況 南より 4 C4号土坑No.3遺物出土状況 南より	P L. 74	1 C4号土坑Aセクション 南より 2 C4号土坑Aセクション 南より 3 C4号土坑No.3遺物出土状況 南より 4 C4号土坑No.3遺物出土状況 南より

P L . 75	5 C 4号土坑No.3遺物出土状況 北より 1 C17号土坑全景 南西より 2 C17号土坑A・Bセクション 南西より 3 C17号土坑Aセクション 南西より 4 C17号土坑No.1・2遺物出土状況 南東より 5 C302号ピットNo.1 遺物出土状況 西より 6 C302号ピットNo.1遺物出土状況 南より 7 C302号ピットセクション 西より 8 C302号ピットセクション 西より	P L . 88	1 D 1号方形周溝墓全貌 北より 2 D 1号方形周溝墓A・南セクション 南より 3 D 1号方形周溝墓A北セクション 北より 4 D 1号方形周溝墓1・2遺物出土状況 東より 5 D 1号方形周溝墓1主体部全貌 南東より
P L . 76	1 D 2号方形周溝墓全景 東北より 2 D 2号方形周溝墓Aセクション 南より 3 D 2号方形周溝墓Aセクション 南より 4 D 2号方形周溝墓Aセクション 南より 5 D 2号方形周溝墓Cセクション 南より	P L . 89	1 D 1号方形周溝墓第1主体部Aセクション 西より 2 D 1号方形周溝墓第3遺物出土状況 南西より 3 D 1号方形周溝墓第2主体部全貌 東より 4 D 1号方形周溝墓第2主体部掘方全貌 北東より
P L . 78	1 D 2号方形周溝墓Cセクション 南より 2 D 2号方形周溝墓C南セクション 南より 3 D 2号方形周溝墓主体部全貌 東北より 4 D 2号方形周溝墓主体部Cセクション 南より 5 D 2号方形周溝墓ベンガラ出土状況 南より	P L . 90	1 D 4号方形周溝墓全貌 北より 2 D 4号方形周溝墓全貌 北より
P L . 82	1 D 2号方形周溝墓全景 東より 2 D 2号方形周溝墓Cセクション 南より 3 D 2号方形周溝墓C西セクション 南より 4 D 2号方形周溝墓C西セクション 南より 5 D 2号方形周溝墓C西セクション 南より	P L . 91	1 D 4号方形周溝墓1・東セクション 南より 2 D 4号方形周溝墓Cセクション 西より 3 D 4号方形周溝墓1主体部全貌 北より 4 D 4号方形周溝墓1・2遺物出土状況 南東より 5 D 4号方形周溝墓No.6遺物出土状況 南東より
P L . 79	1 D 1号円形周溝墓全貌 東より 2 D 1号円形周溝墓1・2遺物出土状況 北より 3 D 1号円形周溝墓主体部Cセクション 東より 4 D 1号円形周溝墓No.1・2遺物出土状況 北より 5 D 1号円形周溝墓No.1・2遺物出土状況 南西より	P L . 92	1 D 4号方形周溝墓1主体部全貌 北より 2 D 4号方形周溝墓1主体部Dセクション 南東より 3 D 4号方形周溝墓1主体部Aセクション 西より 4 D 4号方形周溝墓2主体部Eセクション 南東より 5 D 4号方形周溝墓5遺物出土状況 西より
P L . 80	1 A 6号竪穴建物H27全景 南より 2 A 6号竪穴建物H28全景 東より	P L . 93	1 D 4号方形周溝墓第2主体部全貌 西より 2 D 4号方形周溝墓第2主体部全貌 西より 3 D 4号方形周溝墓第2主体部Aセクション 西より 4 D 4号方形周溝墓17遺物出土状況 南より 5 D 4号方形周溝墓Aセクション 西より
P L . 81	1 A 6号竪穴建物H28全景 西より 2 A 6号竪穴建物Aセクション 南より 3 A 6号竪穴建物貯藏穴全貌 南西より 4 A 6号竪穴建物P 1全貌 西より 5 A 6号竪穴建物P 2全貌 南より	P L . 94	1 D 1号古墳全貌 北より 2 D 1号古墳西側1回目浮石 西より 3 D 1号古墳西側1回目浮石 西より 4 D 1号古墳石垣より根石37・38の葺石 南より 5 D 1号古墳石2～8の葺石 西より
P L . 82	1 A 6号竪穴建物P 3全貌 西より 2 A 6号竪穴建物No.1遺物出土状況 西より 3 A 6号竪穴建物No.6遺物出土状況 南より 4 A 6号竪穴建物日27掘方全貌 南より 5 A 6号竪穴建物日28掘方全貌 南より	P L . 95	1 D 1号古墳根石1～3の葺石 北より 2 D 1号古墳根石23～29の葺石 北より 3 D 1号古墳根石26～33の葺石 北より 4 D 1号古墳根石1～3 西より 5 D 1号古墳根石4～9 北西より 6 D 1号古墳根石9～12 北西より 7 D 1号古墳根石12～16 北西より 8 D 1号古墳根石14～19 北西より 9 D 1号古墳根石20～23 北より 10 D 1号古墳根石22～25 北より 11 D 1号古墳根石27～29 北東より 12 D 1号古墳根石30～33 北より 13 D 1号古墳根石32～35 北より 14 D 1号古墳根石34～37 北より 15 D 1号古墳根石38 北東より
P L . 83	1 C 1号竪穴建物全貌 南より 2 C 1号竪穴建物Aセクション 西より 3 C 1号竪穴建物Bセクション 南より 4 C 1号竪穴建物カマド全貌 西より 5 C 1号竪穴建物カマド全貌 南より	P L . 96	1 D 1号古墳Aセクション 東より 2 D 1号古墳M東セクション 北より 3 D 1号古墳M西セクション 北より 4 D 1号古墳Gセクション 北東より 5 D 1号古墳日セクション 北より 6 D 1号古墳B・E・Fセクション 北東より 7 D 1号古墳Kセクション 東より 8 D 1号古墳方西からNo.1 北より 9 D 1号古墳方西からNo.2 北より 10 D 1号古墳方西からNo.3 北東より 11 D 1号古墳方西からNo.4 北東より 12 D 1号古墳方西からNo.5 北東より 13 D 1号古墳方西からNo.6 北東より 14 D 1号古墳方西からNo.7 北東より 15 D 1号古墳方西からNo.8 南より
P L . 84	1 C 1号竪穴建物カマドJセクション 西より 2 C 1号竪穴建物カマドJセクション 北より 3 C 1号竪穴建物貯藏穴1全貌 西より 4 C 1号竪穴建物貯藏穴2全貌 西より 5 C 1号竪穴建物P 1全貌 南より	P L . 97	1 D 1号古墳周溝東側 北西より 2 D 1号古墳周溝底1・2 北東より 3 D 1号古墳周溝底2 南東より
P L . 85	1 C 1号竪穴建物遺物出土状況 南より 2 C 1号竪穴建物工具類 北東より 3 C 1号竪穴建物No.9遺物出土状況 北より 4 C 1号竪穴建物No.10・12～14遺物出土状況 西より 5 C 1号竪穴建物掘方Bセクション 南より		
P L . 86	1 C 1号竪穴建物掘方全貌 南より 2 C 1号竪穴建物床下土坑1全貌 南より 3 C 1号竪穴建物床下土坑2全貌 西より 4 C 1号竪穴建物床下土坑3ベンガラ検出状況 南より 5 C 1号竪穴建物床下土坑4全貌 南より		
P L . 87	1 D 1号方形周溝墓掘方全貌 東より 2 D 1号方形周溝墓掘方全貌 北より		

4	D 1号古墳周溝底2・3 南東より	7	A 3号堅穴建物2号カマド全景 北西より
5	D 1号古墳周溝底3・4 南東より	8	A 3号堅穴建物狩藏穴全景 北西より
6	D 1号古墳周溝底4 北より	P L.	109 1 A 3号堅穴建物H26遺物出土状況 北西より
7	D 1号古墳周溝底5 北より	2	A 3号堅穴建物H27遺物出土状況 北より
8	D 1号古墳周溝底6 南より	3	A 3号堅穴建物2号カマド遺物出土状況 南より
9	D 1号古墳周溝底6・7 南より	4	A 3号堅穴建物H17遺物出土状況 南より
10	D 1号古墳周溝底6・7 南より	5	A 3号堅穴建物H7遺物出土状況 南より
11	D 1号古墳周溝底6・7・8 南より	P L.	110 1 C 2号堅穴建物全景 西より
12	D 1号古墳周溝底7 北より	2	C 2号堅穴建物Aセクション 北より
13	D 1号古墳周溝底7・8・9 南西より	3	C 2号堅穴建物Bセクション 東より
14	D 1号古墳周溝底8・9 南より	4	C 2号堅穴建物P 1 全景 西より
15	D 1号古墳周溝底10 南より	5	C 2号堅穴建物P 2 全景 西より
P L.	98 1 D 2号古墳全景 北より	P L.	111 1 C 2号堅穴建物P 3 全景 西より
2	D 2号古墳B北セクション 東より	2	C 2号堅穴建物P 4 全景 西より
3	D 2号古墳B東セクション 北より	3	C 2号堅穴建物カマド全景 西より
4	D 2号古墳B西セクション 北より	4	C 2号堅穴建物カマドGセクション 南より
5	D 2号古墳周溝掘方全景 南より	5	C 2号堅穴建物カマドHセクション 西より
P L.	99 1 D 2号古墳周溝掘方全景 北西より	6	C 2号堅穴建物H8 遺物出土状況 西より
2	D 2号古墳周溝掘方全景 北西より	7	C 2号堅穴建物H10遺物出土状況 西より
3	D 2号古墳全体部 全景 北より	8	C 2号堅穴建物H3 遺物出土状況 西より
4	D 2号古墳全体部 全景 南より	P L.	112 1 C 2号堅穴建物幅方側 西より
5	D 2号古墳全体部 南より	2	C 2号堅穴建物幅方下掘方全景 西より
P L.	100 1 D 2号古墳全体部 全景 西より	3	C 2号堅穴建物幅方下掘方Gセクション 南より
2	D 2号古墳全体部 全景 東より	4	C 2号堅穴建物幅方下掘方セクション 西より
3	D 2号古墳全体部床 西より	5	C 2号堅穴建物床下土坑1 全景 西より
4	D 2号古墳全体部床 全景 西より	6	C 2号堅穴建物幅3・10遺物出土状況 西より
P L.	101 1 D 3号古墳全景 北東より	7	C 2号堅穴建物幅下土坑1内粘土 西より
2	D 3号古墳Aセクション 東より	8	C 2号堅穴建物床下土坑2 Jセクション 西より
3	D 3号古墳Bセクション 北より	P L.	113 1 C 3号堅穴建物全景 西より
4	C 1号集石全景 西より	2	C 3号堅穴建物Aセクション 北より
5	C 1号集石全景 北より	3	C 3号堅穴建物Bセクション 東より
P L.	102 1 C 1号集石2回目全景 西より	4	C 3号堅穴建物P 1 全景 西より
2	C 1号集石2回目全景 北より	5	C 3号堅穴建物幅カマド全景 西より
3	C 1号集石No1 遺物出土状況 南より	P L.	114 1 C 3号堅穴建物カマド全景 西より
4	C 1号集石全景 西より	2	C 3号堅穴建物カマドFセクション 北より
5	C 1号集石全景 西より	3	C 3号堅穴建物遺物出土状況 西より
P L.	103 1 A 2号堅穴建物全景 西より	4	C 3号堅穴建物幅F Bセクション 東より
2	A 2号堅穴建物A西セクション 南より	5	C 3号堅穴建物幅カマドセクション 北より
3	A 2号堅穴建物A東セクション 南より	P L.	115 1 C 3号堅穴建物幅方全景 西より
4	A 2号堅穴建物B南セクション 東より	2	C 3号堅穴建物幅カマドGセクション 西より
5	A 2号堅穴建物B北セクション 東より	3	C 3号堅穴建物土坑1セクション 西より
P L.	104 1 A 2号堅穴建物カマドHセクション 西より	4	C 3号堅穴建物土坑1 全景 西より
2	A 2号堅穴建物カマドHセクション 南より	5	C 3号堅穴建物床下土坑1・2セクション 北より
3	A 2号堅穴建物カマドFセクション 東より	6	C 3号堅穴建物床下土坑3セクション 北より
4	A 2号堅穴建物P 1 全景 南より	7	C 3号堅穴建物床下土坑4セクション 東より
5	A 2号堅穴建物P 2 全景 南より	8	C 3号堅穴建物H1 遺物出土状況 西より
6	A 2号堅穴建物P 3 全景 北より	P L.	116 1 D 23号堅穴建物全景 西より
7	A 2号堅穴建物P 4 全景 北より	2	D 23号堅穴建物Bセクション 北より
8	A 2号堅穴建物H3 遺物出土状況 西より	3	D 23号堅穴建物Aセクション 東より
P L.	105 1 A 1号堅穴建物全景 東より	4	D 23号堅穴建物P 1 全景 南東より
2	A 1号堅穴建物Aセクション 南西より	5	D 23号堅穴建物P 2 全景 南西より
3	A 1号堅穴建物No1号古墳出土状況 南より	P L.	117 1 D 23号堅穴建物P 4 全景 北より
4	A 1号堅穴建物遺物出土状況 南より	2	D 23号堅穴建物P 5 全景 北より
P L.	106 1 A 1号堅穴建物H22遺物出土状況 南より	3	D 23号堅穴建物遺物出土状況 東より
2	A 1号堅穴建物No8・22遺物出土状況 南より	4	A 5号堅穴建物Aセクション 南より
3	A 1号堅穴建物No16遺物出土状況 南より	5	A 5号堅穴建物全景 西より
4	A 1号堅穴建物遺物出土状況 南より	P L.	118 1 A 1号掘立柱建物全景 西より
5	A 1号堅穴建物幅方全景 北西より	2	A 1号掘立柱建物P 1 全景 西より
P L.	107 1 A 3号堅穴建物H26全景 北西より	3	A 1号掘立柱建物P 2 全景 西より
2	A 3号堅穴建物H27全景 北西より	4	A 1号掘立柱建物P 3 全景 西より
P L.	108 1 A 3号堅穴建物Aセクション 南より	5	A 1号掘立柱建物P 4 全景 西より
2	A 3号堅穴建物1号カマドEセクション 西より	6	A 1号掘立柱建物P 5 全景 西より
3	A 3号堅穴建物1号カマドEセクション 南より	7	A 2号掘立柱建物全景 西より
4	A 3号堅穴建物H27号カマド遺物出土状況 北西より	8	A 2号掘立柱建物P 1 全景 西より
5	A 3号堅穴建物2号カマドCセクション 南より	9	A 2号掘立柱建物P 2 全景 南より
6	A 3号堅穴建物2号カマドGセクション 南より	P L.	119 1 B 1号土坑群全景 西より

2	B 1号土坑群№1遺物出土状況 南より	2	A 10号窓セクション 西より
3	B 1号土坑群№2・3遺物出土状況 南より	3	B 3号土坑群セクション全景 北西より
4	B 2号土坑群全景 西より	4	B 3号土坑群№1遺物出土状況 北西より
5	B 2号土坑群Aセクション 北西より	5	B 4号土坑群全景 北西より
P L. 120 1	B 2号土坑群全景 南西より	P L. 130 1	A 1号土坑確認面 西より
2	A 5号土坑全景 南東より	2	A 1号土坑全景 西より
3	A 6号土坑全景 南より	3	A 3号土坑セクション 西より
4	A 15号土坑全景 西より	4	A 3号土坑全景 北より
5	A 15号土坑遺物出土状況 西より	5	B 8号土坑全景 東より
6	A 15号土坑№3遺物出土状況 西より	6	B 9号土坑全景 北より
7	A 4号土坑全景 南より	7	B 10号土坑全景 北西より
P L. 121 1	A 7号土坑全景 南西より	8	B 11・B 12号土坑全景 南東より
2	A 8号土坑全景 南東より	P L. 131 1	B 13号土坑全景 北西より
3	A 9号土坑全景 南西より	2	B 14号土坑全景 西より
4	A 10号土坑全景 南より	3	B 15号土坑全景 北西より
5	A 11号土坑全景 南西より	4	B 16号土坑全景 西より
6	A 12号土坑全景 南より	5	B 17号土坑全景 北より
7	A 13号土坑全景 南西より	6	B 18号土坑全景 北西より
8	A 13号土坑全景 南東より	7	B 19号土坑全景 北より
9	A 16号土坑全景 西より	8	1号土坑全景 西より
10	A 4号ビット全景 南西より	P L. 132 1	D 区東部ビット群 北西より
11	C 235号ビット全景 南より	2	D 区東部ビット群 南西より
12	C 区3面東部ビット群 西より	P L. 133 1	D 1号柱穴列P 1全景 北より
P L. 122 1	A 2号溝H26全景 南より	2	D 1号柱穴列P 2全景 北より
2	A 2号溝H26全景 南より	3	D 1号柱穴列P 3全景 北より
3	A 2号溝H26全景 北より	4	D 1号柱穴列P 4全景 北より
4	A 2号溝セクション 北より	5	D 2号柱穴列P 1全景 北より
5	A 2号溝H27全景 北より	6	D 2号柱穴列P 2全景 北より
6	A 3号溝全景 南より	7	D 2号柱穴列P 3全景 北より
7	A 3号溝セクション 南より	8	D 3号柱穴列P 1全景 北より
P L. 123 1	A 1号溝全景 南より	9	D 3号柱穴列P 2全景 北より
2	A 1号溝セクション 北より	10	D 3号柱穴列P 3全景 北より
P L. 124 1	C 2号溝全景 南西より	11	D 4号柱穴列P 1全景 北より
2	C 2号溝確認面 南西より	12	D 4号柱穴列P 2全景 北より
3	C 2号溝全景 南西より	13	D 5号柱穴列P 1全景 北より
P L. 125 1	D 32号溝全景 北東より	14	D 5号柱穴列P 2全景 北より
2	D 32号溝セクション 東より	15	D 5号柱穴列P 3全景 北より
3	D 32号溝セクション 西より	P L. 134 1	D 165号土坑全景 北より
4	D 32号溝Dセクション 西より	2	A 1号ビットセクション 南より
5	D 32号溝Eセクション 西より	3	A 1号ビット全景 東より
P L. 126 1	A 3号焼土全景 南西より	4	A 2号ビット全景 東より
2	A 3号焼土セクション 南より	5	A 3号ビット全景 南より
3	A 8号焼土東側 南より	6	A 5号ビット全景 北より
4	A 8号焼土東側 西より	7	C 303号ビットセクション 南西より
5	A 8号焼土セクション 南より	8	C 304号ビット全景 南より
6	A 7号焼土全景 南東より	9	C 305号ビットセクション 南より
7	A 7号焼土掘方 南東より	10	C 306号ビットセクション 南西より
8	A 5号焼土全景 北より	11	C 1号焼土Bセクション 南より
9	A 5号焼土A・Bセクション 南西より	12	C 1号焼土全景 南より
10	A 5号焼土Cセクション 南西より	P L. 135 1	D 409号ビット全景 北より
11	A 5号焼土Dセクション 西より	2	D 410号ビット全景 北より
12	A 1号焼土全景 南東より	3	D 412号ビット全景 北より
13	A 1号焼土セクション 東より	4	D 414号ビット全景 北より
14	A 2号焼土全景 北東より	5	D 416・D117号ビット全景 北より
15	A 2号焼土掘方全景 北東より	6	D 418号ビット全景 北より
P L. 127 1	D 3・4号集石全景 南より	7	D 429号ビット全景 北より
2	D 3号集石全景 南より	8	D 434号ビット全景 北より
3	D 3号集石遺物出土状況 南より	9	D 436号ビット全景 北より
4	D 3号集石掘方全景 東より	10	D 437号ビット全景 北より
5	D 4号集石全景 東より	11	D 438号ビット全景 北より
6	D 4号集石遺物出土状況 南より	12	D 440号ビット全景 北より
7	D 4号集石掘方全景 南より	13	D 442号ビット全景 北より
8	D 4号集石掘方全景 南より	14	D 443号ビット全景 北より
P L. 128 1	A 11号苗全景 北東より	15	D 444号ビット全景 北より
2	A 11号苗西側 南より	P L. 136 1	D 474号ビット全景 北より
P L. 129 1	A 9号烟全景 南より	2	D 475号ビット全景 北より

3	D 476号ビット全崩	北より	2	A 1号烟Aセクション 東より
4	D 477号ビット全崩	北より	3	A 2号烟全崩 東より
5	D 480号ビット全崩	北より	4	A 3・A 4号烟Fセクション 東より
6	D 490号ビット全崩	北より	5	A 3・A 4号烟Eセクション 東より
7	D 491号ビット全崩	北より	P L. 143	1 A 1～4号烟・A 1道・A 1石垣全崩 東より
8	D 492号ビット全崩	北より		2 A 7・A 8号烟・復旧石垣全崩 西より
9	D 494号ビット全崩	北より		3 A 8号烟全崩 西より
10	D 495号ビット全崩	北より		4 A 1号道 東より
11	D 497号ビット全崩	北より		5 A 1号道 西より
12	D 498号ビット全崩	北より	P L. 144	1 A 1号石垣 東より
13	D 503号ビット全崩	北より		2 A 1号石垣南西側 北より
14	D 504号ビット全崩	北より		3 A 1号石垣北東辺 東より
15	D 505号ビット全崩	北より		4 A 1号石垣北東辺 東より
P L. 137	1 D 506号ビット全崩	北より		5 A 1号石垣アップ 北東より
2	D 507号ビット全崩	北より	P L. 145	1 A 2・A 3号ヤックラ全崩 北東より
3	D 508号ビット全崩	北より		2 A 2・A 3号ヤックラ全崩 南西より
4	D 509号ビット全崩	北より		3 A 2号ヤックラDセクション 南東より
5	D 510号ビット全崩	北より		4 A 1号ヤックラ全崩 北より
6	D 511号ビット全崩	北より		5 A 2号土坑 南より
7	D 512・D 513号ビット全崩	北より	P L. 146	1 復旧石群全崩 北東より
8	D 514号ビット全崩	北より		2 復旧石群Aセクション 南西より
9	D 515号ビット全崩	北より		3 復旧石群Aセクション北 南西より
10	D 516号ビット全崩	北より		4 復旧石群Aセクション中央 南西より
11	D 517号ビット全崩	北より		5 復旧石群Aセクション南 南西より
12	D 518号ビット全崩	北より	P L. 147	C 6・D 26・C 16・C 19・D 32号(1)竪穴建物出土遺物
13	D 519号ビット全崩	北より	P L. 148	D 32(1)・C 8・D 33号竪穴建物出土遺物
14	D 537号ビット全崩	北より	P L. 149	C 17・D 14・D 29・D 30号竪穴建物出土遺物
15	D 538号ビット全崩	北より	P L. 150	D 30(2)・C 13号竪穴建物出土遺物
P L. 138	1 D 540号ビット全崩	北より	P L. 151	C 13・C 10・C 15・C 9・C 11号竪穴建物出土遺物
2	D 545号ビット全崩	北より	P L. 152	C 11・C 18号竪穴建物出土遺物
3	D 548号ビット全崩	北より	P L. 153	C 5・D 27号竪穴建物、D 2号竪穴状造構、縄文時代土坑出土遺物(1)
4	D 555号ビット全崩	北より	P L. 154	縄文時代土坑出土遺物(2)
5	D 556号ビット全崩	北より	P L. 155	縄文時代土坑出土遺物(3)
6	D 557号ビット全崩	北より	P L. 156	縄文時代土坑出土遺物(4)
7	D 558号ビット全崩	北より	P L. 157	縄文時代土坑出土遺物(5)
8	D 560号ビット全崩	北より	P L. 158	縄文時代土坑出土遺物(6)
9	D 561号ビット全崩	北より	P L. 159	縄文時代土坑出土遺物(7)
10	D 562号ビット全崩	北より	P L. 160	縄文時代土坑出土遺物(8)
11	D 563号ビット全崩	北より	P L. 161	縄文時代土坑出土遺物(9)
12	D 564号ビット全崩	北より	P L. 162	縄文時代土坑出土遺物(10)、ビット、焼上、集石、風削木、配石(1)出土遺物
13	D 565号ビット全崩	北より	P L. 163	配石(2)、遺構外A・B・C(1)区出土遺物
14	D 587号ビット全崩	東より	P L. 164	遺構外C区(2)出土遺物
15	D 588号ビット全崩	東より	P L. 165	遺構外C区(3)出土遺物
P L. 139	1 D 589号ビット全崩	南より	P L. 166	遺構外C区(4)出土遺物
2	D 590・D 591号ビット全崩	東より	P L. 167	遺構外C区(5)出土遺物
3	D 592号ビット全崩	東より	P L. 168	遺構外C(6)・D(1)区出土遺物
4	D 594号ビット全崩	北より	P L. 169	遺構外D区(2)出土遺物
5	D 596号ビット全崩	東より	P L. 170	遺構外D区(3)出土遺物
6	D 597号ビット全崩	南より	P L. 171	遺構外D区(4)出土遺物
7	D 598号ビット全崩	南より	P L. 172	D 24号竪穴建物出土遺物(1)
8	D 600号ビット全崩	北より	P L. 173	D 24号竪穴建物出土遺物(2)
9	D 603・D 604号ビット全崩	南より	P L. 174	D 24号(3)・D 25号(1)竪穴建物出土遺物
10	D 605号ビット全崩	南より	P L. 175	D 25号竪穴建物出土遺物(2)
11	D 606号ビット全崩	南西より	P L. 176	D 25号竪穴建物出土遺物(3)
12	D 607号ビット全崩	南西より	P L. 177	D 25号竪穴建物出土遺物(4)
13	D 608号ビット全崩	南西より	P L. 178	C 4号竪穴建物、D 1・C 1号竪穴状造構、C 17号土坑出土遺物
14	D 609号ビット全崩	南より	P L. 179	C 4号土坑、C 302号ビット、D 1・2号円形周溝墓、D 3号方形周溝墓、遺構外A区出土遺物(1)
15	D 610号ビット全崩	北より	P L. 180	A区出土遺物(2)
P L. 140	1 C 1・C 3号溝全崩	北より	P L. 181	C区出土遺物
2	C 1号溝セクション	南より		
3	C 1号溝Bセクション	北より		
4	C 1号溝No.4遺物出土状況	西より		
5	C 1号溝No.4遺物出土状況	東より		
P L. 141	1 C区縁全体	西より		
2	A 5・6号烟全崩	南より		
P L. 142	1 A 1・2号烟全崩	東より		

第1章 調査の経過と方法

第1節 調査に至る経過

上信自動車道(国道145・353号バイパス)は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジを起点に長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターインターへと至る総延長約80kmを有する地域高規格道路である。この上信自動車道は、起点から長野県境までを8つの整備区間に分けており、新井遺跡が入る整備区間は、吾妻西バイパスとなる。

吾妻西バイパスは、国道145号バイパスの一部となる整備区間の一つで、東吾妻町大字厚田から東吾妻町大字松谷までの区間である。この整備区間は、東吾妻町大字厚田、三島、岩下、松谷が入る。

吾妻西バイパスは、平成21年3月31日に整備区間の指定を受け、平成23年5月13日付で、中之条土木事務所から、当該区間における埋蔵文化財の有無を取り扱いについて、群馬県教育委員会と協議が行われた。

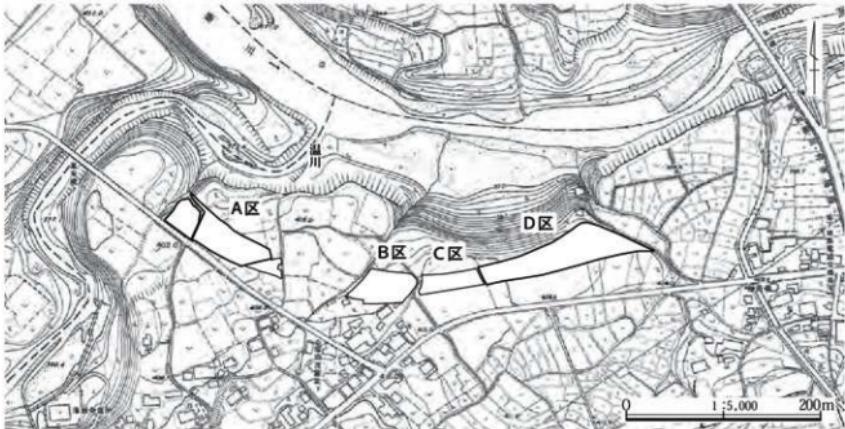
平成25年11月11日、平成26年1月7日付で中之条土木事務所長より試掘依頼(新井遺跡・戸戸遺跡・唐堀B遺跡)があり、これを受けて平成25年12月17～19日、平

成26年1月28～30日にかけて群馬県教育委員会事務局文化財保護課は試掘確認調査を実施し、平成26年1月15日、2月18日付にて発掘調査が必要であることを回答した。この回答に基づき、平成26年7月1日～11月30日まで調査を行った。

平成27年5月8日付で中之条土木事務所より試掘依頼(新井遺跡)があり、これを受けて平成27年5月25日～28日にかけて群馬県教育委員会事務局文化財保護課が試掘確認調査を実施し、発掘調査が必要であることを回答した。この回答に基づき、平成27年8月1日～12月31日まで調査を行った。

平成28年5月27日付で中之条土木事務所より試掘依頼(新井遺跡)があり、これを受けて平成28年6月10日に群馬県教育委員会事務局文化財保護課が試掘確認調査を実施し、同日付で発掘調査が必要であることを回答した。この回答に基づき、平成28年8月1日～平成28年12月31日まで調査を行った。

調査残の箇所の調査を平成30年4月1日～5月18日まで行った。



第1図 新井遺跡調査区設定図

第2節 調査区とグリッド設定

(第2図)

調査は、平成26年度から30年度にかけて西から東に進んだ。調査区は西からA1～3区、低湿地の無遺跡地区を挟んで、B区、C区、D区と呼称した。平成26年度がA1～3区で調査面積は3,155m²、27年度がA3、B、C区で調査面積は4,022m²、28年度がA3区とD区で調査面積は4,405m²、30年度がD区で調査面積は959m²である。具体的にA～D区の位置関係は第2図にある。

A区は平成26年度に残土置き場や耕作地への通路確保等の都合により、1～3区に分けて調査が行われた。27年度は、昨年度の続きとしてA3区及び東側にあたるB区、C区の調査を行った。28年度は、昨年度の継続でA3区と、新たに東端のD区の調査を行った。30年度はD区の調査を継続した。

新井遺跡は、世界測地系(日本測地系2000平面直角座標系第IX系)のX=60927～61040 Y=-92468～-92971の範囲に收まる。調査面積は、総計で12,541m²である。

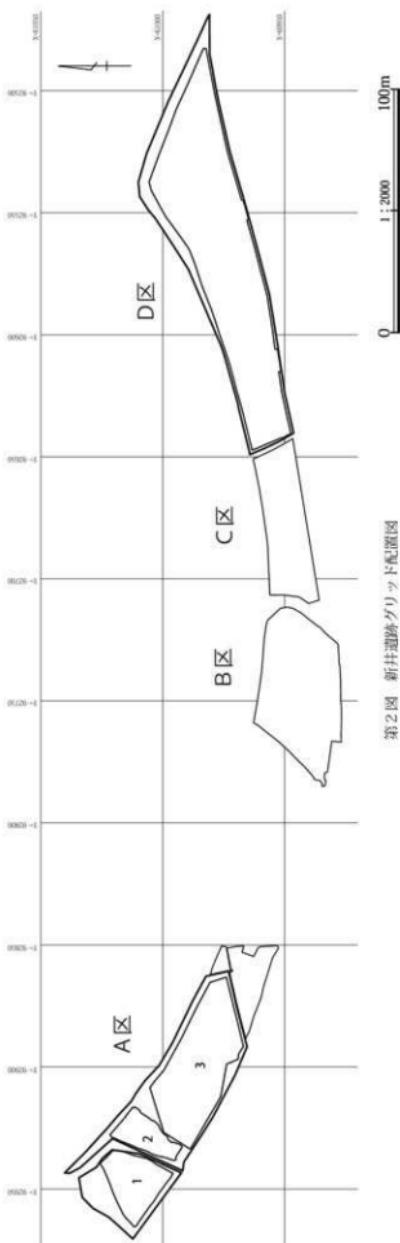
グリッドの設定は、新井遺跡全体を含めるために、西の温川東岸から、東の厚田橋手前の河岸段丘面までを対象とした、世界測地系のX=60900、Y=-93000を基点として、1区画5m四方のグリッドを設定した。南東の隅のX軸の数字記号とY軸の数字の組み合わせにより、西北側にあるグリッドを代表する。

第3節 調査の方法

調査は、表土掘削はバックフォーで行う。A1・2区においては、天明泥流が堆積しており、その上下から遺構が出土した。江戸時代の遺構群は土坑や烟が出土した。他の時代でも同様だが、この層位でジョレンを用いて遺構を面的に把握することに努めた。遺構の調査は、移植ごとと竹べらと手ボウキを使い丁寧に検出した。

A～D区においては、浅間-船川テフラ(As-Kk)の上面、あるいはその下層を確認面とする一部近世を含む烟、土坑、粘土採掘坑、道路、溝、配石遺構などの古代～中世遺構群が出土する。

A3区ではAs-B上下面を遺構の確認面とする古代後



第2図 新井遺跡グリッド配置図

半の畳が出土する。その下層からは、同じA3区において古代の竪穴建物・掘立柱建物・焼土集中・溝・土坑・ピット・粘土探掘坑が出土している。

次に古墳時代の遺構の確認を行うが、基本土層のVII①層である黒色土層から遺構の形成がなされている。古墳や方形周溝墓、竪穴建物、溝が出土した。

弥生時代の遺構は、さらに下層のVII②層である黒褐色土層より竪穴建物、竪穴状遺構、円形周溝墓、土坑、ピット、集石が出土している。

縄文時代の遺構は、基本土層VII③層の黒褐色土層、VII④層の黒褐色土層から出土する。縄文中期末～後期初頭は、竪穴建物・土坑・ピット、配石が出土している。前期は、竪穴建物、土坑、ピット、石列、配石が出土している。

竪穴建物は、平面を確認した段階で、土層確認のベルトを十字に設定して、土層の堆積状況を確認しながら調査を行った。ピットや土坑では、半裁して土層断面を確認しながら遺構と認定できるか判断しながら調査を行った。

周溝墓の主体部の残る遺構はベルトを十字に設定して慎重に掘り進めた。古墳は周囲の調査を中心で、一部主体部があり、やはり十字ベルト設定し、断面観察をしながら調査した。

遺構の測量は、測量業者に平断面図とともに委託して行った。竪穴建物・古墳・ピット・土坑などは1/20で、作製した。畳、全体図は1/100で作製した。

写真撮影は、基本は、デジタルでの撮影を行い、重要度のある遺構については、中判カメラでのモノクロフィルムでの撮影を行った。航空写真は、調査後半、古墳などの遺構が良く残っている状況でドローンによりデジタルでの撮影を行った。撮影後のデジタルデータは、HDやDVD-ROMに保存した。

第4節 調査の経過

第1項 発掘調査の経過

発掘調査は、平成26年8月1日～11月30日、平成27年8月1日～12月31日、平成28年8月1日～12月31日、平成30年4月1日～5月18日まで行われた。調査日数は合

計15ヶ月18日である。

平成26年度

- 8月1日 調査に向けた準備を開始。
- 8月7日 調査区西端A1区より表土矧ぎ開始。
- 8月11日 天明泥流下(1面)の畳精查(1～4号畳)
- 8月20日 A1区より泥流下1面全景写真。2面調査開始。
- 8月29日 A1区、2面目5・6号畳他全景写真撮影
- 9月2日 A2区1面(天明泥流下)調査開始。
- 9月3日 A2区7号畳復旧坑等調査。
- 9月8日 A2区2・3号土坑、7・8号畳下全景写真撮影。
- 9月14日 A3区1面(天明泥流下)調査開始
- 10月9日 A3区全景写真。11号畳、1号溝、土坑ほか
- 10月10日 A3区2面調査開始。
- 10月29日 A3区2面全景写真 1～3号竪穴建物、焼土集中遺構など。
- 11月13日 A3区、2面調査終了。
- 11月14日 A3区、2面下グリッド調査継続。
- 11月21日 A3区、2面下全景写真。
- 11月28日 埋め戻し作業終了。

平成27年度

- 8月3日 草刈、整地。
- 8月6日 表土掘削開始。
- 8月11日 C区1面精査開始。
- 8月31日 C区1面全景写真 1号溝、1号土坑他。
- 9月2日 C区2面(As-Kk下面)精査開始。
- 9月3日 C区2面全景写真 2号溝。
- 9月4日 C区3・4面遺構精査開始。
- 10月13日 C区調査継続、B区遺構精査開始。
- 10月21日 B区1面全景写真 1号土坑。
- 10月22日 B区北半部2面全景写真 8号土坑。
- 10月26日 B区3面全景写真、土坑群。A3区遺構精査1面全景写真撮影。
- 11月4日 A3区2面全景写真 2号溝。
- 12月7日 A3区3面全景写真 竪穴建物、土坑群。A3区鉄板下部調査。
- 12月14日 A3区鉄板下1面全景写真。土坑群・集石。
- 12月19日 C区4面、A3区3面全景写真撮影。C区竪穴建物群、土坑群、A3土坑、竪穴建物。
- 12月20日 C区、A3区旧石器調査。

第1章 調査の経過と方法

12月22日 調査区埋め戻し。

12月25日 撤去作業終了。

平成28年度

8月 1日 物品搬入、事務所建設。

8月 3日 A区、D区表土掘削開始。

8月 9日 A区全景(5号竪穴建物)。

8月19日 D区精査開始。

9月 6日 D区1・2号填確認。

9月16日 1・2号填周堀、1号方形周溝墓掘り下げ。

10月14日 2号填主体部精査。

10月20日 24・25号竪穴建物精査開始。

10月25日 2号填主体部全景写真撮影。

10月26日 1号方形周溝墓 主体部確認。

11月 4日 24・25号竪穴建物調査終了。

11月 8日 2号填掘方全景写真撮影。

2号方形周溝墓主体部掘り下げ開始。

11月 9日 1号円形周溝墓主体部掘り下げ開始。

11月14日 1号方形周溝墓・1号円形周溝墓全景写真撮影。

11月15日 26・27号竪穴建物掘り下げ開始。

11月28日 26・27号竪穴建物全景写真撮影。

11月30日 3号方形周溝墓掘り下げ開始。4号方形周溝墓確認。

12月 5日 3号古墳写真撮影。

12月 7日 4号方形周溝墓主体部拡張

12月28日 環境整備

平成30年度

4月 2日 準備作業。

4月 4日 現地確認：四戸遺跡・四戸の古墳群。上信自動車建設事務所より新井遺跡から調査して欲しいとの要請あり。

4月 5日 新井遺跡打ち合わせ。現地確認：新井遺跡。

4月 9日 D区調査準備。2面トレンチ確認の掘削。

4月10日 D区2面掘削。遺構確認。

4月12日 D区4号方形周溝遺構、2号竪穴状遺構他掘削開始。

4月17日 D区4号方形周溝墓、2号竪穴状遺構全景写真撮影。

4月19日 D区空撮(ドローン)、3面掘削開始。

4月20日 D区遺構確認、32号竪穴建物、土坑群調査開始。

5月 2日 D区旧石器調査開始。

5月11日 D区32・33号竪穴建物全景写真撮影。新井遺跡発掘調査終了。四戸遺跡の調査へ合流する。

5月17日 D区埋め戻し作業開始

5月18日 D区埋め戻し終了。

第2項 整理作業の経過

整理は、平成28年4月1日より9月30日、令和2年6月1日より令和3年3月31日、令和3年4月1日から令和4年3月31日まで行われた。調査図面の確認、編集作業、出土遺物の接合・復原作業、復元した土器などの遺物の写真撮影、出土遺物の実測図作製、編集した遺構図や遺物図のデジタル編集を行った。また、遺跡の性格を明らかにするための自然科学分析を行った。赤色顔料分析など5分析である。分析の成果を併せて、令和4年3月に調査報告書が刊行された。

第2章 地形的環境と地質

第1節 地形的環境(第3～9図)

新井遺跡の位置する吾妻地域は、群馬県の北西部にある(第9図)。吾妻地域は、火山群が四周を囲み、中に二高地・三盆地・五渓谷を形成するものである。中央部に南北から小河川が流れ込む吾妻川が西から東に流れ渋川市で利根川に合流する。

新井遺跡の北側には吾妻川が西から東に流れる。また、温川がすぐ西を南から北へ流れている。遺跡の南東方向には、標高1,449mを有する榛名山が聳えている。新井遺跡は、榛名山の北西麓の河岸段丘上にある。

北側には、吾嬬山(1,181m)が、西側には東吾妻と西吾妻を分ける高間山(1,341m)、芦峰(1,473m)、浅間隠山(1,756m)などの山々がある。さらに南には笹崎山(1,402m)から延びる尾根が東に下り、南を画している。(第9図)

温川は、南部から北上して郷原で吾妻川に合流する。吾妻川・温川とともに河岸段丘を形成している。現在の人々の生活は、吾妻川の河岸段丘・榛名山麓・温川沿いの低地で主に営まれている。特に段丘面では人々が生活する居住域や田畠などの生産域が展開している(第5図)。以下、地形について詳しく述べる。

新井遺跡は群馬県東吾妻町厚田にある(第3～5図)。吾妻地域では東部にあたり、利根・吾妻川の合流地点より吾妻川の川沿いで榛名山北麓に沿って約25kmに亘った所に位置する。吾妻川の左岸(北岸)に岩櫃山が聳える地点から対岸の右岸(南岸)に位置している。新井遺跡を南から臨むと、遺跡の背景に吾妻川の北岸に位置する岩櫃山の威容が望める。遺跡は蛇行する吾妻川を北側に臨み、さらに温川を西に臨む位置にある。(第3図)。

吾妻川は、鳥居峠を基点に東流する河川で、上流部は、白根火山や浅間火山に挟まれ、北東流から南西流に大きく流れの方向を変える。狭い吾妻渓谷の谷部を抜けると、直線状に流れようになり、河岸段丘が形成されるようになる。河岸段丘は4つの面に区分される(第6図)。上位段丘面である蓑原面と、中位段丘面である成田原面、

下位段丘面である中之条面、最下位段丘面群であり沖積面の伊勢町面群である。新井遺跡が位置する段丘面は、西側の調査区(A区)は、最下位段丘面の伊勢町1面であり、東側のB～D区は、下位段丘面の中之条面と想定されている。この2つの面に新井遺跡は載っている。

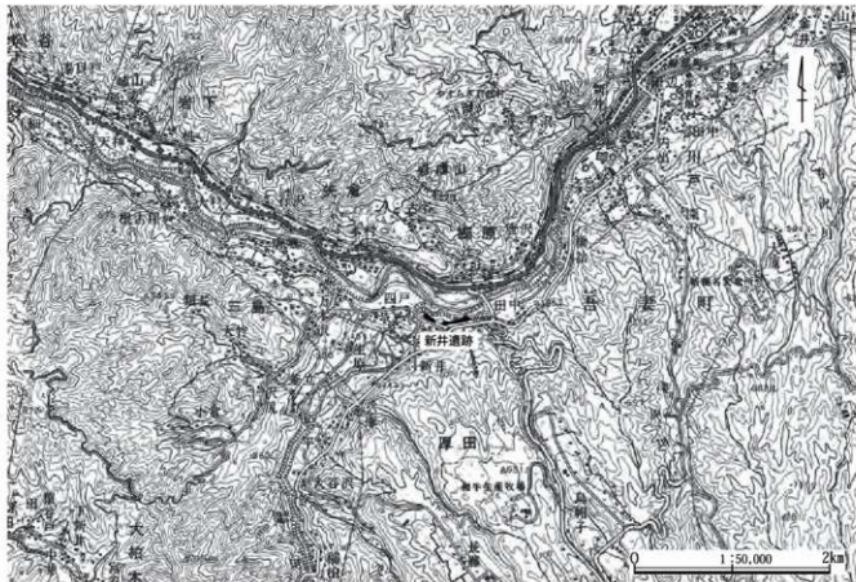
以上、新井遺跡は、吾妻川及び温川の河岸段丘の最下位段丘の沖積面である伊勢町1面を中心にして、一部が下位段丘の中之条面に立地していることになる。

新井遺跡の西に位置する四戸の古墳群・四戸遺跡・唐堀遺跡などは、いずれも新井遺跡西側A区と同じ、最下位段丘面で沖積面の伊勢町1面上にあり、同じ段丘面に吾妻川右岸(南岸)の一連の遺跡群は載っていることが分かる。ただし、温川の右岸(東岸)にある当新井遺跡の東側B～D区は一段上の下位段丘である中之条面に載っていると推定している。

新井遺跡は、繩文時代は居住域として、竪穴建築物が継続して築かれているが、弥生時代に入り住居と墓の構築が始まり、古墳時代は主に方形周溝墓及び古墳の造営が中心となる墓域となった。古代に入り住居がまた多くなり中世に至るのである。対岸の四戸の古墳群が温川沿いに古墳群を造営したとの対照的に、温川から離れた東側のD区に周溝墓・古墳が集中分布する。当時の道との関連性が伺えるものである。

第2節 遺跡付近の地質

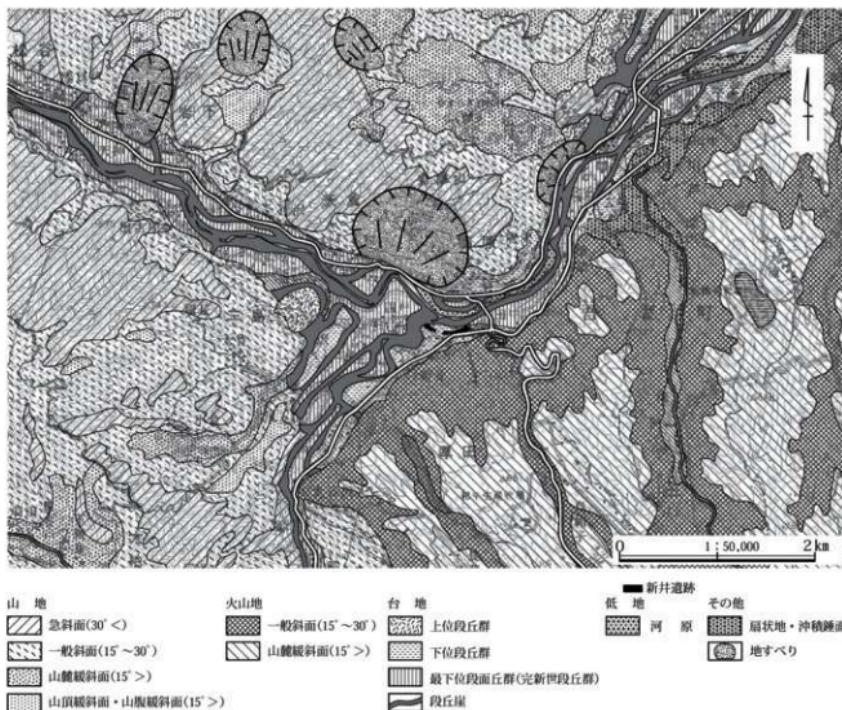
地質図(第7図)を見ると、遺跡地のすぐ西を南から北へ吾妻川に合流する温川に接して榛名山西麓が接している。西麓から北麓全体に、第1期の榛名火山噴出物である紫蘇輝石普通輝石安山岩及び火碎物により厚く覆われている。遺跡地の南側に広がる尾根部には、新第三紀鮮新世の小倉層があり、紫蘇輝石普通輝石安山岩・凝灰岩角礫互層となる。この尾根の北、遺跡地の西には、新第三紀後期中新世の吾妻層があり、紫蘇輝石普通輝石安山岩・凝灰岩角礫及び凝灰岩で構成されている。この層には、吾妻川を挟んだ対岸にも展開する。さらに、この層には、所々火成岩の安山岩の岩脈が入る。また、吾妻川に沿つ



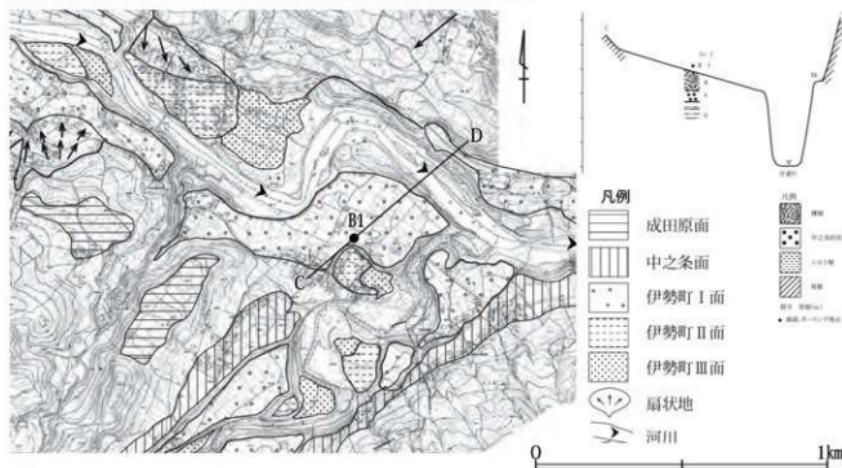
第3図 新井遺跡周辺地形図



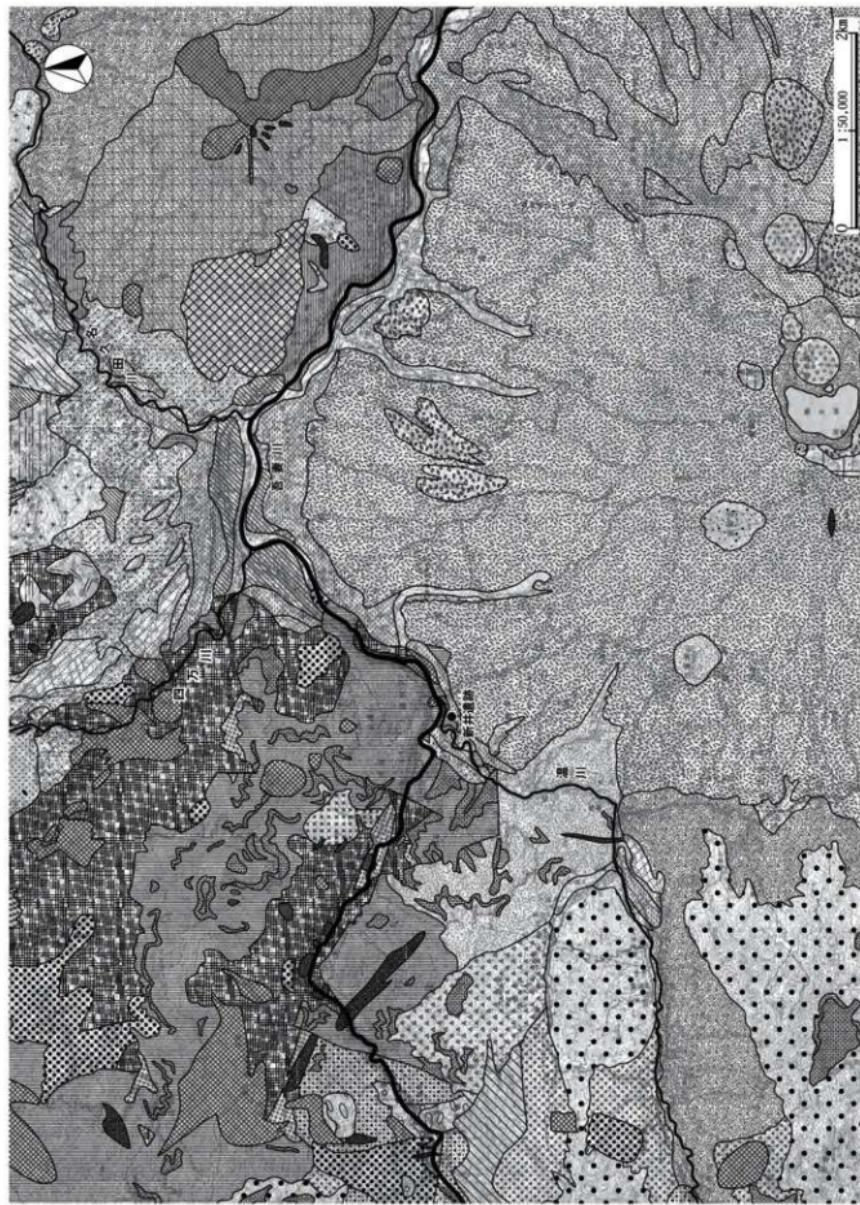
第4図 新井遺跡周辺色別標高図



第5図 新井遺跡周辺地形分類図



第6図 新井遺跡周辺河岸段丘面区分図



第7図 吾妻中流域地質分類図

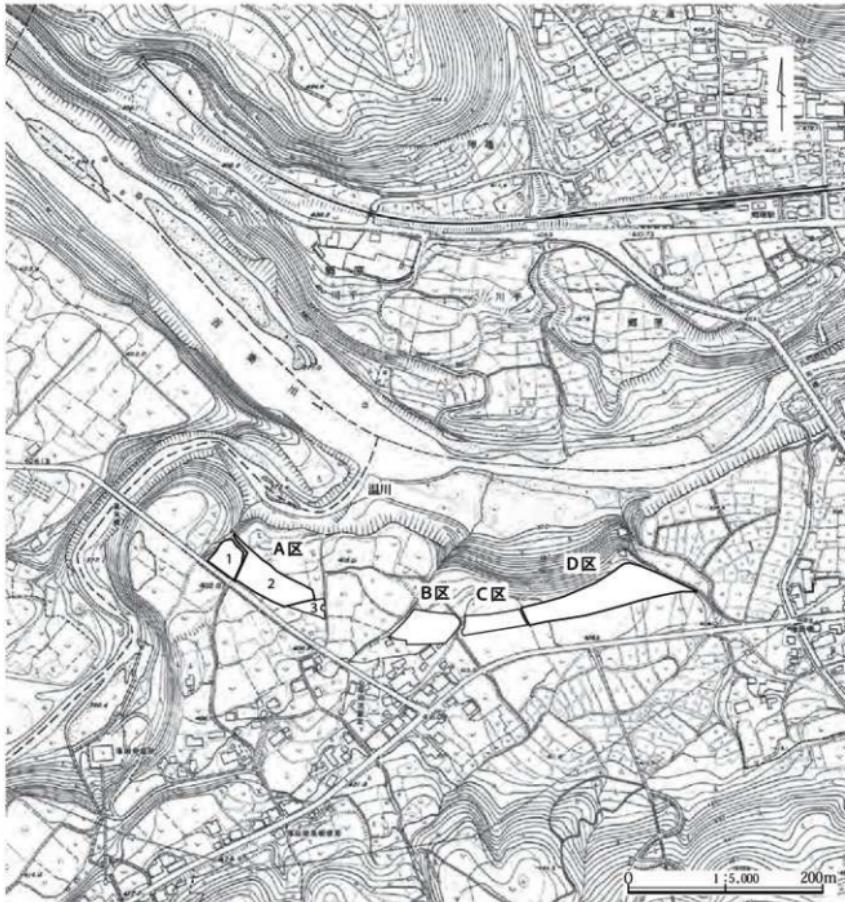
第1表 梶川中流域の地質一覧

記号	地質時代(紀)	地質時代(世)	火山噴出物名	噴出時期	地形・層名	岩質
S	第四紀	完新世			段丘面、伊勢原面	塊、砂及び砂-L _s
M	第四紀	後更新世			段丘面、成田原面	塊、砂及び砂-L _s
A	第四紀	後更新世～完新世			河積	塊、砂及び砂-L _s
Fo	第四紀	後更新世～完新世			山體堆積物	塊、砂及び砂-L _s
Nk	第四紀	中更新世			中之条面層	塊、砂及び砂-L _s
On	第四紀	前更新世			小野上層	高灰角礫岩、砂岩及び砂岩
Ky	第三紀	鮮新世			川原層	紫蘇輝石普通輝石安山岩熔岩・幾灰角礫岩-L _s
Yk	第三紀	鮮新世			川原層	輝石輝石普通輝石安山岩熔岩・幾灰角礫岩-L _s
U	第三紀	鮮新世			中食層	紫蘇輝石普通輝石安山岩熔岩・幾灰角礫岩-L _s
Tk	第三紀	後更新世			高田山層	強蘇輝石普通輝石安山岩熔岩-L _s
W	第三紀	後更新世			人道層	弱蘇輝石普通輝石安山岩熔岩-L _s
Yn	第三紀	後更新世			足湯層	輝石輝石普通輝石安山岩熔岩・幾灰角礫岩-L _s
Ag	第三紀	後更新世			赤坂層	紫蘇輝石普通輝石安山岩熔岩・幾灰角礫岩-L _s
Kr	第三紀	後更新世			大谷層	デイサイト質普通輝石安山岩及び紫蘇輝石安山岩
Tk	第三紀	後更新世			切ヶ久保層	デイサイト質普通輝石安山岩
Dl	第三紀	後更新世			高田山層	紫蘇輝石普通輝石安山岩熔岩・幾灰角礫岩-L _s
Sw	第三紀	中更新世			人道層	輝石・輝石安山岩・泥岩質泥岩-L _s
Aa	第三紀	中更新世			足湯層	輝石輝石普通輝石安山岩熔岩・幾灰角礫岩-L _s
Tc	第三紀	中更新世			赤坂層	輝石輝石普通輝石安山岩熔岩・幾灰角礫岩-L _s
Vg	第三紀	中更新世			合谷層	輝石輝石普通輝石安山岩熔岩-L _s
Kh	第三紀	中更新世			川原層	秋伏山層・輝灰角礫岩・高級質普通輝石安山岩-L _s
Al	第三紀				火成岩層	安山岩熔岩
Ad	第三紀				火成岩層	安山岩熔岩
Aa	第三紀				火成岩層	花崗岩斑岩-L _s 石英斑岩
Og	第三紀				火成岩層	火成岩質岩
Qd	第四紀	完新世	榛名火山噴出物	第5期	二ツ岳・榛名富士溶岩円頂丘	角閃石-ディオイド
Hf	第四紀	完新世	榛名火山噴出物	第5期	二ツ岳・榛名富士溶岩	輝石・火成岩及び火山岩
Hm	第四紀	完新世	榛名火山噴出物	第5期	水汲山・相馬山溶岩圓頂丘	角閃石-ディオイド
Hd	第四紀	中更新世	榛名火山噴出物	第4期	第4期火成岩	輝石・火成岩及び火山岩
Hs	第四紀	中更新世	榛名火山噴出物	第3期	第3期の溶岩層	氣蘇輝石普通輝石安山岩
H2	第四紀	中更新世	榛名火山噴出物	第2期	第2期の噴出物	紫蘇輝石普通輝石安山岩及び火成岩
Ht	第四紀	中更新世	榛名火山噴出物	第1期	第1期の噴出物	普通輝石普通輝石安山岩
Om	第四紀	中更新世	小野子火山噴出物		坂東大山噴出物	かんらん石含普通輝石紫蘇輝石安山岩溶岩岩化火成岩
Ko2	第四紀	前更新世	子持火山噴出物		本朝活動期の噴出物	泥質噴出物
Op	第四紀	前更新世	信野・玉山火山噴出物		信野・玉山火山噴出物	紫蘇輝石普通輝石安山岩熔岩-L _s
Fes	第四紀	前更新世	不動山岩層		不動山岩層	紫蘇輝石普通輝石安山岩

て西側には両岸に新第三紀中期中新世の沢波層が認められ、軽石凝灰岩・凝灰岩互層、凝灰質泥岩及び凝灰角礫岩で構成されている。また、これらの吾妻川の両岸では、先述したように河岸段丘が形成されており、その詳細については既に地形的環境の所で述べているが、礫・砂・泥からなる、後期更新世から完新世の新規段丘堆積物である。

以上、遺跡地の周囲に火山があり、その噴出物により火成岩由来の地質が中心となることが分かる。古墳の石

室は完全に破壊されてしまい、その石材は不明であるが、近くから採れる粗粒輝石安山岩の可能性が高い。また、土器を製作するための粘土については、礫・砂・泥からなる、新規段丘堆積物が採取されるので、それらを使用して土器を製作していた可能性が高い。粘土探査坑と想定された古代の遺構では、このような土を採取して土器を製作したものと想定している。その詳細については別章の胎土分析の結果を参照して欲しい。



第8図 新井遺跡調査区及び周辺地形図

第3章 歴史的環境

第1節 はじめに

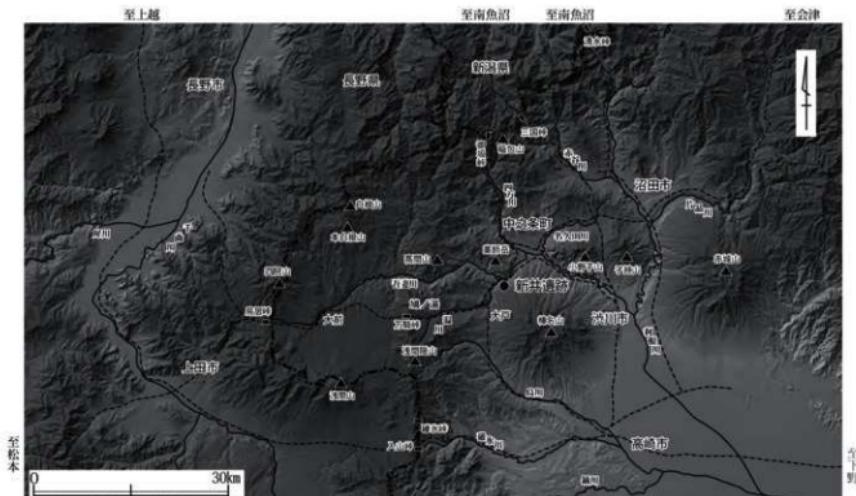
新井遺跡周辺の歴史的環境について、主に東吾妻町内での遺跡の様相について記す。吾妻地域は道が重要な要素となるので、信濃や越後との交流の基点となる道についての概要を記す。次に、東吾妻町を中心とした旧石器時代～近世までの簡単な流れを見る。その中で、方形周溝墓や古墳が出土した当遺跡の状況を踏まえて、古墳時代については詳細に紹介する。

第2節 吾妻地域と古墳時代の道 (第9図)

信濃との道 律令期には、信濃と上野との道は東山道が最も有名だが、吾妻川沿いを通るもう一つの道があつた可能性が高い。これは、江戸時代に信州街道と呼ばれた道である。現在の須坂や上田か、鳥居峠を越えて吾妻川沿いに東へ向かい、吾妻川が北東方向へ流れを変えた大箕あるいは大前付近で、吾妻川を離れ少し南側に向

かった後、東に直進する。万騎峠を越えて鳩ノ湯で温川にぶつかり、温川沿いに東進し大戸に至る。ここから南北に分かれ、信州街道のルートは南下して、上ノ久保で烏川と合流し、烏川沿いに榛名山西麓を下り高崎に至るものである。

もう一つのルートは、温川沿いに北上し、四戸遺跡・四戸の古墳群に向かうルートである。また、吾妻川の渴水期であれば、深い渓谷が続く吾妻渓谷沿いを通る、真田道とほぼ同じルートでの信濃との往来もあったと思われるが、道の険しさを考慮すれば、主要な道は信州街道の経路であったと考える。新井遺跡の対岸にある、四戸遺跡・四戸の古墳群では多くの堅穴建物があり、拠点集落と考えられる。交通の拠点となった可能性が高い。四戸遺跡・四戸の古墳群からさらに東の温川を渡って吾妻川の右岸(南岸)と左岸(北岸)の両方の道を通った可能性が高い。特に左岸の中之条盆地では、段丘面が広く川端・天神遺跡に認められるような大規模な拠点集落がある。ここから吾妻川沿いに東流し、利根川の合流地点に至り関東平野に出る。



第9図 吾妻地域色別標高図及び古墳時代想定道

越後との道 越後への道は三国峠越えが有名であるが、古墳時代には、その他に2つの道があった可能性が高い。四万御坂(福包御坂・木根宿)峠越えとみなかみ町を通る清水峠越えである。清水峠越えは上野・越後両方とともに難所であり、最短距離で通れるところから、普段は使用せず危急の場合に使用した道と考えられる。四万御坂峠越えは、中之条盆地から四万川沿いに北上し、福包山の西側を通り越後に入るルートである。上野側が難所になるが、三国峠にあった三国御坂神社は、四万御坂神社から遷座したとの記録がある。大和王權にとって軍事的・政治的に重要な国境は御坂と呼ばれていたので御坂は、四万御坂峠であった可能性が高い。つまり、古墳時代から古代においては、四万御坂峠越えが主流で、三国御坂峠越えは第二の道であったと考えることもできる。この越後に通じる四万御坂峠越えに至るのに、高崎や信濃から四戸に至り、そこから吾妻川を越えて四万川から四万御坂峠を越えて越後に向かうルートがあった可能性がある。

第3節 歴史的環境の概要

(第10~14図)

旧石器時代 本遺跡では、この時期の遺構遺物は確認できなかった。吾妻郡内でも、旧石器時代の調査が高山村所在の新田西沢遺跡があるのみである。

縄文時代(第10図) 本遺跡では、早期から後期までの竪穴建物が24棟検出され、早期3、前期12、中期2、後期1、時期不明が6の構成である。

近年の上信自動車道路建設に伴う調査で多くの縄文時代の遺跡が調査され、今まであまり明らかではなかった縄文時代の様相が分かってきている。

前期の遺跡では、四戸遺跡(12)、新井遺跡(A)、唐堀C遺跡(7)などがある。中期の遺跡では郷原遺跡(21)などがある。後期の遺構では郷原遺跡(21)、新井遺跡(A)、上郷岡原遺跡などがある。晩期の遺構としては、唐堀遺跡(8)や万木沢B遺跡(11)などがある。両遺跡ともに晩期の遺物が大量に出土している注目すべき遺跡である。

今まで分布の空白地域であった小野上地区も分布調査によりかなり密に遺跡が分布していることが明らかになってきており、上信道路建設に伴う調査での縄文時代の新事実と併せて新たな吾妻地域の縄文時代像が描ける

ようになってきたものと思われる。

弥生時代(第11図) 本遺跡では、弥生時代の竪穴建物が3棟検出された。弥生時中期後半~後期の住居である。また、円形周溝墓が2基、方形周溝墓が1基検出されている。

東吾妻町内では、中期の遺跡の代表的な「岩櫃山式土器」の標式遺跡であり、岩櫃山の高さのある岩陰から再葬墓が発見された岩櫃山鷹の巣遺跡(20)や、同じく再葬墓が最下位部段丘面から検出された前畠遺跡(6)がある。他に四戸遺跡(12)では竪穴建物2棟が調査されている。後期では、四戸遺跡(12)で17棟、四戸の古墳群(13)から15棟の建物が検出され、他に唐堀B遺跡(9)からも竪穴建物が検出されている。後期の集落では、四戸遺跡、四戸の古墳群の建物を併せて32棟の建物の数となり、弥生時代後期の吾妻川中流域では、中之条町の川端・天神遺跡に次ぐ規模の大集落となる。

古墳時代(第12・14図) 本遺跡では、古墳時代の前期の竪穴建物が1棟、5世紀後半の建物が1棟の計2棟、4世紀と推定される方形周溝墓2基、5世紀の礫床墓の可能性のある墓1基、6世紀の古墳が3基調査されている。この地は居住域というより墓域であったと推定する。

以下、集落及び古墳の分布について、東吾妻町を中心と検討した後、吾妻川流域全体を見た分布についても検討する。

集落(第12図) 古墳時代の集落の分布であるが、まず、東吾妻町内を見てみる。四戸遺跡(12)・四戸の古墳群(13)から前期から後期にかけての96棟に及ぶ竪穴建物が検出された。4世紀には4棟、5世紀前半に1棟、5世紀中頃に5棟、5世紀後半~6世紀初頭には19棟と竪穴建物が急増する。6世紀前半も継続して16棟となり、この時期に四戸の古墳群(13)に古墳が造営されたことと関係がある。6世紀中頃は16棟、6世紀後半には17棟の竪穴建物があり、前代に引き続いて多数の建物が構築されている。7世紀に入ると7世紀前半は9棟、7世紀中頃は6棟、7世紀後半は6棟があり減少傾向にある。以上の建物数を見ると、この地域でも群を抜く古墳時代の建物数であり、拠点集落である。他にも建物が調査された遺跡はいくつもある。当遺跡の西側吾妻川右岸の唐堀C遺跡(8)、万木沢B遺跡(11)では後期の集落がある。ただし、四戸遺跡~四戸の古墳群にかけての前期からの集落、特

に中期後半～後期(5世紀後半～6世紀)から終末期(7世紀)にかけての大集落とは歴然とした差がある。この集落に匹敵するのは、中之条町にある、弥生時代から継続している伊勢町川端・天神遺跡(82・83)であるが、未報告のため内容があまり明らかではない。吾妻川中流域の河岸段丘において、西の四戸遺跡～四戸の古墳群と、東の伊勢町遺跡群がそれぞれの地域での拠点集落となる。また、調査は行われていないが、後述する原町の古墳数の多さをみると、古墳数に相当する大規模な集落が原町地区にあった可能性を考えている。それぞれの地区は、渋川や沼田から中之条を通り越後に抜ける四万御坂峠越に向かう、あるいは、吾妻川から一旦四戸で南下して、大戸から須賀尾経由で、鳥居峠から信濃へ抜ける道の中継地となる箇所にある。

このように河岸段丘による集落・耕地・古墳の設置・構築に適した場所で、当時の交通の中継地となる場所が拠点集落となつたものと推定する。新井遺跡は、対岸の四戸遺跡・四戸の古墳群のような道に密接に関連した拠点集落と対照的で、主に墓域として使用されたものと思われる。

さらに区域を吾妻全体に広げて集落の動向を見てみると、特に西吾妻には、嬬恋村に1例あるが、長野原町に5棟の建物があるのみで極めて少ない。建物の数が少ないと比例して古墳の数も長野原町に数基ある可能性があるのみである。

吾妻川中流域左岸では前畠遺跡(6)付近から古墳時代の集落が出現する。特に四戸遺跡(12)の付近から、4世紀より古墳時代の集落が出現し、5世紀後半には急増することになる。6・7世紀から8世紀へと継続して集落が続くのは、吾妻川中流域以降では、四戸遺跡と中之条町川端・天神遺跡群(82・83)の2ヶ所で、両方ともに信濃や越後との交通路の基点となるところである。川端・天神遺跡は中之条町の市街地で、あまり古墳の残りが良くない。対して四戸遺跡は、四戸の古墳群という25～27基に及ぶ古墳群を擁しており、ムラの上層階級の人々の墓として6世紀前半から7世紀まで古墳を築いたことが分かった。拠点集落のそばに墓域があった例である。また、古墳時代から古代への移行期の7世紀の後半には、掘立柱建物群を伴った遺跡が下郷古墳群(43)、小泉宮戸遺跡(56)、川端・天神遺跡(82・83)などにあり、吾妻郡・

郷に関わる施設の可能性が高い。

古墳(第14図) 古墳の分布(第14図)について東吾妻町内で見てみる。古墳は、東吾妻町全体で204基数えられている(群馬県2017)。東吾妻町の古墳分布の様相を見てみる。西から見ていくが、まず、西北部にある吾妻川両岸を含み温川まで至り、新井1～3号墳(49～51)や四戸の古墳群(15・16・23～44)が含まれる旧岩島村の古墳(1～3・5～51)を見てみる。

計50基を数え、四戸の古墳群がある三島が38基と圧倒的に多い。三島には四戸の古墳群(15・16・20～44)と生原古墳群(8～12・17～19)の2つの古墳群がある。さらに、吾妻川を西に廻った唐堀遺跡(6)からは、7世紀前半の横穴式石室の古墳が調査された。調査古墳としては、吾妻川右岸地域では最西端にあたる古墳である。当新井遺跡は、四戸の古墳群を温川を挟んだ対岸に臨む遺跡(第12図A、第14図49～51)で、堅穴建物は、前期1・後期2棟のみだが、方形周溝墓2基、古墳3基があり、墓域として重要である。次に多いのが、吾妻川対岸にある矢倉の6基(3・5・45～48)である。

岩島村からは重要な古墳が調査されている。西端にある岩下の机古墳(1)で、堅穴系石槨を主体部とするもので、このような石槨を持つ古墳としては県内では最北西端に位置する。5世紀後半に比定され、四戸の古墳群IV号墳の無袖横穴式石室導入前の墓制である。中之条町の吾妻川左岸にある、石ノ塔古墳も同じ堅穴系石槨の主体部を持ち、大刀・鹿角装刀子・斧などを副葬した有力層の5世紀後半の古墳であるが、机古墳には副葬品は全くなく、階層的には石ノ塔古墳より下位に位置づけられるものである。しかし、5世紀後半の時期に、吾妻川中流域の西側の左岸でこの時期の古墳を構築したことが吾妻川流域への進出を示す証拠である。さらに胴塚古墳(3)が重要で、四戸の古墳群大IV・1号墳と同時期と推定される無袖横穴式石室で、5世紀後半の机古墳の堅穴系石槨から無袖横穴式石室の移行が吾妻川左岸で認められる。

旧岩島村の南、榛名山南西麓から吾妻に至る道が通っている村が旧坂上村である。分布図から外れるが、山間部にしては、古墳数が多く信濃に通じる交通路上にあるからと推定でき、古墳計17基の古墳がある。

旧原町は、旧岩島村の東、吾妻川両岸を含み、四万川

との合流地点までの範囲である。81基を有する東吾妻町では最多の古墳数を有する。旧原町内で特に多い地区は、吾妻川右岸の川戸で41基(52~78・83・112~124・126)の古墳を有する。特に下郷71号墳(122)は、無袖横穴式石室で、素環頭大刀、X字形巻など豊富な副葬品を有する古墳で、時期は6世紀前半である。四戸の古墳群群大IV・I号同様、横穴式石室の吾妻地域での初現を示すものとして重要である。対岸の左岸の原町にも31基の多数の古墳(57・79~82・84~102・104~108・110・111)がある。

旧原町のさらに四万に向かう道に当たる箇所に旧澤田村があり、計7基の古墳(166~172)がある。四万から越後に抜ける四万御坂峠の通り道にある古墳である。

旧太田村は、原町の東に接する吾妻川右岸の村で19基(130~149)ある。その最も西側にある岩井で、21基と半分以上を占めている。

旧東村は、旧太田村の東に接する吾妻川右岸の村で、東吾妻町と統合する前は、吾妻郡東村であった。16基(150~165)と少なく、最も西に位置する新巻に5基ある。

新井遺跡では古墳が3基ある。主体部がはっきりしないので明瞭な年代は言えないが、埴輪の様相、壙の掘削の状況などから6世紀代と推定される。特に、一辺20mを超える方墳は重要な。また、おそらく4世紀と推定される今まで吾妻地域では確認できなかった方形周溝墓が2基出土していることも重要な発見である。対して住居は3軒のみの確認ということで、この地が墓域として主に使用されたことを示している。

温川の対岸に当たる四戸の古墳群(15・16・23~44)では、6世紀前半から古墳が造営され、6世紀後半から継続して7世紀にも古墳が構築されるが、建物の構築数は古墳が出現する6世紀前半に多く、古墳構築が継続される、6世紀後半から7世紀にかけてやや減少するも一定程度の棟数を維持している。古墳構築の背景となる集落として位置付けられるものであることを示している。古墳群は、吾妻川、温川の河岸段丘上に23基の古墳を数えている。さらに南側の温川の河岸段丘上には生原古墳群(8~12・17~19)が8基あり、総数34基が構築されている。吾妻地区では最大級の群集墳である。古墳の内容を見ると、すべて横穴式石室の可能性が高く、群馬大学が調査した群大IV・I号墳は6世紀前半に比定されてお

り(杉山2020)初現期の横穴式石室である。埴輪を有する事業団調査の1号墳が6世紀後半、埴輪を持たず、棺釘が出土した7世紀前半~中頃の2・3号墳を合せて考えると、6世紀前半~7世紀中頃にかけての、後期群集墳である。そのことは、岩島村誌などからうかがえる四戸・生原古墳群の古墳に対する詳細な地元の農家他からの聞き取りで、埴輪・金環・勾玉・ガラス玉・直刀・馬具などが出土したことから想定される年代観と整合する。生原古墳群も今までに得ている情報からすれば四戸の古墳群と同様の古墳群で、基本的に6~7世紀の横穴式石室を持つ古墳であることは間違いない。

以上述べてきた、旧5町村からなる、東吾妻町全体の古墳の様相を再度まとめてみる。西から見ていくと、四戸古墳群を含む旧岩島村では50基、南の信濃に通じる交通路が通る旧坂上村で17基、温川を境に旧岩島村と東に接する旧原町で78基、原町の北方、越後への交通路上の旧澤田村で7基、さらに旧原町の東の旧太田村で20基、東の旧東村で17基である。最も古墳数が多いのが旧原町で、吾妻川の左岸(北岸)の原町で37基、右岸(南岸)の川戸で41基と、吾妻川の両岸で東吾妻町最多の古墳群集である。それに続くのが、四戸の古墳群27基と生原古墳群8基の計35基である。以上の状況を全体的に見てみると、東吾妻町の西側の地区の古墳数が多く、東側の榛名山北麓に位置する旧太田村・旧東村へと向かうにつれて減少するのが分る。特に旧東村に数が16基と少ないことは、Hr-FA・FPに伴う火碎流、軽石降下によりこの地域がかなりの打撃を受けていたことを示している。古墳数の多い、旧原町、旧岩島村は、吾妻川、四万川、温川の河岸段丘面が形成されていることで、集落及び耕地の立地として利用可能で、その結果が古墳の構築に結びつくものである。

吾妻地域の古墳動向 次にさらに大きな吾妻地域全体で古墳の造営状況を見て見る。

吾妻川中流域の古墳

吾妻地域の中流より以西では、古墳として可能性が高いのは長野原町に2基ある。それより以西・以北の嬬恋町や草津町の資料は古墳としては疑わしい(杉山2020)。長野原町に所在する古墳も明確な証拠があるわけではないが、特に長野原町1号墳は、横穴式石室の側壁と想定される石列が地表にごく一部露出しており、可能性が高

い。さらに旧信州街道沿いにあたる旧坂上村に散在する古墳も可能性が高い。対して、吾妻川の川幅が狭まり交通の難所となる地域での古墳については可能性が低いと考えている。現状での調査古墳での西端は、吾妻川左岸では、5世紀後半～末の竪穴系小石櫛の机古墳(1)、吾妻川右岸では、7世紀前半の両袖横穴式石室の唐堀遺跡1号墳(6)である。いずれも吾妻川中流域の中之条盆地に入る手前の吾妻川の両河岸段丘上である。これより以東について、下流域の渋川地域までの古墳の分布状況を見て見る。

吾妻川右岸の古墳分布を西から見ると、温川との合流域の四戸古墳群(15・16・20～44)、温川流域の生原古墳群(8～12・17～19)、吾妻川右岸域をさらに東に下り、川戸地区(52～56・58～78・112・113・122～124・126)・下郷(114～121)古墳群、金井古墳群(125・127～129)、岩井古墳群(130～134・138)、植栗古墳群(137・139)、小泉古墳群(140～142)、新巻地区(150～154)、箱島地区(159～164)と続き、少し空白域があつて吾妻川下流の渋川地域の金井東裏遺跡1・2号墳(243・244)などに繋がる。吾妻川右岸では、唐堀遺跡1号墳を起点にして、特に四戸の古墳群から川戸・下郷古墳群の数が多い。

次に吾妻川左岸を西から見ると、矢倉地区(3・5・45～48)、埴輪から6世紀前半に比定される諏訪前遺跡1号墳(82)、下之町古墳群(87～100)、沢尻古墳(111)と続き、石ノ塔古墳(189)、市城古墳(220)に至り、旧小野上村の古墳(227～232)を過ぎ、吾妻川下流の旧子持村の中ノ峯古墳(248)などに続く。四万川流域には、小川古墳群(84～86)、山田古墳群(168～172)、笛吹塚古墳(169)などがある。四万川と吾妻川に挟まれた須郷沢川のある原町周辺にも数多くの古墳があり、寺久保古墳(84)、猿田古墳(70)、下須郷古墳(79)などである。名久田川流域には樅塚古墳(204)、小塚古墳(209)、名久田8号墳(201)などがある。なお、旧太田村近郊の吾妻川右岸の特に榛名山北麓の標高の高い地点にある古墳(143～148.156・157.165)などは古墳ではない可能性がある。

石ノ塔古墳と机古墳を除いては、吾妻川中・上流域は6・7世紀の古墳が中心である。特に吾妻川右岸の四戸の古墳群・生原古墳群36基を有し、他の古墳を含めた総数51基を数える旧岩島村の地域と、吾妻川右岸の川戸・下郷古墳群41基と吾妻川左岸の原町に36基、総計81基に

達する旧原町の地域が2大中心地域で、吾妻川中流域の古墳建造の中心地である。反対に、吾妻川下流域に近い吾妻川左岸の旧小野上村や右岸の旧東村では、榛名の2回の爆発に伴う火山灰・軽石・火碎流による被災によりかなりの打撃を受け古墳、集落とともにあまり認められない。

吾妻川中流域の集落と古墳

上述したように、吾妻川上流は、散発的に建物や古墳があるのみで継続したムラや古墳は無い。中流域は、前期から始まり、特に5世紀後半に、内斜・内湾口縁杯の形態を持つ杯に代表される榛名山南東麓・渋川地域と同じ系統の土器群を伴って、集落が形成される。古墳も同じように5世紀後半から竪穴系石櫛が築造され、無袖から両袖の横穴式石室が継続して造られる。また埴輪も少なくとも6世紀後半の埴輪は、藤岡産埴輪が持ち込まれており、榛名山山西麓を通って四戸に至るルートがあつたことを示す。そのルートが5世紀中頃の導入時にもあった可能性があり、吾妻川下流から中流に向けて榛名山北麓を通るルートと高崎・藤岡地区から榛名山山西麓を通るルートの両方があつた可能性が高い。

吾妻川流域に無袖横穴式石室が、群大四戸1・IV号墳に代表されるように、早い時期に築造されている。また、無袖横穴式石室を持つ被葬者については、渡来系文化の要素を持っているとの指摘(大谷2010)がなされている。群大四戸IV号墳には、現在は確認できないが、鍍金された辻金具が1個体分出土したことが報告されており、下郷71号墳から出土した、北部九州との関連が想定される大型矩形立聞環状鏡板付骨や、全国で2例目の出土である四隅突出四橋状鉄地金銅張辻金具など珍しい馬具を出土している。以上のことから馬に関わる副葬品が含まれた渡来系の要素が、吾妻川中流域の最初期の無袖横穴式石室の被葬者により持ち込まれた可能性が高い。具体的には、吾妻地域の当時の交通路の拠点に馬の飼育に関わるような人々が入ってきたと想定している。それが、後代の市城の牧につながるものと思われる。

7世紀になっても、吾妻川中流域では、継続して四戸遺跡と中之条川端・天神遺跡が拠点集落として在り続ける。四戸遺跡には墓域として、四戸の古墳群が展開している。金井庵寺が7世紀後半に建造されたことや、吾妻郡・郷に関係する施設と想定される掘立柱建物群がいく

つか発見されることを見ても、この地が時代の変化に応じて、古墳の築造から寺の造営、初期官衙の造営と変化して引き続き律令期にも盛行していったことを示すものである。

吾妻川下流域の動向

吾妻川下流域には、渋川・旧子持村地区が入り、数多くの古墳と集落がある。前期から終末期まであるが、榛名山二ツ岳の二度の噴火による被災から特に榛名山北東麓は大打撃を受けるも、軽石降下が2mを超える地域以外は復興を遂げている。古墳も前期から終末期まで継続して築かれている。前期4世紀後半の行幸田山A-1号墳から、5世紀後半～末の東町古墳、坂下古墳群、金井丸山古墳、金井東裏遺跡1・2号墳と積石塚と竪穴系小石室を持つ一連の古墳がある。6世紀に入ると無袖横穴式石室が伊熊古墳、有瀬1号墳などに導入され、さらに中ノ峯古墳、空沢5号墳のように6世紀中頃～後半まで無袖横穴式石室が継続される。6世紀には、榛名山二ツ岳の2度の爆発により榛名山東麓から北麓にかけて被災するも、一回目のHr-FA降下には被災後の復興を成し遂げ、2度目のHr-FPにより2m以上の軽石が降下した地区は放棄されている。ただし、それ以外の地域は集落が営まれ、特に7世紀には多くの集落・古墳が造営されている。このように、吾妻川下流域は、榛名山南東麓の影響を受けて5世紀中頃から集落が急増し、古墳を造営するも、6世紀の2回の榛名山二ツ岳爆発により被害を受けて、6世紀末から7世紀にかけて復興するという状況である。

まとめ

吾妻地域においては、上流域では、古墳はごく少数で、建物も孤立的に1、2棟あるのみである。中流域では、発掘調査により明らかになった机古墳と唐堀遺跡1号墳を西端にして、古墳とともに集落も急激に増加する。特に四戸遺跡と中之条町川端・天神遺跡は拠点集落として重要である。いずれも交通路の基点であり、四戸遺跡には四戸の古墳群が墓域として集落と連動している。特に6世紀に入って造営された初期の無袖横穴式石室の被葬者が馬具を副葬品として伴っていることなどから、当時の陸上交通に变革をもたらした馬の飼育に関わる集団の長と想定される。また、7世紀後半には、郡・郷と関係する施設が中之条盆地を中心に下郷古墳群、川端・天神

遺跡、小泉宮戸遺跡などで造営され、金井庵寺の建立とともに古代律令制に向けて継続した繁栄を見せている。

榛名山北麓の特に旧東村地区や旧小野上村地区には、2回の榛名山爆発の被災で、集落・古墳ともに少ない。

吾妻川下流になると、右岸では、金井東裏遺跡・金井下新田遺跡がHr-FA前の集落を代表し、左岸では中郷田尻遺跡や黒井峯遺跡がHr-FP降下前までの集落を代表する。また古墳も、5世紀の竪穴系石室から6世紀の無袖横穴式石室、6世紀後半～7世紀の両袖横穴式石室へと続き、一部の軽石の大量降下地区を除き復興する。吾妻川下流域は、榛名山南東麓の勢力と緊密な関係を保ちながら発展した地域であり、榛名山の2回の爆発で被災し、復興した地域である。今後、中流域との交流の実態を明らかにする必要がある。

また、今まで確認できなかった生産遺構が、初めて検出された。温川を挟んで東岸の約1km先に位置する厚田中村遺跡である。榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)が6世紀初頭に降下した火山灰に覆われた極小区域水田が検出された。集落を支える、農作物の生産については、弥生時代後期の段階から、圧痕同定分析によりイネの栽培が盛んであったことが分かっており、厚田中村遺跡での発見により、Hr-FA下の水田が調査され、イネ栽培が展開されたことが判明している。吾妻川中流域の山間部でもイネ栽培がおこなわれていたことを証明するものである。

古代(奈良・平安時代) (第13図) 律令制下、群馬県(上野国)には14の郡が置かれていた。新井遺跡は吾妻郡の中にいる。吾妻郡はさらに長田、伊參、太田の3郷があつたと推定されている。

本遺跡では、竪穴建物が7棟検出された。8世紀第4四半期が1棟、9世紀第2四半期が1棟、9世紀第3四半期が3棟、9世紀後半が1棟、9世紀代のものが1棟である。掘立柱建物が2棟、9世紀第3四半期の粘土探査坑などが調査された。他に土坑・ピット・溝・集石・焼土集中などが確認できた。As-B下の畠も検出されている。古墳時代が墓域として利用されたのに比べて居住域として利用されたものと推定する。

温川を挟んで西にある四戸遺跡からは、7世紀後半から10世紀前半まで多数の竪穴建物と掘立柱建物が調査された。少し詳しく、四戸遺跡の状況を見ると、8世

紀前半には15棟検出され、7世紀後半の10棟と比べると増加している。8世紀後半には9棟、9世紀前半には1棟、9世紀後半には14棟あり、稀少な奈良三彩を出土した51号竪穴建物もこの時期に入る。10世紀には5棟のみとなり、建物の構築は途絶える。4世紀から途切れることなく集落が形成され、古代に入ると、8世紀前半と、9世紀後半に建物が急増するという変遷をたどる。古墳時代から引き続いてこの地域での拠点集落であることが分かる。

万木沢川を挟んで西側の万木沢B遺跡(11)、唐塚C遺跡(7)、根小屋遺跡(5)からも平安時代の集落が検出されている。

東側約5km離れた地点にある金井廃寺(46)は、群馬県内で4ヶ寺しかない白鳳期の寺院である。他の3ヶ寺は、前橋市の山王廃寺、伊勢崎市の上植木廃寺、太田市の寺井廃寺である。このような稀少な白鳳期寺院が金井にあることは、初期寺院の建立可能が可能な豪族・集團がこの地にいたことを示している。

古墳時代から古代への移行期である7世紀後半に吾妻地域では大きな動きがある。先述した金井廃寺(46)が建立されたことが一番大きな動きであるが、さらに7世紀後半から掘立柱建物群が吾妻川両岸に構築されている。

まず吾妻川右岸であるが、金井廃寺から1.2km南西の下郷古墳群(43)で、7世紀後半から8世紀初頭を中心とした複数の掘立柱建物と塀・門が発見された。また、中之条盆地の東南部、金井廃寺から3~4km東にある同じく吾妻川右岸の小泉宮戸遺跡(56)・小泉天神遺跡(59)でも7世紀後半から8世紀の掘立柱建物が複数発見されている。特に、下郷古墳群の地は厚田にある太田神社などから、大田郷に想定されている地もあり、金井廃寺の存在と併せて郡家や大田郷の施設である可能性がある。

対岸の吾妻川左岸には、中之条駅南の川端・天神遺跡(82・83)がある。川端遺跡(83)では、古墳時代~古代にかけて、方形区画の石垣遺構が調査され、天神遺跡(82)では複数の掘立柱建物とともに奈良三彩や銅印も出土している。豪族居館あるいは官衙関連遺構と推定される。両遺跡は、伊参郷と推定される地域にあり、「上野国交替実録帳」に記載されている郡家の外に設置された伊参郷関連の施設である伊参院の可能性がある。このよう

に、郡家あるいは、郷に関わる施設の可能性がある遺構が中之条盆地の両岸にある。古墳の分布は、吾妻川の両岸にまたがる、旧原町に最も多く81基あり、吾妻川右岸の川戸に41基、左岸の原町に36基の古墳がある。川戸には先述したように下郷古墳群から掘立柱建物群が発見されており、金井廃寺を対岸に臨む吾妻川左岸、西四万川右岸台地上にある原町には大宮巖鼓神社(35)がある。鎌手刀を伝製品として保管しており、郡家に比定されたこともあった。ただし、遺構としては、該当するものは神社付近ではほとんど発見されていないので検討が必要であろう。6~7世紀の古墳が、川戸と原町に濃密に分布するところから、その後の7世紀後半の展開が想定され、郡家があった地点の候補の一つとなろう。また、川端・天神遺跡周辺は市街地ゆえに開発が進み古墳数は少ないが、掘立柱建物群や方形の石垣遺構の発見や地名から先述したように伊参院と想定されている。以上、中之条盆地周辺地域は7世紀後半以後の金井廃寺と掘立柱建物群が集中する場所であり、郷や郡家に関連する施設が発見されている重要な地域である。

生産遺構は、畠・水田が調査されている。新井遺跡でも、As-B下から畠が出土した。西側の万木沢川の対岸に位置する万木沢B遺跡では、天仁元年(1108年)に降下した浅間B軽石(As-B)の直上に畠、元治三年(1128年)に降下した浅間-船川テフラ(As-Kk)の直上と直下に畠を検出している。さらに西側の唐塚C遺跡(11)では、As-Bで埋没した畠が検出されている。遺跡の東を流れる温川の対岸にある厚田中村遺跡では、As-Bにより埋没した水田が調査されている。以上述べた水田・畠は、平安時代の集落が廃棄された後に、生産域に替えたことが分かっている。

馬の生産地としての牧が、「延喜式」記載の市代牧が、JR市城駅付近で比定されていて牧の可能性が高い。

鉄生産関連の遺構は、吾妻川左岸の諏訪前遺跡(29)で平安時代前期の鍛冶炉が発見された。吾妻川右岸の中之条盆地東南部の小泉宮戸遺跡(56)でも平安期の製鉄遺跡が発見されており、鉄生産が平安時代に行われたことを示している。畠・田でのイネ他の農作物生産以外に鉄・馬の生産を行っていたことが分かる。

中近世 本遺跡では、中近世の遺構は数少なく、土坑群・土坑・柱穴列・ピット・焼土集中・溝などが出ている。

西端のA区では、天明3(1783)年の浅間の大噴火により起った泥流により埋もれた畠・石垣・道・ヤックラが検出された。

12世紀末頃に秀郷流藤原氏である吾妻氏(前吾妻氏)が勢力を延ばす。承久3(1221)年に起きた承久の乱において吾妻助光が戦死して前吾妻氏は滅亡する。嘉祥年間(1235~38)年に秀郷流藤原氏を称する吾妻(下河辺)行家が鎌倉幕府より吾妻郡を賜り、後吾妻氏と称される。貞和5(1349)念吾妻行家が里見義侯との争いで死亡し、後吾妻氏が滅亡したとの伝承がある。

14世紀末、秀郷流藤原氏の齊藤氏が台頭してくる。16世紀前半には温川上流の手子丸城(大手城)に拠った大戸氏が台頭し、西3kmに位置する根小屋城に入る。発掘調査で、竪穴状遺構、土坑などが検出された。

永禄6(1563)年に、武田信玄の上野国西部への侵攻で、大戸氏は武田氏に従属し、武田氏武将の真田幸隆により岩下城が落城、岩櫃城が武田氏の居城となり、吾妻郡域は武田氏の支配下となる。岩櫃城は、天正10(1582)年の武田氏滅亡後に独立し真田氏の支配下となる。

江戸時代になっても、本遺跡のある三島村は引き続き真田氏の支配下にあった。元和元(1615)年に一国一城令が江戸幕府より発せられて岩櫃城は破却された。

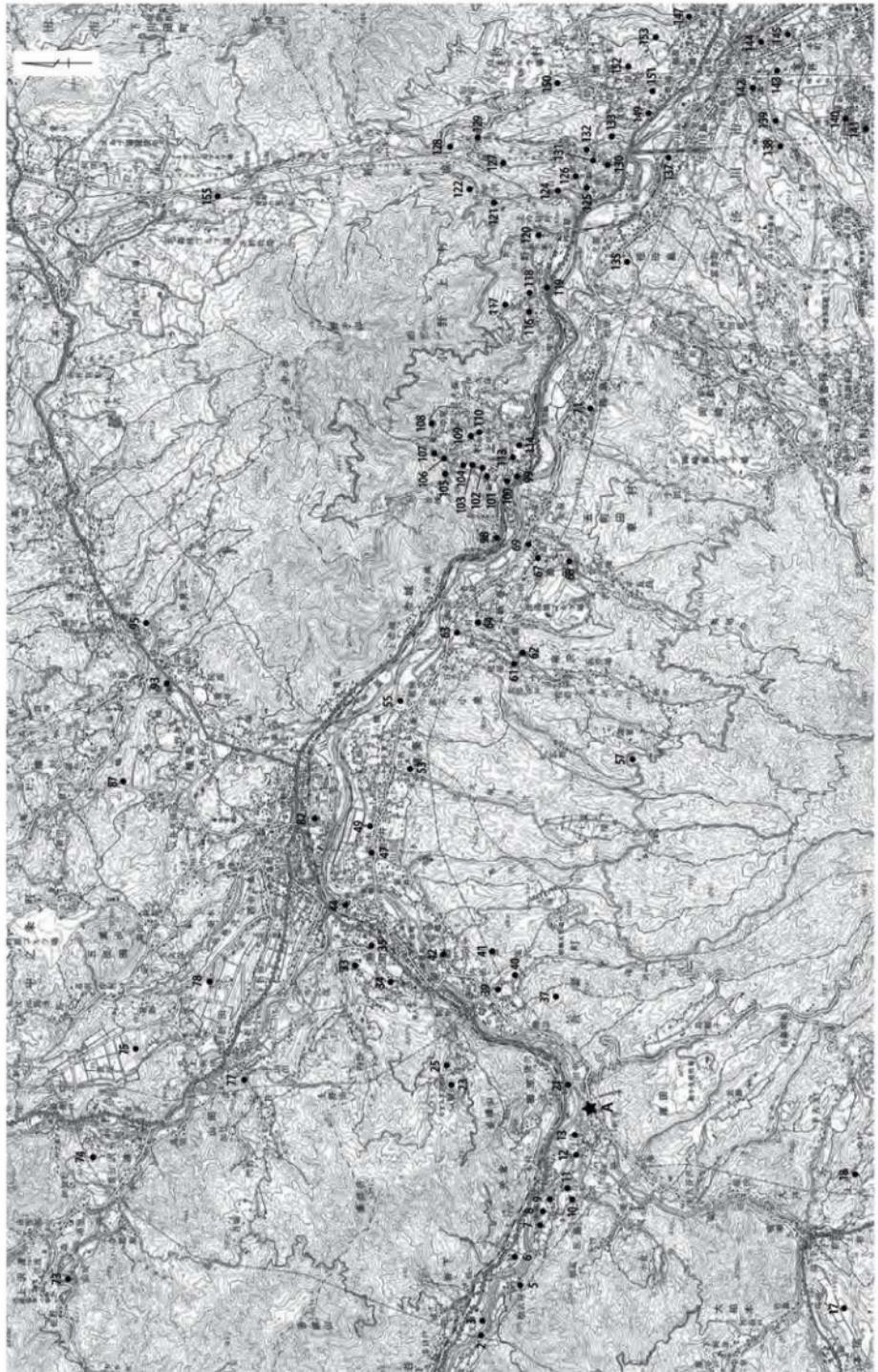
天和2(1682)年に天領となり、文政7(1824)年には御三卿清水徳川家の支配下となった。天明3(1783)年に浅間山の大噴火が起り、浅間A軽石(As-A)が降下し、噴火に伴い発生した大泥流により長野原町を中心には1,500人前後が亡くなり、流出家屋は1,000戸を優に超えている。安政2(1855)年には再度天領となって、まもなく明治維新に至るのである。

中・近世の遺構を検出した遺跡は、西から細谷E遺跡、根小屋城跡、根小屋B遺跡、根小屋遺跡、唐堀C遺跡、唐堀遺跡、唐堀B遺跡があり、万木沢川を西に渡ると、さらに四戸遺跡、四戸の古墳群がある。さらに温川を渡ると、新井遺跡、厚田中村遺跡がある。これらの遺跡のうち、温川より西の遺跡は河岸段丘の最下位段丘の伊勢町1面に載り、温川を渡った遺跡は、西端の新井遺跡の最西端部は、伊勢町1面であるが、それより東はすぐ上の面の中之条面に載っていると推定されている。

天明泥流により埋没した生産遺跡である畠や田畠が検出された遺跡は、西から唐堀遺跡、新井遺跡、厚田中村遺跡がある。

0 1:75,000 2km

第10図 百沢川中・下流域彌文時代遺跡分布図



1:75,000
3km

第11図 百条川中・下流域弥生時代遺跡分布図



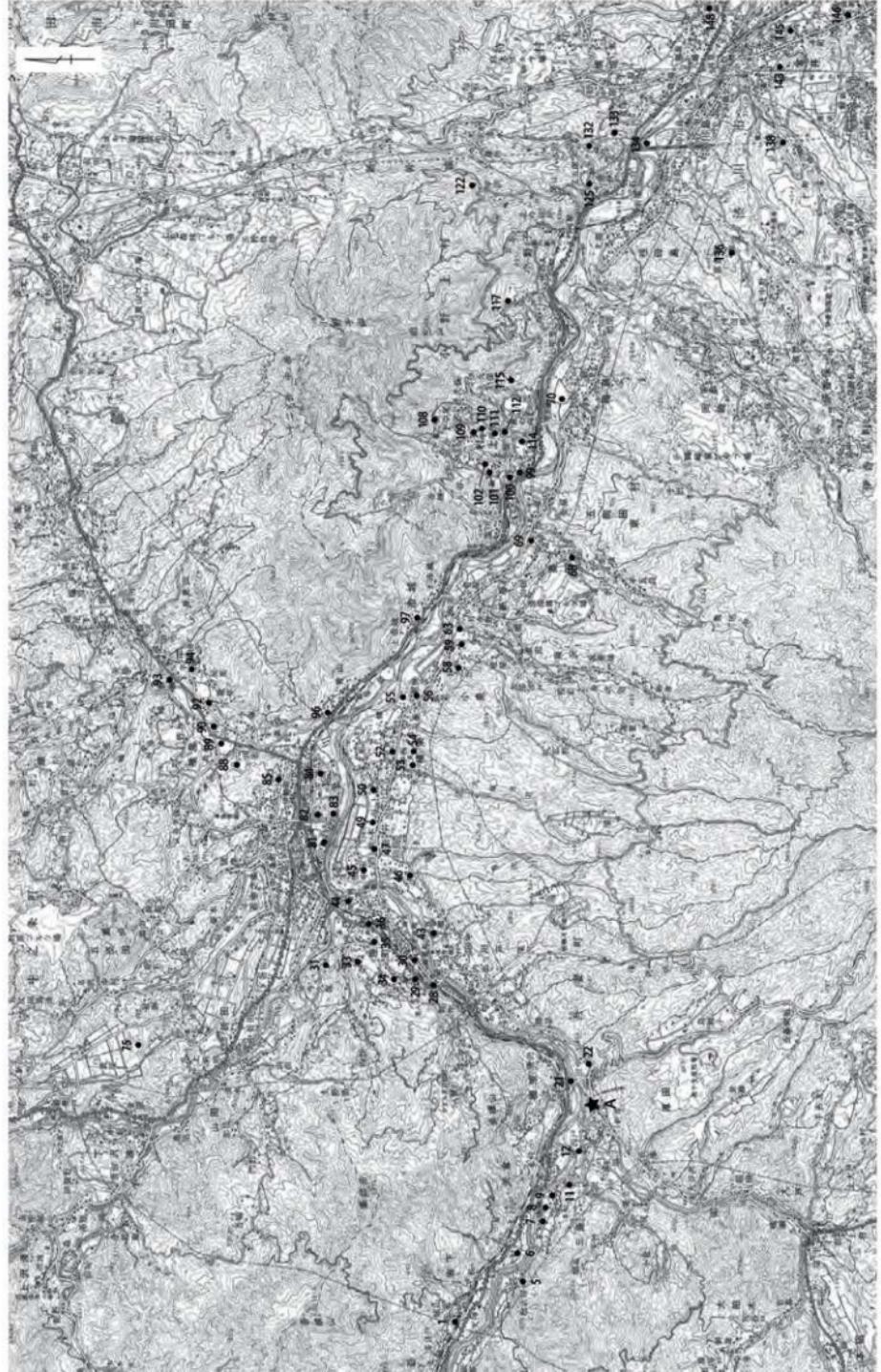
0 1:75,000

第124図 菅原川中・下流域古墳時代遺跡分布図



1:75,000
0 3km

第13図 吉利川中・下流域古代遺跡分布図



第2表 吾妻川中・下流域縄文～古代遺跡(除古墳)一覧表

遺跡名	所在地	縄文	弥生	古墳	古代	種別	調査期・備考	文献
A 新井遺跡	東吾妻町厚田新井46他	○	○	○	○	集落	本遺跡	
1 天神遺跡	東吾妻町岩下大戸673他	○	○	○	○	散布地		1
2 犀谷D遺跡	東吾妻町三島犀谷5128	○				散布地		1
3 桐人遺跡	東吾妻町岩下桐人	○				散布地		1
4 犀谷E遺跡	東吾妻町三島犀谷	○				散布地		3
5 相古原遺跡	東吾妻町三島相古原	○			○	その他・不明		3
6 前堀遺跡	東吾妻町岩下76	○	○	○	○	散布地・集落・他		9
7 唐坂C遺跡	東吾妻町三島唐坂	○		○	○	集落・その他		10
8 唐坂B遺跡	東吾妻町三島唐坂	○		○	○	集落・古墳・他		2~5
9 唐坂A遺跡	東吾妻町三島唐坂	○	○	○	○	集落		11
10 上坂遺跡	東吾妻町三島3233					散布地		12
11 万木沢B遺跡	東吾妻町三島3224	○	○	○	○	散布地		4
12 四ノ瀬遺跡	東吾妻町三島	○	○	○	○	集落		13
13 四ノ瀬古墳群	東吾妻町三島77他	○	○	○		集落・古墳		14
14 峰遺跡	東吾妻町三島4~388					散布地		1
15 平遺跡	東吾妻町大戸1361~1				○	散布地		1
16 下田遺跡	東吾妻町大戸150~1			○		散布地	平成14~17年試掘(吾妻町教育委員会)	—
17 上ノ原遺跡	東吾妻町本原175~1	○				散布地		1
18 上大ノ原遺跡	東吾妻町大戸3850	○				散布地		1
19 古谷遺跡	東吾妻町原原古谷	○				散布地		—
20 岩棚山幽の果	東吾妻町岩棚山	○				墓・その他	弥生時代の墓址(明治大学)	17
21 郷原遺跡	東吾妻町郷原592~1	○		○	○	散布地・他		15
22 厚田山遺跡	東吾妻町厚田山中村			○	○	水田・畠		16
23 岩棚山北側遺跡群	東吾妻町岩棚山	○				集落		1
24 般衆穴遺跡	東吾妻町原原般衆山	○				墓・その他		1
25 念仏原遺跡	東吾妻町原原念仏原1768	○	○			集落		18
26 道心ぶれ遺跡	東吾妻町原原1459	○				散布地		1
27 上須原遺跡	東吾妻町原原上須原3295~1			○		集落		19
28 苗導A前遺跡	東吾妻町原原1091~1	○			○	散布・墓・他		20
29 諏訪前遺跡	東吾妻町原原1018~1	○			○	集落・古墳・生產遺産		1
30 苗導A後遺跡	東吾妻町原原12~1				○	散布地		1
31 八幡原遺跡	東吾妻町原原八幡原2930~1他			○		散布地		1
32 中学校裏遺跡	東吾妻町原原807~1			○		散布地		1
33 東上野遺跡	東吾妻町原原上野2662~1他	○	○	○	○	散布地・集落		1
34 青木遺跡	東吾妻町原原青木461~1他	○	○	○		散布地		1
35 大字飯抜神社	東吾妻町原原811			○	○	散布地・他	蘇手刀伝世	22~23
36 領頭川遺跡	東吾妻町原原領頭川151~16			○		散布地		1
37 川戸A前遺跡	東吾妻町川戸1364~2他	○				その他の	廻穴	24
38 上ノ泊遺跡	東吾妻町川戸上ノ泊			○		散布地		1
39 深沢遺跡	東吾妻町川戸深沢	○		○		集落		1
40 玉科遺跡	東吾妻町川戸1602~1	○	○	○	○	散布・古墳	古墳総覧 原町42~51	1~8
41 水ノ遺跡	東吾妻町川戸水上	○		○		集落		1
42 下郷A遺跡	東吾妻町川戸下郷284	○		○		散布地		1
43 下郷A古墳群	東吾妻町川戸下郷4~16	○	○	○	○	古墳・孤立立柱建物・他	古墳総覧 原町42~69	8~25
44 鮎遺跡	東吾妻町原原鮎館4~1他	○				散布地		1
45 田中A・B遺跡	東吾妻町原原田中9302他	○				散布地		1
46 金井焼守跡	東吾妻町金井47~2	○				寺社	町指定史跡(昭和47年3月1日指定)	26
47 松木A遺跡	東吾妻町岩井松木1056他	○	○			散布地		1
48 白山神社遺跡	東吾妻町岩井松木26他	○	○			散布地	古墳総覧 太田村21	27
49 原A・B遺跡	東吾妻町岩井原908他	○	○			散布地		1
50 植栗舞台遺跡	東吾妻町植栗舞台763他			○	○	集落	平成9年調査(吾妻町教育委員会)	1
51 電ヶ渕遺跡	東吾妻町植栗4468~1			○		散布地		27
52 植栗原A遺跡	東吾妻町植栗原AEC3097他			○		散布地・集落・古墳		29~5
53 植栗A・根A・B遺跡	東吾妻町植栗山根288他	○	○			散布地		28~6
54 小原B遺跡	東吾妻町岩井小原B1056他			○		散布地・古墳	令和元年試掘・調査(群馬県教育委)	1
55 猪ノ鼻遺跡	東吾妻町植栗猪ノ鼻3424他			○		散布地		1
56 小原C・D遺跡	東吾妻町小原344他			○		散布地・古墳		29
57 新浜A居跡	東吾妻町泉沢新浜1636~1他			○		集落		1
58 小原A史遺跡	東吾妻町小原C2735他			○		散布地		1
59 小原A神遺跡	東吾妻町小原A7467他			○		集落・古墳		30
60 稲經遺跡	東吾妻町泉澤稲經1305他			○		散布地		27
61 丸鶴遺跡	東吾妻町新巻1011他			○		散布地		1
62 石種遺跡	東吾妻町新巻1933			○		散布地		1
63 新登辰附遺跡	東吾妻町新登辰附871~1他			○	○	散布地・集落		29
64 柳沢遺跡	東吾妻町新巻1310他			○		散布地		31
65 刑形公民館遺跡	東吾妻町新巻789~1他			○		散布地		1
66 オカガ場遺跡	東吾妻町新巻1376他			○	○	散布地・古墳	古墳総覧 東村4~5	1~8
67 道上A・B遺跡	東吾妻町道上314~1他			○		散布地		1

道跡名	所在地	縦文	発生	古墳	古代	種別	調査群・備考	文献
68 内出山～D道跡	東吾妻町奥田内山子533他	○	○	○	○	散布地・社寺		1
69 奥田道下遺跡	東吾妻町奥田154-6他	○	○	○	○	集落		32
70 宮代河跡	東吾妻町箱鳥宮代1086-1他					○散布地・集落		33
71 の場遺跡	東吾妻町箱鳥の場1229-1他	○				散布地		1
72 石の坂遺跡	中之条町上沢渡石の坂	○				散布地	道跡台帳3064	7
73 久森遺跡	中之条町上沢渡久森2385	○				集落・墓その他		34
74 伊賀野道跡	中之条町下沢渡1323-1	○				集落		35
75 豊原遺跡	中之条町五反田133-1	○				○散布地・他	平成17年立会調査(中之条町教育委員会)	—
76 成田道跡	中之条町新田成田町2344			○		集落	道跡台帳3062	7
77 清水石往界跡	中之条町清水2289-3			○		集落	道跡台帳3065	1・7
78 成田原千賀遺跡	中之条町折田千賀2859	○	○			散布地	道跡台帳3066	7
79 法溝古道跡	中之条町法溝57268			○		散布地	道跡台帳3076	1・7
80 法溝寺子手道跡	中之条町中之条寺子手原2074-1			○		散布地・集落	道跡台帳3079	7
81 長岡道跡	中之条町中之条原1879-1	○	○	○	○	集落		36・37
82 伊勢町天神道跡	中之条町伊勢町天神748	○	○	○	○	散布地・集落	平成2~5年調査(中之条町教育委員会)	—
83 伊勢町川端道跡	中之条町伊勢町3	○	○	○	○	集落	昭和63年・平成3~6年調査(中之条町教育委員会)	—
84 (伊勢町)上原道跡	中之条町伊勢町642			○		集落		38
85 天代河跡	中之条町天代1351-6			○		生産遺跡		39
86 長久保道跡	中之条町横尾長久保3117			○		集落	道跡台帳3071	1・7
87 奥山道跡	中之条町横尾千代原2467-1	○				散布地	道跡台帳3070	1・7
88 桃源洞跡	中之条町桃源洞1638-1			○		集落		40・41
89 七日市道跡	中之条町桃源洞1404-3			○		○集落・その他の		40・41
90 中沢道跡	中之条町横尾764			○		○集落・その他の		40・41
91 名久井中学校遺跡	中之条町横尾竹井			○		集落	道跡台帳3072	7
92 齐田道跡	中之条町平947			○		集落		42
93 下ノ遺跡	中之条町平2043	○		○		○集落・古墳・生産遺跡		43
94 下尻高遺跡	中之条町平727			○		集落		42
95 寄原高遺跡	中之条町大塙原7312			○		散布地	道跡台帳3067	7
96 西浦道跡	中之条町青山42-8			○		集落	平成22年試掘(郡馬県教育委員会)	—
97 山田町本道跡	中之条町山城塔本68-1他			○		○散布地・集落		44
98 北山川道跡	浜田山村上北塙山154-1他			○		散布地		46
99 鹿糸下道跡	浜田山村上東原557他			○		散布地		45
100 西原上道跡	浜田山村上西原661-1他			○		○散布地・集落		1
101 西原上遺跡	浜田山村上西原804他			○		○散布地・集落・その他の	平成16年3月4日古鉄出土	—
102 東原上道跡	浜田山村上東原989-1他			○		散布地		45
103 石臼下道跡	浜田山村上石臼1149-1他			○		散布地		45
104 石臼上道跡	浜田山村上石臼102他			○		散布地		45
105 別当道跡	浜田山村上谷11559-1他			○		散布地		45
106 谷ノ口1丁道跡	浜田山村上谷ノ口11650-1他			○		散布地		45
107 谷ノ口1丁手道跡	浜田山村上谷ノ口11624-1他			○		散布地		45
108 上中尾北道跡	浜田山村上中尾1960他			○		散布地		45
109 中尾道跡	浜田山村上中尾2280他			○		散布地		45
110 下中尾北道跡	浜田山村上中尾2220-1他	○	○			○散布地		45
111 Fの原道跡	浜田山村上中尾2365-1他			○		散布地		45
112 下中尾南道跡	浜田山村上下中尾2502他			○		散布地		45
113 横平道跡	浜田山村上横平2669-1他			○		散布地		45
114 横平道跡	浜田山村上横平2575他	○	○			○散布地・集落	平成22年試掘(浜田市住友委員会)	—
115 大ノ遺跡	浜田市小野子大ノ原990他			○		散布地		45
116 田野道跡	浜田市小野子田野2369-1他			○		散布地		45
117 三田野道跡	浜田市小野子三田野2531-7他			○		散布地		45
118 衛東高道跡	浜田市小野子落室2426他			○		散布地・集落		45
119 長福寺引野入道跡	浜田市小野子長福寺2395-6他			○		散布地		45
120 北ノ口2丁道跡	浜田市小野子北ノ口21238-1他			○		散布地		45
121 平沢道跡	浜田市小野子平沢1346他			○		散布地・集落		45
122 大ノ谷ノ道跡	浜田市小野子大ノ谷1368他	○	○			○散布地		45
123 日照院道跡	浜田市小野子日照院1601-1他			○		散布地		45
124 釜久久道跡	浜田市小野子釜久久1207-1他			○		散布地		45
125 油谷ノ道跡	浜田市小野子油谷ノ道跡			○		○散布地		45
126 又五郎道跡	浜田市小野子又五郎953他			○		散布地		45
127 篠代久保道跡	浜田市小野子秋久保816-38他			○		○散布地・集落	平成4・5年調査(小野子町教育委員会)	46
128 篠山道跡	浜田市小野子篠山16-11他			○		散布地		45
129 八木沢水道跡	浜田市小野子八木沢水254他	○	○			○散布地・集落		47
130 後久保道跡	浜田市小野子後久保458他			○		散布地		1
131 槍谷ノ道跡	浜田市小野子槍谷636他			○		○散布地・集落		45
132 小下野子手上道跡	浜田市小野子手上600-1他			○		○散布地・集落	平成21年試掘(浜田市教育委員会)	—
133 田島道跡	浜田市小野子田島430-2他			○		散布地		45
134 川島久保内・馬場道跡	浜田市川島久保内663他			○		○散布地・社寺		48
135 猪込道跡	浜田市猪込高2051-1他			○		散布地	昭和56年調査(浜田市教育委員会)	—

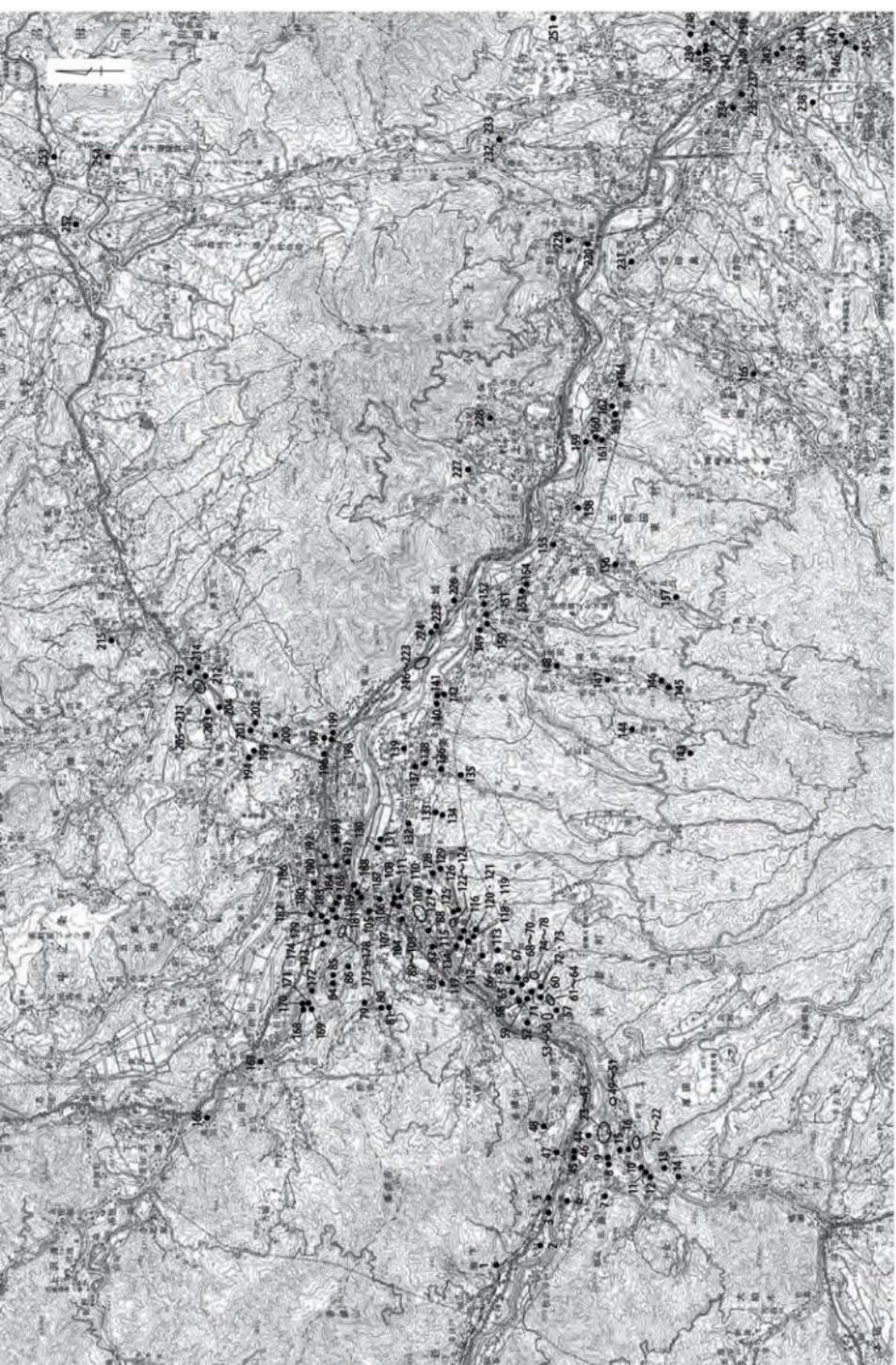
路線名	所在地	羅文	発生	古墳	古代	種別	調査履・備考	文献
136 富貴原遺跡	渋川市島長久保1358地				○	生産遺跡		1
137 南大塚遺跡	渋川市島南大塚1234地	○	○			墓その他	昭和51年調査(渋川市教育委員会)	
138 二本松遺跡	渋川市金井登沢2396地	○			○	散布地・生産遺跡		1
139 西原遺跡	渋川市金井西原2332地	○				散布地		1
140 軽浜川出雲遺跡	渋川市金井出雲2788	○				散布地		1
141 沢山高校遺跡	渋川市金井折原3830	○				散布地		1
142 金砂中学校敷地内遺跡	渋川市金井折原3830	○				散布地		1
143 片貝山遺跡	渋川市金井上ノ平2512	○			○	墓その他		1
144 金井東裏遺跡	渋川市金井堀日69地	○	○	○	○	散布地・集落	平成24~29年調査(理文事業団)	49・50
145 金井中新田遺跡	渋川市片貝下新田1681地	○	○	○	○	散布地・集落・墓その他	平成26~29年調査(理文事業団)	51・52
146 金井前原遺跡	渋川市金井前原1421地				○	集落	昭和63年調査(子持村教育委員会)	53
147 丸子山遺跡	渋川市北牧町1663-1地	○	○	○	○	散布地・集落・古墳	平成4~15年調査(子持村教育委員会)	54
148 相ノ山遺跡	渋川市北牧相ノ山1-1地				○	散布地		55
149 K0099 遺跡名なし	渋川市横越小坂219地	○				散布地		1
150 K0042 遺跡名なし	渋川市横越千手甲-1112地	○				散布地		1
151 K0054 遺跡名なし	渋川市横越無印5060地	○			○	散布地		1
152 K0055 遺跡名なし	渋川市北牧京9043地	○				散布地		1
153 K0057 遺跡名なし	渋川市北牧2254地	○				散布地		1
154 K0060 遺跡名なし	渋川市北牧堀ケ46-1地				○	散布地		1
155 与豊平塚遺跡	高山村中16859-223	○				散布地・その他	平成5年調査(理文事業団)	56

文献

- マッピングぐんま
- 「年報35」 2016 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「年報36」 2017 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「年報37」 2018 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「年報38」 2019 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「年報39」 2020 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「群馬県歴史行動研究会編」 1972 群馬県教育委員会
- 「上毛かるぽね」 1938 群馬県
- 「前畠城跡」 1995 吾妻町教育委員会
- 「唐足ノ遺跡」 2021 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「羽庭城ノ遺跡」 2017 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「羽鳥城」 1971 羽鳥村立歴史編纂委員会
- 「羽ノ瀬城」 2020 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「四ツ谷古墳群」 2020 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「郷原遺跡」 1985 吾妻町教育委員会
- 「厚田川下遺跡」 2018 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「岩瀬城北指揮跡群跡」 1994 吾妻町教育委員会
- 「岩瀬城」 1994 吾妻町教育委員会
- 「佐須遺跡」 1994 佐須町教育委員会
- 「善導寺前遺跡」 1996 吾妻町教育委員会
- 「濱前遺跡」 2004 吾妻町教育委員会
- 「鍾子ノ遺跡」 1996 嶺山町
- 「鍾子ノ小学校」 2018 同成社
- 「川口橋遺跡」 2011 東吾妻町教育委員会
- 「下鷹ノ瀬遺跡」 2014 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「金井寺遺跡」 1979 吾妻町教育委員会
- 「あがつま大村村誌」 1965 東村立歴史編纂委員会
- 「町内遺跡名」 2000 吾妻町教育委員会
- 「町内遺跡名 I」 2003 吾妻町教育委員会
- 「町内遺跡 II」 2004 吾妻町教育委員会
- 「櫛穴遺跡」 1984 乗村教育委員会
- 「奥田下遺跡」 2004 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「古戸川下遺跡」 2010 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「下川瀬西遺跡・久森遺跡・界隈列石遺跡・上反下遺跡」 1985 中之条町教育委員会
- 「下川瀬西遺跡」 1999 中之条町教育委員会
- 「日向山遺跡」 1994 中之条町教育委員会
- 「長岡 I 遺跡」 1994 中之条町教育委員会
- 「長岡 II 遺跡」 1994 中之条町教育委員会
- 「伊勢野川下遺跡群上野遺跡」 1999 中之条町教育委員会
- 「天代瓦窯跡」 1982 中之条町教育委員会
- 「櫛尾地区遺跡群 I」 1995 中之条町教育委員会
- 「櫛尾地区遺跡群 II」 1995 中之条町教育委員会
- 「櫛尾地区遺跡群 III」 1995 中之条町教育委員会
- 「平道跡」 1988 賀茂町教育委員会
- 「平道跡」 下山遺跡、賀茂町教育委員会
- 「平道跡」 下山遺跡発掘調査報告書 1988 中之条町教育委員会
- 「市城跡木遺跡」 2013 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「渋川市小野上地区埋蔵文化財分布地図内遺跡詳細分布調査報告書」 2011 渋川市教育委員会
- 「藤田久保遺跡」 1994 藤田久保遺跡調査会・小野上村教育委員会
- 「八木山遺跡」 1997 小野上村教育委員会
- 「川島八木内・馬場遺跡」 1987 川島八木内教育委員会
- 「金井垂露遺跡」 2018 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「金井垂露遺跡 稲丈・舟生時代編」 2019 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「金井下新田遺跡 稲丈・舟生時代編」 2021 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「金井下新田遺跡 古賀時代編」 2021 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「小内遺跡 II」 1986 渋川市教育委員会
- 「丸子山遺跡」 2005 子持村教育委員会
- 「北牧相ノ山遺跡」 2000 子持村教育委員会
- 「中山与豊平塚遺跡」 1994 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

0 1:75,000

第14図 百瀬川中・下流域占拠分布図



第3表 吾妻川中・下流域古墳一覧表

総番号	市町村名	字名	墓地	墳形	規模m	内部主体	規模m	埴輪・副葬品	備考
1 机古墳	東吾妻町	岩下机	1675-1	不明	46.6				羽鳥村7 未調査
2 朝隈古墳	東吾妻町	岩下朝隈		不明					羽鳥村7 未調査
3 朝隈古墳	東吾妻町	久賀行沢		不明					羽鳥村6 未調査
4 和輪：坂上7号墳	東吾妻町	人ノ首ノ原	2392	前方後円	129×30.2				所在不明
5 無名古墳	東吾妻町	久賀中失食	早413	不明					羽鳥村5
6 旗艇1号墳	東吾妻町	三島旗艇		円	18	横穴			平成27年調査(理文事業団)
7 無名古墳	東吾妻町	三島万木沢		不明					羽鳥村12 未調査
8 無名古墳	東吾妻町	三島牛原	805	円		横穴			羽鳥村32
9 無名古墳	東吾妻町	三島牛原	806	円		横穴	4.6+	刀子・鏡・金環	羽鳥村33
10 生駒遺跡1号墳	東吾妻町	三生牛原	620-1	帆立貝	16	横穴		円筒・相象・直刀・金環・玉類	
11 生駒遺跡1号墳	東吾妻町	三生牛原	620	円					羽鳥村42
12 無名古墳	東吾妻町	三生牛原	580-1	不明					羽鳥村43 未調査
13 無名古墳	東吾妻町	厚山云取	115	不明					羽鳥村45 未調査
14 無名古墳	東吾妻町	厚山只知	甲121-4	不明					羽鳥村44
15 無名古墳	東吾妻町	三島四原	384	不明		横穴			羽鳥村34
16 無名古墳	東吾妻町	三島四原	373	不明					羽鳥村35
17 無名古墳	東吾妻町	三生牛原	435	不明					羽鳥村36 未調査
18 無名古墳	東吾妻町	三生牛原	485	不明		横穴			羽鳥村37
19 無名古墳	東吾妻町	三生牛原	488-2	円					羽鳥村38 未調査
20 無名古墳	東吾妻町	三島四原	541	円					羽鳥村39 未調査
21 無名古墳	東吾妻町	三島四原	530	不明					羽鳥村40 未調査
22 無名古墳	東吾妻町	三島四原	509	不明					羽鳥村41 未調査
23 19796系地古墳跡	東吾妻町	三島四原	86	不明					
24 19795系地古墳跡	東吾妻町	三島四原	85	不明					
25 19797号墳	東吾妻町	三島四原	85	円	8	横穴			町史跡
26 19791号墳	東吾妻町	三島四原	77	円	10.4	横穴			町史跡 羽鳥29
27 19792号墳	東吾妻町	三島四原	87	円	10.6	横穴			町史跡 羽鳥16
28 19793号墳	東吾妻町	三島四原	116-1	円	15	横穴			町史跡 羽鳥13
29 無名古墳	東吾妻町	三島四原	116-1	不明					羽鳥村14 未調査
30 無名古墳	東吾妻町	三島四原	88-1	不明					羽鳥村15 未調査
31 無名古墳	東吾妻町	三島四原	87	不明					羽鳥村17 未調査
32 無名古墳	東吾妻町	三島四原	89-1・89-2	不明					羽鳥村20 未調査
33 無名古墳	東吾妻町	三島四原	115	不明					羽鳥村21 未調査
34 無名古墳	東吾妻町	三島四原	114	不明					羽鳥村22 未調査
35 無名古墳	東吾妻町	三島四原		不明					羽鳥村23 未調査
36 無名古墳	東吾妻町	三島四原	112	不明					羽鳥村24 未調査
37 無名古墳	東吾妻町	三島四原	71-1	不明		横穴			羽鳥村26
38 無名古墳	東吾妻町	三島四原	53-1	不明					羽鳥村27
39 無名古墳	東吾妻町	三島四原	53-2・甲56-2	不明					羽鳥村28 未調査
40 無名古墳	東吾妻町	三島四原	乙56-2	不明					羽鳥村30 未調査
41 無名古墳	東吾妻町	三島四原	59	不明					羽鳥村30 未調査
42 無名古墳	東吾妻町	三島四原	68	不明					羽鳥村31 未調査
43 和輪：羽鳥村18号墳	東吾妻町	三島四原	76	円	15.3				羽鳥村25 未調査
44 ジラウゴ古墳	東吾妻町	三島四原	141	円					羽鳥村25 未調査
45 1号4号墳	東吾妻町	失森本村		円	17	横穴			羽鳥4
46 おタク古墳	東吾妻町	失森本村		不明					羽鳥村3
47 のお塚古墳	東吾妻町	失森本村		不明					羽鳥村2 未調査
48 無名古墳	東吾妻町	失森本村		不明					羽鳥村46 未調査
49 新井1号墳	東吾妻町	御附新井	646他	円	13.5	不明			
50 新井2号墳	東吾妻町	御附新井	646他	方	17	横穴			
51 新井3号墳	東吾妻町	御附新井	646他	円	7.6	不明			
52 和輪：新井31号墳	東吾妻町	川口平出	1228	円	18				
53 和輪：新井32号墳	東吾妻町	川口積原	1342	円	14.4				
54 和輪：新井33号墳	東吾妻町	川口積原	1342	円	15				
55 和輪：新井34号墳	東吾妻町	川口積原	1338-1	円	9				
56 和輪：新井35号墳	東吾妻町	川口積原	1339-1	円	7.2				
57 和輪：新井77号墳	東吾妻町	御附新井	1355	円					
58 和輪：新井29号墳	東吾妻町	大学川口		円	11.1				
59 和輪：新井30号墳	東吾妻町	川口宮前	1402	円					
60 和輪：新井41号墳	東吾妻町	川口川瀬	1631						
61 和輪：新井36号墳	東吾妻町	川口宮前	1389	円	12				
62 和輪：新井37号墳	東吾妻町	川口宮前	1398	円	12.6				
63 和輪：新井38号墳	東吾妻町	川口宮前	1388						
64 和輪：新井39号墳	東吾妻町	川口宮前	1399	円	9				
65 和輪：新井40号墳	東吾妻町	川口宮平	1008-2	円	9.9				

第3章 歷史的環境

地點番号	町村名	面積	形状	幅員m	内部主体	規模m	植輪・耕作品	備考
64番號：御町53号地	東呂瀬町 川上ノ谷田	1526	円	108				
65番號：御町52号地	東呂瀬町 川口瀬田	951甲ノ2	円					
66番號：御町49号地	東呂瀬町 川口ノ玉科	1714 + 1721						
67番號：御町50号地	東呂瀬町 川口ノ瀬邊	1576		25.8				
68番號：御町51号地	東呂瀬町 川口ノ瀬邊	1576		9.9				
69番號：御町50号地	東呂瀬町 川口ノ瀬邊	9516		16.2				
70番號：御町49号地	東呂瀬町 川口ノ瀬邊	3606-2		円	横穴			御町43
71番號：御町42号地	東呂瀬町 川口ノ瀬邊	3606ノ1		9				
72番號：御町42号地	東呂瀬町 川口ノ瀬邊	1707		円	横穴			御町44
73番號：御町45号地	東呂瀬町 川口玉科	1745		円	14.7			
74番號：御町46号地	東呂瀬町 川口玉科	1750		円	9.9			
75番號：御町47号地	東呂瀬町 川口玉科	1767		円				
76番號：御町48号地	東呂瀬町 川口玉科	1701						
77番號：御町55号地	東呂瀬町 原町下田原郷	3888		円	4.5			
78番號：御町56号地	東呂瀬町 原町留山	3652ノ半		円	14.4			
79番號：御町57号地	東呂瀬町 原町下ノ野	3676		円	24			
80番號：原町前瀬田1号	東呂瀬町 原町前瀬田		円	19.2	櫛穴		伊豆・土御器	6C前
81番號：御町59号地	東呂瀬町 川口南谷土	800乙		円				
82番號：御町25号地	東呂瀬町 原町寺久保	3646		円	10.8			
83番號：御町26号地	東呂瀬町 原町禪下	3631ノ乙		円				
84番號：御町24号地	東呂瀬町 原町八幡原	2931		円				
85番號：御町1号地	東呂瀬町 原町下ノ町	536		円	4.5			
86番號：原町御町明ノ2ノ町	東呂瀬町 原町下ノ町	446		不明	横穴			
87番號：御町3号地	東呂瀬町 原町下ノ町	448ノ2		円	5.7			御町2
88番號：御町4号地	東呂瀬町 原町下ノ町	471		円	12			
89番號：御町5号地	東呂瀬町 原町下ノ町	466		円	6			
90番號：御町6号地	東呂瀬町 原町下ノ町	467		円	6.9			
91番號：御町7号地	東呂瀬町 原町下ノ町	467		円	8.1			
92番號：御町8号地	東呂瀬町 原町下ノ町	370		円	10.8			
93番號：御町9号地	東呂瀬町 原町下ノ町	369		円	18			
94番號：御町10号地	東呂瀬町 原町下ノ町	460		円	10.8			
95番號：御町11号地	東呂瀬町 原町南町	335		円				
96番號：御町12号地	東呂瀬町 原町下ノ町	460		円	9.4			
97番號：御町13号地	東呂瀬町 原町下ノ町	460		円				
98番號：御町14号地	東呂瀬町 原町下ノ町	370		円				
99番號：御町15号地	東呂瀬町 原町山町	363		円				
100番號：御町16号地	東呂瀬町 原町山町	337 + 335		円				
101番號：御町19号地	東呂瀬町 下野町	267		円	14.4			
102番號：御町20号地	東呂瀬町 原町下布谷田	392		円	7.5			
103番號：御町80号地	東呂瀬町 原町山田	98		円				
104番號：御町23号地	東呂瀬町 原町禪	56		円	4.5			
105番號：御町21号地	東呂瀬町 原町尾布谷田	294		円	10.8			
106番號：御町22号地	東呂瀬町 原町尾布谷田	209		円	24			
107番號：御町18号地	東呂瀬町 下野町澤尻	260ノ1						
108番號：御町79号地	東呂瀬町 原町澤尻	265		円				
109番號：沢古崎	東呂瀬町 原町泽尻	260-2		不明	横穴			御町17
110番號：御町61号地	東呂瀬町 川口田中	441		円				
111番號：御町60号地	東呂瀬町 川口田中	441521		円				
112番號：御町67号地	東呂瀬町 川口下瀬並木	238						
113番號：御町68号地	東呂瀬町 川口下瀬並木	384						
114番號：御町69号地	東呂瀬町 川口下瀬並木	221						
115番號：御町66号地	東呂瀬町 川口下瀬	263						
116番號：御町64号地	東呂瀬町 川口下瀬	209		円				
117番號：御町65号地	東呂瀬町 川口下瀬	乙215		円				
118番號：御町62号地	東呂瀬町 川口下瀬	264		円	27.5			
119番號：御町63号地	東呂瀬町 川口下瀬	205		円	14.7			
120番號：下瀬古崎田1号	東呂瀬町 川口下瀬	94-1		椭円	11×7	横穴		御町1
121番號：御町70号地	東呂瀬町 川口多田	167ノ乙		円	27			
122番號：御町72号地	東呂瀬町 川口多田	312		円	15			
123番號：御町73号地	東呂瀬町 金井小頭	95		円	19.5			
124番號：御町78号地	東呂瀬町 川口七澤	35ノ2		円				
125番號：御町74号地	東呂瀬町 金井小頭	329		円				
126番號：金井古跡原山75号地	東呂瀬町 金井小頭	481		不明	横穴			御町75
127番號：御町76号地	東呂瀬町 金井水道	99571						
128番號：御町75號地	東呂瀬町 岩井田中	298		不明				大田村15
129番號：大田村21号地	東呂瀬町 岩井松木	1026						
130番號：大田村20号地	東呂瀬町 岩井原山	1236		円	8.1			
131番號：大田村19号地	東呂瀬町 岩井長坂	9829		円	13.5			
132番號：大田村18号地	大字大井字日野	1933ノ1		円	9			

第3節 歴史的環境の概要

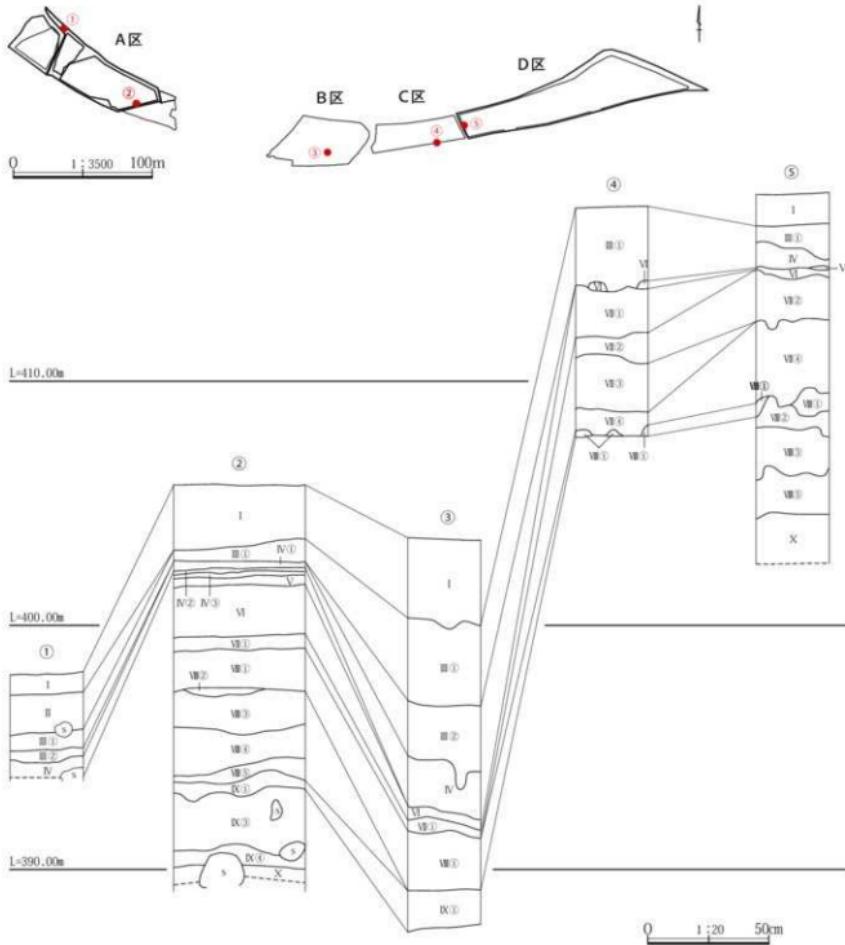
地番	地名	系地	墳形	幅幅m	内部主体	幅幅m	始輪・副葬品	備考
135	東呂久村35号墳	東呂久町	小室墓鳥塚	2521.71	円	9		
136	御殿：東呂久36号墳	東呂久町	小室墓鳥塚	2545	円			
137	御殿古墳群山長母古墳	東呂久町	植木塚・横穴	917.2	不明	横穴		田村村22
138	御輪古墳	東呂久町	岩井原ノ原	2162	円	30	横穴	大山田22
139	御殿：東呂久24号墳	東呂久町	植木塚ノ上	甲1255	円	18		
140	御殿：東呂久34号墳	東呂久町	小室古河	9475	円	5.4		
141	御：3号墳	東呂久町	小室古河・新興		円	16	横穴	5.5 轡・刀子・鉢・土師・羽 坐器 太山田25 7C中
142	御殿：東呂久26号墳	東呂久町	小室古河	344				
143	御殿：東呂久33号墳	東呂久町	植木塚・洋	2295	円	3.3		
144	御殿：東呂久30号墳	東呂久町	須原山里	甲764	円	7.2		
145	御殿：東呂久31号墳	東呂久町	須原山丹	493	円			
146	御殿：東呂久32号墳	東呂久町	須原井	862	円	4.8		
147	御殿：東呂久29号墳	東呂久町	須原井	836	円	3.6		
148	御殿：東呂久28号墳	東呂久町	須原タガ澤	49				
149	御殿：東呂久27号墳	東呂久町	小室大神	989	円	10.8		
150	御村の壇丘	東呂久町	新春郷付	869	不明	0		東村1 未調査
151	御殿：東呂久2号墳	東呂久町	新春郷附	775	円	9		
152	御殿：東呂久3号墳	東呂久町	新春郷附	772.1	円	6		
153	御殿：東呂久4号墳	東呂久町	新春古原	597	円	3		
154	御殿：東呂久5号墳	東呂久町	新春古原	594	円	5.1		
155	御之内塚古墳	東呂久町	典山脚下	189	円	6×7		東村6
156	御殿：東呂久7号墳	東呂久町	五町山高橋	680				
157	御殿：東呂久8号墳	東呂久町	五町山平五郎	1010				
158	御殿：東呂久9号墳	東呂久町	五町山十二ノ前	807.2				
159	御殿：東呂久12号墳	東呂久町	箱舟下十二ノ下	1746	円	9.1		
160	御殿：東呂久10号墳	東呂久町	五町山十一ノ下	甲1745	円	24.9		
161	御殿：東呂久11号墳	東呂久町	箱舟下二ノ下	甲1745	円	5.1		
162	御輪摩古墳	東呂久町	箱島跡の保	1551	不明	横穴		東村14
163	石輪摩古墳	東呂久町	箱島跡の久保	1555.3	不明	横穴		東村13
164	御殿：東呂久15号墳	東呂久町	箱舟澤	1024	円	3.9		
165	御殿：東呂久16号墳	東呂久町	圓山御押	1677.1	円	9.9		
166	御殿：津山7号墳	津山町	山田山削	甲7226				
167	御殿：津山6号墳	津山町	山田山削	2290.71				
168	御殿：津山7号墳	津山町	山田山削負丸	乙116	円	9		
169	御殿：津山7号墳	津山町	山田山町	134	円	9.6		町史跡
170	御殿：津山7号墳	津山町	山田山削負丸	114	円	7.5		
171	御殿：津山7号墳	津山町	山田山削負丸	乙118	円	12×15		
172	御殿：津山7号墳	津山町	折山山	930	円	7.5×9		
173	御殿：中之条町3号墳	中之条町	中之条字小川	217	円	7.8		
174	御殿：中之条町35号墳	中之条町	中之条字小川	204	円	10.5		
175	御殿：中之条町25号墳	中之条町	中之条字小川	362	円			町史跡
176	御殿：中之条町26号墳	中之条町	中之条長田原	366	円			町史跡
177	御殿：中之条町27号墳	中之条町	中之条長田原	369	円			町史跡
178	御殿：中之条町28号墳	中之条町	中之条長田原	371	円			
179	御殿：中之条町29号墳	中之条町	中之条字小川	169	円	5.4		
180	御殿：中之条町32号墳	中之条町	中之条字小川	56.71	円			
181	御殿：中之条町30号墳	中之条町	中之条字小川	182	円	6.3		
182	御殿：中之条町20号墳	中之条町	中之条長田原	190	円	6		
183	御殿：中之条町21号墳	中之条町	中之条長田原	72	円	3.9		
184	御殿：中之条町22号墳	中之条町	中之条長田原	25	円	4.2		
185	御殿：中之条町30号墳	中之条町	中之条長田原	77	円			
186	御殿：中之条町31号墳	中之条町	中之条子熊	764	円			
187	御殿：中之条町19号墳	中之条町	中之条石の堀	384.2	円	9.6		
188	御殿：中之条町18号墳	中之条町	中之条石の堀	293.1	円			
189	石塔古墳	中之条町	中之条石の堀	400.1	円	18	横穴	町史跡
190	御殿：中之条町29号墳	中之条町	中之条長田原	1828	円			
191	御殿：中之条町24号墳	中之条町	中之条長田原	1384.71	円	9		
192	御殿：中之条町30号墳	中之条町	中之条長田原	1805	円			
193	御殿：中之条町23号墳	中之条町	中之条長田原	1862	円	6.9		
194	御殿：名久山村18号墳	中之条町	横穴	2041	円	9		
195	御殿：名久山村17号墳	中之条町	横穴	2022	円	9		
196	御殿：中之条町15号墳	中之条町	伊勢野1引附	329	円			町史跡
197	御殿：中之条町16号墳	中之条町	伊勢野1引附	447	円			
198	御殿：中之条町13号墳	中之条町	伊勢野1引附	434	円	4.8		
199	御殿：中之条町14号墳	中之条町	伊勢野1引附	434	円	9		
200	御殿：名久山村16号墳	中之条町	横尾	1305	円	11.7		
201	名久山村1号墳	中之条町	平	2047	円		横穴	名久山村14
202	御殿：名久山村15号墳	中之条町	横尾	1333	円	9		
203	御殿：名久山村13号墳	中之条町	横尾	366	円	9.9		

第3章 歷史的環境

地名番号地	町村名	字名	系地	墳形	周囲m	内部土体	幅幅m	埴輪・副葬品	備考
204	大塚古墳	中之条町	平	1057-1	円	15.3	横穴		名久田村1・町史跡
205	古墳：名久田村4号墳	中之条町	平	2026	円	12.6			
206	古墳：名久田村5号墳	中之条町	平	2039	円	15			
207	古墳：名久田村6号墳	中之条町	平	2038	円				
208	古墳：名久田村7号墳	中之条町	平	2037	円	13.6			
209	古墳：名久田村8号墳	中之条町	平	2047	前方後円	15.3			
210	古墳：名久田村9号墳	中之条町	平	2058	円	9.9			
211	古墳：名久田村10号墳	中之条町	大塚	甲582					
212	古墳：名久田村3号墳	中之条町	平	2279	円	15			
213	古墳：名久田村4号墳	中之条町	平	2270	円	6.3			
214	古墳：名久田村11号墳	中之条町	平	2134					
215	古墳：名久田村2号墳	中之条町	平	782					
216	古墳：中之条町1号墳	中之条町	市城敷石	38.1	円				
217	古墳：中之条町5号墳	中之条町	市城敷石	18.1	円	7.8			
218	古墳：中之条町6号墳	中之条町	市城敷石	13	円	7.2			
219	古墳：中之条町7号墳	中之条町	市城敷石	20	円	9.7			
220	古墳：中之条町8号墳	中之条町	市城敷石	9	円	4.5			
221	古墳：中之条町9号墳	中之条町	市城敷石	9	円	6.9			
222	古墳：中之条町10号墳	中之条町	市城敷石	2.1	円	2.3			
223	古墳：中之条町11号墳	中之条町	市城敷石	2.2	円				
224	古墳：中之条町3号墳	中之条町	市城敷石	259	円				
225	古墳：中之条町2号墳	中之条町	市城敷石	353	円				
226	古墳：中之条町1号墳	中之条町	市城敷石	1197	円	7.3			
227	古墳：小野上村1号墳	氷川市	村上谷之口	1561	円	9			
228	古墳：小野上村2号墳	氷川市	小野上・程久保	3430	円	1.8			
229	古墳：小野上村3号墳	氷川市	小野上・北ノ谷	2144・2145	円	21.6			
230	古墳：小野上村4号墳	氷川市	小野上・小尾山	2029		9			
231	祖母塚古墳	氷川市	祖母塚窩ノ久保	499					氷鳥村1・未調査
232	古墳：小野上村5号墳	氷川市	小野上・八木本・清水	甲758	円	24			
233	古墳：小野上村6号墳	氷川市	小野上・八木本・清水	甲758	円	18			
234	古墳：金鳥村2号墳	氷川市	川島東・神原	1684	円				
235	古墳：金鳥村3号墳	氷川市	川島東・神原	1759	円	2.1			
236	古墳：金鳥村4号墳	氷川市	川島東・神原	1759	円	1.8			
237	古墳：長尾村3号墳	氷川市	北牧瀬治谷	1220	円	7.5			
238	金井古墳	氷川市	金井1・ノ平	2501	円		横穴		山史跡
239	大入塚古墳	氷川市	北牧瀬治谷	1329・1340・1345					長尾村1・未調査
240	古墳：長尾村2号墳	氷川市	北牧瀬治谷	1226					
241	古墳：金鳥村5号墳	氷川市	川島東・神原	1759	円	2.7			
242	金井丸山古墳	氷川市	金井丸裏	1906-1			横穴		網印・馬具
243	金井南頭1号墳	氷川市	金井南頭	69	円	17.4	横穴		大刀・劍・鏡・鏡石
244	金井東頭2号墳	氷川市	金井東頭	69	円	9.8	横穴		矛・鏡・刀子・鏡石
245	金井前頭1号墳	氷川市	金井前原	1512-2					
246	金井前頭2号墳	氷川市	金井前原	1529					未調査
247	金井鳥居1号墳	氷川市	金井鳥居	1574-1・2・3					金鳥村7・未調査
248	中ノ峯古墳	氷川市	北櫛中ノ峯	2396	円	12	横穴	5	大刀・刀子・鏡・玉類・盾形器他 盾形器他 所在不明
249	丸子山古墳	氷川市	牧牧野	1663-198	円	6.4	横穴		大刀・鏡・青玉
250	丸子山古墳1号方彌溝墓	氷川市	北牧瀬	1663-198	方	8	特穴	2.2	土師器・青玉
251	竹串塚古墳	氷川市	中郷人野	2694-12・52					未調査
252	古墳：高山村11号墳	高山村	中山丘陵	2397					
253	古墳：高山村10号墳	高山村	中山山深	16932	円	3.6			
254	古墳：高山村9号墳	高山村	中山上ノ原	16160	円	2.4			

第4章 基本土層

遺跡の調査は4年間に渡り行われたので、年度ごとに基本土層の確認を行いながら調査を行った。基本土層は各区での代表のA 1区が①、A 3区が②、B区が③、C区が④、D区が⑤となる。A 3区2の基本土層が中核となり、それぞれの層の対応関係を考慮して示したもののが、①～⑤の図となる。A区は西が低く、東に向かうにつれて高くなる。なお、A区とB区の間は湧水が湧く低湿地で遺構がなく、調査区から外した。



第15図 基本土層図・基本土層設定位置図

A 3 区の地層②セクションを基本土層説明のための層とする。この地点はやや高めであるが、天明泥流堆積物を除いた As-Kk、As-B などが明瞭に観察できる地層であるからである。

上述した基本的な土層断面図である A 3 区の②図で、土層を説明する。I 層の耕作土層の下は、A 1・2 区では、天明泥流堆積物がこの間に確認でき II 層(A 1 区 1 図)とする。この天明泥流堆積物の上下で遺構が確認されている。いずれも近世の遺構である。III 層は As-Kk 層が多く含まれる層である。中近世の遺構が確認される。

IV 層が As-Kk に対応し、As-Kk が厚く明瞭に確認できる A 3 区では、As-Kk 軽石層(IV ①層)、As-Kk 火山灰層(IV ②層)、As-Kk 軽石層(IV ③層)と堆積している。As-Kk は、C 区以外は一次堆積層として確認できる。As-Kk の上下から遺構が確認されている。Kk 上は中近世、Kk 下は中世の遺構である。

V 層(黒色土層)を間に挟み、As-B が VI 層となる。この As-B 層はすべての地区で一次堆積土層として確認できる。As-B 層の下より古代後半の扇が A 3 区より検出された。

VII 層は、黒褐色土層で、縄文時代から古墳時代の遺構が確認される層である。

VII ①～VII ②層には、Hr-FA や As-C などが含まれており、古墳時代や弥生時代の遺構がこの層から確認されている。VII ③ 及び VII ④ 層からは、縄文時代の前期及び後期の遺構が確認される。また、VII ⑤ 層には As-Sj が極少量含まれている。

VII 層は、にぶい黄褐色土層の二次堆積ローム土で、VII ① 層から VII ④ 層まである。VII ③ ④ 層には As-YpkK 少量含まれている。

VIII 層は、暗褐色土～黒褐色土層で VIII ①～③ 層があり、①・② 層には、As-Sr が含まれている可能性がある。

X 層は、砂質味強い、礫を含む層で、この地がかつての河岸段丘でその礫層が下にある可能性を示すものである。

以下、基本土層の説明を行う。

- | | |
|---------------------|---|
| I 層 | 暗褐色土層(10YR3/3) 表土(耕作土) 近現代の擾乱、耕作跡跡合む。A 1・2 区では、この上層下に天明泥流層が含まれる。 |
| II 层 | 暗褐色土層(10YR3/3) 細まりややあり。天明泥流堆積物(破碎岩など)をあまり含まない。 |
| III ①層 | 暗褐色土層(10YR3/3) 細まり弱。As-Kk を多量(15～25%)に含む。 |
| III ②層 | 黒色土層(10YR1.7/1) 中近世文化層 As-Kk 多量に含む。 |
| As-Kk (IV 層) | |
| IV ①層 | 黄褐色土層(10YR5/6) As-Kk 軽石層、2～10mm 大の比較的発達不良な軽石層。 |
| IV ②層 | 海灰色土層(10YR4/1) As-Kk 火山灰層、2～5mm 大の軽石粒を若干(1～3%)含む。 |
| IV ③層 | 黄褐色土層(10YR5/6) As-Kk 軽石層、①層に比べ最大30mm 大の軽石粒を若干(1～3%)含む。 |
| V 層 | 黒色土層(10YR2/1) 細まりなく粘性有り。均質性あり。 |
| As-B (VI 層) | |
| VII ①層 | にぶい黄褐色土層(10YR5/3) As-B 火山灰層。 |
| VII ②層 | 黒色土層(10YR2/1) 白色軽石粒(Hr-FA)、黄褐色色を1%ほど含む。黒み強く粘性あり。弥生時代～古代の遺構が確認される。 |
| VII ③層 | 黒褐色土層(10YR2/2) 灰白色粒(As-C?) 1%、黄褐色粒 1% 未満含む。弥生時代～古代の遺構が確認される。 |
| VII ④層 | 黒褐色土層(10YR2/3) ④・⑤層より黒味が強い。黄褐色粒 2% 程度、白色粒 1% 強、土器片を含む。縄文時代の遺構が確認される。 |
| VII ⑤層 | 黒褐色土層(10YR2/3) ③層より明るく茶色味強い。黄褐色粒 1% 程度、白色粒(As-Sj?) 1% 強含む。 |
| 二次堆積ローム土(VIII・IX 層) | |
| VIII ①層 | にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細まり欠き、粘性ややある。部分的に炭化粘壁小に含む。 |
| VIII ②層 | にぶい黄褐色土層(10YR5/4) 粗粒砂層。小礫(1cm 大の円卵)を含む。 |
| VIII ③層 | にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細まりなく、粘性あり。僅かに 3～5mm 大の黄褐色軽石粒(As-YpkK)と炭化粒を僅かに含む。 |
| VIII ④層 | にぶい黄褐色土(10YR4/3) ②層に比して、粗粒砂層をブロック状に不規則に含み不均質。黄褐色軽石粒(As-Ypk)⑤層よりも多く含む。 |
| VIII ⑤層 | 暗褐色土層(10YR3/3) 渐移層。細まりなく、粘性あり。僅かに 3～5mm 大の黄褐色軽石粒(As-Sr?)と炭化粒を僅かに含み、不均質。 |
| VIII ⑥層 | 黒褐色土層(10YR3/1) 30cm 大の亜円礫含む。細まり、粘性ややあり。黄褐色軽石粒(As-Sr?)含む。 |
| VIII ⑦層 | 黒褐色土層(10YR3/2) 渐移層。色調⑤層よりやや明るく、細まり、粘性ややあり。 |
| 段丘礫層(X 層) | |
| X 層 | 明黄褐色土層(10YR6/8) 細まりやや強く、粘性あり。砂質味強いローム相当基底層。砂質土。一部に礫を含む。河川堆積物が下層にある可能性を示す。 |

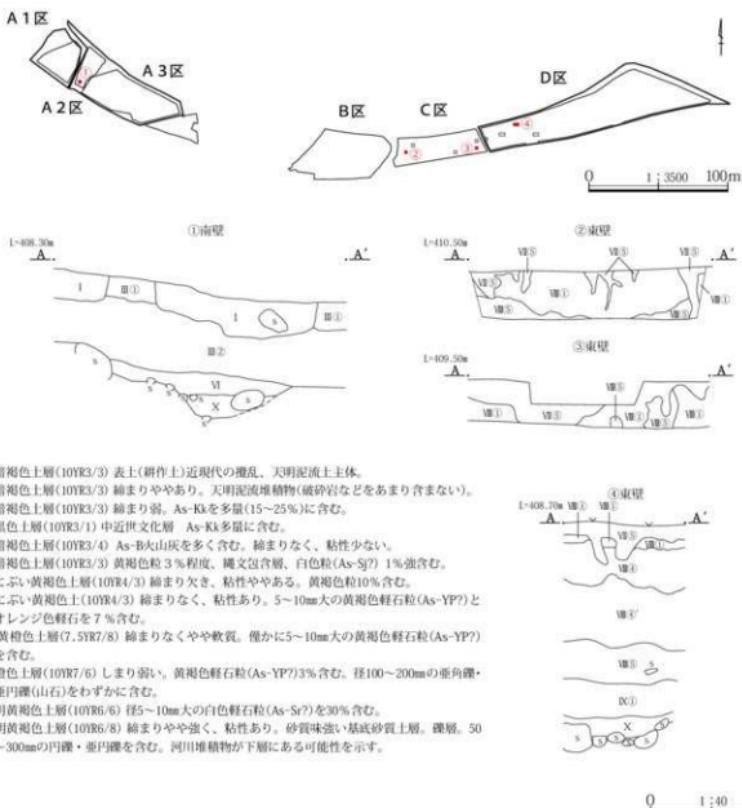
第5章 発見された遺構と遺物

第1節 旧石器時代

新井遺跡の調査において、2次堆積ローム土の存在があり、旧石器時代の遺物・遺構がある可能性が考えられたので、試掘・確認調査を行った。調査は、A2区で1ヶ所、C区で5ヶ所(うち2ヶ所の土層を例示)、D区で3ヶ

所(うち1ヶ所の土層を例示)のトレンチを設定し、調査した。

調査は、基本土層Ⅷ層からX層を掘削する中で行ったが、いずれの地点でも、旧石器時代の遺物は一切出土せず、旧石器時代の遺物・遺構ともに新井遺跡では確認できないことが分かった。



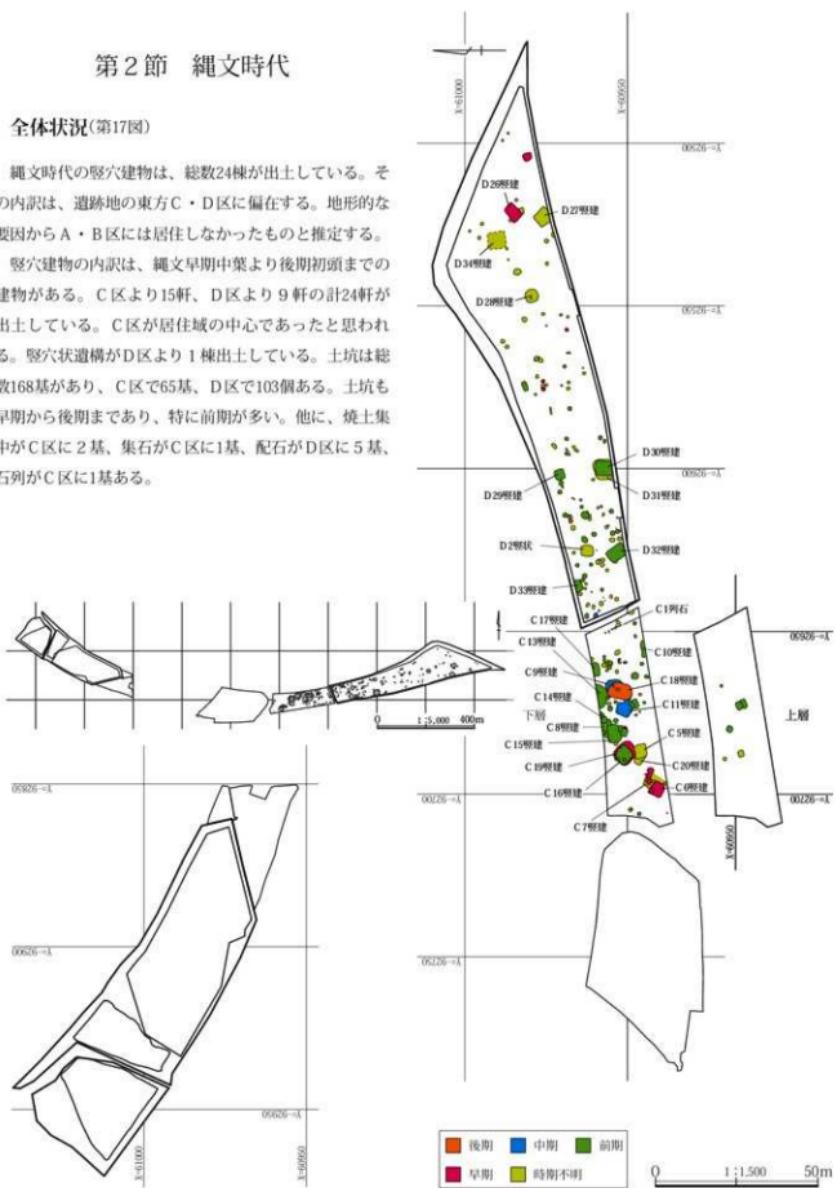
第16図 旧石器時代遺構・遺物確認調査トレンチ設定図・土層断面図

第2節 繩文時代

全体状況(第17図)

縄文時代の竪穴建物は、総数24棟が出土している。その内訳は、遺跡地の東方C・D区に偏在する。地形的な要因からA・B区には居住しなかったものと推定する。

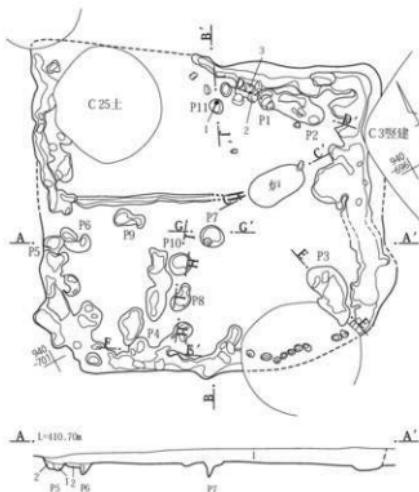
竪穴建物の内訳は、縄文早期中葉より後期初頭までの建物がある。C区より15軒、D区より9軒の計24軒が出土している。C区が居住域の中心であったと思われる。竪穴状遺構がD区より1棟出土している。土坑は総数168基があり、C区で65基、D区で103個ある。土坑も早期から後期まであり、特に前期が多い。他に、焼土集中がC区に2基、集石がC区に1基、配石がD区に5基、石列がC区に1基ある。



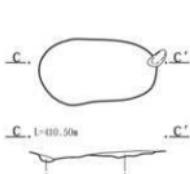
第17図 縄文時代遺構時期別分布図

壁穴建物

時代的に古い順に建物を見ると、繩文早期が3棟(中葉C 6・後葉D 26・C 19)、前期が11棟(前葉C 16・D 32・C 8・D 33・C 17・C 14、中葉D 29・D 30・C 13・C 10、後葉C 15)となる。中期は2棟(中葉～後葉C 9・後葉～後期初頭C 11)、後期は1棟(初頭C 18)、晚期は無い。時期不明の建物が7棟(C 5・C 7・C 20・D 27・D 28・D 31・D 34)である。時期的な変遷を追うと、C区が中心であり、早期～後期にかけて継続している。



1 黒褐色土10YR2/2 黄褐色粒2%程度、白色粒1%強含む。しまりは良い。



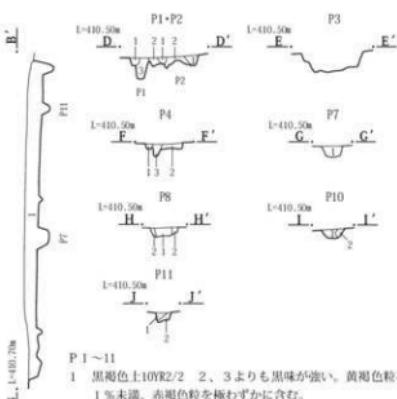
1 黑褐色土10YR2/2 烧土粒1%程度、黄褐色粒1%程度、炭化物片1%未满含心。



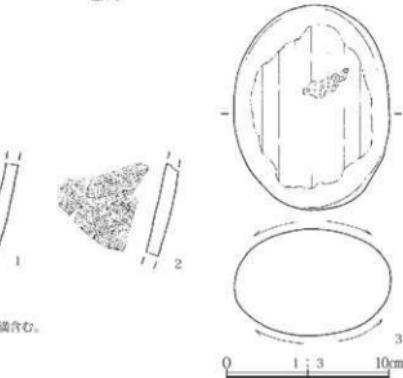
D区は、早期～前期にかけて建物が建てられるが、中期以降は、時期不明のものを除き確認できない。

C 6号豎穴建物(第18図 P.L. 9・147)

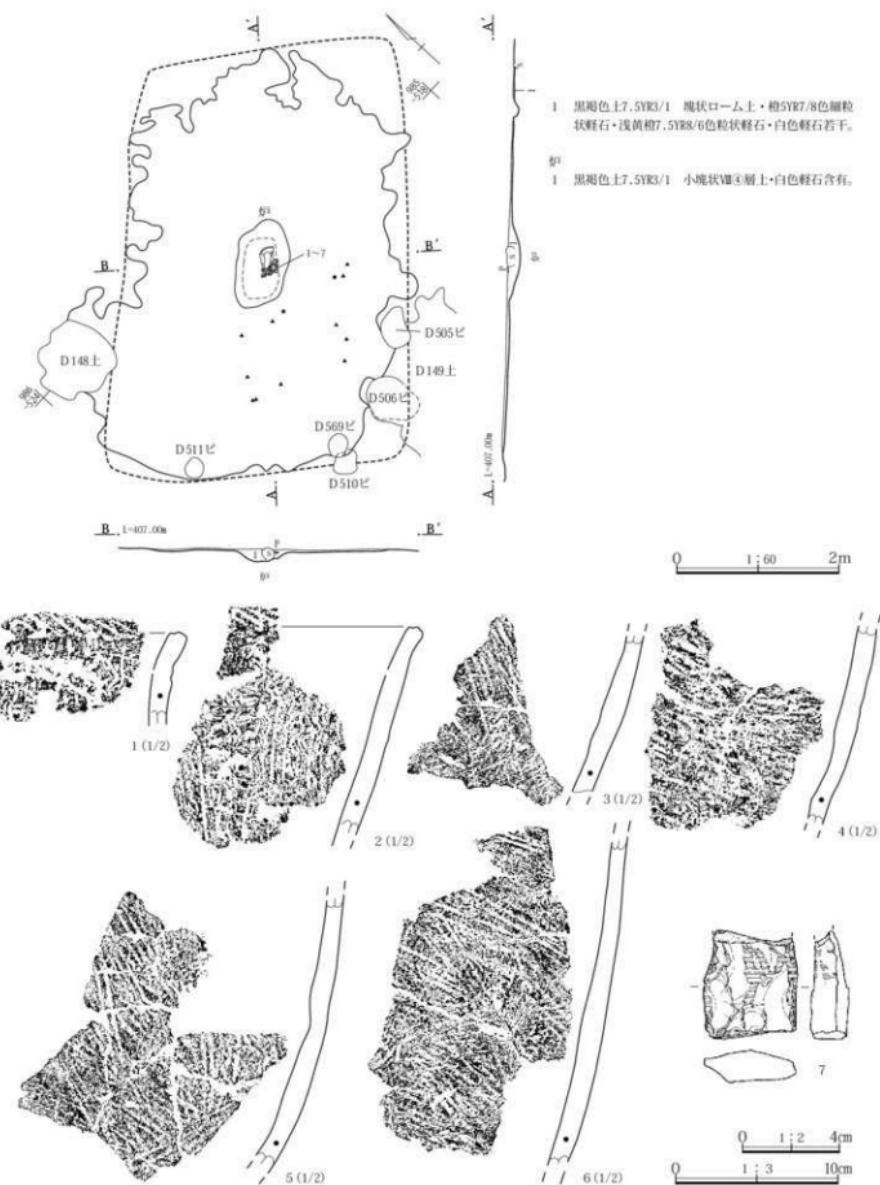
位 置 C区西部に位置する。座標値 X=60938~60943 Y=-92695~-92700 遺存状況・重複 穫穴建物全体が調査範囲となる。重複C3・7号竪穴建物、C25号土坑が重複する。C7号竪穴建物が新しい。C25号土坑との新古関係は不明。形状 台形状 規 模 東西4.46m、南北3.98m 長軸方向 N-62°-W 床面積 10.173m² 床面・壁 壁高は22cmを数える。炉 炉は、



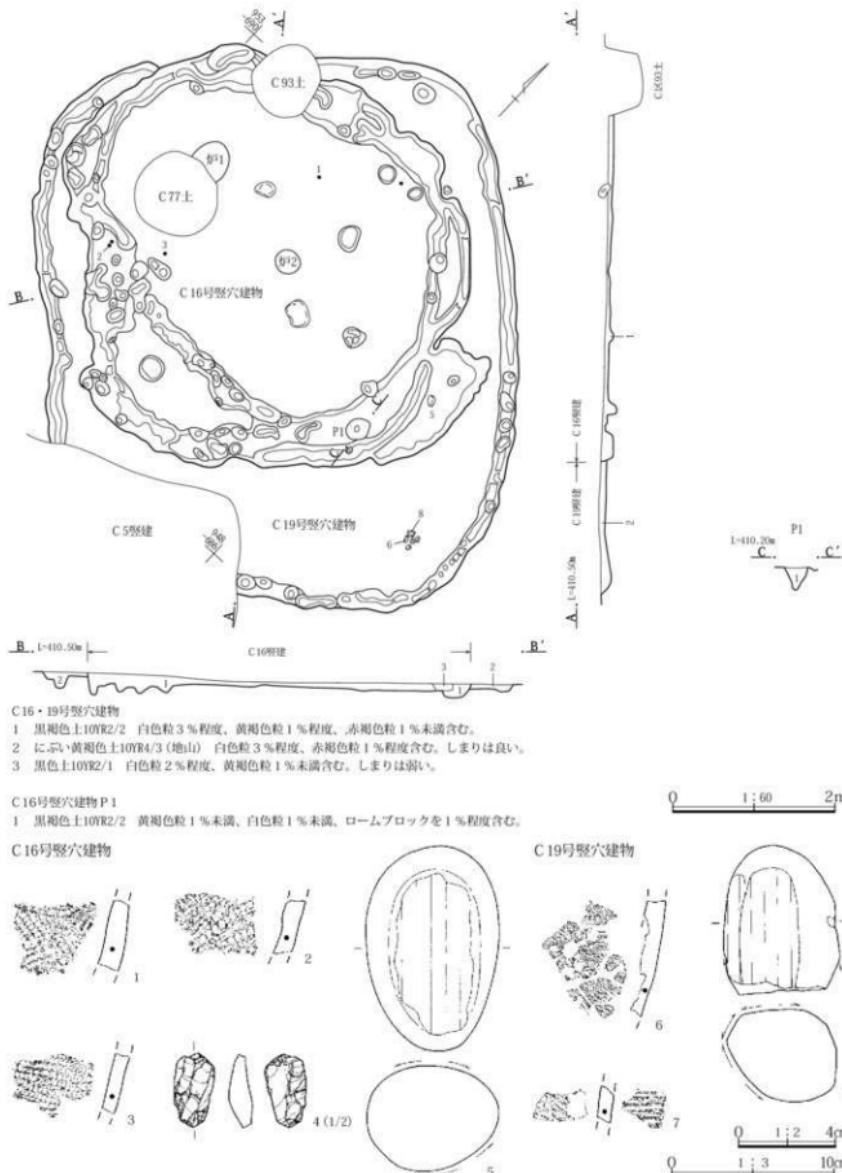
- 1 黒褐色土10VR2/2 2、3よりも黒味が強い。黄褐色粒を1%未満。赤褐色粒を極わずかに含む。
 - 2 黑褐色土10VR2/3 黄褐色粒1%程度、ロームブロック及び粘土を20%程度含む。しまりは良い。
 - 3 暗褐色土10R3/3 地山褐色土を30%程度含む。しまりは悪い。



第18図 C 6号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図



第19図 D26号竖穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図



第20図 C16・19号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図

第5章 発見された遺構と遺物

建物内中央やや東側に、長径72cm×短径40cm、深さ3cmのが確認された。柱穴他 11本のビットが確認された。いずれも浅く柱穴として確実に把握できるものはない。遺物 覆土中からの遺物がほとんどである。早期中葉の土器2(1・2)と磨石(3)を取り上げた。非掲載土器に稻荷台式3点がある。非掲載石器はない。時期 早期 中葉に比定される。

D26号竪穴建物(第19図 P.L. 10・147)

位置 D区東端部に位置する。座標値 X=60982～60987 Y=-92517～-92524 遺存状況・重複 竪穴建物全体が調査範囲となる。D148・149・151号土坑が重複する。26号竪穴建物が古いと判断する。形状 北西方向に長い長方形 規模 東西(5.18)m、南北(3.76)m 長軸方向 N-44°-E 床面積 (18.132)m² 床面・壁 壁高はほとんど残らない。炉 炉は、建物内中央に、長径107cm×短70cm、深さ12cmの炉が確認された。柱穴他 数本のビットが周りに検出されたが、いずれも浅く柱穴として確実に把握できるものはない。遺物 灰跡からの遺物が多い。図示したものはすべて炉内部から出土している。早期後葉の土器片6点(1～6)と、着柄切痕があるが、下部切断面に加工痕があり、転用を意図した可能性のある打製石斧片(7)を1点取り上げた。非掲載土器・石器はない。時期 早期 後葉に比定される。

C19号竪穴建物(第20図 P.L. 11・147)

位置 C区中央やや西側に位置する。座標値 X=60947～60954 Y=-92683～-92691 遺存状況・重複 竪穴建物全体が調査範囲となる。C区5・16号竪穴建物、C77・93号土坑が重複する。いずれの重複遺構よりも19号竪穴建物は古い。形状 北西方向に長い長方形 規模 東西6.00m、南北6.82m 長軸方向 N-43°-W 床面積 8.631+m² 床面・壁 壁はほとんど残らない。壁際溝 壁沿いに幅12～33cm、深さ6～13cmの壁際溝が確認できる範囲では全周で確認された。炉 炉は、重複するC16号竪穴建物により確認できない。柱穴他 数個のビットが壁周溝から確認されている。遺物 繩文早期後葉鶴ヶ島台の土器が2点(6・7)建物の南東部から出土している。また、磨石(8)がその近くで出土している。掲載土器はすべて鶴ヶ島台式土器である。非掲載土器・石器ともない。時期 早期 後葉鶴ヶ島台期に比

定される。

C16号竪穴建物(第20図 P.L. 11・147)

位置 C区中央やや西側に位置する。座標値 X=60948～60953 Y=-92984～-92690 遺存状況・重複 竪穴建物全体が調査範囲となる。C区19号竪穴建物、C77・93号土坑が重複する。19号竪穴建物より新しい。土坑は土器からすると同時期である。遺構の新古関係は調査では明らかにならなかった。形状 円形 規模 東西5.20m、南北5.35m 床面積 13.23+m² 床面・壁 壁は一部残り10cmほどある。壁周溝 壁沿いに幅24～48cm、深さ7.2～9.6cmの周溝が全周で確認された。炉 東よりに、長径35cm、短径35cm、深さ2cmの炉が確認された。中央部に径30cmの円形の小さな炉2が確認された。柱穴他 壁周溝及び床面より複数のビットが確認されている。遺物 繩文前期後葉閑山II式の土器を3点(1～3)掲載した。うち2点は建物の北東部から出土している。また、磨石(5)が壁周溝の抵がる南東部周溝内から出土している。土器は閑山II式期土器の出土のみで、非掲載土器も閑山II式が1点である。石器は非掲載のものも含めると楔形石器(4)1点、削器1点、二次加工ある剥片1点、打製石斧1点、磨石(5)1点の計5点である。時期 前期後葉の閑山II式期に比定される。

D32号竪穴建物(第21・22図 P.L. 12・147・148)

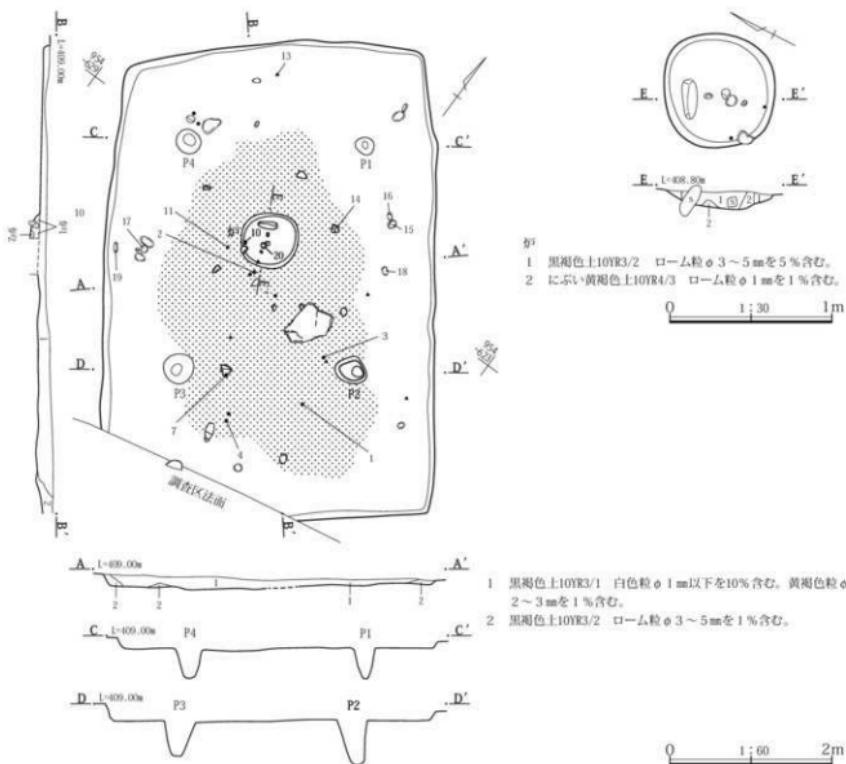
位置 D区西側に位置する。座標値 X=60950～60956 Y=-92622～-92628 遺存状況・重複 建物南部隅部以外はすべて調査範囲となる。D286が重複する。32号竪穴建物が新しい。形状 南北に主軸のある長方形 規模 東西4.09m、南北5.90m 長軸方向 N-36°-W 床面積 20.97+m² 床面・壁 壁は四周すべて遺存し、最大で32cm残る。炉 中央や西北よりに、長径70cm、短径68cm、深さ13cmの炉が確認された。炉北側に偏してやや平たい楕円形状の石を斜めに突き刺すようにしている。柱穴他 4本主柱穴が確認できた。長径23～37cm、短径19～34cm、深さ35～56cmの柱穴である。遺物 床面近くの位置で各所から出土している。繩文前期初頭二ツ木式の土器10点(1～10)を図示した。非掲載の土器は、前期中葉の土器が34点ある。石器は、打製四基無茎石器(11・12)2点、スクレイバー(13)1点、二次加工ある剥片(14)1点、凹石1点(15)・磨石(16～19)4点、敲石(20・21)1点を取り上げた。非掲載

も含めると石器は、総数42個あり内訳は、石礫3、削器1、二次加工ある剥片2、凹石2、磨石19、敲石5、石皿2、礫石器5、剥片石器2である。時期 前期前葉の二ツ木式期に比定される。

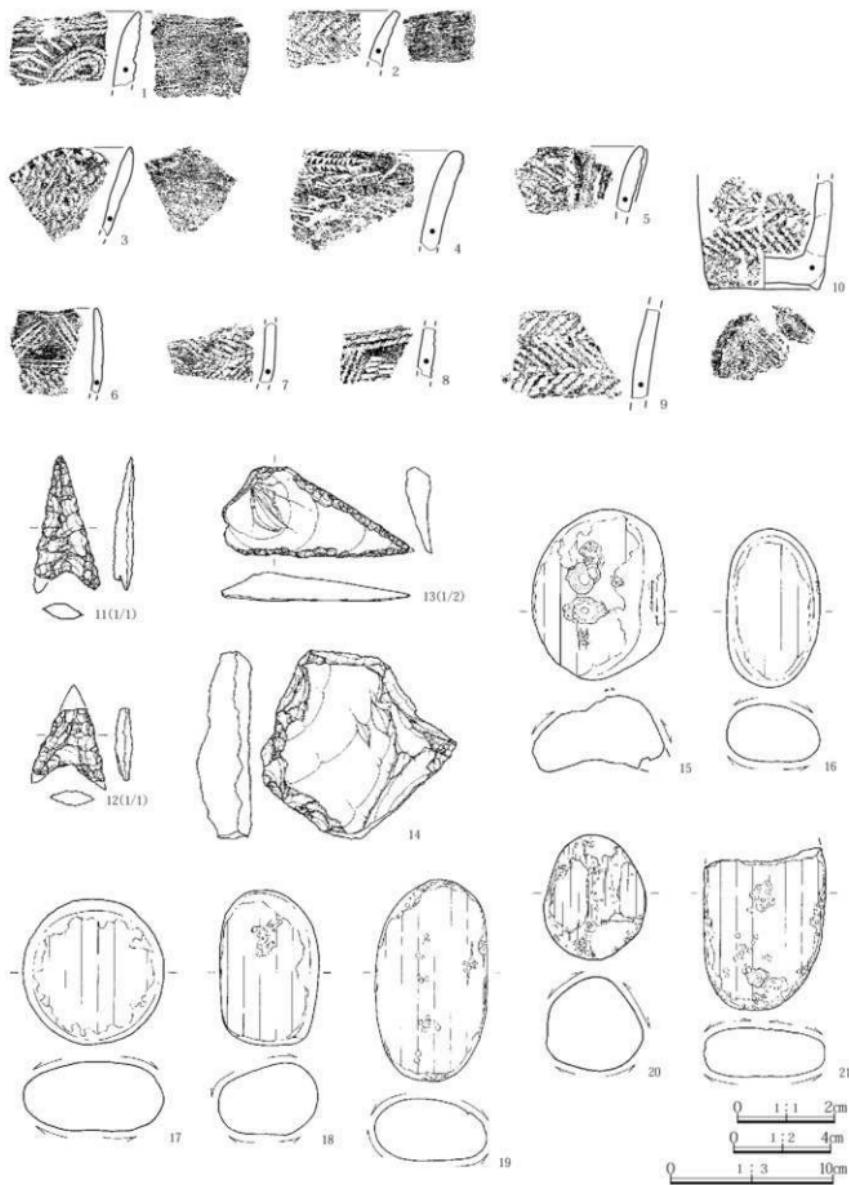
C 8号竪穴建物(第23図 P.L. 13・148)

位置 D区西側に位置する。座標値 X=60954~60957 Y=-92677~ -92682 遺存状況・重複 建物北東部隅部以外はすべて調査範囲となる。擾乱が南部に入る。C 240・244ピットが重複。ピットのほうが新しいか。形状 南側が斜辺を呈する不整形 規模 東西4.67m、南北5.08m 長軸方向 N-51°-W 床面積 13.59m² 床面・壁 壁はほとんど残っていない。炉 北東より、長径87cm、短径79cm、深さ8cmの石

塊が確認された。18~41cmの楕円棒状の石を東側測辺から南北の短測辺まで配置している。反対側にも石を置いた可能性がある。柱穴他 柱穴は確認できなかった。遺物 床面近くの位置で石匂爐周辺各所から出土している。掲載土器は、繩文前期前葉関山I式2点(1・2)、関山II式1点(3)、前期中葉有尾式2点(4・5)である。非掲載土器は、早期後葉の鶴ヶ島台式2点、前期前葉の関山I式7点、前期後葉の諸磯a式3点、諸磯b式1点、中期後半5点がある。石器は、打製石斧1点、凹石1点、磨石2点、石皿2点、台石1点の計7点がある。図を掲載したものは、ほぼ全面が磨面の磨石(6)、石皿(7)である。時期 前期前葉の関山I・II式期に比定される。



第21図 D 32号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・炉平面図

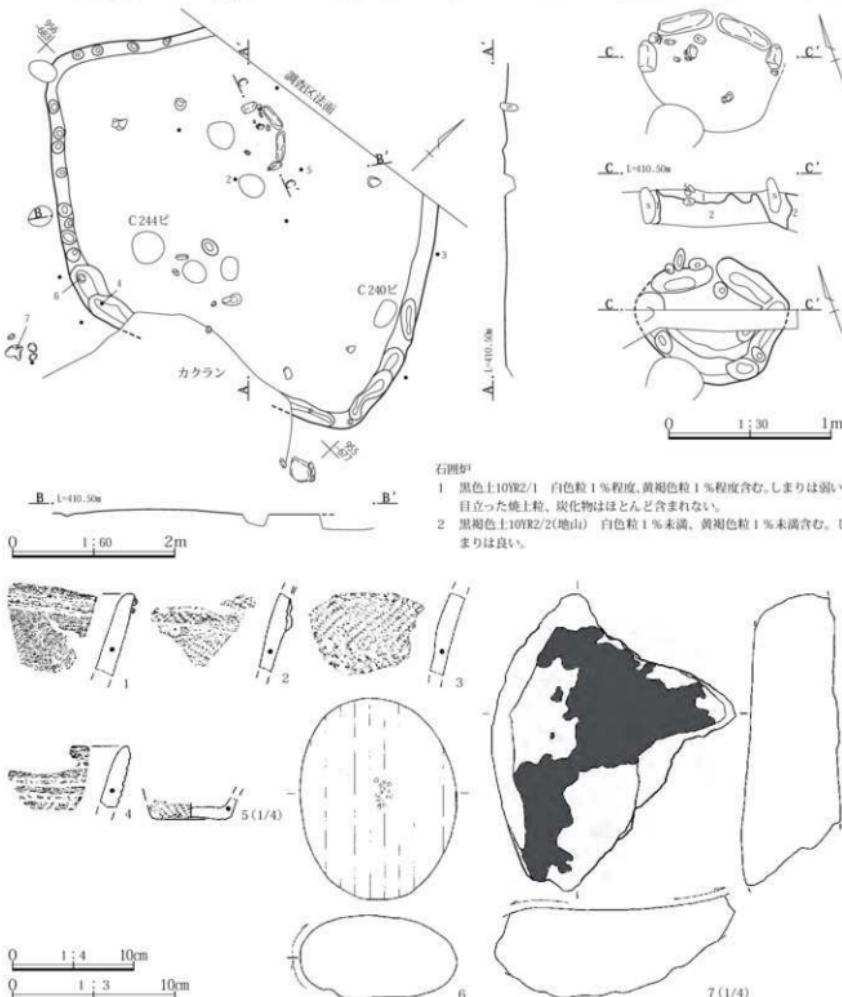


第22図 D32号竖穴建物出土遺物図

D33号竪穴建物(第24図P.L. 14・148)

位 置 D区西北端側に位置する。座標値 X=60963
~60966 Y=-92633~-92637 遺存状況・重複 建物北側は調査区外となる。形 状 全体の形は不明だが、南側は台形状を呈する。規 模 東西3.75m、南北 2.38+m 長軸方向 不明 床面積 6.44+m² 床面・壁

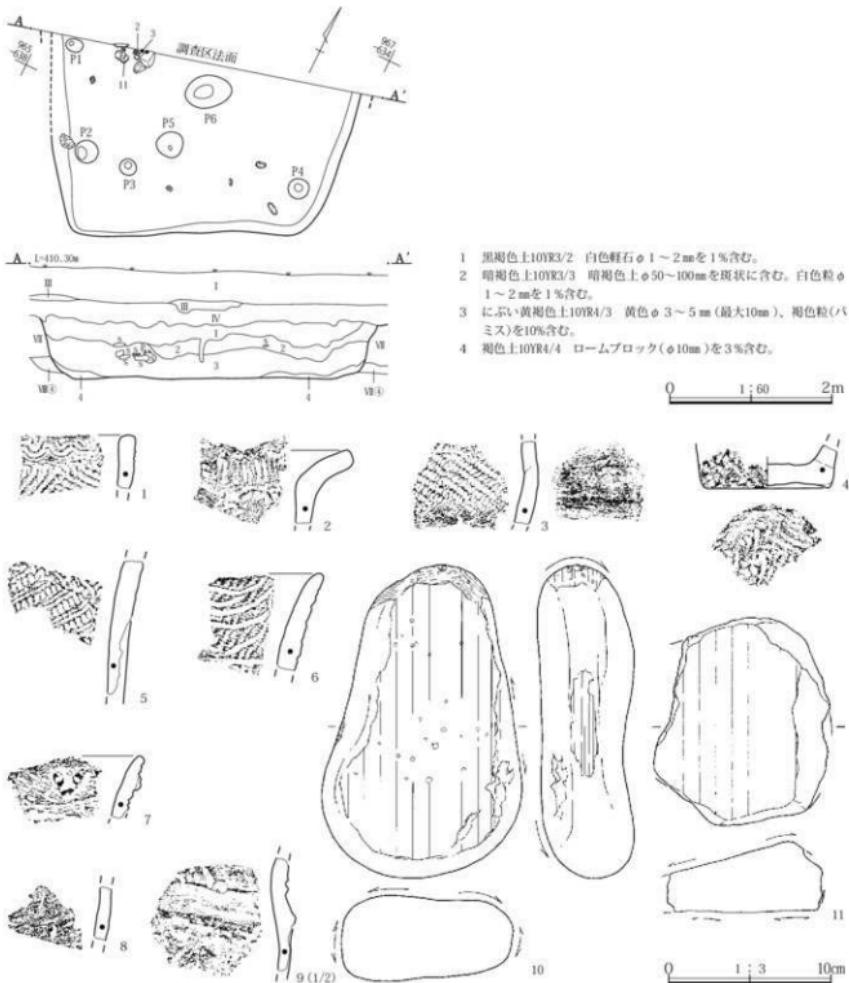
壁は全周し最大壁高は27cmを有する。炉 不明 柱穴他 ピットは6個検出した。径20~37cm、深さ14~23cmの円形ピットのP 2~5、長径21cm、短径15cm、深さ44cmのP 1がある。また中央付近には、長径58cm、短径40cm、深さ11cmのP 6がある。遺 物 北壁沿いやや西側の床面からやや上層から、縄文前期の土器2点(2・3)と磨



第23図 C 8号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図・炉平断面図

石(11)が出土している。縄文早期後葉～前期中葉の土器を総計9点(1～9)と、重さ2kgを超える掘え置き用のいずれも粗粒輝石安山岩製の磨石(10)と小型の磨石(11)を掲載した。中心となる出土土器は縄文前期前葉の関山Ⅱ式(1～3、5)、関山式(4)である。他に、覆土から繩文草期後葉の鶴ヶ島台式(9)、条痕文系土器(8)、前

期前葉の二ツ木式(7)、前期中葉の黒浜式(6)に比定される土器が出土している。非掲載土器は前期前葉の土器が42点ある。石器は非掲載のものを含めると総数8点出土し、内訳は磨石5点、敲石1点、礫石片2点の計8点である。時期時代は前期前葉の関山Ⅱ式期に比定される。



第24図 D33号竖穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図

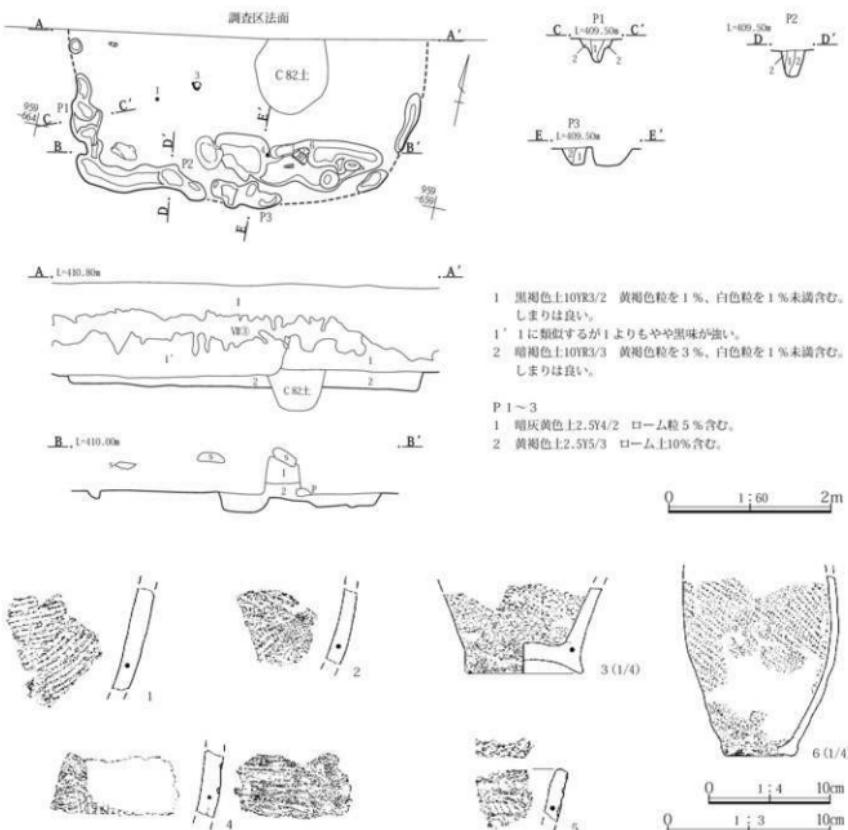
C 17号竪穴建物(第25図 P L. 15・149)

位 置 C区東北端部に位置する。座標値 X=60958 ~60960 Y=-92659 ~-92663 遺存状況・重複 建物北側は調査区外となる。C 82号土坑が重複。新古関係は不明。形 状 全体の形は不明だが、南側は長方形形状を呈する。規 模 東西4.28m、南北2.23m 長軸方向 N-83°-E 床面積 6.88+ml 床面・壁 壁が一部残り最大壁高は24cmである。壁際溝 壁沿いに幅24~66cm、深さ6cmの壁際溝が確認できる範囲では一部では途切れるもほぼ全周で確認された。炉 不明 柱穴他 壁際溝内にP 1~3が確認された。ピットは6個検出した。

遺 物 中央部やや西側から縄文前期土器深鉢(1・3)が床面からやや上まで出土した。6の土器は壁周溝上部から出ている。掲載土器は、前期前葉の関山II式が3点(1~3)、前期後葉の諸磯a式を1点(6)、早期後半の鶴ヶ島台式他(4・5)2点である。非掲載の土器として早期末の土器1点と諸磯a式が14点出土している。石器の出土はない。時 期 前期前葉の関山II式期に比定される。

C 14号竪穴建物(第26図 P L. 16・149)

位 置 C区北中央部に位置する。ほぼ同時期のC 8号、13号竪穴建物にはさまれている。座標値 X=60956~60972 Y=-92599 ~-92675 遺存状況・重複

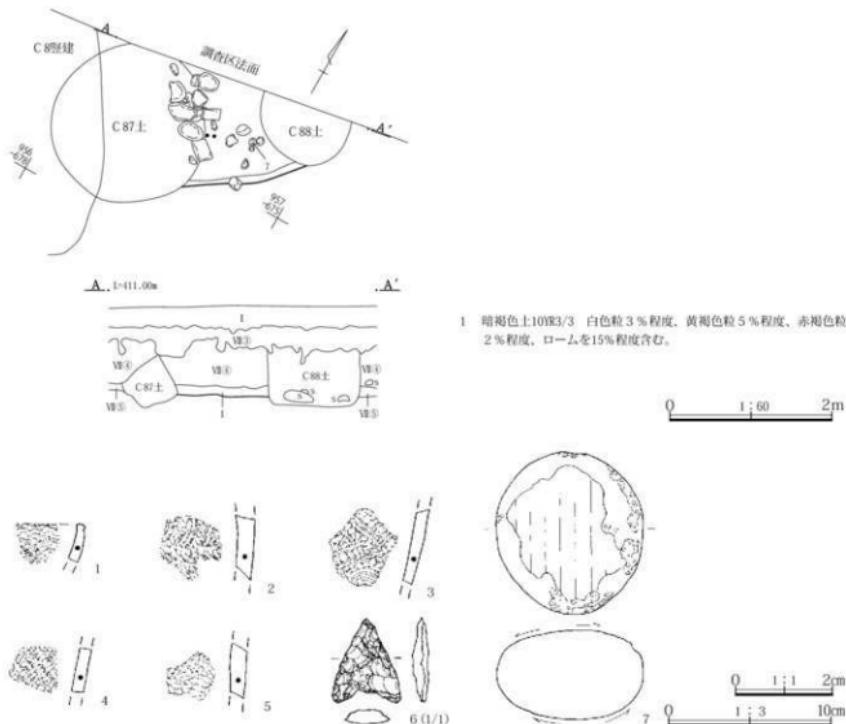


第25図 C 17号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図

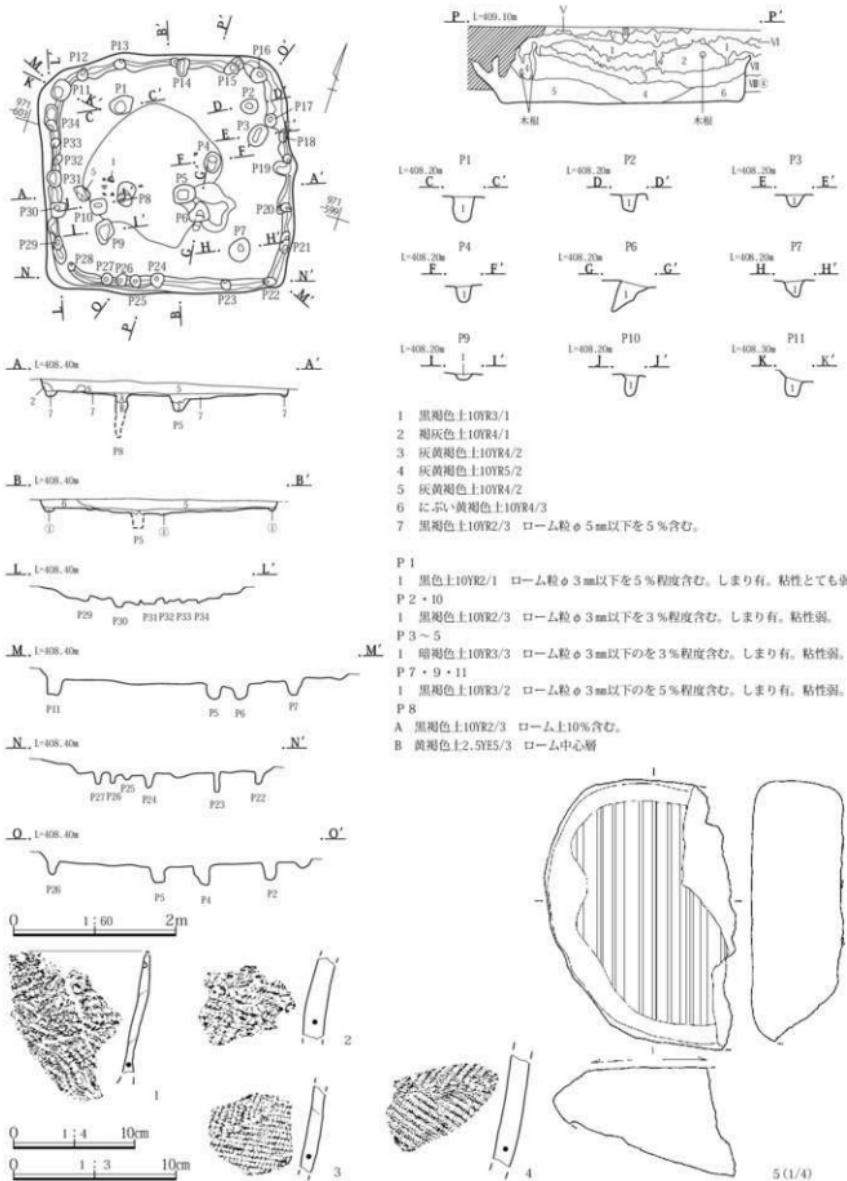
建物北側は調査区外となり、C87、C88号土坑が重複。新古関係は不明。形 状 全体の形は不明だが、南側は長方形状を呈する。規 模 東西1.55+m、南北1.57+m
長軸方向 不明 床面積 0.99+m² 床面・壁 壁が残り最大壁高は10cmである。炉 不明 柱穴他 確認できなかった。遺 物 繩文前期土器深鉢片が床面からやや上で出土した。粗粒輝石安山岩製の磨石(7)は壁近くから出土している。黒曜石製の凹基無茎石鐵(6)も出土している。掲載した土器(1～5)はいずれも関山II式である。非掲載土器は、早期後葉の鶴ヶ島台式期他2点、前期前葉関山II式18点、前期中葉有尾式2点、前期後葉諸磯a式3点の計25点である。石器は非掲載のものも含めると磨石3点、石鐵が1点の計4点である。時 期 前期前葉の関山II式期に比定される。

D 29号竪穴建物(第27図 P.L. 17・149)

位 置 D区中央や西北側に位置する。座標値 X=60956～60958 Y=-92674～-92675 遺存状況・重複 竪穴建物全体が調査範囲となる。形 状 方形 規 模 東西3.17m、南北3.00m 長軸方向 N-70°-E 床面積 6.64m² 床面・壁 床面の中央部の浅い窪みに貼床を施している。壁は全周し最大壁高は西辺の14cmである。壁際溝 全周する。幅は5～15cm、深さ1～9cmである。ピットが24個溝内で確認されている。炉 不明 柱穴他 ピットは32個検出した。うち、P1～P10までは床面から、P11以降は壁周溝から検出された。P1～P10までのピットは大きく深いものが多く、長径20～35cm、短径18～25cm、深さ9～37cmである。壁際溝内から検出したピットは、規模が小さいものが多く、長径13～27cm、短



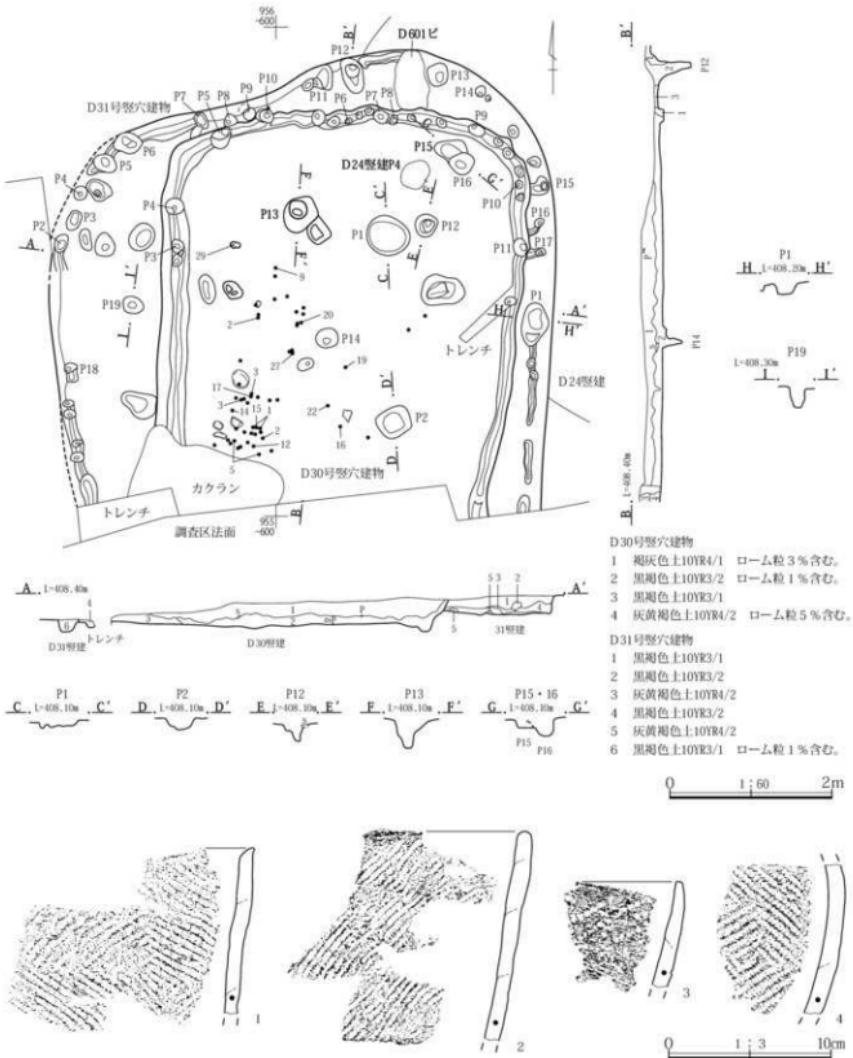
第26図 C 14号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図



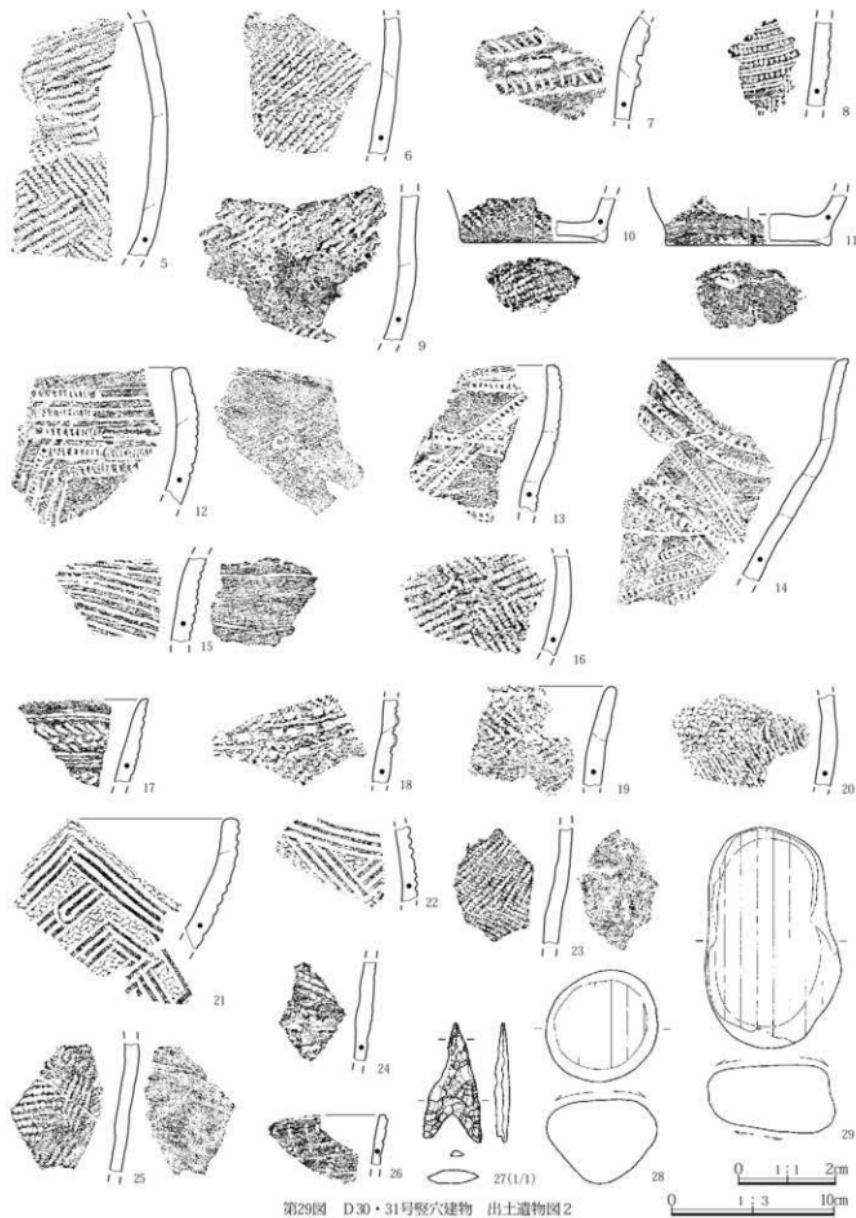
第27図 D29号竖穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図

径9~22cm、深さ6~26cmである。遺物 中央やや西の床面やや上から前期黒浜式の小型深鉢土器片(1)と粗粒輝石安山岩の上面が滑らかな平坦面を有する大型台石(5)が出土している。掲載土器(1~4)はすべて黒浜式

である。非掲載土器は前期中葉期が18点ある。石器は非掲載のものはない。時 期 前期中葉の黒浜式期に比定される。



第28図 D30・31号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図1



第29図 D30・31号竖穴建物 出土遺物図2

D30号竪穴建物(第28・29図 P.L. 18・149・150)

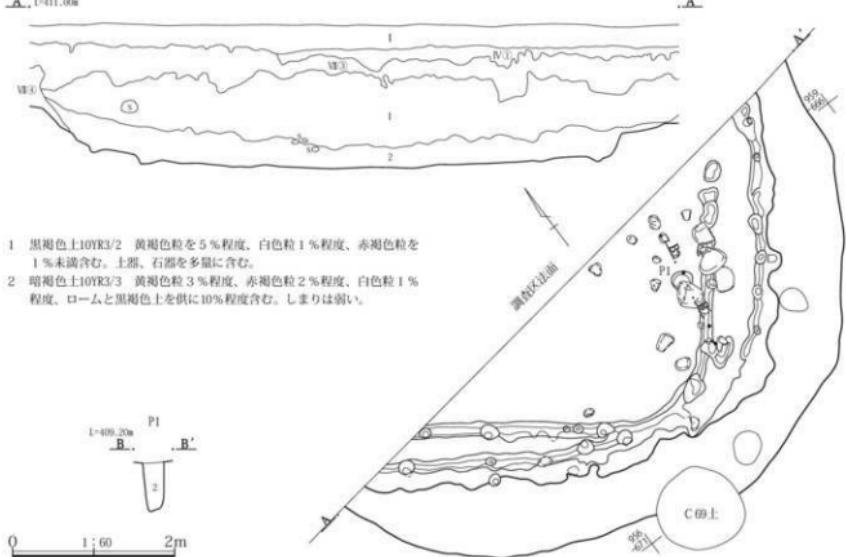
位 置 D区中央やや西南側に位置する。座標値 X=60955～60959 Y=-92596～-92601 遺存状況・重複 竪穴建物南部の一部が調査範囲から外れる。D31号竪穴建物と重複関係にある。30号竪穴建物が新しい。また、上部にはD26号竪穴建物がある。形 状 圓円長方形 規 模 東西4.48m、南北5.20+m 長軸方向 N-3°-E 床面積 16.68+㎡ 床面・壁 床面は平坦である。壁は全周し最大壁高は35cmである。壁際溝 全周する。幅は13～24cm、深さ1～10cmである。ピットが22個溝内で確認されている。炉 不明 柱穴他 ピットは33個検出した。うち、11個は床面から、22個は壁際溝から検出された。床面からのピットは大きく深いものが多く、長径10～54cm、短径9～48cm、深さ8～33cmである。壁際溝内から検出したピットは、規模が小さいものが多く、長径13～26cm、短径8～24cm、深さ11～23cmである。遺 物 南西部床面から集中して土器が出土している。土器は、前期中葉の黑浜式11点(1～11)、有尾式3点(14～16)、駒迦堂Z3式3点(23～25)、神ノ木式1点(26)と中葉の土器群が中心となる。それ以外では、前期前葉の

二ツ木式2点(17・18)、関山I・II式(19~22)を掲載した。非掲載土器は前期中葉の土器が134点ある。石器は、黒曜石製の凹基無茎石鏽(27)、磨石が2点(28・29)ある。石器は非掲載のものはない。時期 前期中葉の黒浜・有尾式期に比定される。

D31号竪穴建物(第28図 P.L. 18)

位 置 D区中央や西南側に位置する。座標値 X =60955～60960 Y =-92596～-92602 **遺存状況・重複** 穴建物南部の一部が調査範囲から外れる。30号竪穴建物、D601ピットと重複関係にある。30号竪穴建物、D601ピットが新しく、建物の中央部のほとんどは30号竪穴建物により壊されている。また、上部にはD26号竪穴建物がある。**形 状** 不整形(隅円長方形に近い)
規 模 東西6.20m、南北5.80+m **長軸方向** N-2°-W **床面積** 6.216+m **床面・壁** 残存床面は平坦である。遺存している壁の最大壁高は22cmである。壁際溝一部が残る。幅は7～20cm、深さ2～5cmである。**炉** 不明 **柱穴他** ピットは中央のD30号竪穴建物に壊された箇所以外の外周部壁沿い及び壁際溝内部などから計35個検出した。**遺 物** 出土していない。**時 期** 前期中

- 8 -



第30図 C13号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図

葉の黒浜・有尾式期の30号竪穴建物に壊されているので、この時期よりは新しいものと推定する。

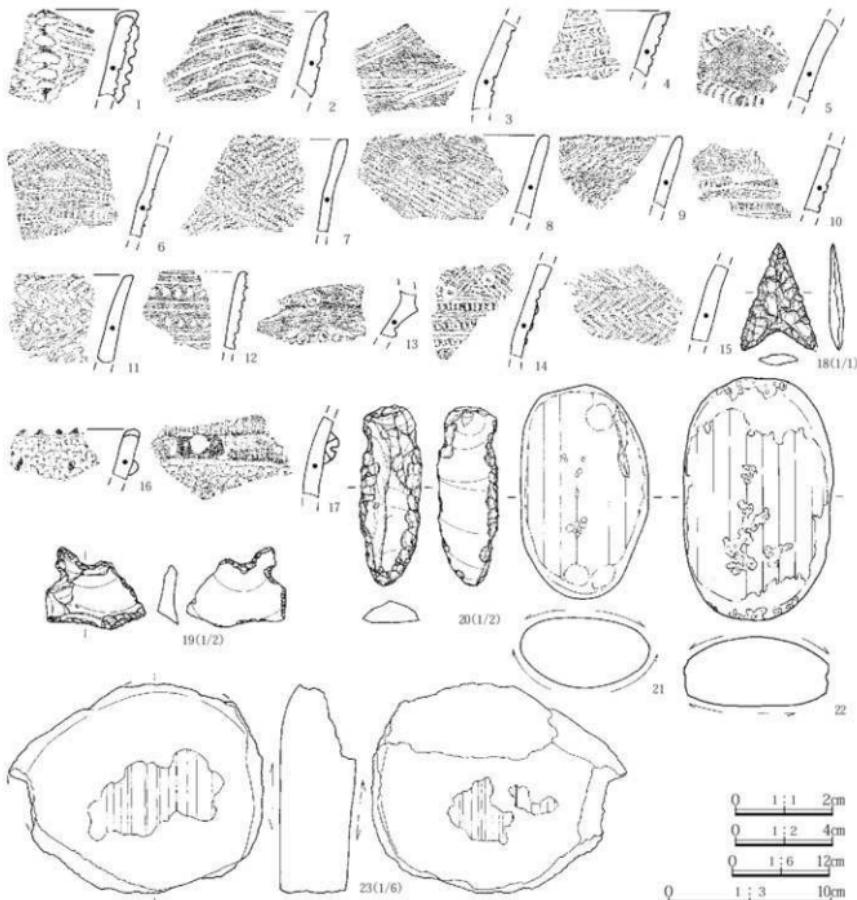
C13号竪穴建物(第30・31図P.L. 19・150・151)

位 置 C区中央やや東の北壁際に位置する。座標値

X=60956~60959 Y=-92660~-92671 遺存状況・重複

竪穴建物南部隅部が調査範囲となる。形 状 方形の可能性あり 規 模 東西5.05+m、南北4.94+m 長軸方向 不明 床面積 5.532+m² 床面・壁 床は平坦である。壁は良好に残り、最大壁高30cmである。壁際溝

遺存部ではほぼ全周する。2重に巡っており、拡張した可能性がある。内側の壁際溝は、全周しており、幅15~24cm、深さ6~9cmである。外側の壁際溝は、コーナー部が途切れている。幅12~18cm、深さ6~9cmである。内側の壁際溝の溝内にはピットが10個、外側の壁際溝の溝内では11個のピットが確認されている。炉 不明 柱穴他 不明 遺 物 東側内側壁際溝付近で遺物の出土が多い。全体に土器の出土量が多い。土器は前期中葉の有尾式(1~11)が中心で11点、それに早期中葉の田戸下



第31図 C13号竪穴建物出土遺物図

層式1点(12)、早期後葉の鶴ヶ島台式1点(13)、前期前葉の二ツ木式2点(14・15)、関山I式2点(16・17)を掲載した。非掲載土器は前期中葉の有尾式129点、早期後葉鶴ヶ島台式64点、早期末が2点、前期前葉の二ツ木式2点、関山II式2点、前期後葉の諸磯a式8点ある。石器は、石匙2点(19・20)があり、磨石2点(21・22)、石皿1点(23)を掲載した。石器は非掲載のものも含めると石礫3点、石匙2点、打製石斧2点、石核1点、二次加工ある剥片5点、凹石1点、磨石2点、石皿1点、台石1点が出土した。時期 前期中葉の有尾式期に比定される。

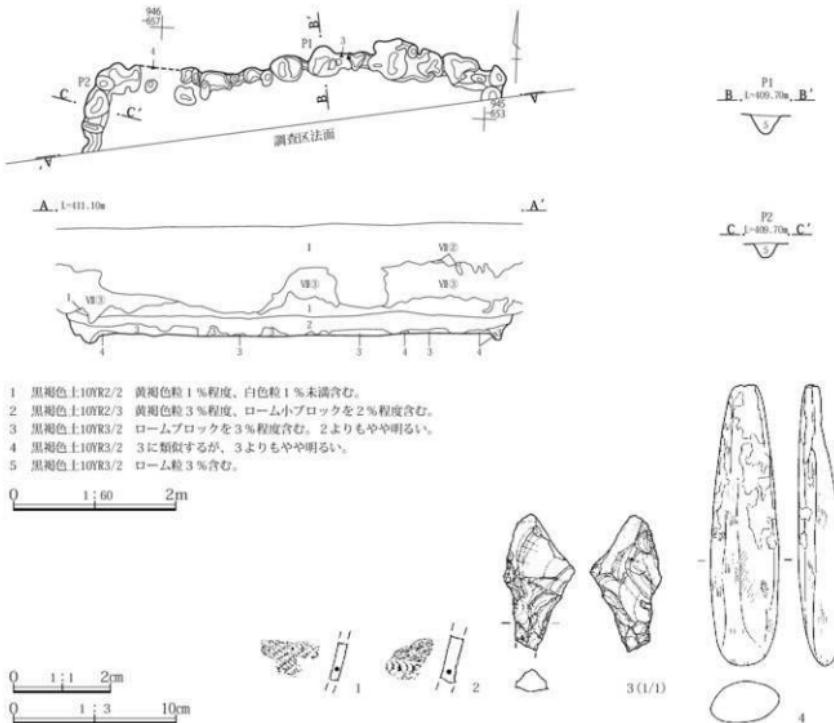
C 10号竪穴建物(第32図 P L. 20・151)

位置 C区南東部の南壁際に位置する。座標値 X=60944~60945 Y=-92652~-92657 遺存状況・重複 南壁に接しており、北辺の壁際溝が遺存している状

況である。重複はない。形 状 不明(方形の可能性あり) 規 模 東西5.15m、南北1.23m 長軸方向 不明 床面積 2.487+ml 床面・壁 床は平坦である。壁は残っていない。壁際溝 北側部分及びコーナー部と南に延びる西側部の極一部も残る。幅12~30cm、深さ10~21cmである。ピットが壁際溝内に23個ある。P1は径36cm、深さ18cmを有する。炉 不明 柱穴他 不明 遺 物 土器は、有尾式を2点(1・2)掲載した。非掲載土器は関山II式~有尾式が2点である。石器は、黒曜石製の石錐(3)、磨製石斧(4)を掲載した。非掲載石器はない。時期 前期中葉の有尾式期に比定される。

C 15号竪穴建物(第33図 P L. 21・151)

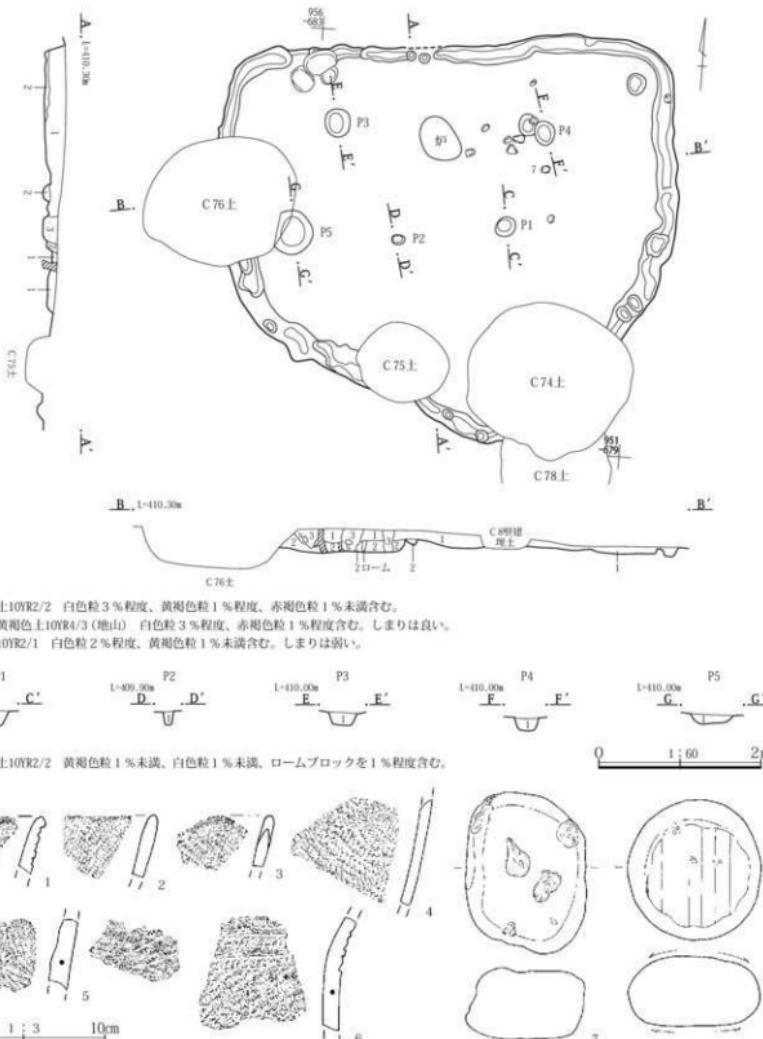
位置 C区中央部北側に位置する。座標値 X=60951~60956 Y=-92978~-92984 遺存状況・重複 竪穴建物全体が調査範囲となる。前期前葉の8号竪穴



第32図 C 10号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図

建物と重複。当建物が新しい。C 74~76号土坑が重複。
形 状 不整 形 規 模 東西5.02m、南北5.00m
長 軸 方 向 N-83°-E
床 面 積 15.741+ml
床面・壁
 床は平坦である。壁は一部が残る。壁最大高27cm
壁際

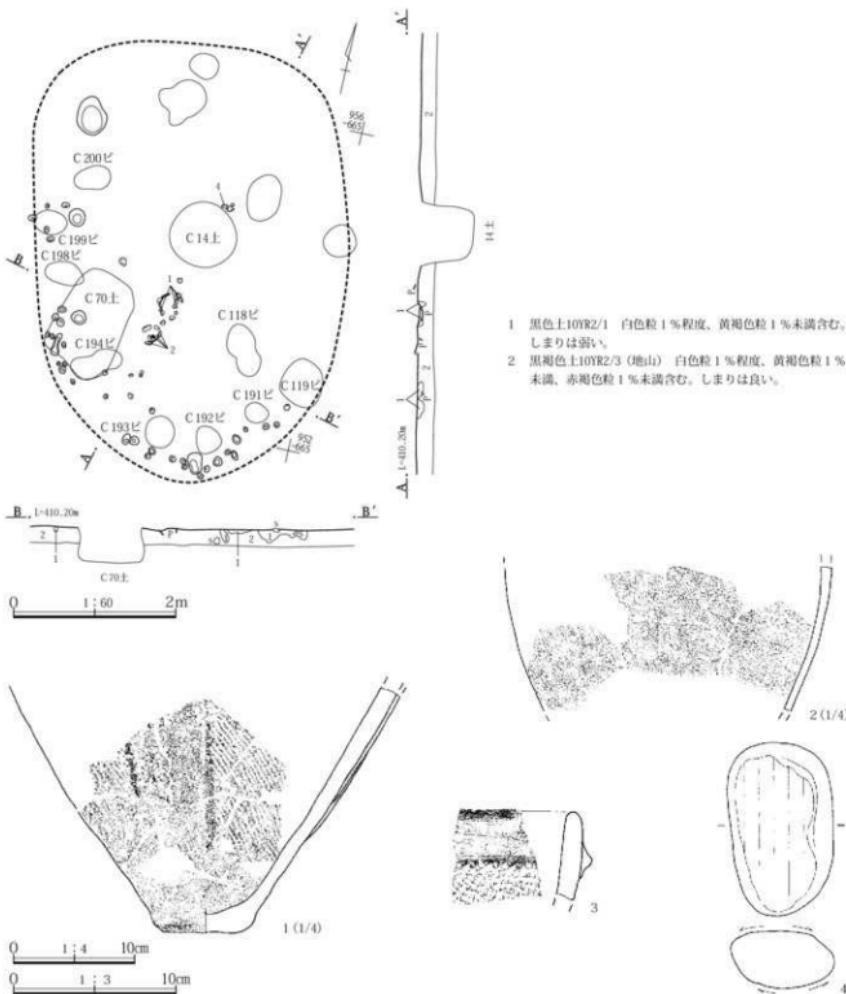
溝 土坑に壊された部分以外は全周する。幅は12~30cm、深さ 6~12cmを有する。溝内にピットが8個ある。炉中央やや北寄りに位置する。長径60cm、短径43cm、深さ3cmである。**柱穴他** P 1~P 5の5個のピットを検出



第33図 C 15号堅穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図

した。規模は、P 5 が長径54cm、短径50+cm、深さ13cmと大きいのを別にすると、P 1～P 4 までは、長径17～35cm、短径13～24cm、深さ16～20cmである。遺物土器は、前期後葉の諸磯a式が中心で、諸磯a式を4点(1～4)、早期末用の条痕文土器1点(5)、有尾式1点(6)を掲載した。非掲載土器は早期末が5点、関山II式1点、

有尾式13点、諸磯a式7点である。石器は、凹石(7)が建物北東部から出土している。上述の凹石(7)と、磨石(8)を掲載した。非掲載のものを含めると、凹石3点、磨石3点、台石1点である。時期 前期後葉の諸磯a式期に比定される。



第34図 C 9号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図

C 9号竪穴建物(第34図 P.L. 22・151)

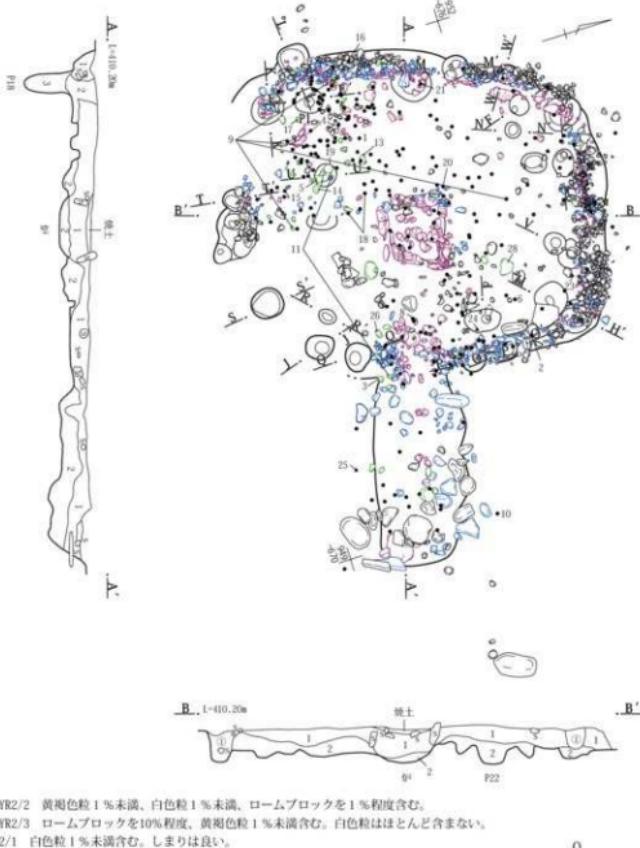
位 置 C区中央部北東側に位置する。座標値 X = 60951～60956 Y = -92664～-92698 遺存状況・重複 竪穴建物全体が調査範囲となる。後期の18号竪穴建物と重複。当建物が古い。C14、C70号土坑、P118・119・191～194、198～202重複。形 状 不明 規 模 東西(3.40)m、南北(5.40)m 長軸方向 N-15°-W 床面積 (17.922) m² 床面・壁 床面と推定される面は凹凸がある。壁は残っていない。壁際溝 確認できない。

炉 不明 柱穴他 確認できない。小ピットは南部を中

心に40個ほどある。遺 物 土器は、中央やや南で加曾利E4式が固まって出土した。3点(1～3)を掲載した。非掲載の土器は、早期条痕灰土器1点、早期末4点、有尾式6点、諸磯b式1点、中期後半32点、加曾利E3式1点、加曾利E5式13点である。石器は、中央やや北から磨石(4)が出土している。非掲載の石器も含めると磨石が2点出土している。時 期 中期後葉～末葉の加曾利E4式期に比定される。

C 11号竪穴建物(第35～38図 P.L. 23～26・151・152)

位 置 C区中央部に位置する。座標値 X = 60948～



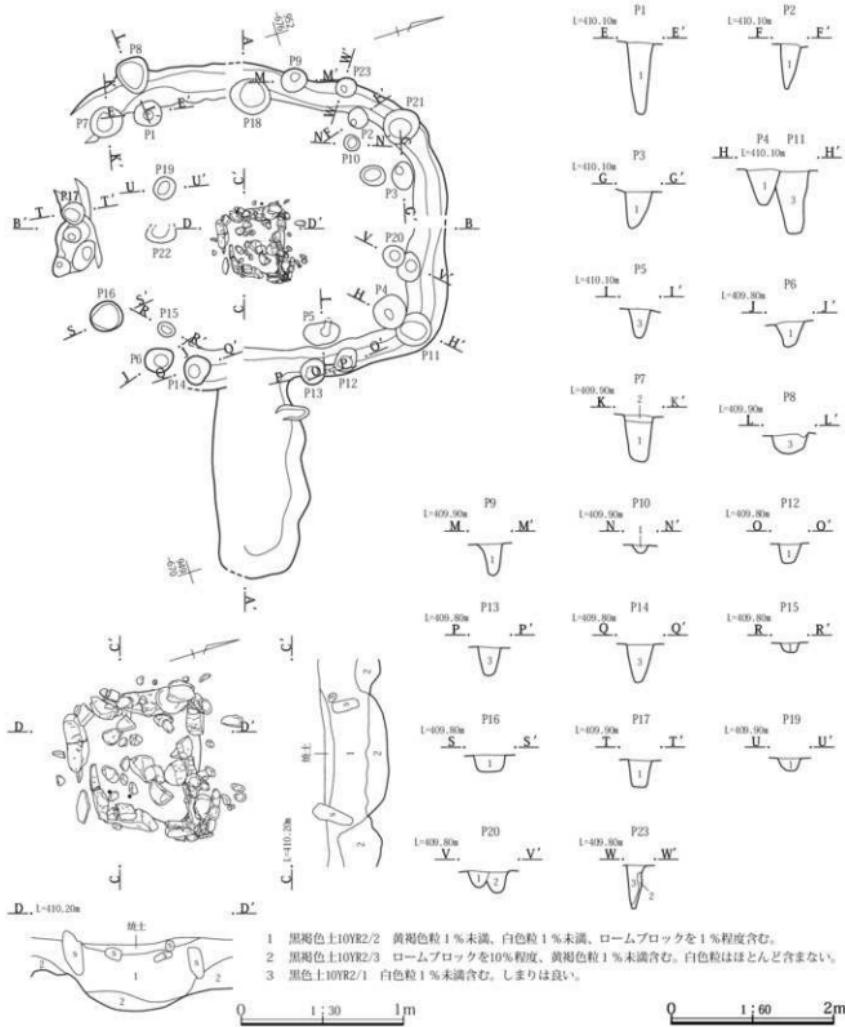
- 1 黒褐色土10VR2/2 黄褐色粒1%未満、白色粒1%未満、ロームブロックを1%程度含む。
- 2 黒褐色土10VR2/3 ロームブロックを10%程度、黄褐色粒1%未満含む。白色粒はほとんど含まない。
- 3 黒色土10YR2/1 白色粒1%未満含む。しまりは良い。
- ① 黒褐色土10YR3/2 ローム粒極少量含む。

0 1:60 2m

第35図 C 11号竪穴建物遺物出土状況図・土層断面図

60953 Y=-92669～-92676 遺存状況・重複 穹穴建物全体が調査範囲となる。後期のC 18号穹穴建物が重複する。C 18号穹穴建物が新しい。C 96～99土坑、C 359 Pが重複する。**形 状 柄鏡形 規 模** 東西6.34m、南北4.85m 長軸方向 N-73°-E 床面積 10.398m²

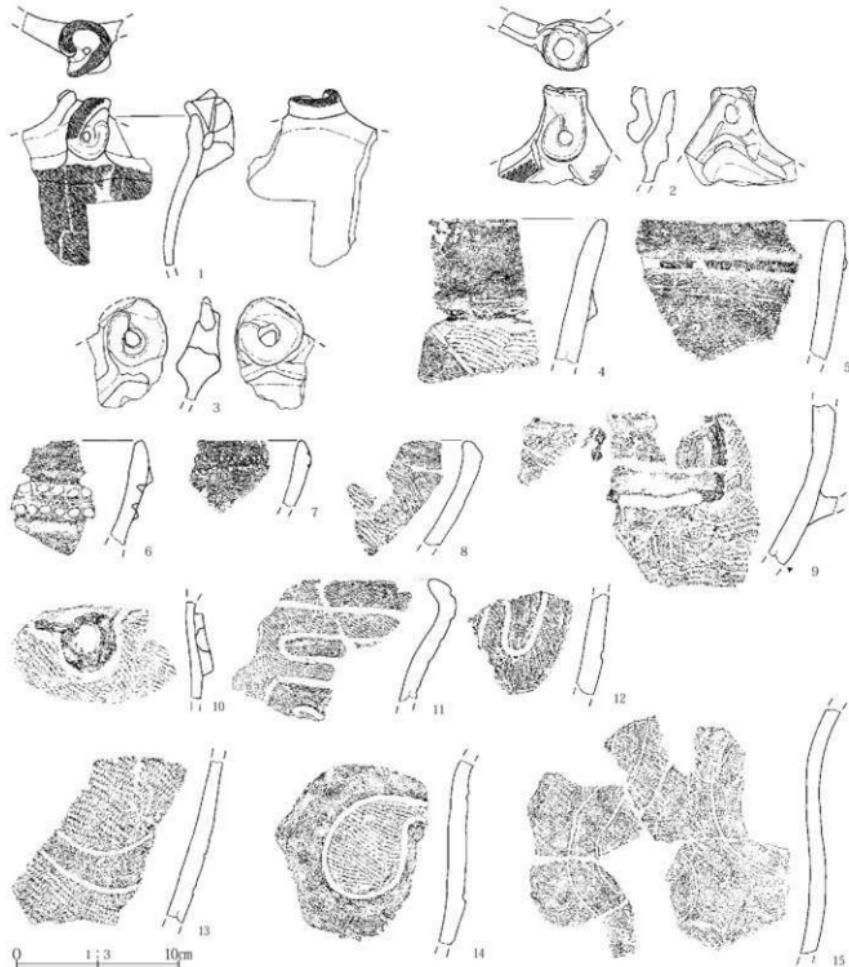
柄部加えると11.814m² **床面・壁** 床には、一部に平坦な石が置かれ、端には小砾が敷き詰められている。本来は、床面及び柄部においても平石を敷いていた可能性が高い。壁はごく一部が残る。壁最大高44cmを有する。壁際溝 石を取り除くと下から溝が出てくる。幅30～42cm。



第36図 C 11号穹穴建物平面・土層断面図・炉平断面図

深さ20~24cmである。柄部には認められ無い。炉 中央に位置する石圓炉である側石は割れているものが多いが、基本的には長30~40cm、幅10~20cmの長方形状の複数の石を四辺に据え置いて、隙間を小石で埋めている。炉の大きさは長径97cm、短径91cm、深さ6cmである。柱穴他 23個のビットが確認できた。建物本体部の壁際溝内部及び一部は溝内側にビットが位置する。ほとんどが

柱穴と推定する。P 1は長径35cm、短径31cm、深さ74cm、P 7も長径40cm、短径36cm、深さ58cmあり、他にP 11、P 14、P 18などが大型のビットである。小型で浅いビットもあり、長径21~46cm、短径18~41cm、深さ9~55cmである。遺物 遺物は、西部の本体部コーナー部(1・4・5・9・11・13~17)、石圓炉内外(18・20)、東部本体部東壁寄り(2・6・8・23・24・26・28)、柄部(3・



第37図 C11号竖穴出土遺物図1



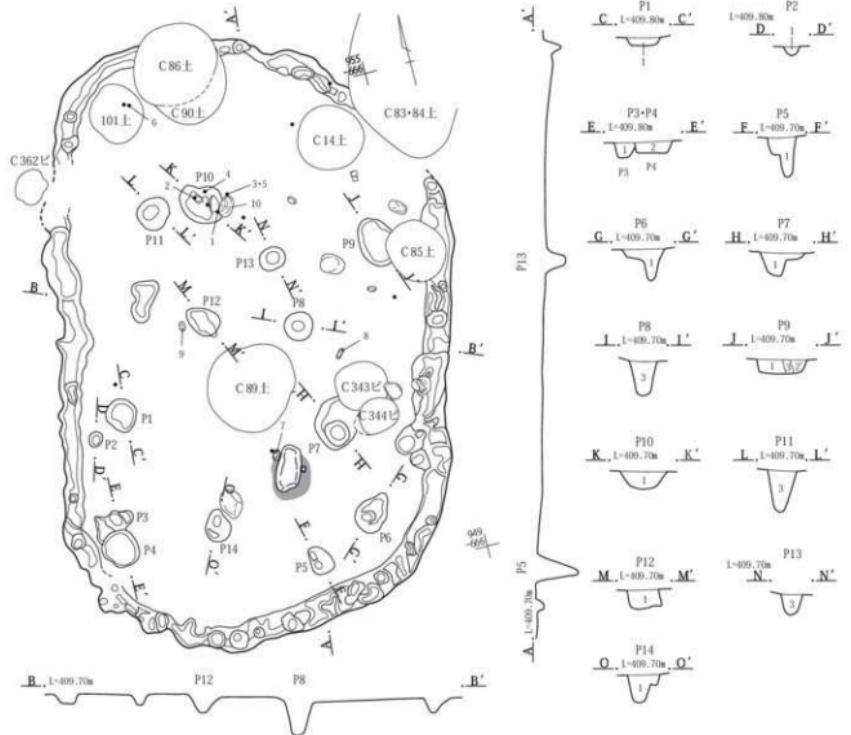
第38図 C11号竖穴建物出土遺物図2

25)に特に集中して出土している。後期称名寺I併行期のものが中心である。称名寺I式併行(1・3~7・9~11・13・16~18)、称名寺I式(2・8・12・14)、称名寺Ic式(15)、と中期末葉の加曾利E4式(19・20)を掲載した。非掲載の土器は早期末2点、前期中葉の有尾式98点、諸磯a式28点、後期初頭称名寺II式6点、加曾利E5式478点である。石器は、大量に出土した。非掲載も含めた器種別数量は石鏃が28点、石匙1点、石錐1点、楔形石器2点、打製石斧1点、磨製石斧1点、二次加工ある剝片23点、凹石2点、磨石9点、多孔石2点、石製品1点である。うち、凹基無茎鏃3点(21~23)、石

匙(24)、凹石(25)、多孔石2点(27・28)、磨石(26)、葉ろう石製の棒状石製品(29)を掲載した。時期 後期初頭の称名寺I式に比定される。

C 18号竪穴建物(第39・40図 P L. 27・152)

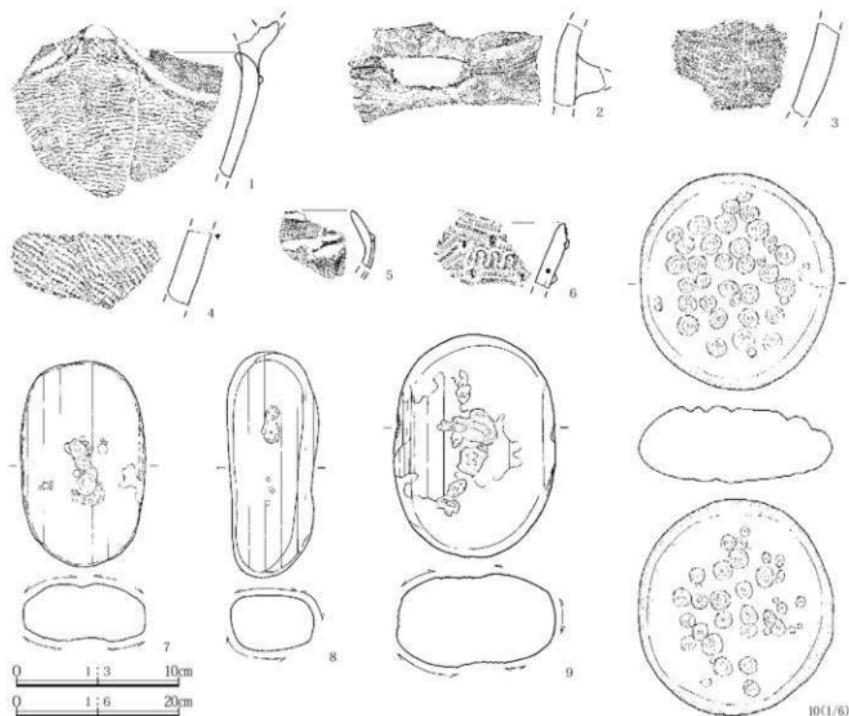
位 置 C区中央部や東側に位置する。座標値 X=60948~60956 Y=-92665~-92671 遺存状況・重複竪穴建物全体が調査範囲となる。中期中葉~後葉のC9号竪穴建物と後期初頭のC11号竪穴建物と重複する。当建物が新しい。C14・84~86・89・90号土坑、C343・344ピットが重複する。形 状 楕円形 規 模 東西7.56m、南北5.08m 長軸方向 N-12°-W 床面積



25.475m² 床面・壁 床面と推定される面は平坦である。壁はわずかに残り、最大壁高は9cmである。壁際溝ほぼ全周する。幅12~36cm、深さ12~15cmである。壁際溝には小ビットが20個ある。炉 不明 柱穴他 ピットは14個検出した。長径19~60cm、短径17~47cm、深さ11~52cmである。遺 物 土器は、P 10付近から集中して出土(1~5、10)している。中央部で磨石が2点(8、9)出土する。土器は、称名寺I式併行が中心で、5点(1~5)を掲載した。前期前葉の関山I式1点(6)も掲載した。非掲載土器は、前期中葉の有尾式5点、前期後葉の諸磯a式1点、中期後葉の加曾利E5式が15点である。石器は、非掲載の石器も含めると、打製石斧1点、凹石3点、磨石6点、台石2点、多孔石1点である。うち、凹石2点(7、9)、磨石(8)、多孔石(10)を掲載している。時 期 後期初頭の称名寺I式併行期に比定される。

C 5号竪穴建物(第41・42図 P.L. 28・29・153)

位 置 C区中央部やや西側に位置する。座標値 X = 60943~60948 Y = -92684~-92689 遺存状況・重複 竪穴建物全体が調査範囲となる。前期後葉のC 19号竪穴建物と時期不明のC 20号竪穴建物と重複する。当建物が新しい。形 状 台形 規 模 東西4.23m、南北4.43m 長軸方向 N-23°-W 床面積 14.508m² 床面・壁 床面と推定される面はやや凹凸がある。壁は四周が残り、最大壁高は39cmである。壁際溝 東・南壁際の一部に溝がある。幅11~21cm、深さ9~12cmである。溝には小ビットが伴う。炉 中央に位置し、長軸方向が東西にある不整橢円形状である。脇に石を置いている。長径113cm、短径66cm、深さ26cmである。柱穴他 ピットは小ビットも含めれば100以上はある。うち大型のピットは19個ある。長径21~80cm、短径18~41cm、深さ15~

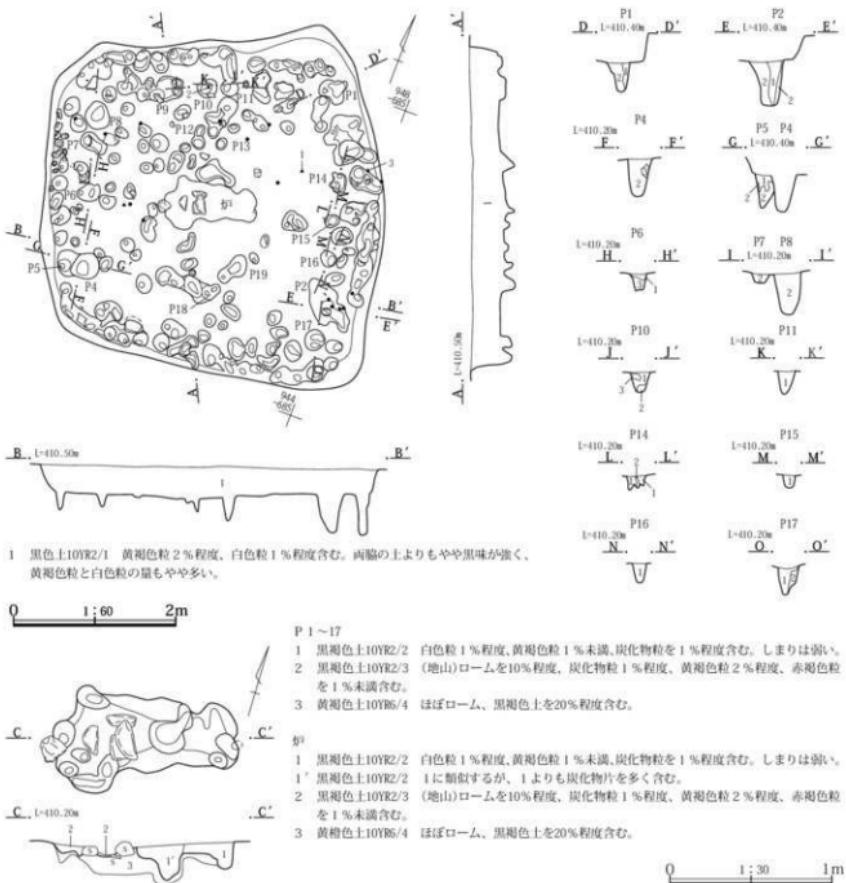


第40図 C 18号竪穴建物出土遺物

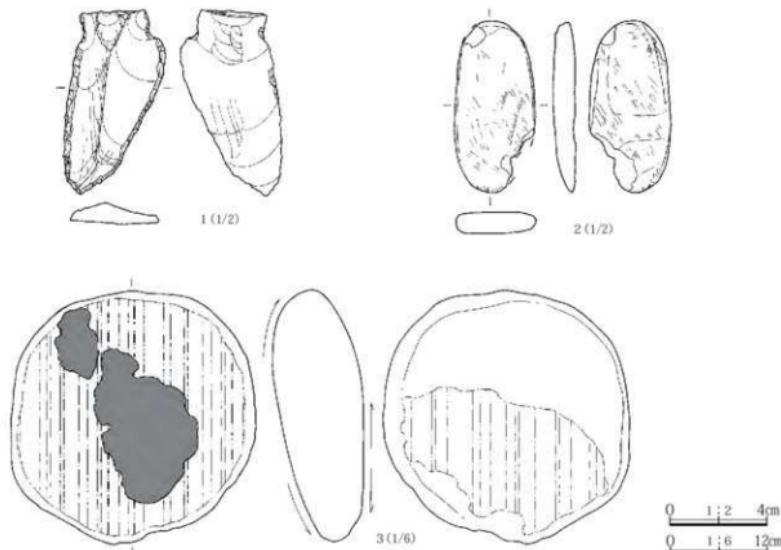
55cmの規模である。遺物 土器は出土が無い。石器は多数出土している。非掲載の石器も含めると石鏃2点、石匙2点、楔形石器、石核3点、二次加工剥片3点、石皿、石製品が出土している。うち、石匙(1)、石皿(3)、変質蛇紋岩製の石製品(2)を掲載している。時期 不明である。

D27号竪穴建物(第43図 P L. 30・153)

位置 D区東南部、南壁に近い。座標値 X=60973
~60978 Y=-92514~-92524 遺存状況・重複 竪穴



第41図 C 5号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・炉平面図



第42図 C5号竪穴建物出土遺物図

不明である。

C7号竪穴建物(第44図P L. 31)

位 置 C区東南部南壁近くに位置する。座標値 X = 60938~60945 Y = -92693~-92698 遺存状況・重複 竪穴建物全体が調査範囲となる。早期中葉のC6号竪穴建物と古代のC3号竪穴建物と重複する。当建物は、C6号建物より新しくC3号建物より古い。また、早期のC19・23号土坑及び時期不明のC29号土坑と重複する。形 状 長方形 規 模 東西4.45m、南北5.90m 長軸方向 N-25°-E 床面積 14.243m² 床面・壁 壁はほとんど残らない。壁際溝 四周に壁際溝がある可能性がある。幅11~36cm、深さ6~12cmである。溝には小ピットが伴う。炉 不明である。柱穴他 北部にP1~4のピットが検出できた。長径24~32cm、短径19~25cm、深さ19~20cmである。遺 物 土器・石器ともに出土が無い。時 期 不明である。

C20号竪穴建物(第45図P L. 32)

位 置 C区中央やや西に位置する。座標値 X = 60944~60947 Y = -92688~-92691 遺存状況・重複 竪穴建物北西部が調査範囲となる。縄文時代時期不明の

C5号竪穴建物重複している。C20号竪穴建物のはうが古い。形 状 円円長方形 規 模 東西3.28m、南北2.50m 長軸方向 N-55°-W 床面積 3.078m² 床面・壁 床面はほぼ平坦である。壁際溝 全周すると想定される。幅18~24cm、深14~24cmである。小ピットが壁際溝内に24個以上確認された。炉 不明。柱穴他 壁際内に小ピットが確認されたのみである。遺 物 土器・石器ともに出土遺物が無い。時 期 不明である。

D28号竪穴建物(第46図P L. 32)

位 置 D区中央部やや東に位置する。座標値 X = 60977~60981 Y = -92544~-92548 遺存状況・重複 竪穴建物全体が調査範囲となる。D208号土坑、D520~532、534~536号ピットと重複 形 状 円形 規 模 径4.10m 床面積 10.44m² 床面・壁 床面はほぼ平坦である。壁際溝 一部途切れるもほぼ全周する。幅15~30cm、深7.3~12cmである。小ピットが壁際溝内に3個確認された。炉 不明。柱穴他 なし。遺 物 土器・石器ともに出土遺物が無い。時 期 不明である。

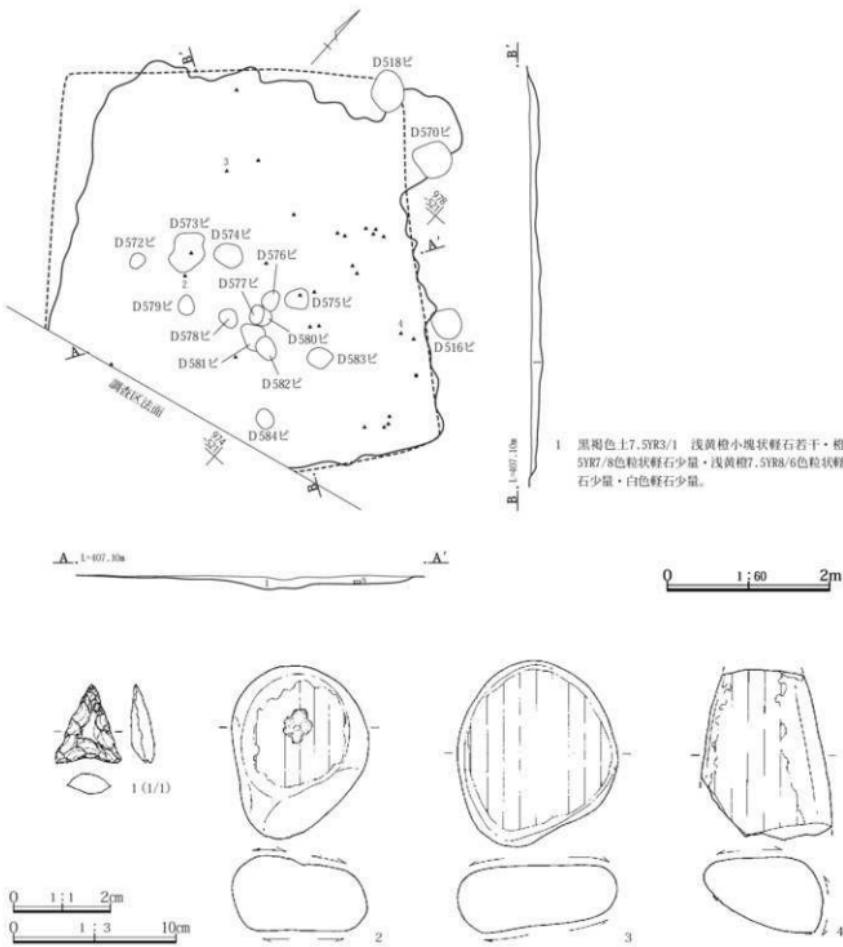
D34号竪穴建物(第47図P L. 33)

位 置 D区東部中央に位置する。座標値 X = 60987

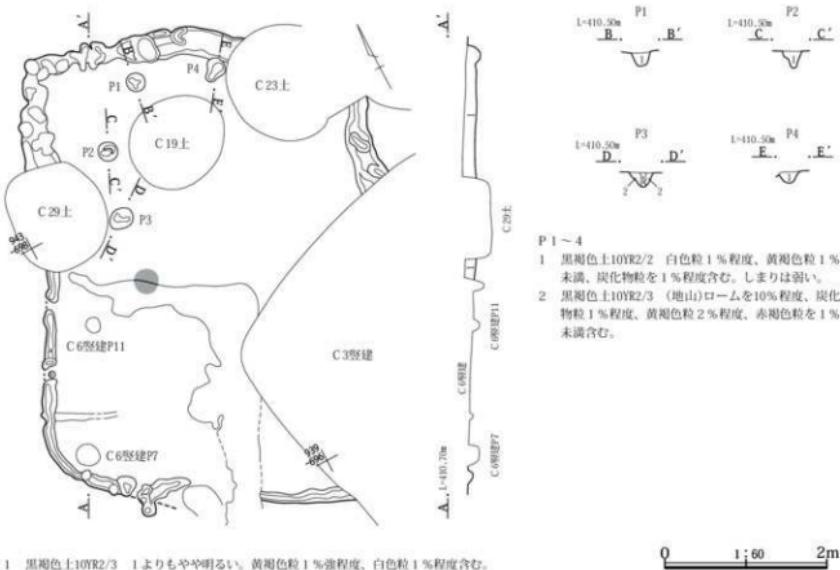
~60992 Y = -92527~-92532 遺存状況・重複 堅穴建物全体が調査範囲となる。D134号土坑と重複形狀 圓円方形 規 模 東西(5.20m)、南北(5.10)

m 長軸方向 N-11°-W 床面積 (27.927m²) 床面・壁 床面はほぼ平坦である。壁際溝 確認できない。炉 不明。柱穴他 小ピットが、想定壁内部から25

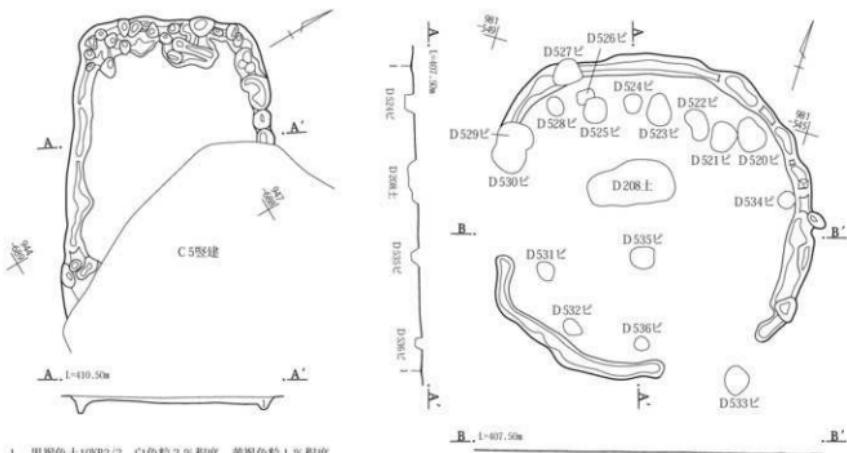
個検出された。長径15~50cm、短径15~43cm、深さ3~29cmである。遺 物 土器・石器ともに出土遺物が無い。時 期 不明である。



第43図 D27号堅穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図

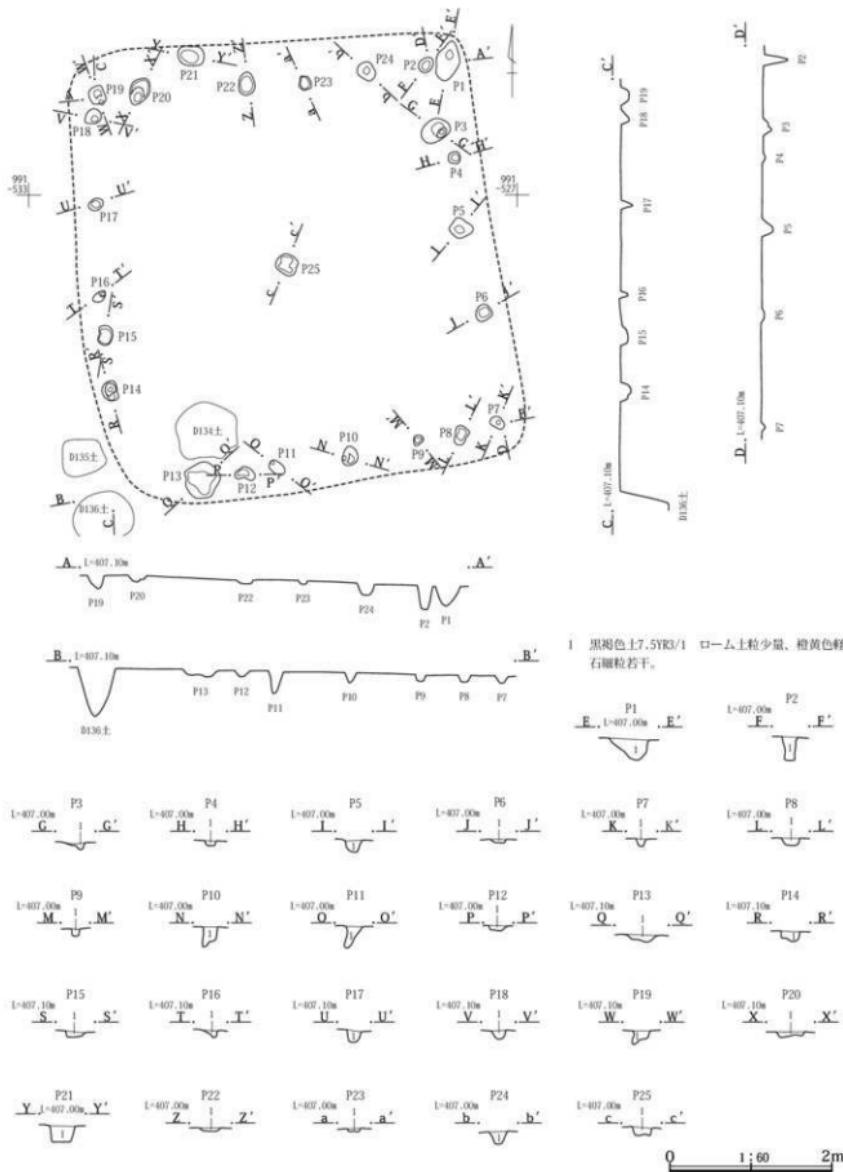


第44図 C 7号竪穴建物平面図・土層断面図



第45図 C 20号竪穴建物平面図・土層断面図

第46図 D 28号竪穴建物平面図・土層断面図



第47図 D34号竪穴建物平面図・土層断面図

竪穴状遺構

D 2号竪穴状遺構(第48図P L. 34・153)

位 置 D区西部中央に位置する。座標値 X=60960～60964 Y=-92623～-92626 遺存状況・重複 竪穴状遺構全体が調査範囲となる。形 状 圓円長方形 規 模 東西3.50m、南北3.85m 床面積 9.324m² 床面・壁 床面はほぼ平坦である。炉 不明 柱穴他 なし。遺 物 中央部に棒状の自然縄を2個置いている。土器の出土は無い。石器は、非掲載石器も含めると石鏃1点、磨石2点、敲石2点が出土した。うち、凹基無茎石鏃(1)、敲石(2)を掲載した。時 期 不明である。

土坑群

土坑群はC区、D区全体に分布している。ただし、時期により分布の中心は移動する。早期の土坑はC区西側の早期の6号竪穴建物の東側周辺に3基が位置し、D区中央に3基が集中する。またD区東の早期26号竪穴建物の東に1基ある。前期になると前期8・13・15・16号竪穴建物が集中するC区西側から連続するD区の前期29・30・32・33号竪穴建物がある西側にかけて48基が併存する。中期になると激減する。C区中央の中前期9・41号竪

穴建物付近に2基、後期も引き続き少なく18号竪穴建物内に1基、D区西側に1基ある。時期不明の土坑はC・D区全体に分布する。以下時期別に記述する。

ただし、重複する土坑をまとめて紹介する場合は、時期を前後して記述する場合がある。時期不明の土坑は一括してまとめて記述し、最後にグリッドや地区別などの遺物を紹介する。

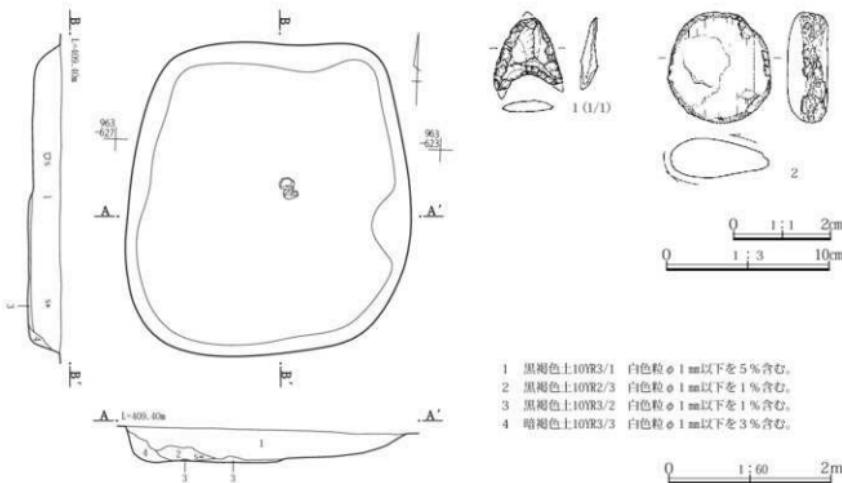
早期土坑

D117号土坑(第49・71図P L. 35・153)

位 置 D区東南端部に位置する。座標値 X=60979～60982 Y=-92503～-92505 遺存状況・重複 ほぼ完存。長方形の新しい土坑が深く掘りこめられている。形 状 不整形。規 模 長径279cm、短径245cm、深さ86cm 長軸方向 N-27°-W 遺物・年代 早期中葉田戸下層式(第71図1)が出土している。

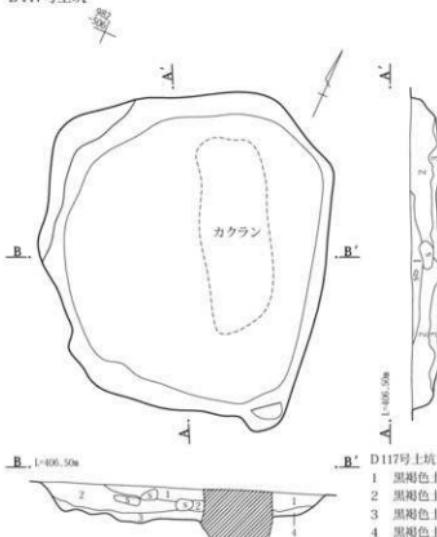
C19号土坑(第49・71図P L. 35・153)

位 置 C区西南部に位置する。座標値 X=60942・60943 Y=-92692・-92693 遺存状況・重複 完存。形 状 円形袋状土坑である。規 模 長径124cm、短径110cm、深さ101cm 長軸方向 N-77°-E 遺物・年代 早期後葉鶴ヶ島式(第71図2)、磨石(第71図3)が

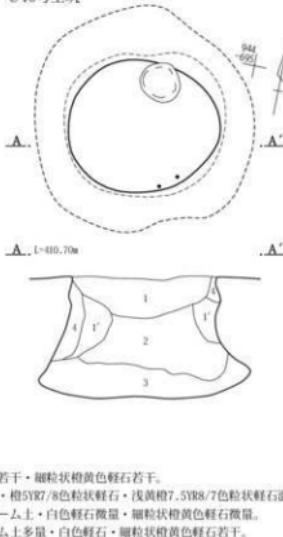


第48図 D 2号竪穴状遺構平面・土層断面図・出土遺物図

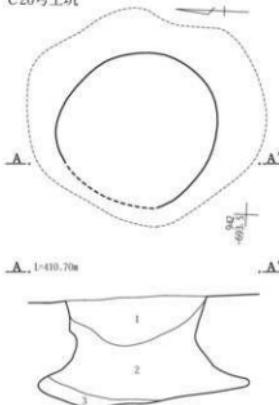
D117号土坑



C19号土坑



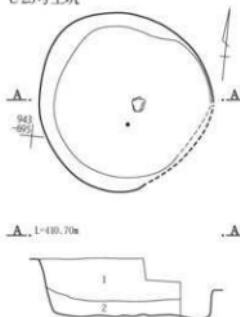
C20号土坑



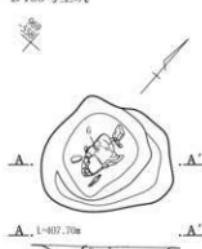
C19・20号土坑

- 1 黒褐色土7.5YR3/1 黄褐色色粒若干・細粒状根黄色輕石若干。
- 1' 1に類似するが、1よりもやや黒味が強い。
- 2 黒褐色土7.5YR3/1 白色輕石・根7.5YR7/8色粒状根石・浅黃橙7.5YR8/7色粒状根石混入。
- 3 黑褐色土7.5YR3/1 小塊状ローム上・白色輕石微量・細粒状根黄色輕石微量。
- 4 黑褐色土7.5YR3/1 粒状ローム土多量・白色輕石・細粒状根黄色輕石若干。

C23号土坑



D153号土坑



C23号土坑

- 1 黒色土10YR2/1 黄褐色色粒2%程度、白色粒1%程度含む。しまりは良い。
- 2 黑褐色土10YR2/2 ロームブロック溶混を10%程度、黄褐色色粒2%程度、白色粒1%強含む。しまりは1よりも弱い。

D153号土坑

- 1 黑褐色土7.5YR3/1 白色輕石微量、塊状ローム上・浅黃橙色粒状輕石少量。粒状ローム土若干。

0 1:40 1m

第49図 C19・20・23、D117・153号土坑平面・遺物出土状況図・土層断面図

出土している。

C20号土坑(第49・71図P L. 35・153)

位 置 C区西南部に位置する。座標値 X=60942・60943 Y=-92692・-92693 遺存状況・重複 完存。形 状 楕円形袋状土坑である。規 模 長径1.34cm、短径1.27cm、深さ92cm 遺物・年代 早期後葉鶴ヶ島台式(第71図4)を提示する。他に早期条痕文系土器7点出土している。

C23号土坑(第49・71図P L. 35・153)

位 置 C区西南部に位置する。座標値 X=60942・60943 Y=-92693・-92694 遺存状況・重複 完存。形 状 円形 規 模 長径148cm、短径143cm、深さ27cm 遺物・年代 早期後葉鶴ヶ島台式(第71図5)が出土している。

D153号土坑(第49・71図P L. 35・153)

位 置 D区中央南部に位置する。座標値 X=60968・60969 Y=-92556・-92557 遺存状況・重複 完存。形 状 不整形 規 模 長径170cm、短径96cm、深さ17cm 長軸方向 N-73°-E 遺物・年代 早期後葉土器(第71図6)の大型破片が出土している。他に早期後葉条痕文系土器が19点出土している。

D180号土坑(第50・71図P L. 35・153)

位 置 D区中央北部に位置する。座標値 X=60975・60976 Y=-92572・-92573 遺存状況・重複 完存。形 状 円形 規 模 長径118cm、短径97cm、深さ50cm 長軸方向 N-30°-W 遺物・年代 早期後葉の条痕文系土器(第71図7・8)2点が出土している。

D188号土坑(第50・71図P L. 35・153)

位 置 D区中央北部に位置する。座標値 X=60975・60976 Y=-92574・-92575 遺存状況・重複 D121・213号土坑、D539号ピットと重複。形 状 円形 規 模 長径137cm、短径115cm、深さ65cm 長軸方向 N-55°-E 遺物・年代 早期後葉の条痕文系土器(第71図9)が出土している。

D212号土坑(第50図P L. 35)

位 置 D区中央北部に位置する。座標値 X=60975・60976 Y=-92573・-92574 遺存状況・重複 D188・213号土坑、D539号ピットと重複。形 状 円形 規 模 長径121cm、短径113cm、深さ43cm 長軸方向 N-88°-E 遺物・年代 遺物出土なく、時期不明

D213号土坑(第50図P L. 35)

位 置 D区中央北部に位置する。座標値 X=60974・60975 Y=-92573～-92575 遺存状況・重複 D188・212号土坑、D539号ピットと重複。形 状 不明 規 模 長径172+cm、短91+cm、深さ29cm 長軸方向 N-77°-E 遺物・年代 遺物出土なく、時期不明

C74号土坑(第50・71図P L. 36・153)

位 置 C区中央部に位置する。座標値 X=60950・60951 Y=-92658・-92659 遺存状況・重複 C15号竪穴建物、C74号土坑と重複。形 状 不整形 規 模 長径136cm、短114+cm、深さ25cm 長軸方向 不明 遺物・年代 繩文前期中葉有尾式土器2点出土する。

C78号土坑(第50・80図P L. 36・160)

位 置 C区中央部に位置する。座標値 X=60950～60952 Y=-92678～-92680 遺存状況・重複 C15号竪穴建物、C78号土坑と重複。形 状 円形 規 模 長径195cm、短182cm、深さ65cm 長軸方向 N-70°-E 遺物・年代 繩文早期後葉鶴ヶ島台式土器1点出土する。

C 5号土坑(第50・71図P L. 35・153)

位 置 C区中央や西北部に位置する。座標値 X=60952・60953 Y=-92688・-92689 遺存状況・重複 完存。形 状 楕円形 規 模 長径195cm、短径176cm、深さ38cm 長軸方向 N-19°-E 遺物・年代 繩文早期後葉鶴ヶ島台式土器(第71図12)、前期中葉有尾式土器(第71図13)が出土する。繩文早期後葉に比定される。

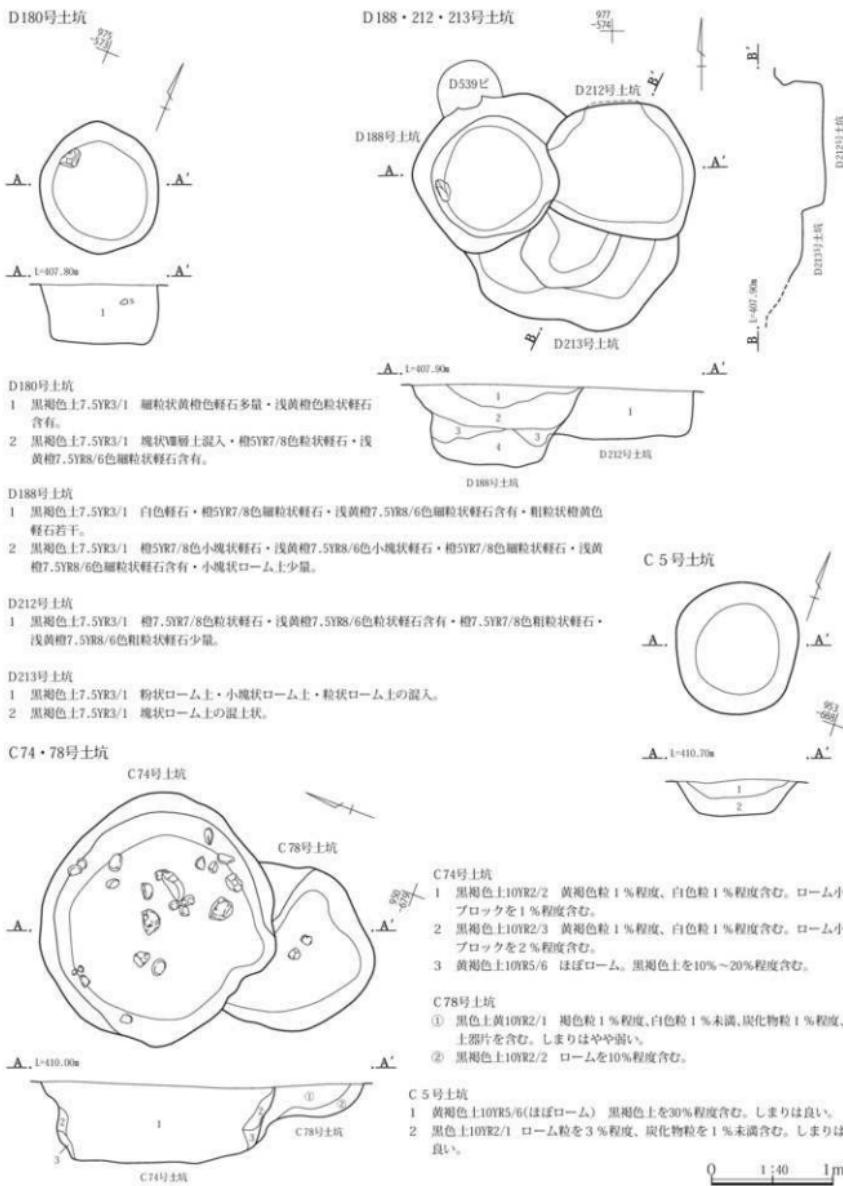
C25号土坑(第51・71図P L. 36・153)

位 置 C区西南部に位置する。座標値 X=60941・60942 Y=-92698・-92699 遺存状況・重複 完存。形 状 円形 袋状 規 模 長径116cm、短径1156cm、深さ79cm 遺物・年代 早期末葉の土器(第71図14)を出土する。早期末葉に比定される。

前期土坑

D119号土坑(第51・71図P L. 36・153) **位 置** D区西北部に位置する。座標値 X=60980～60982 Y=-92592～-92575 遺存状況・重複 完存。形 状 楕円長方形 規 模 長径292cm、短径148cm、深さ73cm 遺物・年代 前期前葉の土器(第71図15)を出土する。前期前葉に比定される。

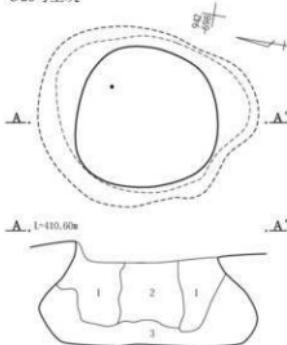
D249号土坑(第51・71図P L. 36・153)



第50図 C 5・74・78、D 180・188・212・213号土坑平面図・土層断面図

第5章 発見された遺構と遺物

C25号土坑



C25号土坑

- 1 黒褐色土10YR2/2 黄褐色土2%、白色粒1%強。ロームブロックを10%程度含む。
- 2 暗褐色土10YR2/3 黄褐色土2%弱。白色粒はほとんど含まない。しまりは弱い。粘性有り。
- 3 にふい黄褐色土10YR4/3 ほぼローム。黒褐色土を10%程度含む。黄褐色土を1%程度含む。しまりは悪い。粘性有り。

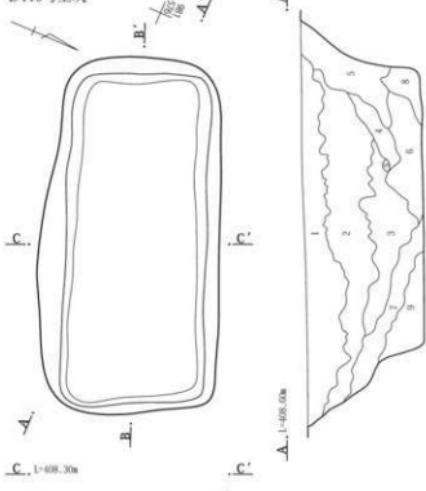
D119号土坑

- 1 黒色土10YR2/1 白色軽石含有・細粒状粗黄色軽石少量。
- 2 黒色土10YR2/1 白色軽石・細粒状粗黄色軽石若干。
- 3 黑褐色土10YR3/1 白色軽石微量・細粒状粗黄色軽石極微量。
- 4 黑褐色土10YR3/1 粒状炭化物多量。
- 5 黑褐色土10YR3/1 粗粒状粗黄色軽石若干・白色軽石微量。
- 6 黑褐色土10YR3/1 小粒状ローム上・粗粒状ローム上混入・塊状VI層土含有。
- 7 黑褐色土10YR3/1 塊状VI層土斑状・白色軽石・細粒状粗黄色軽石微量。
- 8 黑褐色土10YR3/1 粒状ローム土多量。
- 9 黑褐色土10YR3/1 塊状ローム土少量・塊状VI層土含有。

D249号土坑

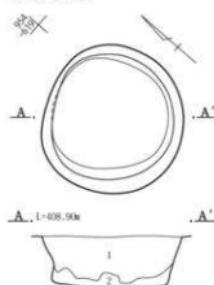
- 1 黑褐色土10YR3/1 黄褐色土φ2~5mmを3%含む。D244号土坑の1層と同じだがやや暗色。
- 2 にふい黄褐色土10YR4/3 黄褐色土φ3~5mmを1%含む。

D119号土坑

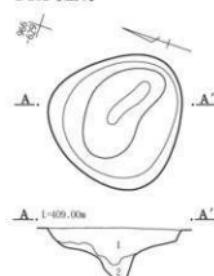


D249号土坑

D249号土坑



D262号土坑



D262号土坑

- 1 黑褐色土10YR3/1 黄褐色土φ3~5mmを5%含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックφ10~30mmを10%含む。

0 1:40 1m

第51図 C 25、D 119・249・262号土坑平面図・土層断面図

位 置 D区西南部に位置する。座標値 X=60952・60953 Y=-92618・-92619 遺存状況・重複 D280号土坑と重複 形 状 円形 規 模 長径123cm、短径116cm、深さ47cm 遺物・年代 前期前葉二ツ木式土器(第71図16)が出土する。他に黒浜式土器が1点出土する。前期前葉に比定される。

D262号土坑(第51・71図P L. 36・153)

位 置 D区西北部に位置する。座標値 X=60964・60965 Y=-92628～-92630 遺存状況・重複 完存。形 状 不整形、中央にやや深く窪む。規 模 長径113cm、短径108cm、深さ38cm 長軸方向 N-72°-W 遺物・年代 前期前葉二ツ木式土器(第71図17)が出土する。前期前葉に比定される。

D269号土坑(第52・71図P L. 36・153)

位 置 D区西北部に位置する。座標値 X=60963・60964 Y=-92633・-92634 遺存状況・重複 完存。形 状 楕円形 規 模 長径130cm、短径110cm、深さ23cm 長軸方向 N-27°-W 遺物・年代 前期前葉二ツ木式土器(第71図18)を掲載する。他に前期前葉の土器6点出土している。前期前葉に比定される。

D257号土坑(第52・72図P L. 36・153)

位 置 D区西南部に位置する。座標値 X=60955・60956 Y=-92617 遺存状況・重複 約半分遺存。形 状 不明 規 模 長径86cm、短径38cm、深さ44cm 遺物・年代 前期前葉関山I式土器(第72図19)を掲載する。他に関山II式が1点出土する。前期前葉に比定される。

C89号土坑(第52・72図P L. 37・154)

位 置 C区中央やや東に位置する。座標値 X=60951・60952 Y=-92677・-92668 遺存状況・重複 完存。C18号竪穴建物と重複。形 状 不整円形 規 模 長径113cm、短径109cm、深さ38cm 遺物・年代 前期前葉関山II式(第72図20・21)、前期中葉有尾式(第72図22)が出土する。前期前葉に比定される。

D243号土坑(第52・72図P L. 37・154)

位 置 D区西部中央に位置する。座標値 X=60960・60961 Y=-92628・-92629 遺存状況・重複 完存。形 状 円形 規 模 径102cm、深さ23cm 遺物・年代 前期前葉関山II式(第72図24)、前期中葉黒浜式(第72図23)を掲載する。他に3点の黒浜式土器が出土

している。前期中葉に比定される。

C66号土坑(第52・72図P L. 37)

位 置 C区東部中央に位置する。座標値 X=60952 Y=-92658・-92659 遺存状況・重複 完存。形 状 楕円形 規 模 長径111cm、短径71cm、深さ41cm 長軸方向 N-53°-E 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第72図25)が出土する。前期中葉に比定される。

C48号土坑(第52・72図P L. 37・154)

位 置 C区中央部南に位置する。座標値 X=60944・60945 Y=-92671・-92672 遺存状況・重複 完存。形 状 円形 規 模 長径85cm、短径79cm、深さ60cm 長軸方向 N-42°-W 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第72図26・27)を掲載する。他に関山I式1点が出土した。流紋岩製の磨石(第72図28)、変玄武岩製の敲石(第72図29)も出土している。前期中葉に比定される。

C59号土坑(第52・72図P L. 37・154)

位 置 C区東北部に位置する。座標値 X=60956・60957 Y=-92657 遺存状況・重複 完存。形 状 不整形 規 模 長径92cm、短径69cm、深さ26cm 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第72図30)を掲載する。他に関山I式1点が出土した。粗粒輝石安山岩製の磨石(第72図31)も出土している。前期中葉に比定される。

C77号土坑(第52・72図P L. 37・154)

位 置 C区西部中央に位置する。座標値 X=60950・60951 Y=-92688・-92689 遺存状況・重複 完存。C16号竪穴建物と重複 形 状 円形 規 模 長径104cm、短径100cm、深さ40cm 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第72図32)が出土する。前期中葉に比定される。

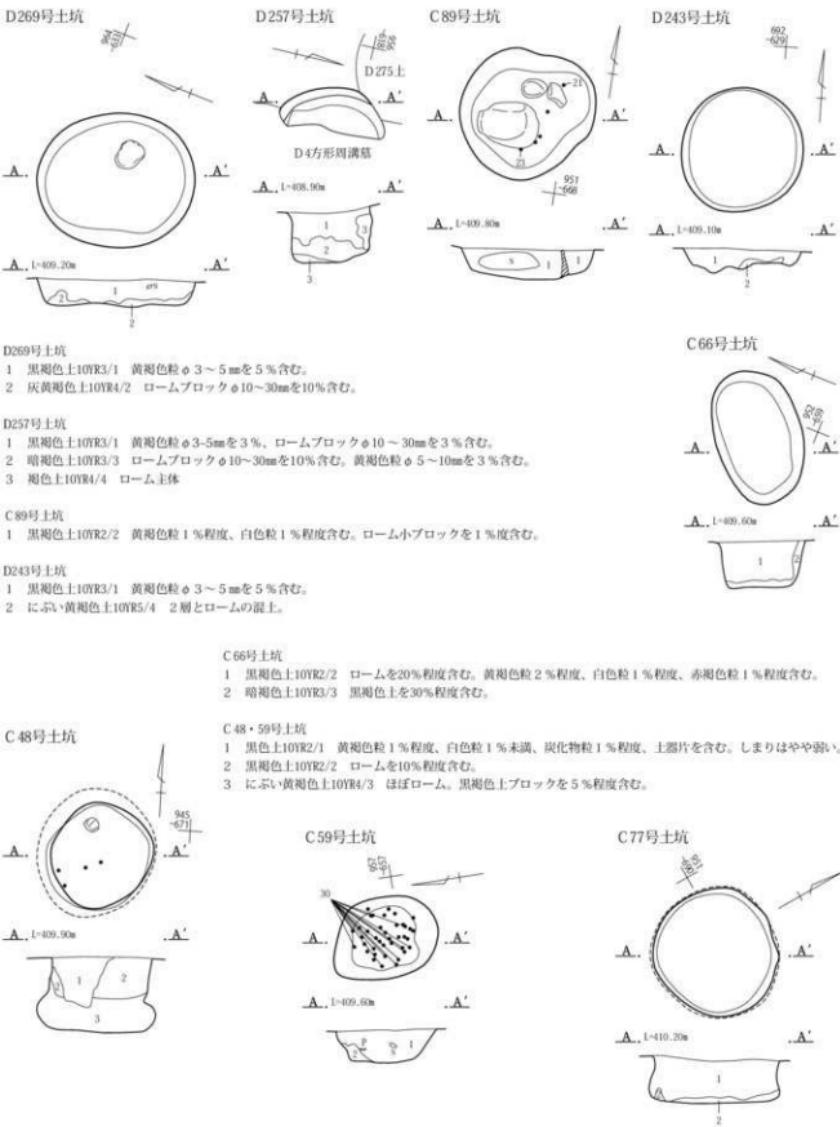
D125号土坑(第53・72図P L. 38・154)

位 置 D区中央部に位置する。座標値 X=60956・60957 Y=-92590・-92591 遺存状況・重複 完存。形 状 楕円形 規 模 長径120cm、短径81cm、深さ17cm 長軸方向 N-87°-W 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第72図33)が出土する。前期中葉に比定される。

D215号土坑(第53・72図P L. 38・154)

位 置 D区西南部に位置する。座標値 X=60968・60969 Y=-92589・-92590 遺存状況・重複 完存。形 状 円形 規 模 長径114cm、短径108cm、深さ41

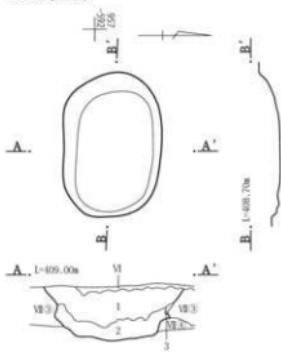
第5章 発見された遺構と遺物



0 1:40 1m

第52図 C 48・59・66・77、D243・257・C 269号土坑平面・遺物出土状況図・土層断面図

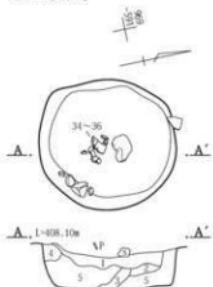
D125号土坑



D125号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/1 粒状白色軽石少量・粒状黄褐色石極微量。
- 2 黒褐色土10YR3/1 粒状黄褐色石若干・微粒状白色軽石微量。
- 3 黑褐色土10YR3/1 粒状黄褐色軽石多量。

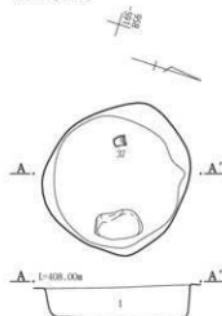
D215号土坑



D215号土坑

- 1 黒褐色土7.5YR4/1 磚(φ10m)少量化。
- 2 黒褐色土7.5YR3/1
- 3 黒褐色土7.5YR3/1 ローム上20%含む。
- 4 暗灰黄色土2.5Y5/2 ローム上8%含む。
- 5 黑褐色土7.5YR3/1 ローム上5%含む。

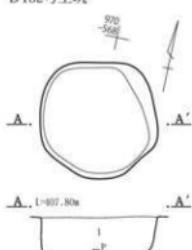
D218号土坑



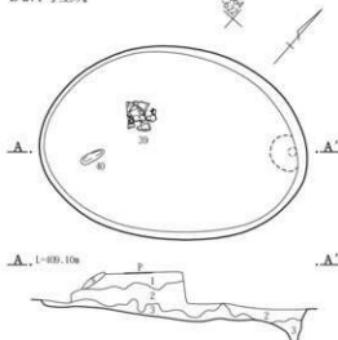
D218号土坑

- 1 黒褐色土10YR2/3 ローム粒φ5mm以下を5%程度含む。しまり強。粘性弱。

D182号土坑



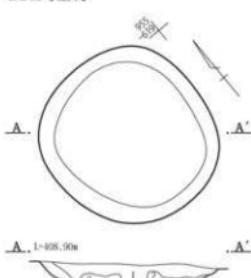
D271号土坑



D232号土坑



D248号土坑



D182号土坑

- 1 黒褐色土7.5YR3/1 植5YR7/8色粒状軽石・浅黃褐7.5YR8/6色粒状軽石少量・浅黃褐粗粒状～小塊状若干・粒状炭化物含有。

D271号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/1 白色粒φ1mm大を3%含む。
- 2 黒褐色土10YR3/1 黄褐色粒φ3～5mmを5%含む。
- 3 灰黃褐色土10YR4/2 ロームブロックφ10～30mmを10%含む。

D232号土坑

- 1 黒褐色土10YR2/2 ロームブロックφ30mm以下を5%、ローム粒φ5mm以下を5%程度含む。しまり有。粘性弱。

D248号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/1 黄褐色粒φ3～5mmを5%含む。
- 2 灰黃褐色土10YR4/2 ロームブロックφ10～30mmを10%含む。

0 1:40 1m

第53図 D125・182・215・218・232・248・271号土坑平面・遺物出土状況図・土層断面図

第5章 発見された遺構と遺物

cm 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第72図34~36)が出土する。他に早期後葉の条痕文系土器、有尾式土器3点が出土している。前期中葉に比定される。

D218号土坑(第53・72図P L. 38・154)

位置 D区西南部に位置する。座標値 X = 60957・60958 Y = -92589・-92590 遺存状況・重複 完存。

形状 円形 規模 長径125cm、短径113cm、深さ32cm 長軸方向 N-90° 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第72図37)が出土する。他に黒浜式土器が5点出土した。前期中葉に比定される。

D182号土坑(第53・73図P L. 38・154)

位置 D区中央部に位置する。座標値 X = 60968・60969 Y = -92567・-92568 遺存状況・重複 完存。

形状 円形 規模 長径97cm、短径95cm、深さ34cm 長軸方向 N-77°-E 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第73図38)を掲載する。他に黒浜式土器が2点出土した。前期中葉に比定される。

D271号土坑(第53・73図P L. 38・154)

位置 D区西部中央に位置する。座標値 X = 60961～60963 Y = -92620～-92622 遺存状況・重複 完存。

形状 楕円形 規模 長径220cm、短径158cm、深さ16cm 長軸方向 N-45°-E 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第73図39)、刃部が良く研磨された磨製石斧(第73図40)が出土した。前期中葉に比定される。

D232号土坑(第53・73図P L. 38・154)

位置 D区西北部に位置する。座標値 X = 60970・60971 Y = -92605・-92606 遺存状況・重複 完存。

形状 不整形 規模 長径126cm、短径115cm、深さ17cm 長軸方向 N-21°-W 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第73図41)を提示した。他に黒浜式土器1点が出土した。前期中葉に比定される。

D248号土坑(第53・73図P L. 39・154)

位置 D区南西部に位置する。座標値 X = 60953～60955 Y = -92619・-92620 遺存状況・重複 完存。

形状 楕円形 規模 長径144cm、短径135cm、深さ19cm 長軸方向 N-0° 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第73図42)を提示した。他に3点の黒浜式土器が出土している。前期中葉に比定される。

D283号土坑(第54・73図P L. 39・154)

位置 D区西端部中央に位置する。座標値 X =

60957～60958 Y = -92636・-92637 遺存状況・重複 完存。形状 円形 規模 長径102cm、短径98cm、深さ14cm 長軸方向 N-0° 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第73図43)が出土した。他に1点の黒浜式土器が出土した。石器は磨石・台石2点(第73図44)、礫石器片・石皿(第73図45)が出土している。前期中葉に比定される。

D199号土坑(第54・73図P L. 39・155)

位置 D区中央やや西に位置する。座標値 X = 60967・60968 Y = -92581・-92583 遺存状況・重複 完存。形状 不整形 規模 長径128cm、短径127cm、深さ46cm 長軸方向 N-5°-W 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第73図46・47)、大木6式((第73図48)を提示した。他に黒浜式土器9点が出土している。前期中葉に比定される。

D274号土坑(第54・74図P L. 39・155)

位置 D区西北部に位置する。座標値 X = 60968・60969 Y = -92613・-92614 遺存状況・重複 完存。

形状 円形 規模 径144cm、深さ70cm 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(49～58)、有尾式(59)、前期後葉の諸磯b式土器(60)が出土した。石器は磨製石斧(61)、凹石、礫片4点が出土している。前期中葉に比定される。

C97号土坑(第54・74図P L. 39・155)

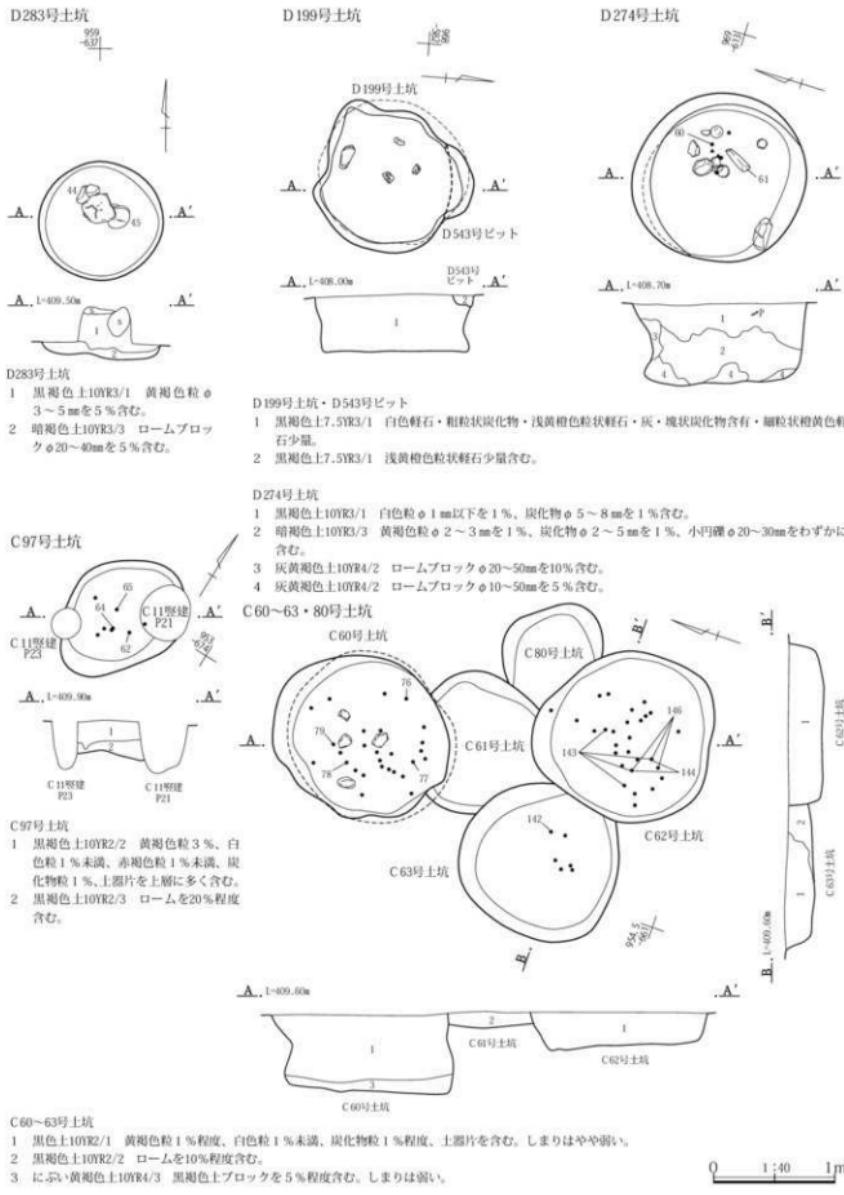
位置 C区中央やや北に位置する。座標値 X = 60952・60953 Y = -92674・-92675 遺存状況・重複 完存。形状 不整形 規模 長径115cm、短径90cm、深さ20cm 長軸方向 N-60°-E 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第74図62・63)、前期後葉諸磯a式土器(第74図64・65)が出土した。石器は磨石(66)が出土した。前期中葉に比定される。

C60号土坑(第54・75図P L. 39・156)

位置 C区東北部に位置する。座標値 X = 60956・60957 Y = -92659・-92660 遺存状況・重複 完存。

C61号土坑と重複 形状 不整形 規模 長径150cm、短径133cm、深さ61cm 遺物・年代 前期前葉関山II式土器(第75図79)、前期中葉有尾式土器(第75図76～78)が出土した。石器は二次加工ある剥片3点、石匙(81)が出土した。前期中葉に比定される。

C62号土坑(第54・78図P L. 40・158)



第54図 C 60~63・80・97、D 199・274・283号土坑平面・遺物出土状況図・土層断面図

第5章 発見された遺構と遺物

位 置 C区東北部に位置する。座標値 X=60954・60955 Y=-92658・-92660 遺存状況・重複 完存。C61・C63・C80号土坑重複 形状 円形 規模 長径148cm、短径141cm、深さ30cm 遺物・年代 前期中葉有尾式土器(第78図143～146)が出土した。石器は磨石(147)、二次加工ある剥片が出土した。前期中葉に比定される。

C63号土坑(第54・78図P.L. 40・158)

位 置 C区東北部に位置する。座標値 X=60954・60956 Y=-92660・-92661 遺存状況・重複 完存。C61・C62号土坑重複 形状 円形 規模 長径131cm、短径126cm、深さ21cm 遺物・年代 前期中葉有尾式土器(第78図142)が出土した。前期中葉に比定される。

C15号土坑(第55・80図P.L. 40・159)

位 置 C区中央部やや南に位置する。座標値 X=60946～60948 Y=-92671～-92673 遺存状況・重複 完存。C16号土坑と重複 形状 半円長方形 規模 長径287cm、短径163cm、深さ47cm 長軸方向 N-70°-E 遺物・年代 前期中葉有尾式土器(第80図169)前期後葉諸磧a式土器(第80図170)、石器は黒曜石製の石鎚、磨石(171)、石皿(172)が出土した。前期中葉に比定される。

C16号土坑(第55・74図P.L. 40・156)

位 置 C区中央部やや南に位置する。座標値 X=60947～60949 Y=-92671～-92674 遺存状況・重複 完存。C15号土坑と重複 形状 台形 規模 長径245cm、短径200cm、深さ46cm 長軸方向 N-52°-E 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第74図67)前期後葉諸磧a式土器(第74図68・69)、石器は黒色安産製の石鎚(70)が出土した。前期中葉に比定される。

D255号土坑(第55・74図P.L. 40・156)

位 置 D区西部中央に位置する。座標値 X=60963～60964 Y=-92611～-92612 遺存状況・重複 完存。 形状 円形 規模 径98cm、深さ12cm 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第74図71)が出土する。前期中葉に比定される。

D276号土坑(第55・75図P.L. 40・156)

位 置 D区西北端部に位置する。座標値 X=60961・60962 Y=-92644・-92645 遺存状況・重複

完存。 形状 楕円形 規模 長径160cm、短径114cm、深さ39cm 長軸方向 N-83°-E 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第75図72・73)、前期後葉諸磧b式土器(第75図74)、石器は黒色安山岩製の凹基無茎石鎚(75)が出土した。前期中葉～後葉に比定される。

D237号土坑(第56・75図P.L. 40・156)

位 置 C区西部中央に位置する。座標値 X=60961～60964 Y=-92613～-92615 遺存状況・重複 完存。 形状 楕円形 規模 長径238cm、短径215cm、深さ42cm 長軸方向 N-38°-E 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第75図81・82)、前期後葉諸磧b式土器(第75図83)、石器は黒色安山岩製の凹基無茎石鎚(76)が出土した。前期中葉～後葉に比定される。

C84号土坑(第56・75図P.L. 41・156)

位 置 C区中央やや東に位置する。座標値 X=60953～60955 Y=-92665・-92666 遺存状況・重複 完存。C9号竪穴建物と重複 形状 不整形 規模 長径221cm、短径135cm、深さ31cm 長軸方向 N-8°-E 遺物・年代 早期後葉鶴ヶ島式土器(第75図86)前期中葉黒浜式土器(第75図84)、有尾式土器(第75図85)、石器は磨石(87)が出土した。前期中葉に比定される。

C91号土坑(第56・75図P.L. 41・156)

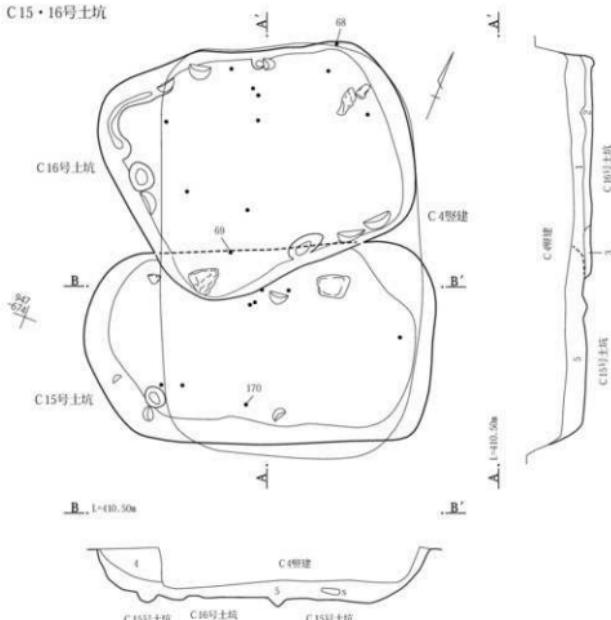
位 置 C区中央部北に位置する。座標値 X=60956・60957 Y=-92680・-92681 遺存状況・重複 北部調査区外 形状 円形 袋状土坑 規模 長径127cm、短径122cm、深さ55cm 遺物・年代 前期中葉有尾式土器(第75図88～91)、前期前葉圓山II式土器(第75図92)、前期後葉諸磧a式土器(第75図93)、石器は全体に研磨された変玄武岩製の磨製石斧(94)、黒曜石製の石核が出土した。前期中葉～後葉に比定される。

D230号土坑(第56・76図P.L. 41・156・157)

位 置 D区西北部に位置する。座標値 X=60969・60970 Y=-92602～-92604 遺存状況・重複 完存。 形状 楕円形 袋状土坑 規模 長径170cm、短径138cm、深さ47cm 長軸方向 N-86°-E 遺物・年代 前期中葉黒浜式土器(第76図97)、前期中葉有尾式土器(第76図95)、前期土器(第76図96)、石器は磨石(第76図98)、凹石(第76図99)が出土した。前期中葉に比定される。

C44号土坑(第56・76図P.L. 41・157)

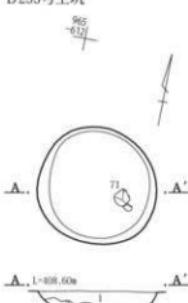
C 15・16号土坑



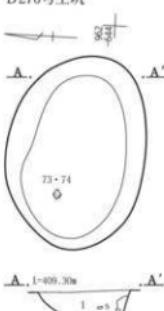
C 16号土坑

- 1 黒色土10YR2/1 C 15号土坑4よりもやや黒味が強い。白色粒1%程度、黄褐色粒1%程度含む。しまりは比較的良好。
- 2 黒褐色土10YR2/2 白色粒1%未満、黄褐色粒1%未満含む。地山暗褐色土ブロックを10%程度含む。しまりは良好。
- 3 黒褐色土10YR2/3 ローム粒3%程度、白色粒1%未満。黄褐色粒1%未満。赤褐色粒を極わずかに含む。しまりは極めて良好。
- C 15号土坑
- 4 黒色土10YR2/1 黄褐色粒を1%程度、白色粒を2%程度含む。しまりはやや弱い。
- 5 黑褐色土10YR2/2 白色粒1%未満、黄褐色粒1%程度。地山暗褐色土ブロックを15%程度含む。しまりは良好。

D255号土坑



D276号土坑



D255号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/1 黄褐色粒φ3~5mmを5%含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックφ10~30mmを10%含む。

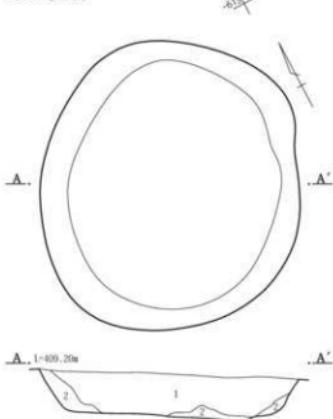
D276号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色粒φ1~3mm・黄褐色粒φ3~5mm、ローム粒を5%含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/2 ローム主体で1層をブロック状に混入する。

0 1:40 1m

第55図 C 15・16、D 255・276号土坑平面図・遺物出土状況図・土層断面図

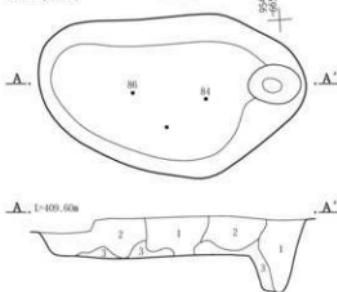
D237号土坑



D237号土坑

- 1 黒褐色土10YR2/1 白色粒φ1mm以下を5%含む。
- 2 喀褐色土10YR3/3 白色粒φ1mm以下を3%含む。

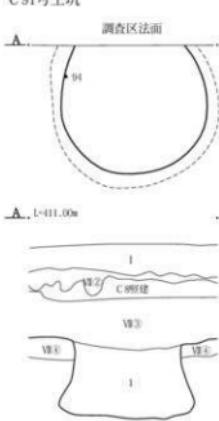
C84号土坑



C84号土坑

- 1 黒色土10YR2/1 2よりも黒味が強い。2よりもややしまりは弱い。
- 2 黒褐色土10YR2/2 黄褐色粒1%程度、白色粒1%程度含む。ローム小ブロックを1%程度含む。
- 3 黑褐色土10YR2/3 黄褐色粒1%程度、白色粒1%程度含む。ローム小ブロックを2%程度含む。

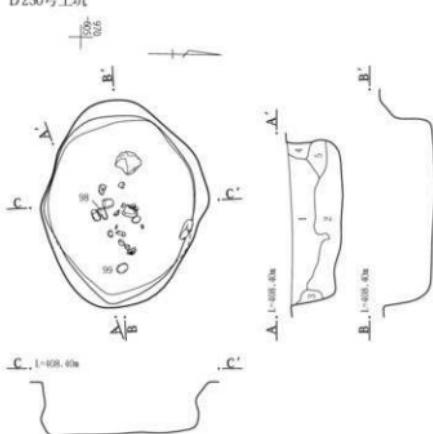
C91号土坑



C91号土坑

- 1 黒褐色土10YR2/2 白色粒2%程度、黄褐色粒3%程度、赤褐色粒2%程度、ロームを2%程度、炭化物片を1%程度含む。

D230号土坑



D230号土坑

- 1 黑褐色土10YR3/2 ローム粒φ10mm以下5%含む。
- 2 明黄褐色土2.5YR7/6 ローム土中心層
- 3 明黄褐色土2.5YR7/6 ローム上と黑褐色土が混じる。
- 4 黑褐色土10YR3/2 ローム粒φ10mm以下2%含む。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2 ローム上10%含む。

0 1:40 1m

第56図 C84・91、D230・237号土坑平面図・遺物出土状況図・土層断面図

位 置 C区東南部に位置する。座標値 X=60946～60948 Y=-92662～-92664 遺存状況・重複 完存。

形 状 不整円形 中央部に窪み有り。規 模 長径217cm、短径208cm、深さ38cm 長軸方向 N-33°-W
遺物・年代 遺物は覆土下層より出土。前期中葉有尾式土器(第76図100～103)、前期中葉黒浜式土器(第76図104・105)、石器は石皿(第76図106)が出土した。前期中葉に比定される。

C279号土坑(第57・76・77図P.L. 41・157・158)

位 置 D区西北部に位置する。座標値 X=60962・60963 Y=-92632・-92633 遺存状況・重複 完存。

形 状 円形 規 模 長径150cm、短径145cm、深さ51cm 遺物・年代 遺物は覆土下層より出土。前期中葉有尾式土器(第76図107～77図115)、前期中葉黒浜式土器(第77図116～122)、前期初頭(第77図123～125)、石器は黒色安山岩製の石匙(第77図126)、石核、凹石2点(第77図129・130)、磨石12点(第77図127・128・132)、敲石、台石(第77図131)と土器・石器ともに多数出土した。前期中葉に比定される。

C36号土坑(第57・78図P.L. 41・158)

位 置 C区東南端部に位置する。座標値 X=60947・60948 Y=-92646・-92647 遺存状況・重複 完存。形 状 円形 規 模 長径106cm、短径102cm、深さ27cm 遺物・年代 遺物は覆土下層より出土。前期中葉有尾式土器(第78図133～136)、石器は二次加工ある剥片が出土した。前期中葉に比定される。

C21号土坑(第57・78図P.L. 42・158)

位 置 C区最西端部中央に位置する。座標値 X=60945・60946 Y=-92705・-92706 遺存状況・重複 完存。形 状 楕円形 規 模 長径110cm、短径106cm、深さ23cm 長軸方向 N-10°-E 遺物・年代 遺物は覆土下層より出土。前期中葉有尾式土器(第78図137)、磨石(第78図138)が出土した。前期中葉に比定される。

C40号土坑(第57・78図P.L. 42・158)

位 置 C区東南部に位置する。座標値 X=60944・60945 Y=-92659・-92660 遺存状況・重複 完存。形 状 不整円形 規 模 長径112cm、短径104cm、深さ36cm 長軸方向 N-12°-E 遺物・年代 遺物は覆土下層より出土。前期中葉有尾式土器(第78図139・140)を提示する。他に有尾式4点、諸磯a式土器3点出土した。

出土した。前期中葉に比定される。

C45号土坑(第57・78図P.L. 42・158)

位 置 C区東南部に位置する。座標値 X=60943・60944 Y=-92663・-92664 遺存状況・重複 完存。

形 状 不整形 規 模 長径104cm、短径95cm、深さ17cm 長軸方向 N-35°-W 遺物・年代 遺物は覆土下層より出土。前期中葉有尾式土器(第78図141)が出土した。前期中葉に比定される。

C73号土坑(第57・79図P.L. 42・159)

位 置 C区中央部やや北に位置する。座標値 X=60952～60954 Y=-92677～-92668 遺存状況・重複 完存。形 状 不整形 規 模 長径140cm、短径134cm、深さ21cm 長軸方向 N-28°-W 遺物・年代 遺物は覆土下層より出土。前期中葉有尾式土器(第79図151)が出土した。前期中葉に比定される。

C69号土坑(第57・79図P.L. 42・159)

位 置 C区中央部やや東に位置する。座標値 X=60955・60956 Y=-92669・-92670 遺存状況・重複 完存。形 状 円形 規 模 長径106cm、短径102cm、深さ31cm 遺物・年代 遺物は覆土下層より出土。前期中葉有尾式土器(第97図148・149)が出土した。前期中葉に比定される。

C93号土坑(第58・79図P.L. 42・159)

位 置 C区西北部に位置する。座標値 X=60952・60953 Y=-92688・-92689 遺存状況・重複 完存。形 状 C16号竪穴建物と重複 円形 規 模 長径89cm、短径86cm、深さ44cm 遺物・年代 前期中葉有尾式土器(第79図152)が出土した。前期中葉に比定される。

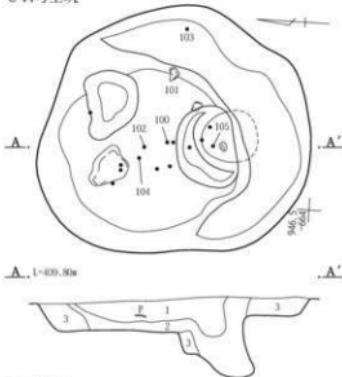
C87号土坑(第58・79図P.L. 43・159)

位 置 C区中央部北端に位置する。座標値 X=60956・60957 Y=-92676～-92678 遺存状況・重複 完存。形 状 北壁に接する。C14号竪穴建物と重複 円形 規 模 長径193cm、短径190cm、深さ50cm 遺物・年代 遺物は覆土下層より出土。前期中葉有尾式土器(第79図153～157)が出土した。前期中葉に比定される。

C88号土坑(第58・79図P.L. 43・159)

位 置 C区中央部北端に位置する。座標値 X=60957・60958 Y=-92674・-92675 遺存状況・重複 完存。形 状 北壁に接する。C8・14号竪穴建物と重複 円形か 規 模 長径117cm、短径69cm、深さ25cm

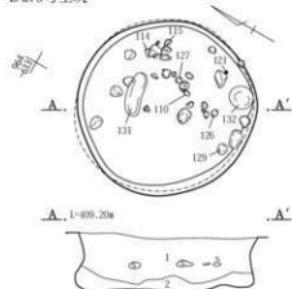
C 44号土坑



C 44号土坑

- 1 黒褐色土10YR2/1 黄褐色粒1%程度、白色粒1%程度、土器片を含む。きめ細かく、粘性あり。
- 2 黒褐色土10YR2/2 ロームを10%程度、黄褐色粒1%程度、白色粒1%程度含む。
- 3 黒褐色土10YR3/2 ロームを20%程度、白色粒1%未満、黄褐色粒1%程度含む。しまりは良い。

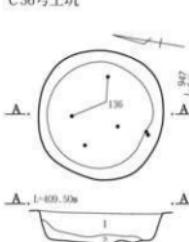
D 279号土坑



D 279号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/1 白色粒φ1mm以下を10%含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックφ10-20mmを3%含む。

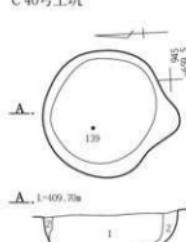
C 36号土坑



C 21号土坑



C 40号土坑



C 45号土坑



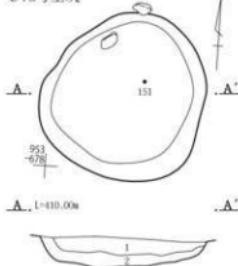
C 36・73号土坑

- 1 黒褐色土10YR2/2 黄褐色粒1%程度、白色粒1%程度含む。ローム小ブロックを1%程度含む。
- 2 黒褐色土10YR2/3 黄褐色粒1%程度、白色粒1%程度含む。ローム小ブロックを2%程度含む。
- 3 黒褐色土10YR2/1 1よりも黒味が強い。1よりもややしまりは弱い。

C 21号土坑

- 1 黒褐色土10YR2/2 黄褐色粒2%程度、白色粒1%強含む。しまりはやや弱い。

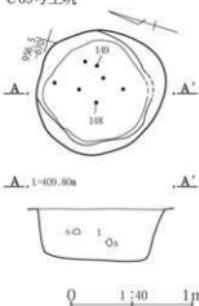
C 73号土坑



C 40・45・69号土坑

- 1 黒褐色土10YR2/1 黄褐色粒1%程度、白色粒1%未満、炭化物粒1%程度、土器片を含む。しまりはやや弱い。
- 2 黑褐色土10YR2/2 ロームを10%程度含む。

C 69号土坑



第57図 C 21・36・40・44・45・69・73、D 279号土坑平面・遺物出土状況図・土層断面図

遺物・年代 遺物は覆土下層より出土。前期中葉有尾式土器(第79図158～160)が出土した。前期中葉に比定される。

D270号土坑(第58・79図 P L. 43・159)

位置 D区西部中央に位置する。座標値 X = 60956・60957 Y = -92619～-92620 遺存状況・重複 完存。形 状 楕円形 規 模 長径146cm、短径128cm、深さ10cm 長軸方向 N-24°-E 遺物・年代 前期中葉有尾式土器(第79図162)が出土した。石器は黒色安山岩製の無莖石鑿(第79図163)、磨石(第79図164)、石皿(第79図165)、前期中葉に比定される。

D252号土坑(第58・80図 P L. 43・159)

位置 D区西南部に位置する。座標値 X = 60954・60955 Y = -92612・-92613 遺存状況・重複 完存。形 状 不整形 規 模 長径135cm、短径128cm、深さ50cm 長軸方向 N-8°-E 遺物・年代 前期中葉有尾式土器(第80図166)が出土した。石器は黒色頁岩製の打製石斧(第80図167)、磨石2点、石皿、砥石、剥片が出土した。前期中葉に比定される。

C10号土坑(第58・80図 P L. 43・160)

位置 C区中央部や北に位置する。座標値 X = 60949～60952 Y = -92679～-92682 遺存状況・重複 完存。形 状 刃円長方形 規 模 長径235cm、短径192cm、深さ54cm 長軸方向 N-69°-W 遺物・年代 前期中葉有尾式土器4点(第80図173～176)、前期後葉の諸磯a式土器4点(第80図177～180)を掲載した。他に鶴ヶ島台式1点、早期末1点、有尾式30点、諸磯a式37点、石器は、石鑿4点(内訳は、流紋岩製の四基無莖石鑿(第80図181)、黒曜石製石鑿2点、黒色安山岩製石鑿)、楔形石器、二次加工ある剥片2点、磨石(第80図182)が出土した。前期中葉～後葉に比定される。

C37号土坑(第59・81図 P L. 43・160)

位置 C区東南部に位置する。座標値 X = 60947～60948 Y = -92646・-92647 遺存状況・重複 完存。形 状 不整形 規 模 長径100cm、短径60cm、深さ26cm 長軸方向 N-75°-E 遺物・年代 前期後葉諸磯a式深鉢の完形土器(第81図188)が床面よりや上から出土した。前期後葉に比定される。

C68号土坑(第59・81図 P L. 44・160)

位置 C区中央部や北に位置する。座標値 X =

60953・60954 Y = -92671 遺存状況・重複 完存。形 状 円形 規 模 長径100cm、短径92cm、深さ46cm 長軸方向 N-10°-W 遺物・年代 前期後葉諸磯a式土器(第81図189)が出土した。前期後葉に比定される。

C72号土坑(第59・81図 P L. 44・160)

位置 C区中央部や北に位置する。座標値 X = 60954・60955 Y = -92673・-92674 遺存状況・重複 完存。形 状 円形 規 模 長径140cm、短径139cm、深さ23cm 遺物・年代 前期後葉諸磯b式土器(第81図190)が出土した。前期後葉に比定される。

中・後期土坑

D150号土坑(第59・81図 P L. 44・160)

位置 D区中央部に位置する。座標値 X = 60970 Y = -92573・-92574 遺存状況・重複 完存。形 状 円形 規 模 径50cm、深さ10cm 遺物・年代 中期後葉加曾利E III式(第81図193)が床直上より出土した。中期後葉に比定される。

D273号土坑(第59・81図 P L. 44・160)

位置 D区西北部に位置する。座標値 X = 60966・60967 Y = -92614～-92616 遺存状況・重複 完存。形 状 不整形 規 模 長径148cm、短径124cm、深さ18cm 長軸方向 N-67°-E 遺物・年代 中期未葉加曾利E IV式(第81図192)、前期中葉黑浜式土器(第81図191)を提示する。他に加曾利E 2式2点、黒浜式1点が出土する。石器は剥片が出土した。中期未葉に比定される。

D272号土坑(第59・81図 P L. 44・160)

位置 D区西北部に位置する。座標値 X = 60966・60967 Y = -92615・-92616 遺存状況・重複 完存。形 状 円形 規 模 長径120cm、短径117cm、深さ19cm 遺物・年代 早期後葉と想定される土器(第81図195)、後期初頭～前葉掘之内1式(第81図194)が出土した。後期初頭～前葉に比定される。

C70号土坑(第59・81図 P L. 44・160)

位置 C区中央部に位置する。座標値 X = 60952・60953 Y = -92667・-92668 遺存状況・重複 完存。C 9号竪穴建物と重複 形 状 刃円長方形 規 模 長径126cm、短径88cm、深さ46cm 長軸方向 N-15°-

第5章 発見された遺構と遺物



第58図 C10・88・87・93、D252・270号土坑平面図・遺物出土状況図・土層断面図

E 遺物・年代 後期初頭称名寺 I 式併行(第81図196～199)、磨石(第81図200)が出土した。後期初頭に比定される。

C14号土坑(第59・82図P L. 44・45・161)

位 置 C区中央部や東北に位置する。座標値 X =

60953 Y = -92666・-92667 遺存状況・重複 完存。

形 状 円形 規 模 長径82cm、短径80cm、深さ66cm

遺物・年代 後期初頭称名寺 I 式併行(第82図201)が出土した。後期初頭に比定される。

C86・90号土坑(第59・82図P L. 45)

位 置 C区中央部や北に位置する。

C86号土坑 座標値 X = 60955・60956 Y = -92667・

-92668 遺存状況・重複 完存。C 9号竪穴建物 C90

号土坑と重複 形 状 円形 規 模 長径110cm、短

径98cm、深50cm 遺物・年代 中期後葉加曾利E IV式(第

82図203)が床直から出土した。中期末葉に比定される。

C90号土坑 座標値 X = 60954・60955 Y = -92667・

-92668 遺存状況・重複 完存 C 9号竪穴建物 C86号

土坑と重複 形 状 不整形 規 模 長径127cm、短

径110cm、深50cm 遺物・年代 前期後葉諸磯a式(第82

図202)が出土した。前期後葉の可能性がある。

D285号土坑(第60・82図P L. 45)

位 置 D区最西端部北に位置する。座標値 X =

60959・60960 Y = -92644～-92645 遺存状況・重複

完存。形 状 不整形 規 模 長径150cm、短径115cm、

深さ54cm 長軸方向 N-89°-E 遺物・年代 中期末

葉加曾利E IV式(第82図204)、磨石2点(第82図205)、

凹石2点、石皿、台石4点が出土した。中期末葉に比定さ

れる。

C 2号土坑(第60・82図P L. 45)

位 置 C区中央部西に位置する。座標値 X = 60947

～60949 Y = -92686～-92688 遺存状況・重複 完存。

形 状 圓円方形 規 模 長径195cm、短径176cm、深

さ38cm 長軸方向 N-74°-E 遺物・年代 前期中葉

葉有尾式(第82図206)、中期末葉加曾利E IV式(第82

図207)、後期初頭称名寺 I 式併行(第82図208)、珪質頁岩

製石礫(第82図209)、黒曜石製石礫、石核2点が出土した。

中期末葉～後期初頭に比定される。

D216号土坑(第60・82図P L. 45)

位 置 D区西南部に位置する。座標値 X = 60960・

60961 Y = -92602・-92603 遺存状況・重複 完存。

形 状 不整形 規 模 長径93cm、短径84cm、深さ87cm 長軸方向 N-11°-E 遺物・年代 前期中葉黒浜式(第82図210)、中期後葉～後期前葉の土器(第82図211)、中期後葉～後期前葉に比定される。

時期不明土坑

D239号土坑(第60・82図P L. 46・161)

位 置 D区最西端部中央に位置する。座標値 X =

60954・60955 Y = -92638・-92639 遺存状況・重複

完存。形 状 楕円形 規 模 長径109cm、短径89cm、

深さ20cm 長軸方向 N-75°-E 遺物・年代 変玄武

岩製磨製石斧(第82図212)が出土している。時期不明

D141号土坑(第60・82図P L. 45・46・161)

位 置 D区東南部に位置する。座標値 X = 60974・

60975 Y = -92536・-92537 遺存状況・重複 完存。

形 状 不整形 規 模 長径109cm、短径97cm、深さ

41cm 長軸方向 N-75°-E 遺物・年代 凹石(第82

図213)が出土している。時期不明

D244号土坑(第60・83図P L. 46・161)

位 置 D区西部中央に位置する。座標値 X =

60958・60959 Y = -92627～-92629 遺存状況・重複

完存。D284号土坑重複 形 状 円形 規 模 長径

130cm、短径122cm、深さ31cm 長軸方向 N-61°-W

遺物・年代 石皿(第83図214)が出土している。時期不明

D245号土坑(第61・83図P L. 46・161)

位 置 D区西部中央に位置する。座標値 X = 60956

～60958 Y = -92627・-92628 遺存状況・重複 完存。

形 状 楕円形 規 模 長径120cm、短径105cm、深さ

32cm 長軸方向 N-10°-E 遺物・年代 覆土や上

から石皿(第83図215)が出土している。時期不明

D246号土坑(第61・83図P L. 46・162)

位 置 D区西南部に位置する。座標値 X = 60951～

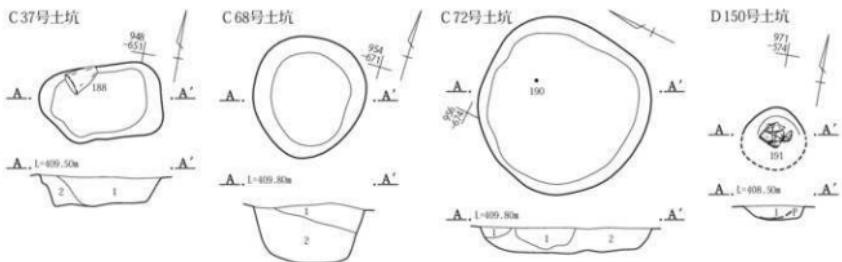
60953 Y = -92620・-92621 遺存状況・重複 完存。

形 状 円形 規 模 長径130cm、短径118cm、深さ28

cm 長軸方向 N-33°-W 遺物・年代 床面近く、覆

土や上から磨石5点(第83図218～218)、轂石2点(第

83図219)が出土している。時期不明



C37号土坑

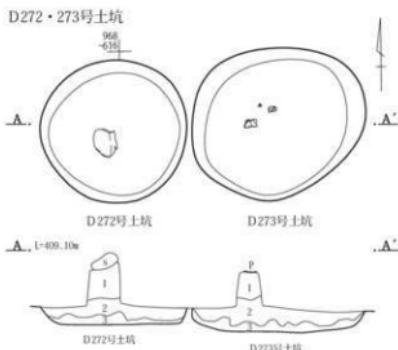
- 1 黒褐色土10VR2/3 黄褐色粒1%程度、白色粒1%強含む。しまりは良い。
2 黒褐色土10VR2/2 ロームブロックを20%程度、黄褐色粒2%程度、白色粒を1%程度含む。しまりは良い。

C68·72号土壤

- 1 黒色土10YR2/1 黄褐色粒1%程度、白色粒1%未満、炭化物粒1%程度、土器片を含む。しまりはやや弱い。
2 黑褐色土10YR2/2 ロームを10%程度含む。

D150号土坑

- 1 黑褐色土7.5YR3/1 粗粒状白色砾石，细粒状棕黄色砾石微量。



D272 · 273号上指

- 1 黒褐色土上10YR3/1 白色粒 ϕ 1 mm以下を 1 %含む。
 - 2 黒褐色土上10YR3/1 黄褐色粒 ϕ 3~5mmを 5 %含む。
 - 3 灰黄褐色土上10YR4/2 ロームブロック ϕ 10~30mmを10%含む。

C70号土坑

- 1 黒褐色土10YR2/2 黒色土・白色粒1%未満含む。しまり良。
 2 黒褐色土10YR2/2 1に類似するが、炭化物粒1%未満含む。

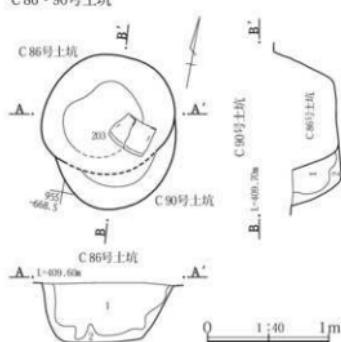
C14号土坑

- 1 黒色土10YR2/1 白色粒1%程度、黄褐色粒1%未満含む。しまりはやや弱い。(黒曜石出上)

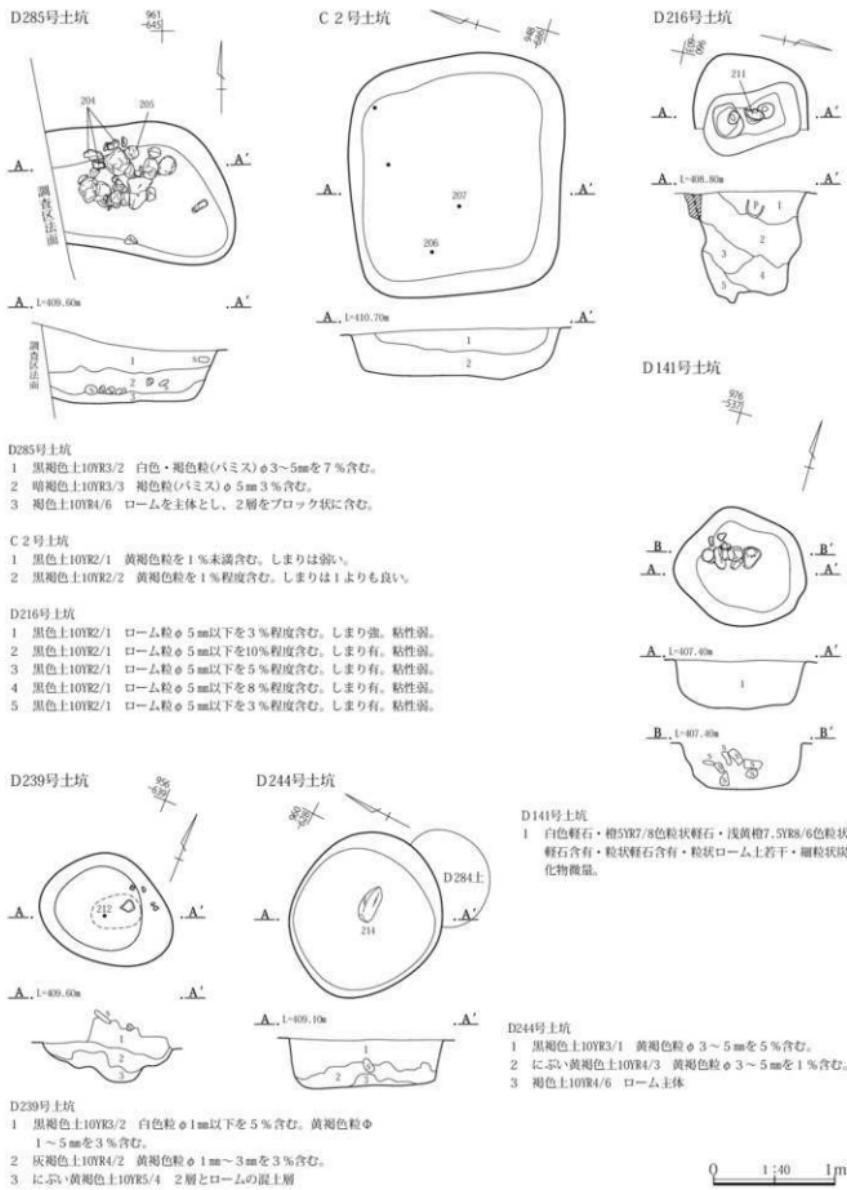
C 86·90号土坑

- 1 黒褐色上10YR2/2 黄褐色粒1%程度、白色粒1%程度含む。ローム小ブロックを1%程度含む。
 - 2 黑褐色下10YR2/3 黄褐色粒1%程度、白色粒1%程度含む。ローム小ブロックを2%程度含む。
 - 3 黒色土10YR2/1 1よりも黒味が強い。1よりもややしまりは弱い。

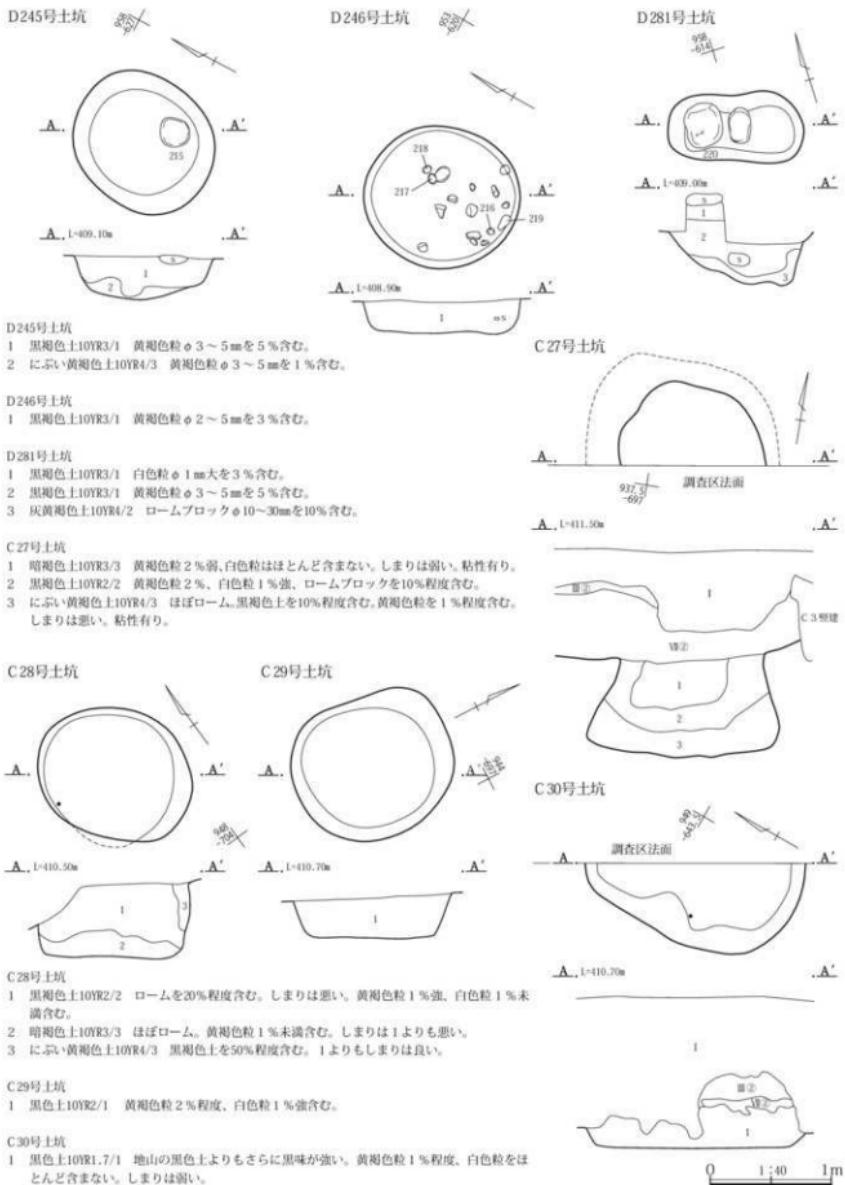
C 86-90 日本語



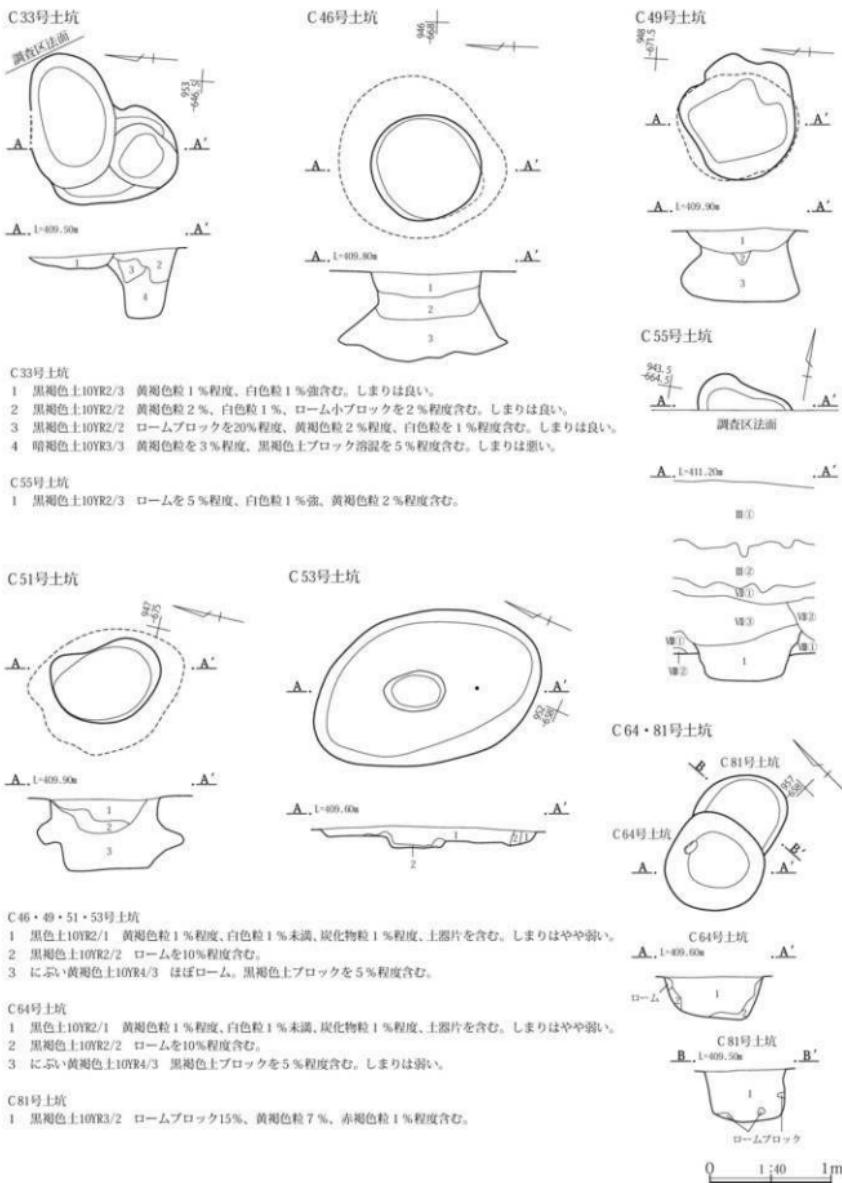
第59图 C 14·37·68·70·72·86·90、D 150·272·273号土坑平面图·遗物出土状况图·土层断面图



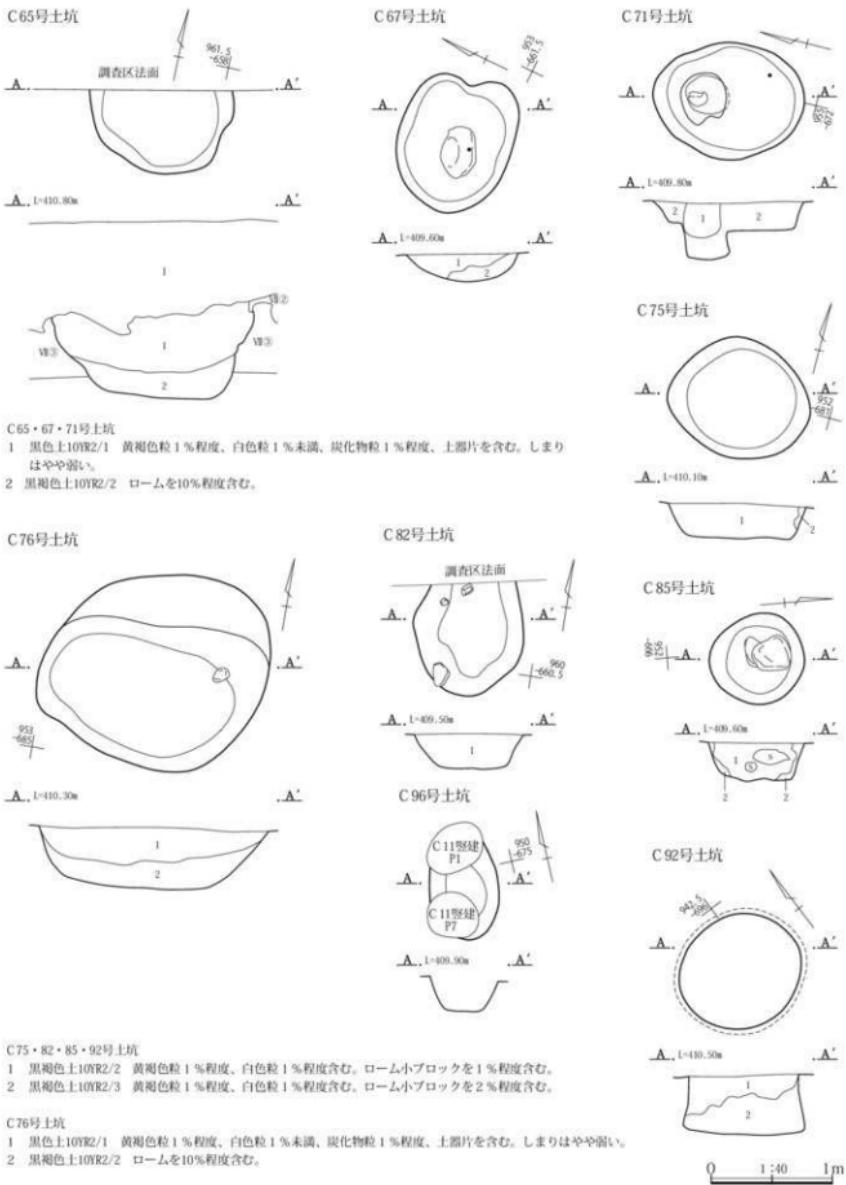
第5章 発見された遺構と遺物



第61図 C 27~30、D 245・246・281号土坑平面図・遺物出土状況図・土層断面図



第62図 C33・46・49・51・53・55・64・81号土坑平面図・土層断面図



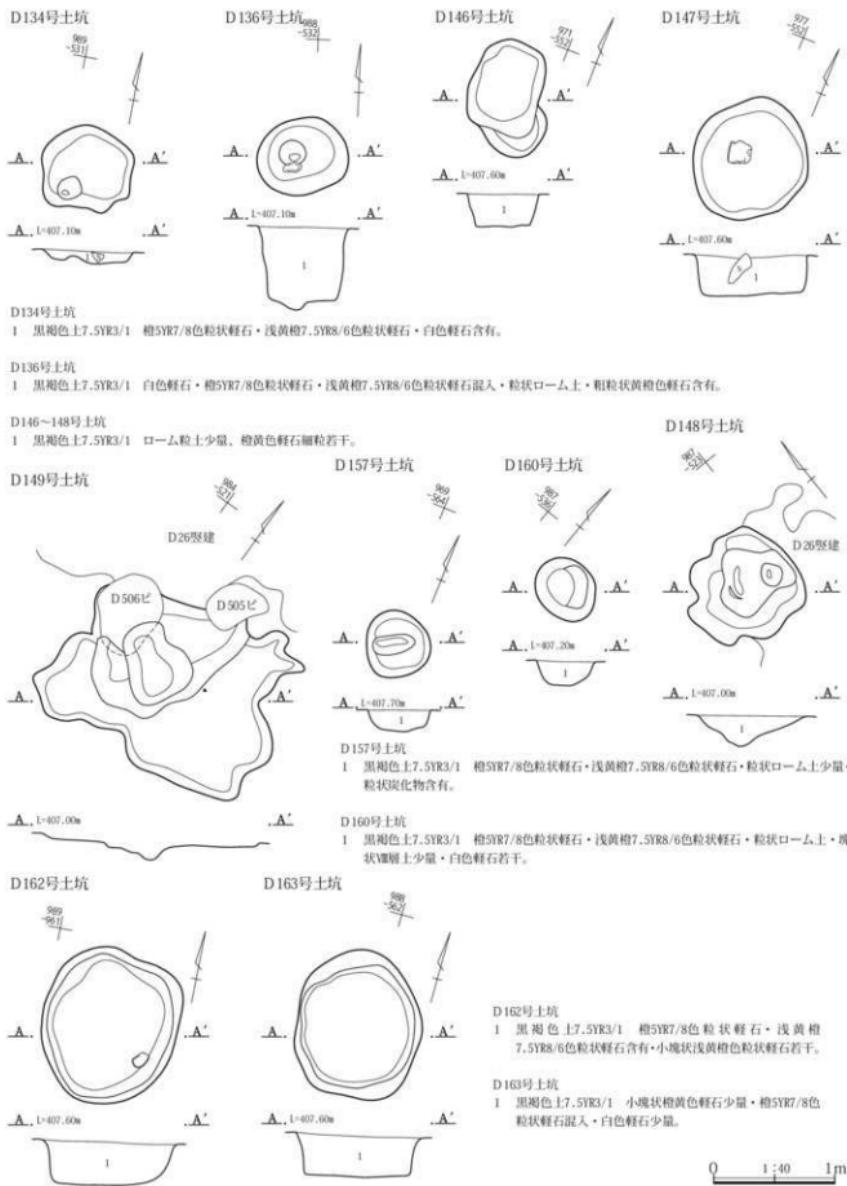
第63図 C65・67・71・75・76・82・85・92・96号土坑平面図・土層断面図



第64図 C98~100、D114・115・120・122号土坑平面図・土層断面図

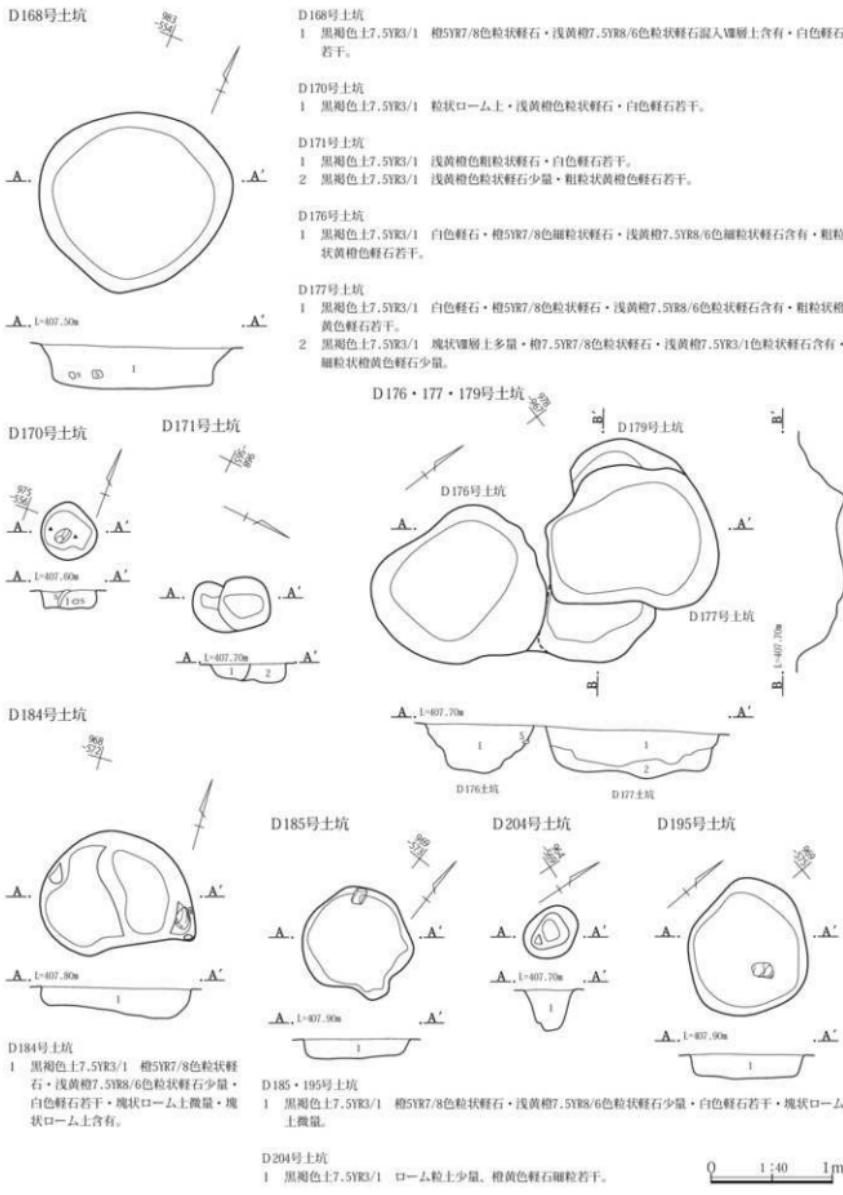


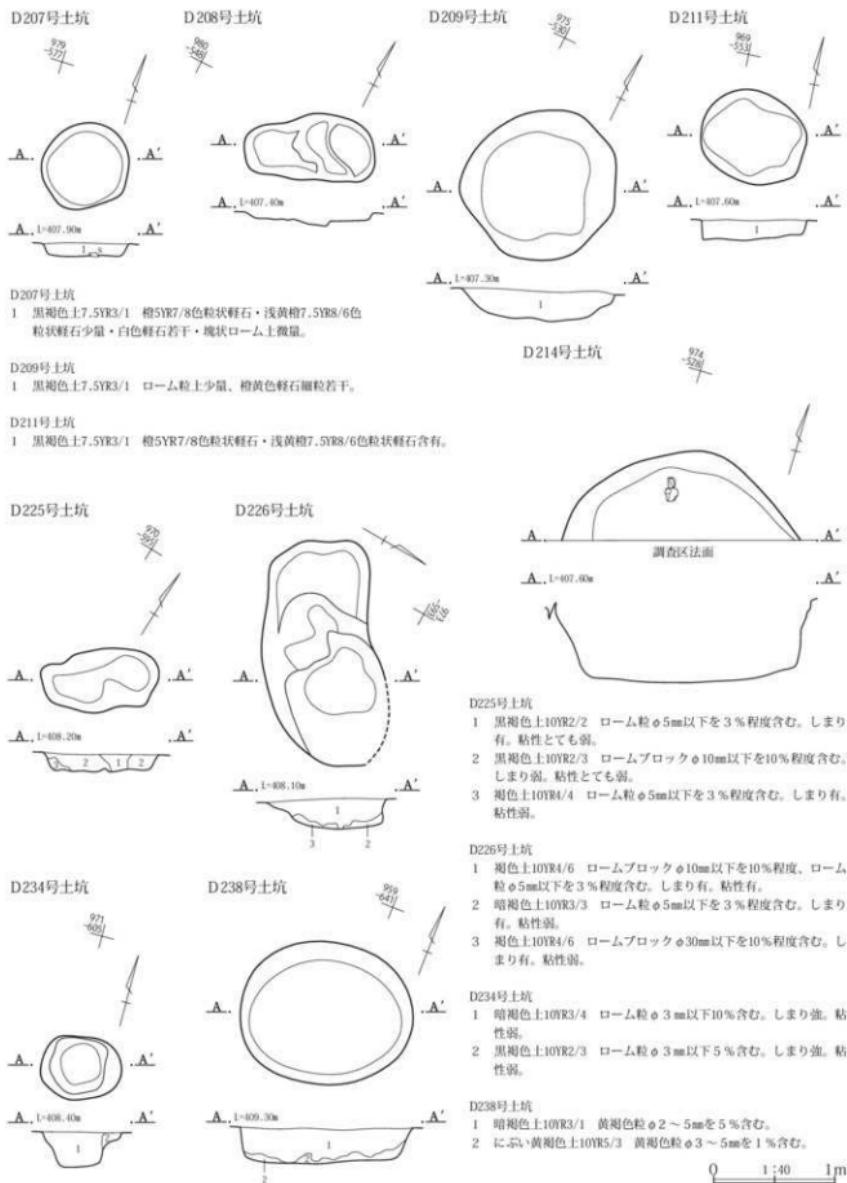
第65図 D124・126・127・129~131・133号土坑平面・土層断面図



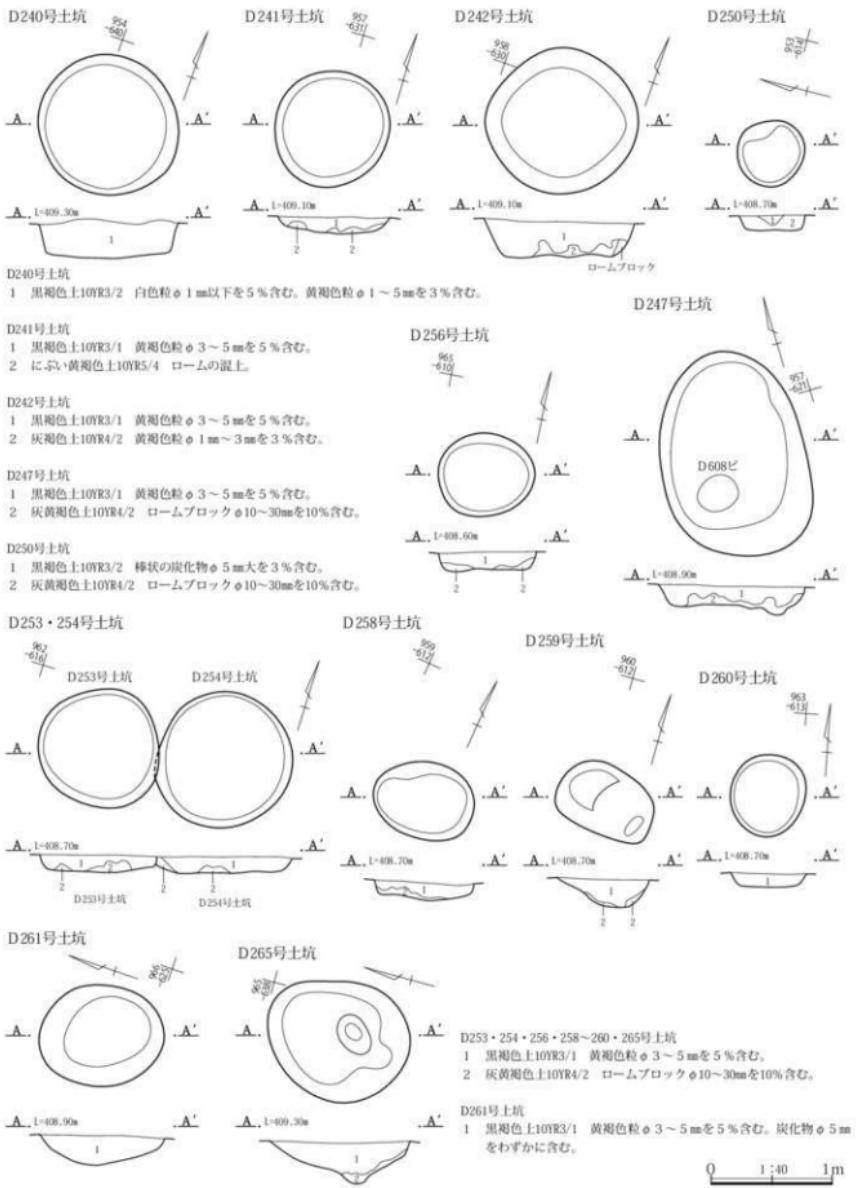
第66圖 D 134・136・146・147~149・157・160・162・163号土坑平面・土層斷面図

第5章 発見された遺構と遺物

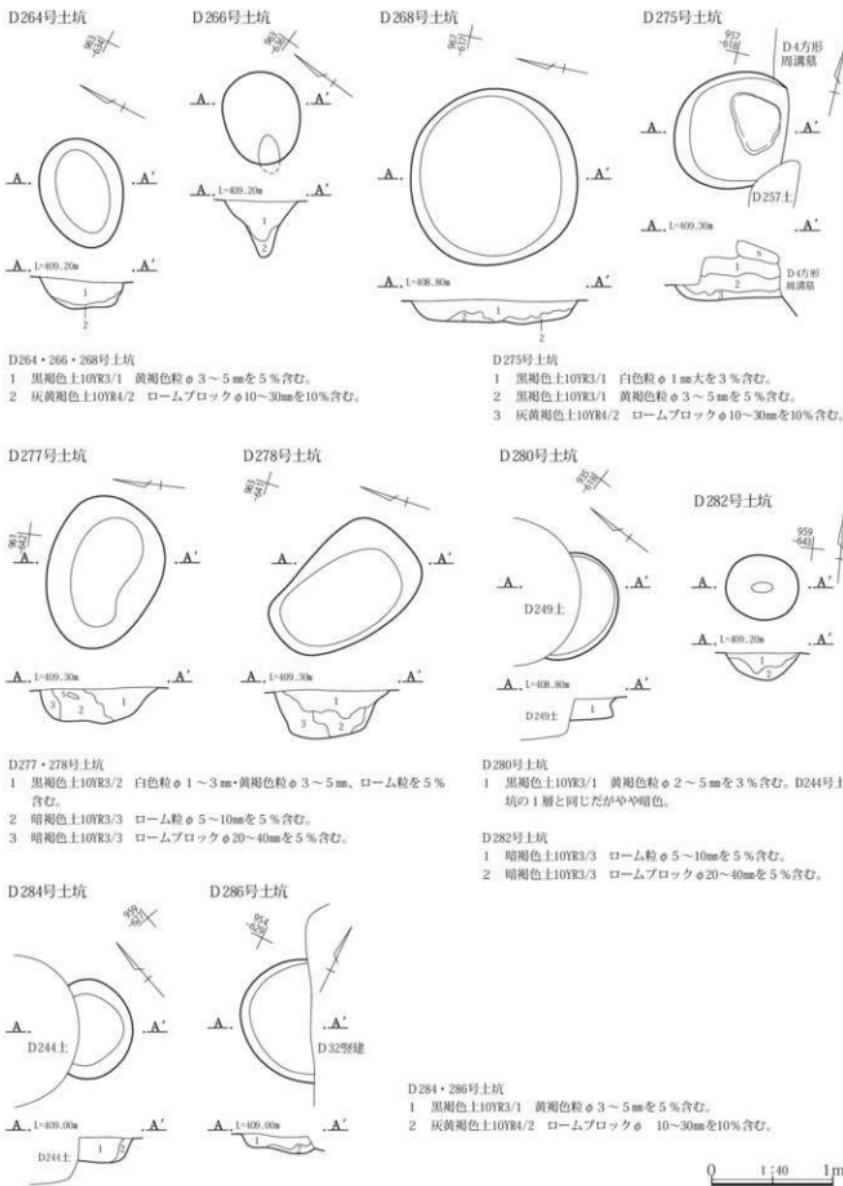




第68図 D207~209・211・214・225・226・234・238号土坑平面・土層断面図

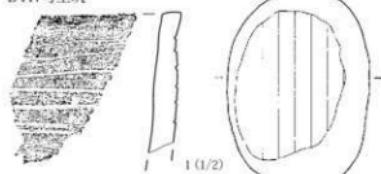


第69図 D240~242・247・250・253・254・256・258~261・265号土坑平面・土層断面図

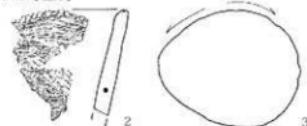


第70図 D264・266・268・275・277・278・280・282・284・286号土坑平面・土層断面図

D117号土坑



C19号土坑



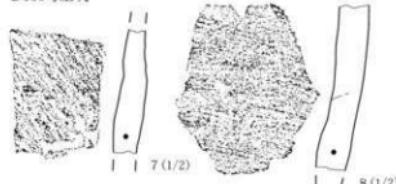
C20号土坑



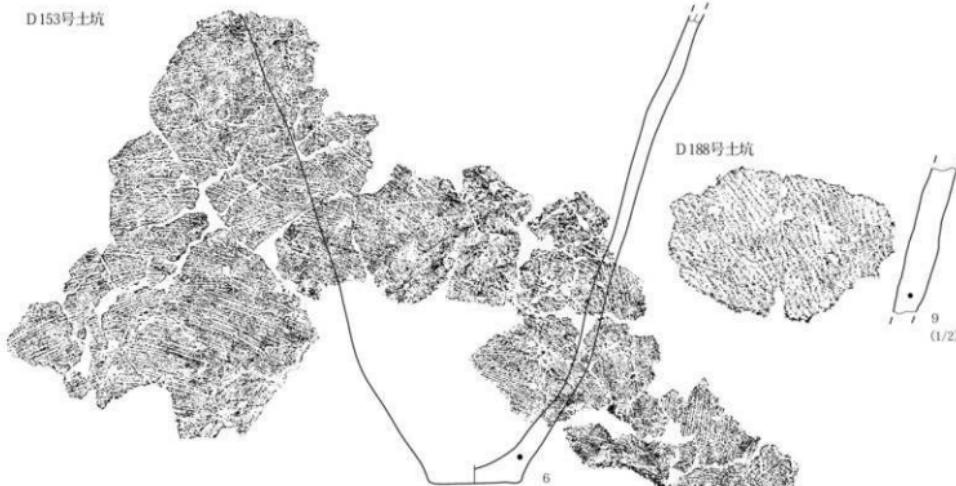
C23号土坑



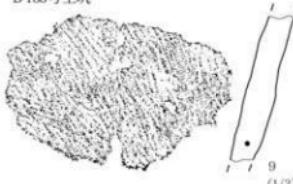
D180号土坑



D153号土坑



D188号土坑



C78号土坑



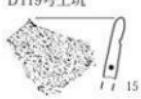
C5号土坑



C25号土坑



D119号土坑



D249号土坑



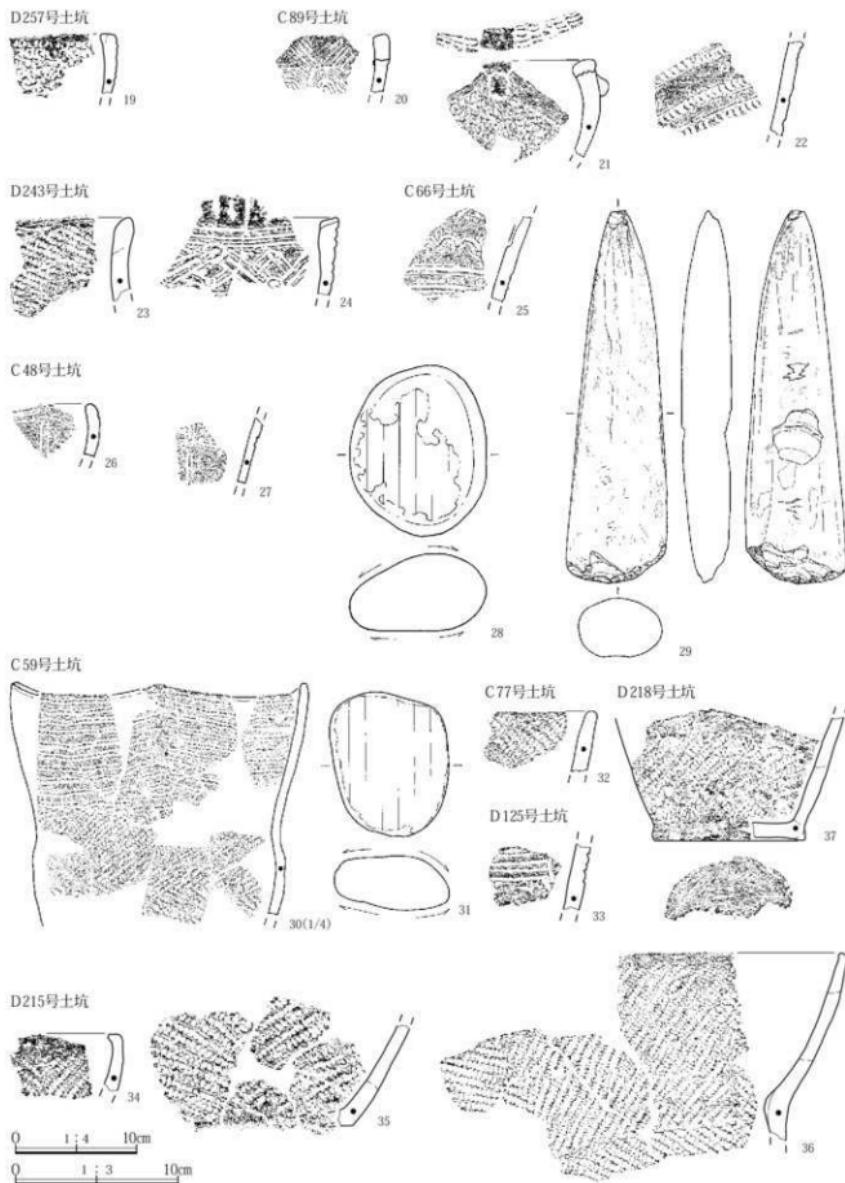
D262号土坑



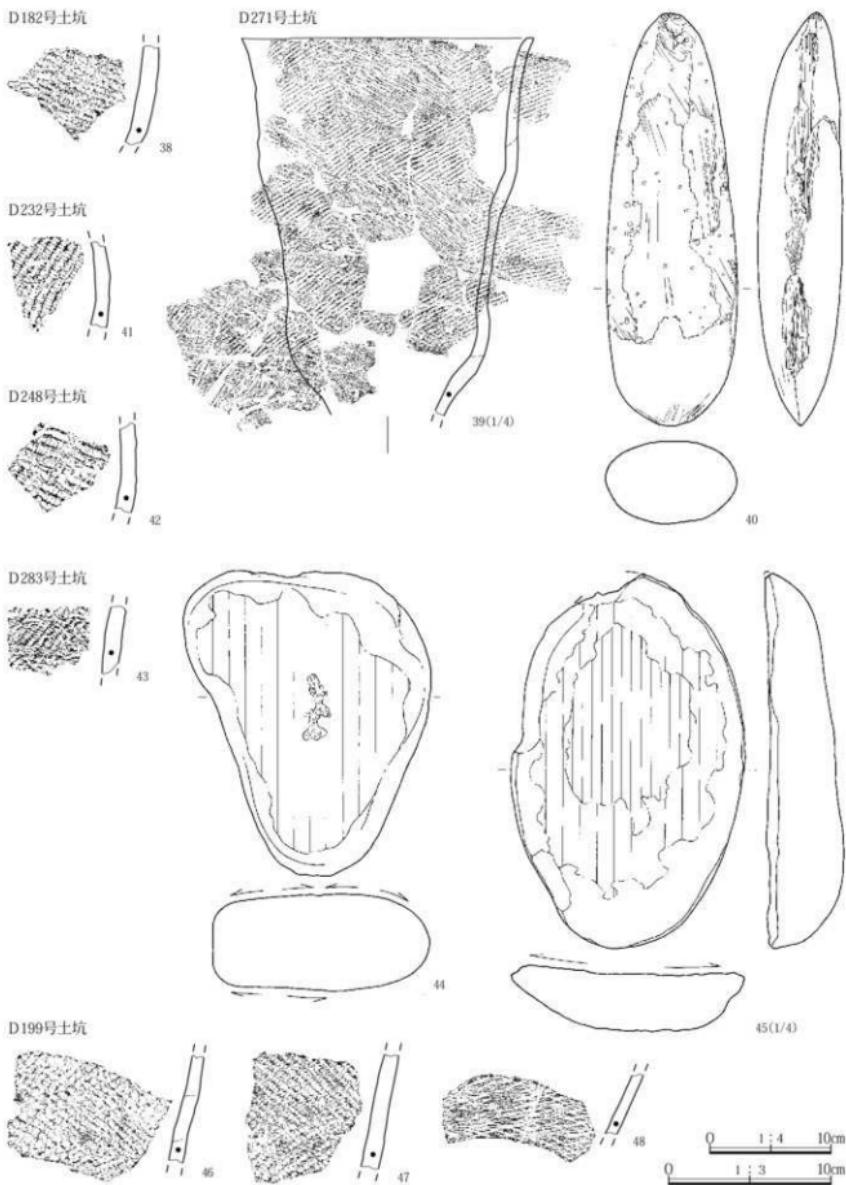
D269号土坑



第71図 C 5・19・20・23・25・78、D 117・119・153・180・188号土坑出土遺物図

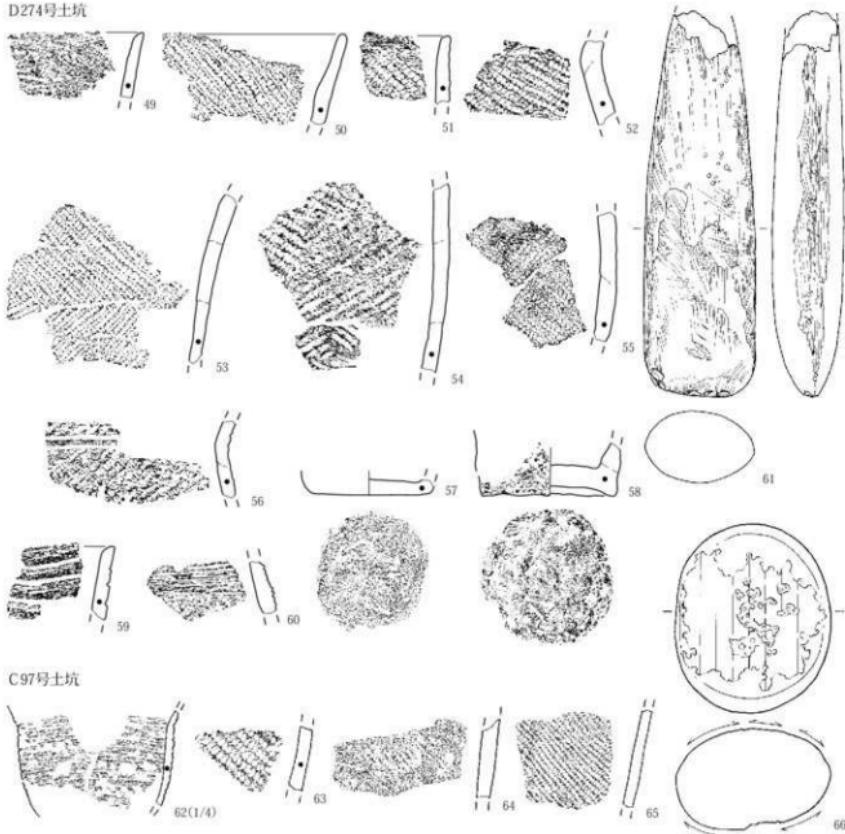


第72圖 C 48・59・66・77・89、D125・215・218・243・257号土坑出土遺物図



第73図 D182・199・232・248・271・283号土坑出土遺物図

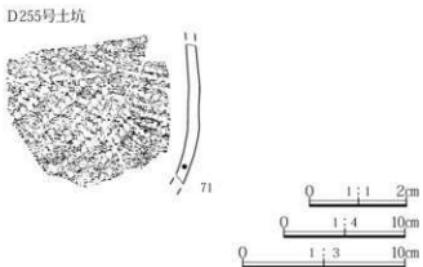
D274号土坑



C97号土坑

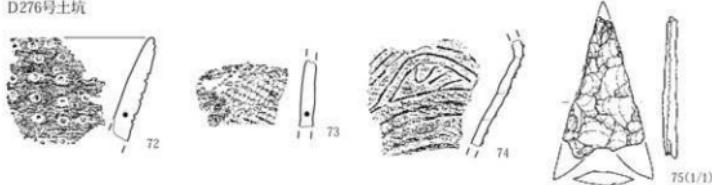


D255号土坑

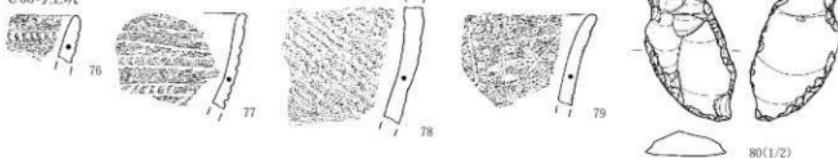


第74圖 C 16・97、D 255・274号土坑出土遺物図

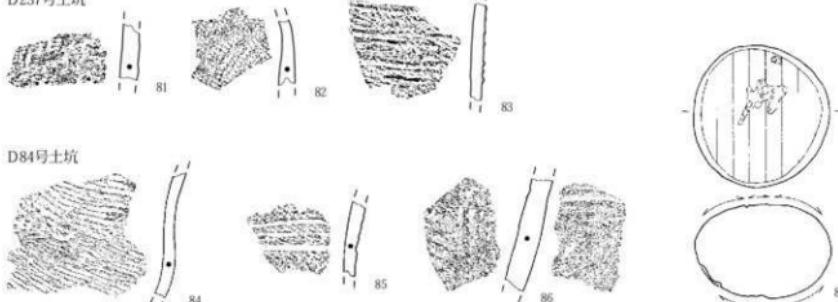
D276号土坑



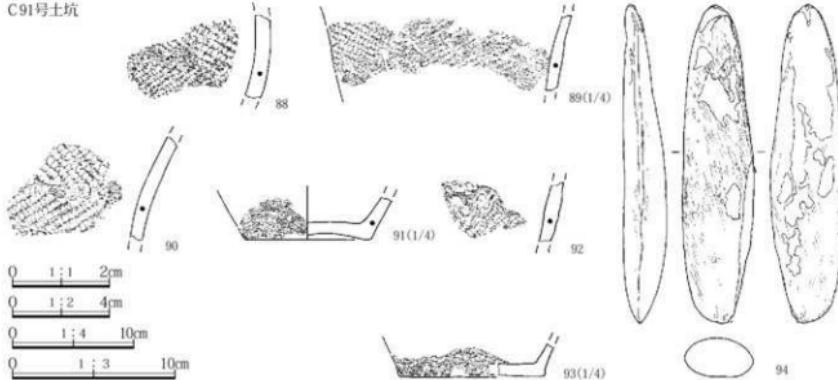
C60号土坑



D237号土坑

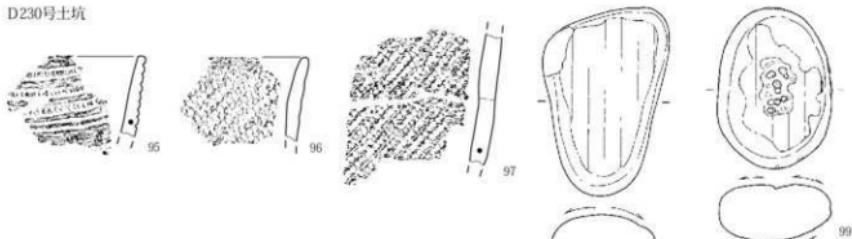


C91号土坑

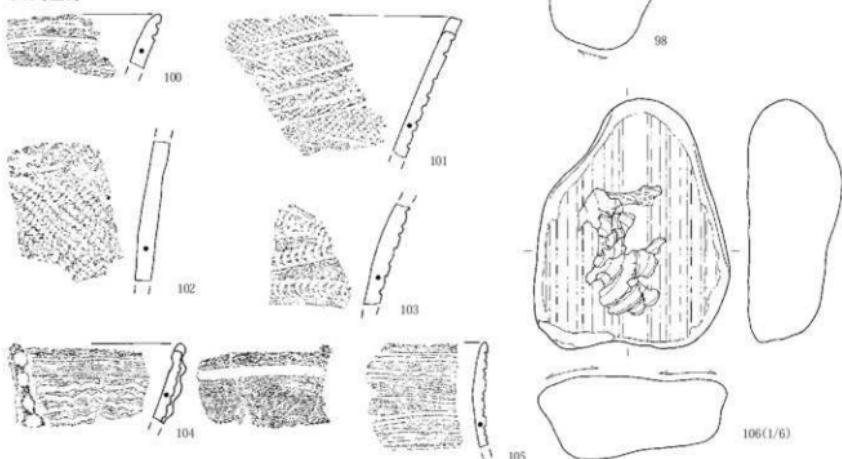


第75図 C60・84・91、D237・276号土坑出土遺物図

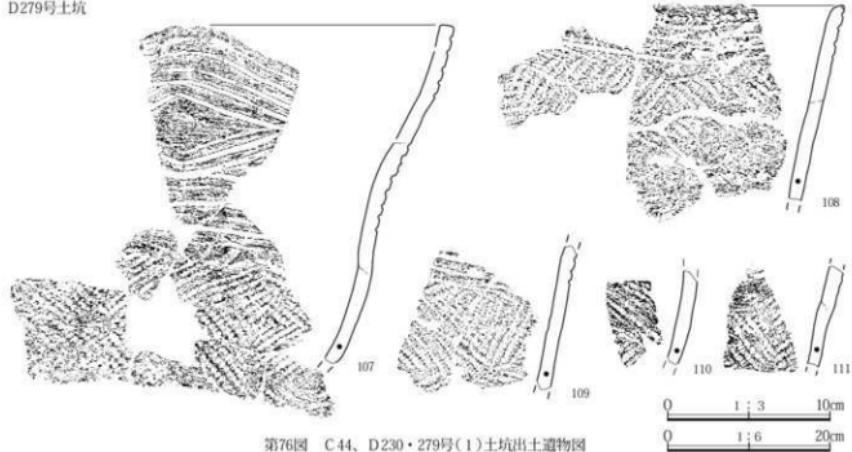
D230号土坑



C44号土坑

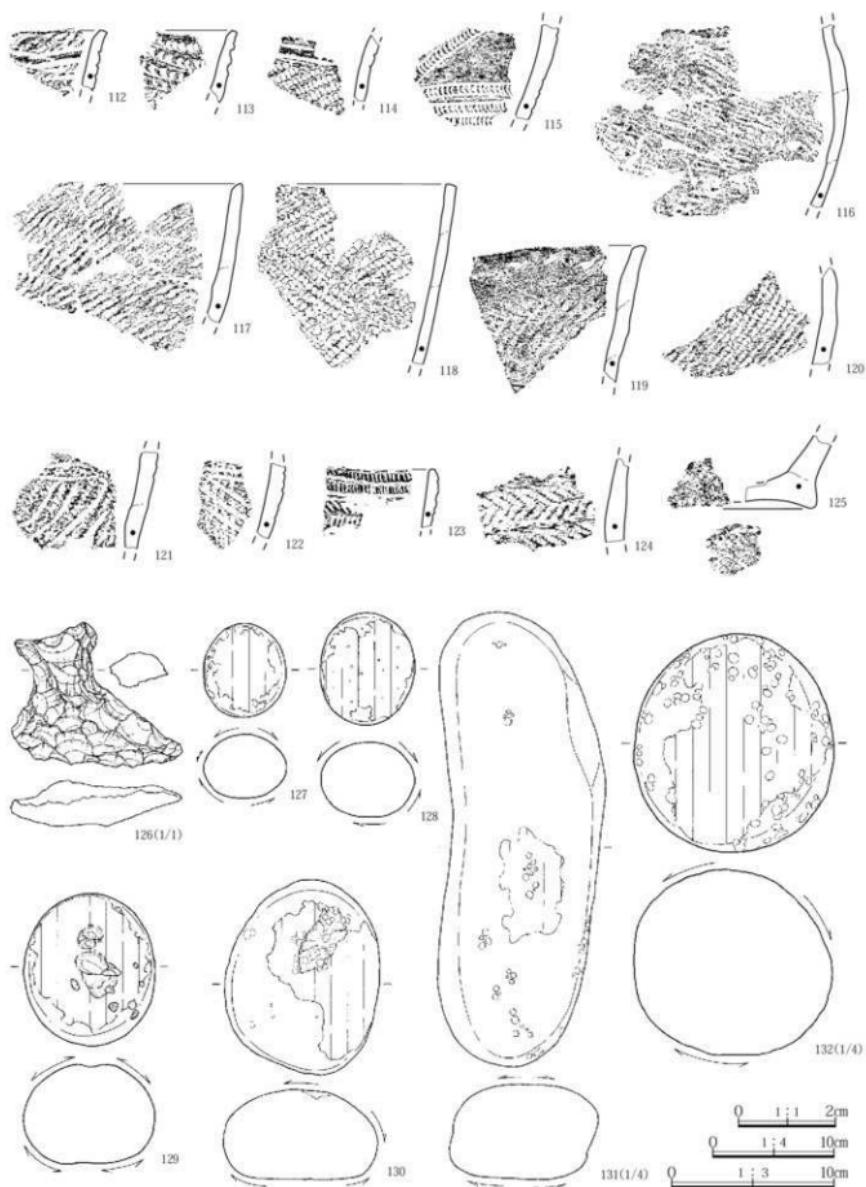


D279号土坑

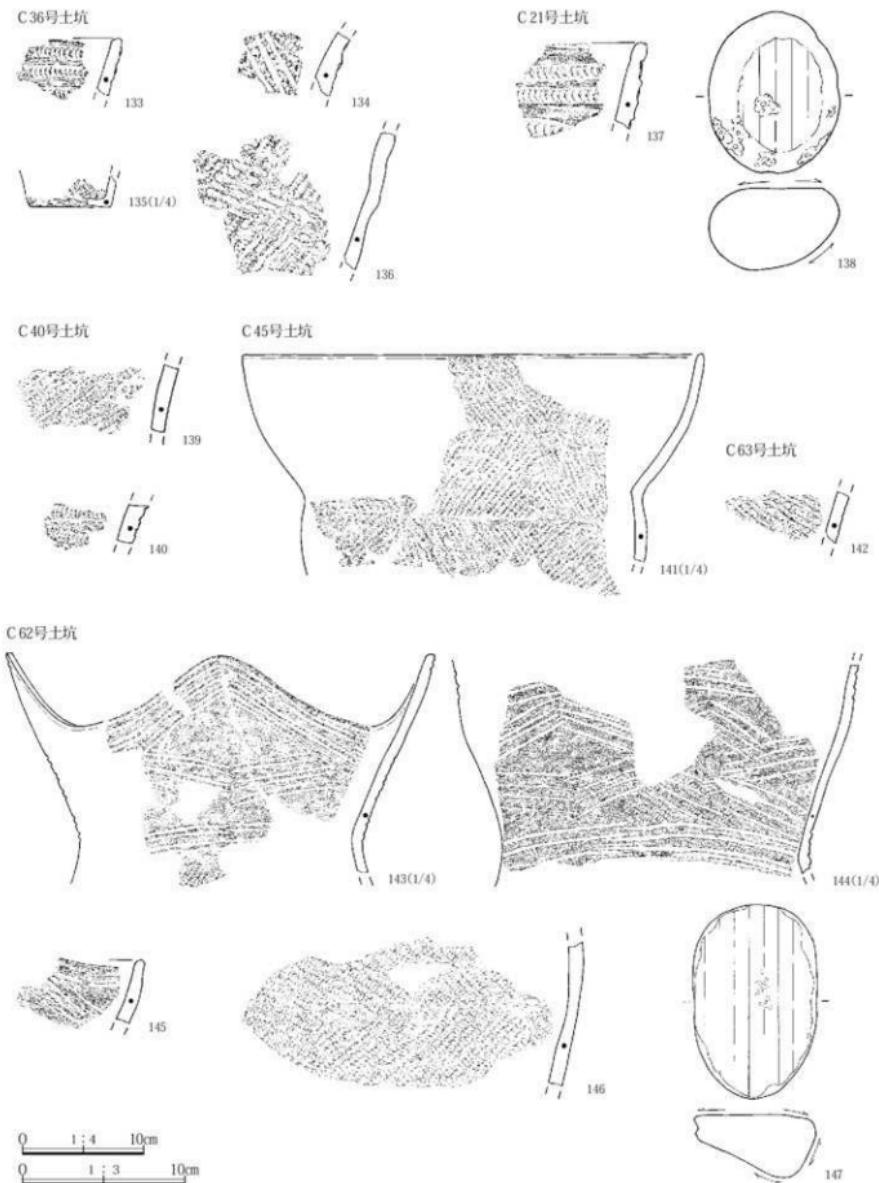


第76図 C44、D230・279号(1)土坑出土遺物図

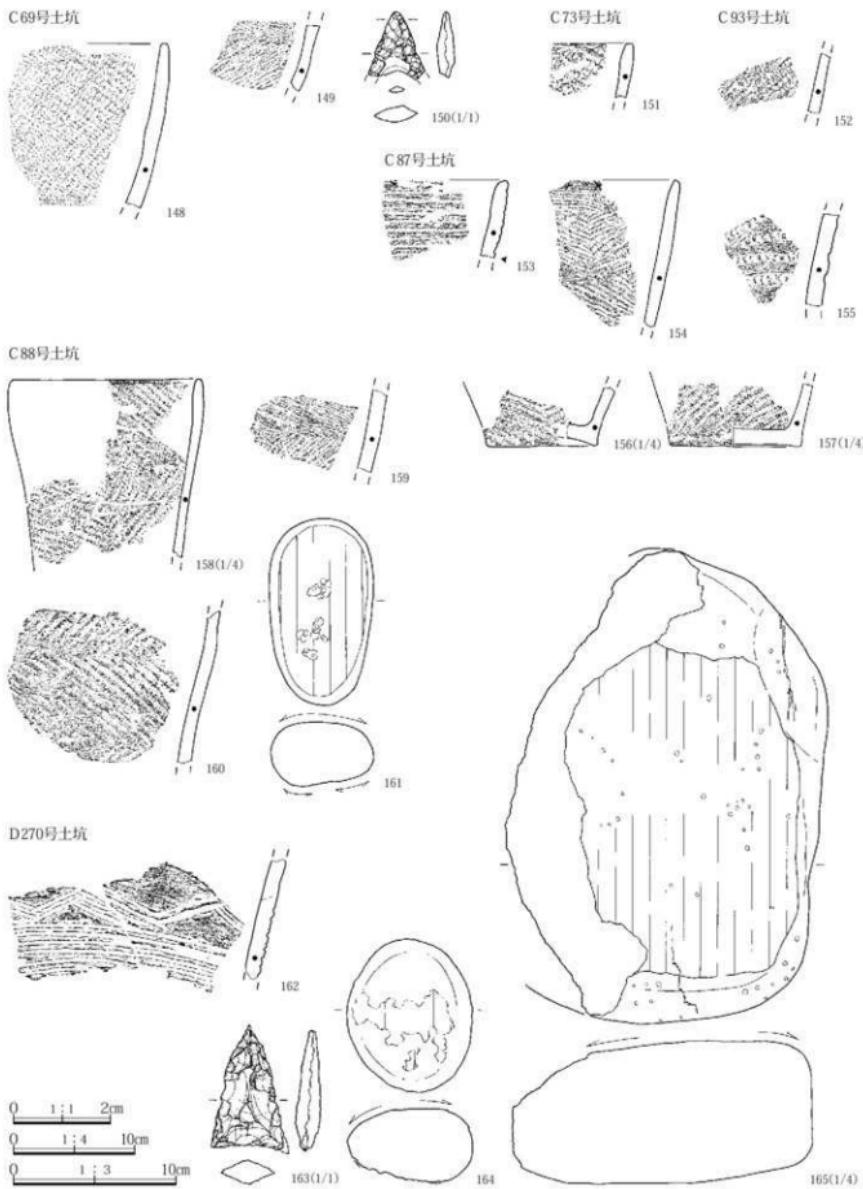
0 1 : 3 10cm
0 1 : 6 20cm



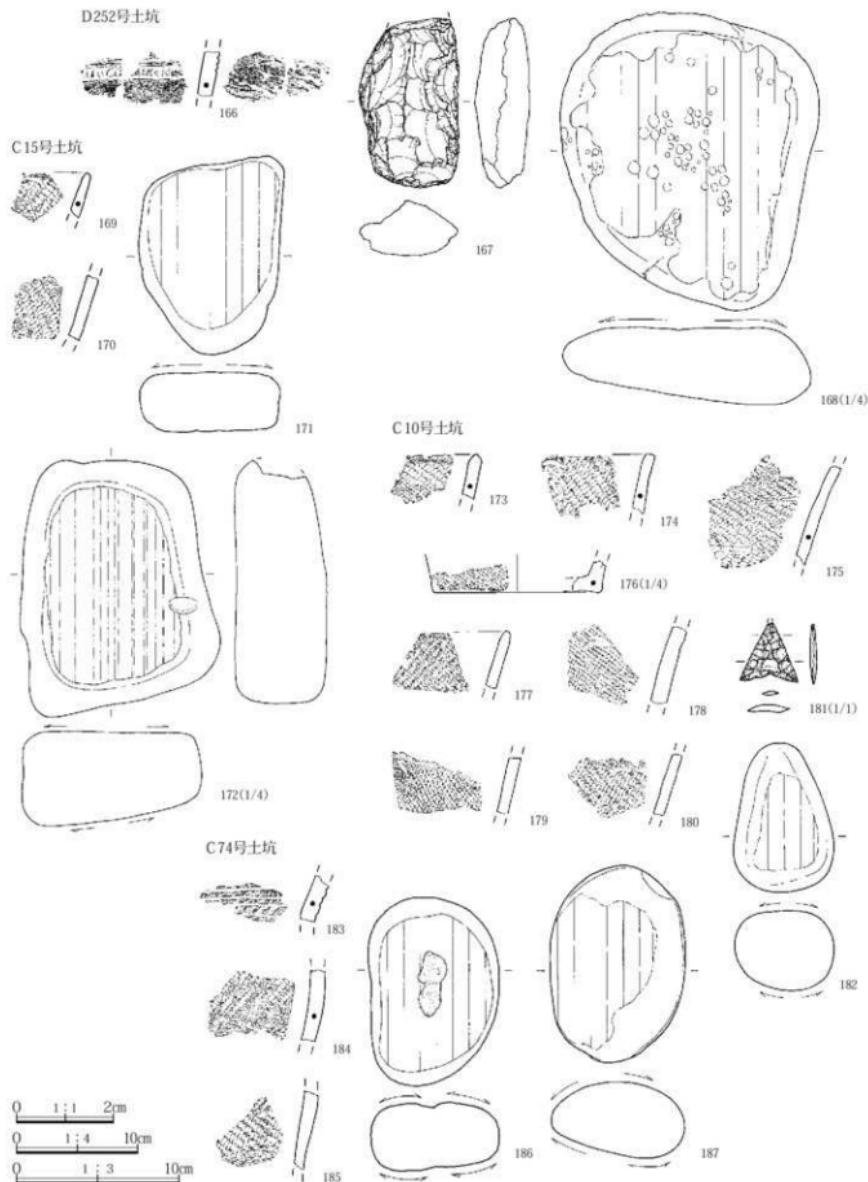
第77図 D279号土坑出土遺物図(2)



第78圖 C21・36・40・45・62・63号土坑出土遺物図平面図・土層断面図

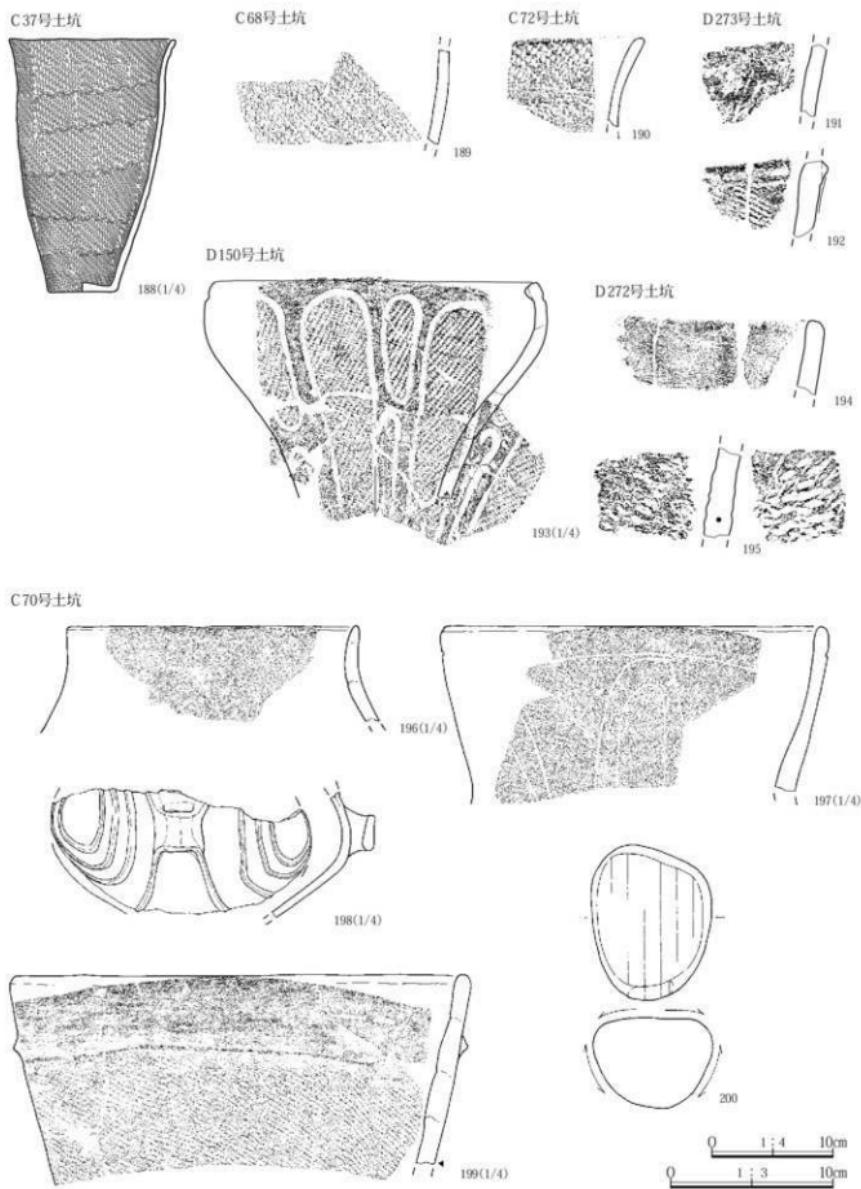


第79図 C 69・73・87・88・93、D 270号土坑出土遺物図

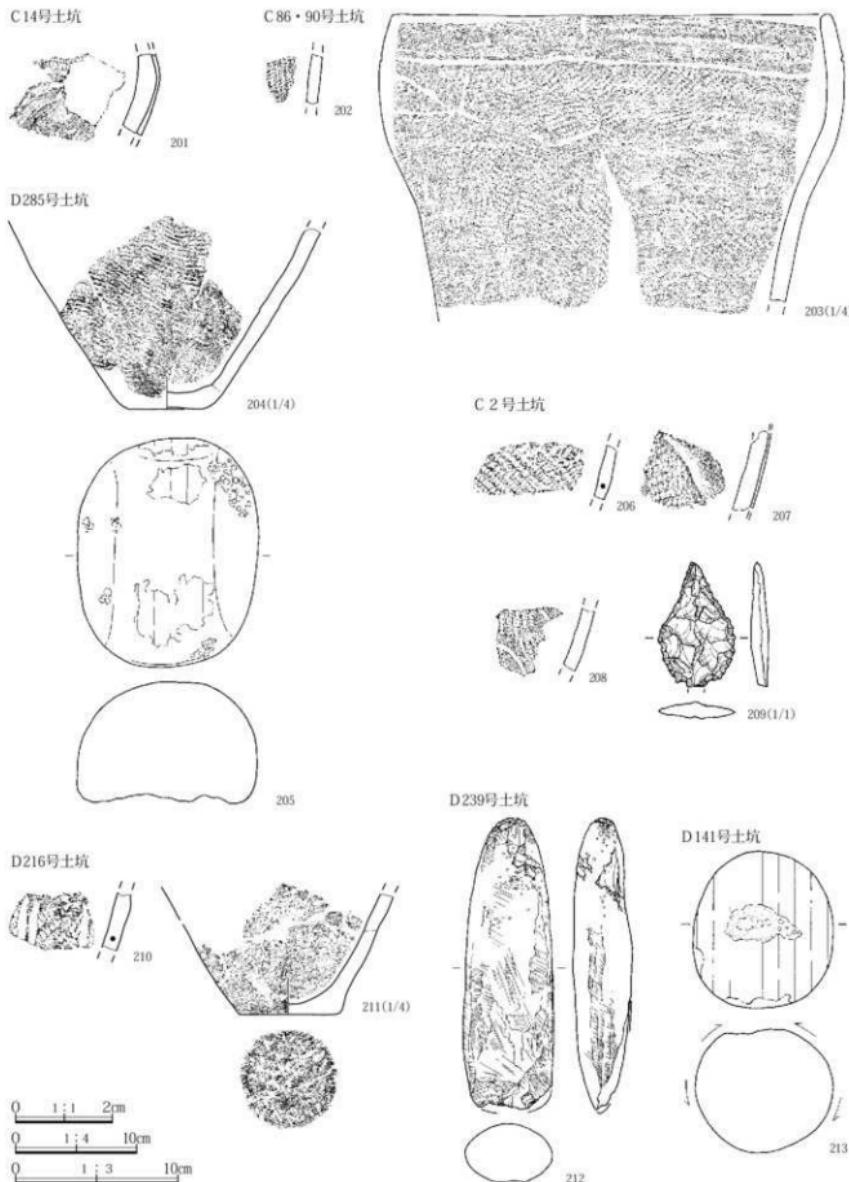


第80図 C 10・15・74、D252号土坑出土遺物図

第5章 発見された遺構と遺物



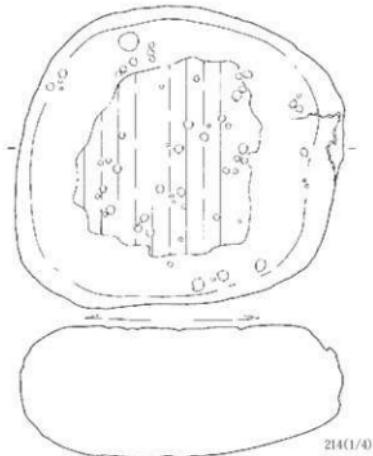
第81図 C37・68・70・72、D150・272・273号土坑出土遺物図



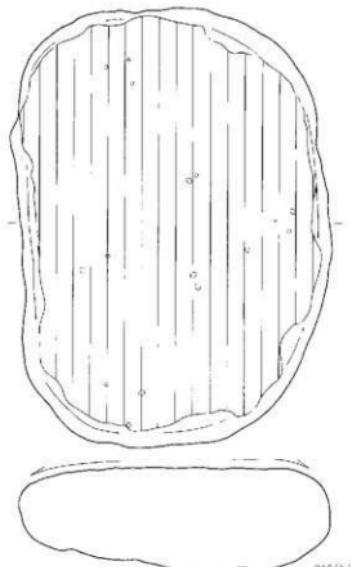
第82図 C2・14・86・90、D141・216・239・285号土坑出土遺物図

第5章 発見された遺構と遺物

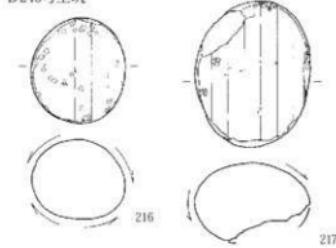
D244号土坑



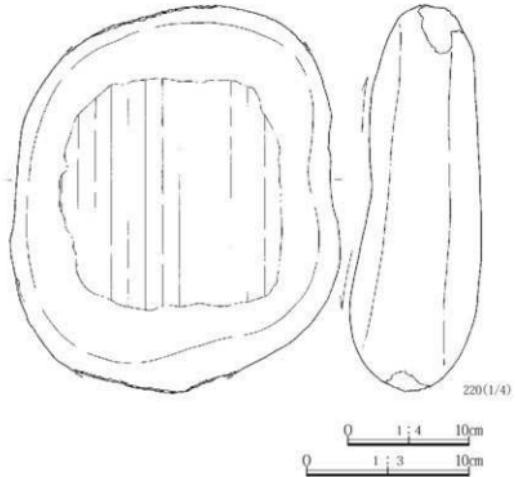
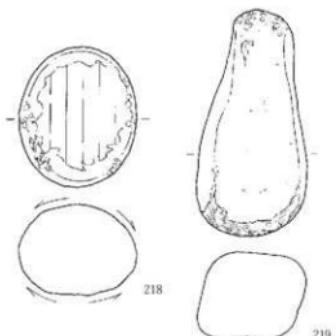
D245号土坑



D246号土坑



D281号土坑



第83図 D244~246、281号土坑出土遺物図

D281号土坑(第61・83図P L. 46・47・162)

位 置 D区西南部に位置する。座標値 X=60956・60957 Y=-92613・-92614 **遺存状況・重複** 完存。

形 状 楕円長方形 **規 模** 長径111cm、短径59cm、深さ37cm **長軸方向** N-72°-W **遺物・年代** 覆土やや上から石皿2点(第83図220)が出土している。時期不明

他に、時期不明であるが遺構確認面から縄文時代と推定する土坑群がある。時期不明のそれぞれの土坑の説明はしない。

袋状土坑は、C19、C20、C25、C48、C60、C91、D279、C252、C27、C46、C49、C92号土坑がある。

長方形の土坑はD119、D122、D124、D125号土坑がある。それ以外の円形、楕円形、椭円長方形などの土坑については、遺構計測表を見てもらいたい。

ピット・焼土・集石中・列石・配石・風倒木

ピット状の遺構がC区でいくつか検出された。詳細は遺構計測表に掲載しているが、長径33~81cm、短径30~59cm、深さ28~65cmの規模の小穴状の遺構である。うち、C329号ピット(長径81cm、短径50cm、深さ61cm)早期後葉の鶴ヶ島式土器(第89図1)が出土している。

C 2号焼土(第85図P L. 58・162)

位 置 C区中央部に位置する。座標値 X=60946 Y=-92672 **遺存状況** 北部は壁に接して未調査 **形 状** 不明 **規 模** 長径62cm、短径47+cm、深さ6cm **遺物・年代** 期後葉の諸磯a式土器(第85図1)が出土した。前期後葉と推定される。

C 3号焼土(第85図P L. 58・162)

位 置 C区中央部やや北に位置する。座標値 X=60954 Y=-92667 **遺存状況** 完存 **形 状** 楕円方形 **規 模** 長径62cm、短径58cm、深さ13cm **遺物・年代** 前中期後葉~末加曾利E4式土器(第85図2)が出土した。中期後葉~末と推定される。

C 2号集石(第86図P L. 58・162)

位 置 C区東部に位置する。座標値 X=60950 Y=-92659 **遺存状況** 完存 4~20cm大の礫が50個以上集石している。 **形 状** 楕円形 **規 模** 長径120cm、短径72cm、深さ24cm **遺物・年代** 前期中葉の有尾式土器(第86図1・2)、磨石(第86図3・4)が出土した。前期中葉と推定される。

C 1号列石(第87図P L. 58)

位 置 C区東端部に位置する。座標値 X=60949~60956 Y=-92647~-92651 **形 状** ほぼ一列に12~66cmの礫が19個並んでいる。 **規 模** 全長8.34m **長軸方向** N-27°-W **遺物・年代** 遺構確認面から縄文時代と推定する。

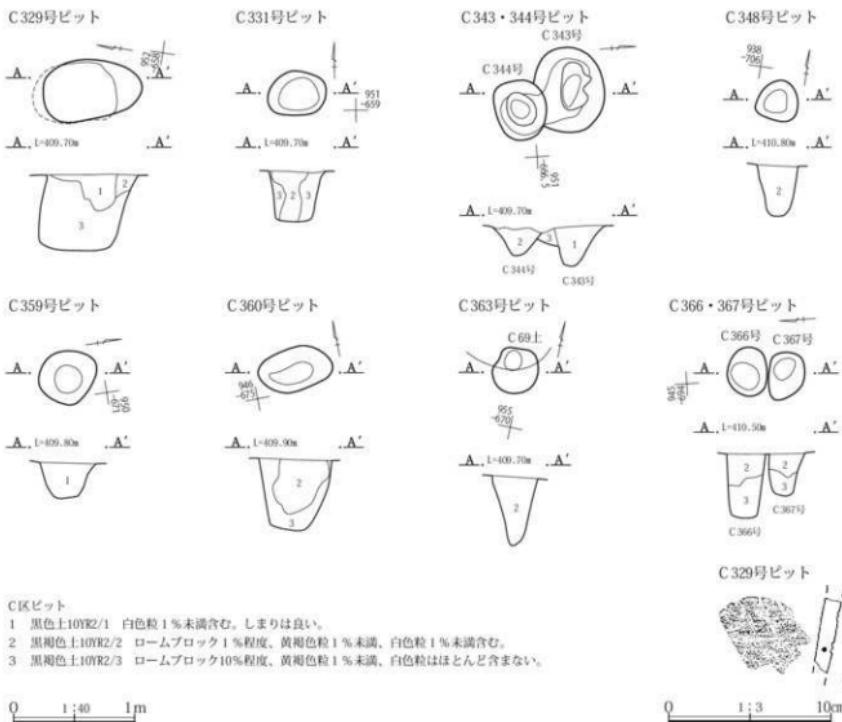
D 1号配石(第88図P L. 58・162)

位 置 D区西部中央に位置する。座標値 X=60966 Y=-92608・-92609 **形 状** 2石配置。両方石皿である。 **大きさ** 北石皿(第88図1) 長41.6cm、幅26.0cm、厚9.2cm **物・年代** 石皿2点が出土した。時期は不明

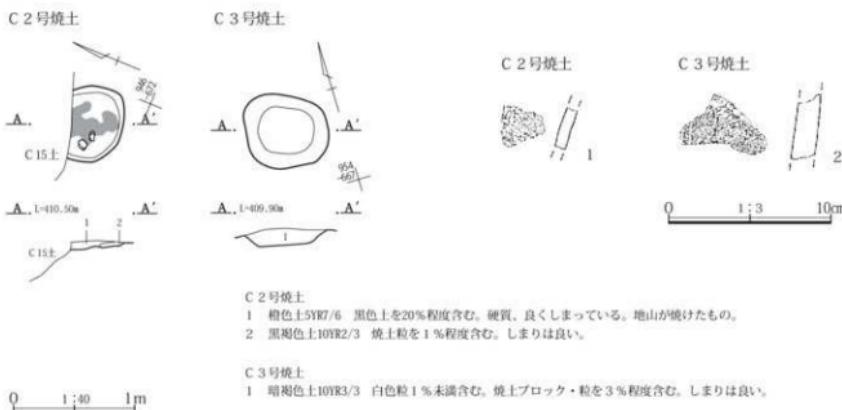
D 2号配石(第88図P L. 58)

位 置 D区南端部に位置する。座標値 X=60953 Y=-92618 **形 状** 1石配置。石皿である。 **大きさ**

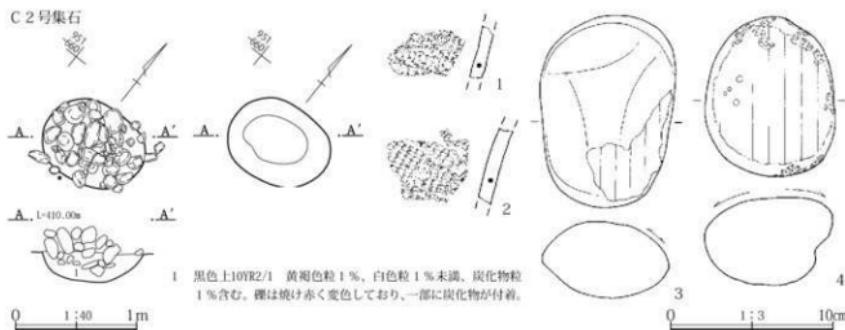
第5章 発見された遺構と遺物



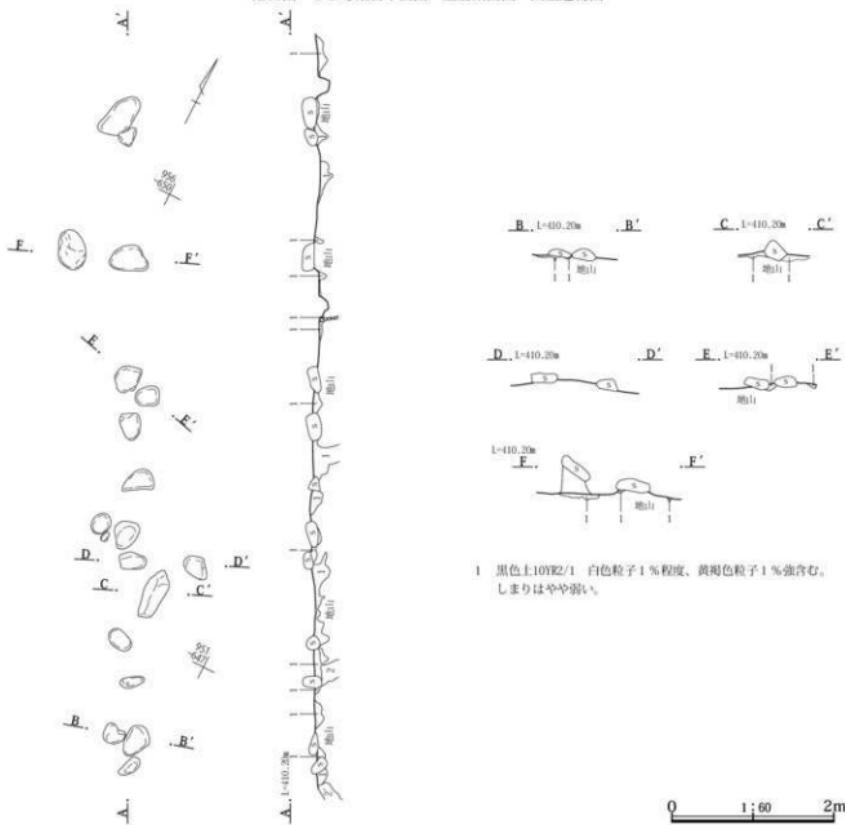
第84図 C 329・331・343・344・348・359・360・363・366・367号ビット平面図・土層断面図・出土遺物図



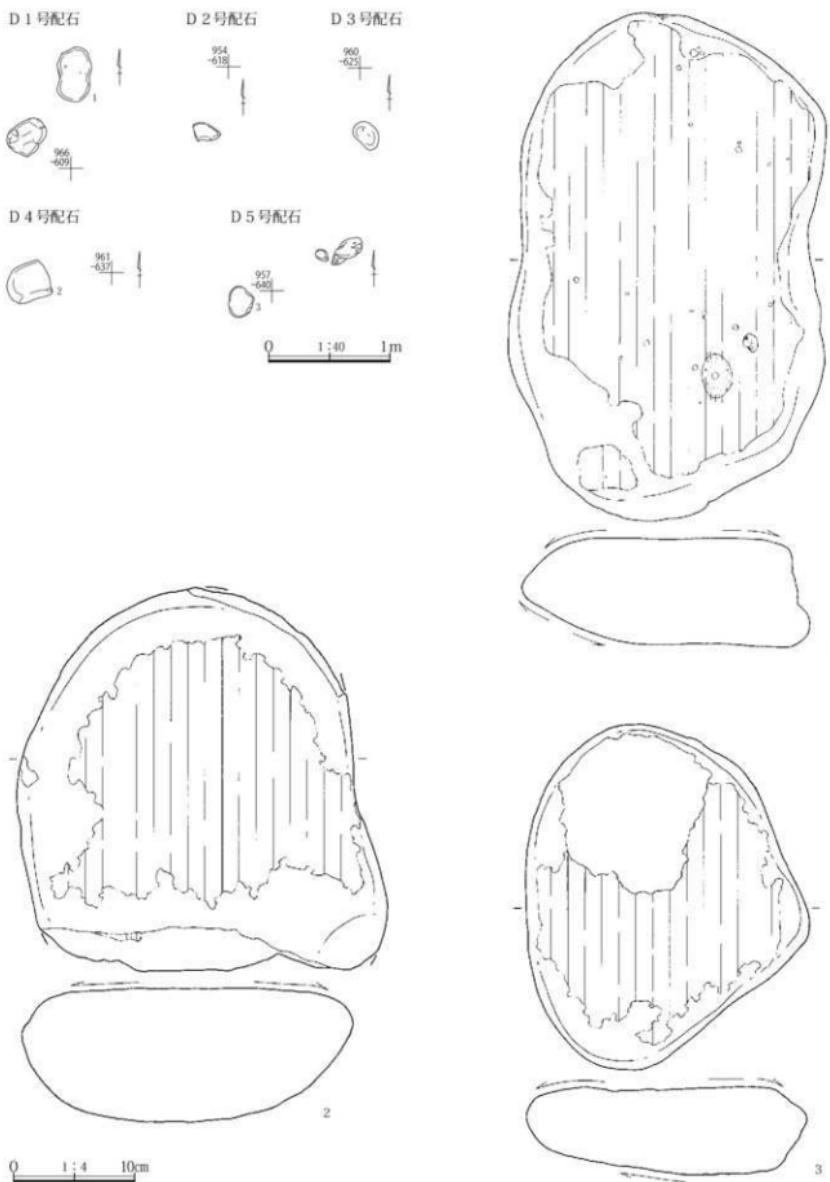
第85図 C 2・3号焼土平面図・土層断面図・出土遺物図



第86図 C 2号集石平面図・土層断面図・出土遺物図



第87図 C 1号列石平面図・土層断面図



第88図 D 1～5号配石平面図・出土遺物図

長44cm、幅12.4cm 遺物・年代 石皿1点が出土した。
時期は不明

D3号配石(第88図P.L. 58)

位 置 D区西部中央に位置する。座標値 X=60959 Y=-92624・-92625 形 状 1石配置。大きさ 長24cm、幅16cm 遺物・年代 時期は不明

D4号配石(第88図P.L. 58・163)

位 置 D区西端部に位置する。座標値 X=60960・60961 Y=-92697 形 状 1石配置。石皿である。

大きさ 長31.4cm、幅30.2cm、厚11.9cm 遺物・年代 石皿1点(第88図2)が出土した。時期は不明

D5号配石(第88図P.L. 58・163)

位 置 D区西端部中央に位置する。座標値 X=60956・60957 Y=-92639・-92367 形 状 3石配置。

うち、2石石皿である。大きさ 南石皿(第88図3) 長28.2cm、幅23.2cm、厚7.3cm 遺物・年代 石皿2点が出土した。時期は不明

風倒木(第88図P.L. 58・162)

位 置 D区東部中央に位置する。座標値 X=60982～60984 Y=-92533～-92535 形 状 不定形 大きさ 長2.36m、幅1.93m、深さ0.59m 遺物・年代 石黒色頁岩製のスクレイパー(第89図1)が出土した。時期は不明だが、遺構確認面から縄文時代と推定。

遺構外遺物

遺構外からもかなりの遺物が出土している。そこで、その概略をA・B・C・D区の地区ごとに説明する。

A区 遺構の検出は無かったが、遺構外遺物の出土を見た。以下土器と石器について記す。

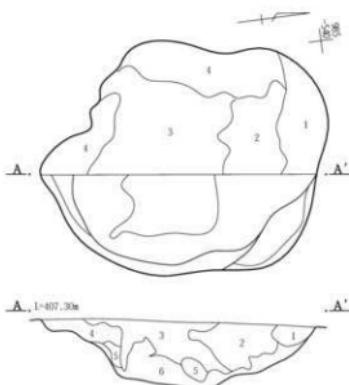
土器：前期中葉の有尾式(第90図1)、前期後葉の諸磯a b c式(第90図2～7)、後期中葉の加曾利E 1・E 2式(第90図8・9)、後期初頭の称名寺I併行(第90図10)後期前葉の堀之内1・2式(第90図11・12)を掲載した。非掲載の土器は、前期中葉の有尾式3点、前期後葉の諸磯b式2点、諸磯c式4点、中期中葉の勝坂2式2点、中期中葉～後葉の加曾利E 1～4式が16点、後期前葉の堀之内1式1点の構成である。

石器：変質蛇紋岩製の磨製石斧(第90図13)を掲載した。他に打製石斧が1点出土している。

B区 遺構の検出は無かったが、遺構外遺物の出土を見た。以下土器と石器について記す。

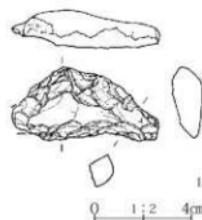
土器：早期前葉の押形文土器(第90図14)、前期後葉の諸磯a・b式(第90図15～17)、後期初頭の称名寺II式併行(第90図18)を掲載した。非掲載の土器は、中期前葉の有尾式1点、中期後半～後期前半の土器1点が出土している。

石器：非掲載で、黒色頁岩製の打製石斧1点、台石1点が出土している。



第89図 風倒木平面図・土層断面図・出土遺物図

- 1 VI②多量、VI④・VI⑤・VI⑥含む。
 - 2 VI①・VI②多量、VI③・VI④含む。
 - 3 VI③
 - 4 VI③中心、VI④・VI⑤・VI⑥含む。
 - 5 VI④中心、VI③・VI④・VI⑤含む。
 - 6 VI①・VI②中心、VI③・VI④含む。
- 0 1:40 1m



C区 遺構が多く検出され、遺構外から多くの遺物の出土を見る。

土器：掲載した土器は、早期撚糸（第91図19）、早期後葉の鶴ヶ島台式（第91図20～38）、早期条痕文系（第91図39～41）、早期後半（第91図42～44）、早期末（第92図45・46）、前期前葉の二ツ木式（第92図47～49）、関山I式（第92図50～54）、関山II式（第92図55～63）、前期中葉の黒浜式（第92図64～71）、有尾式（第93図72～第94図105）、前期後葉の諸磯a式（第94図106～121）、諸磯b式（第94図122～130）、中期後葉の加曾利E4式（第94図131～135）、後期初頭の称名寺I併行（第95図136～146）、後期前葉の堀之内1・2式（第95図147・148）、後期前半（第95図149）を掲載した。

非掲載のグリッドであげた土器を時期順にあげると、
A区 諸磯a 有尾



諸磯c

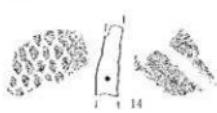


称名寺I併行



B区

押型

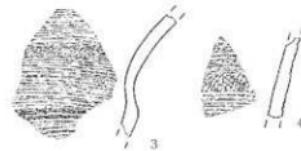


諸磯a



早期は、鶴ヶ島台式50点、早期条痕文系198点、早期無文8点、夏島3点、前期は二ツ木式15点、関山I式6点、関山II式34点、黒浜式4点、有尾式1494点、諸磯a式187点、諸磯b式462点、諸磯c式1点、前期末11点、中期は加曾利E3式42点、加曾利E4式40点、加曾利E5式247点、中期後半783点、後期は堀之内1式6点、堀之内2式1点、後期中葉5点、時期不明44点である。竪穴建物の覆土に含まれる土器は外しているので、竪穴建物の時期の土器と、グリッド出土土器に少しづれがある。C区の竪穴建物は、古い順に並べるとC6（早期中葉）、C19（早期後葉鶴ヶ島台）、C16（前期前葉関山I式）、C8（前期前葉関山I・II式）、C17・18（前期前葉関山II式）、C13・10（前期中葉有尾式）、C15（前期後葉諸磯a式）、C9（中期後葉加曾利E4式）、C11・18（後期初頭

諸磯b



加曾利E1



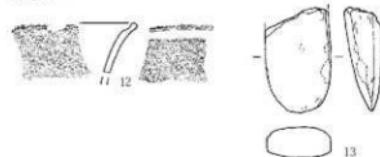
加曾利E2



堀之内1



堀之内2



第90図 A・B区遺構外縄文時代出土遺物図

称名寺I式)である。前期が多く、特に関山式期の建物が多い。有尾式期の建物も2棟ある。グリッド出土で特に数量が多いのは有尾式、諸磯b式、中期加曾利E5式、中期後半の土器である。早期条痕文系、諸磯a式の出土も多い。

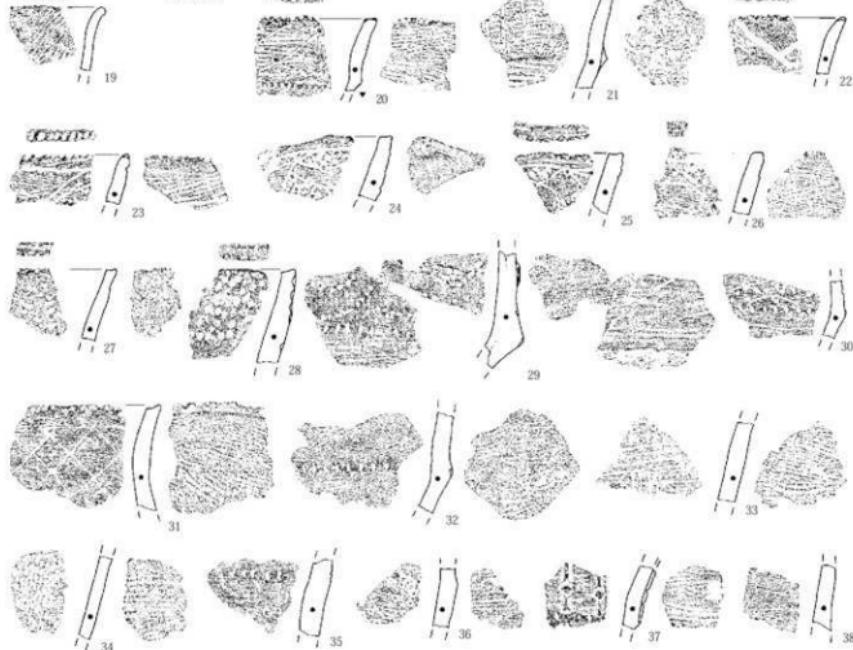
石器：掲載した石器は、赤碧玉製の石錐(第95図153)、C区

黒色頁岩製の石匙(第95図154)、黒色頁岩製の楔形石器(第95図155)、黒色頁岩製のスクレイパー(第95図156)、変質蛇紋岩製の石製品(第95図157)、変玄武岩の敲石(第95図158)、磨石(第95図159・160)、石皿(第96図161・162・163・164・166)、多孔石(第96図165)である。

遺構外の石器は、多種多量である。粗粒輝石安山岩製

早期燃条

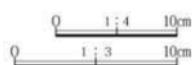
鵜ヶ島台



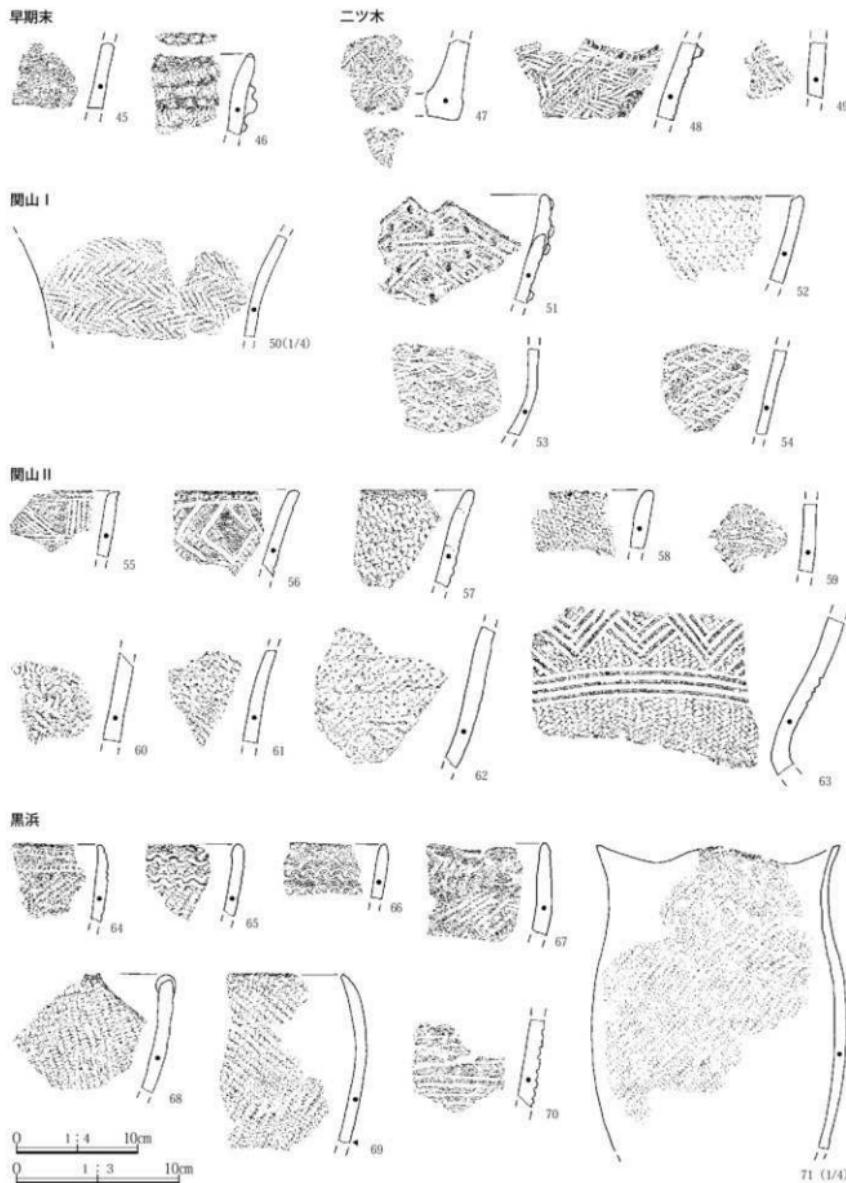
早期条痕



早期後半



第91図 C区遺構外縄文時代出土遺物図(1)



第92図 C区遺構外縄文時代出土遺物図(2)

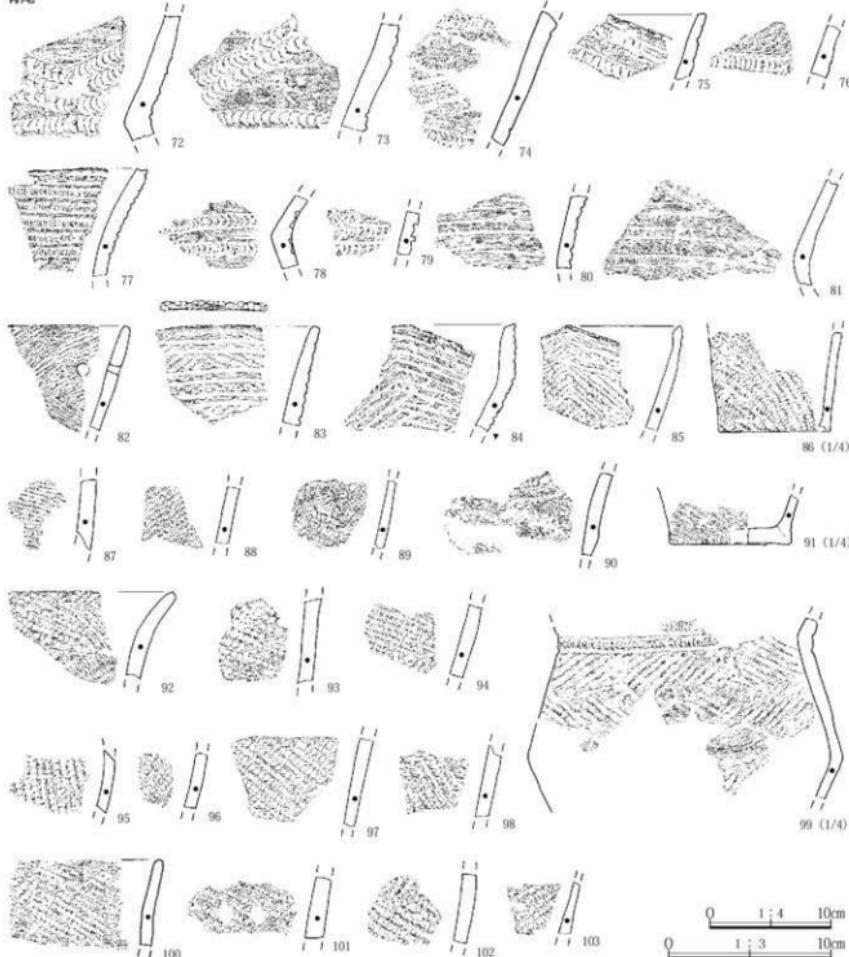
を中心に、石器の器種により石材の選択を行っている。

D区 遺構の検出も多く、遺構外からの遺物の出土を見る。

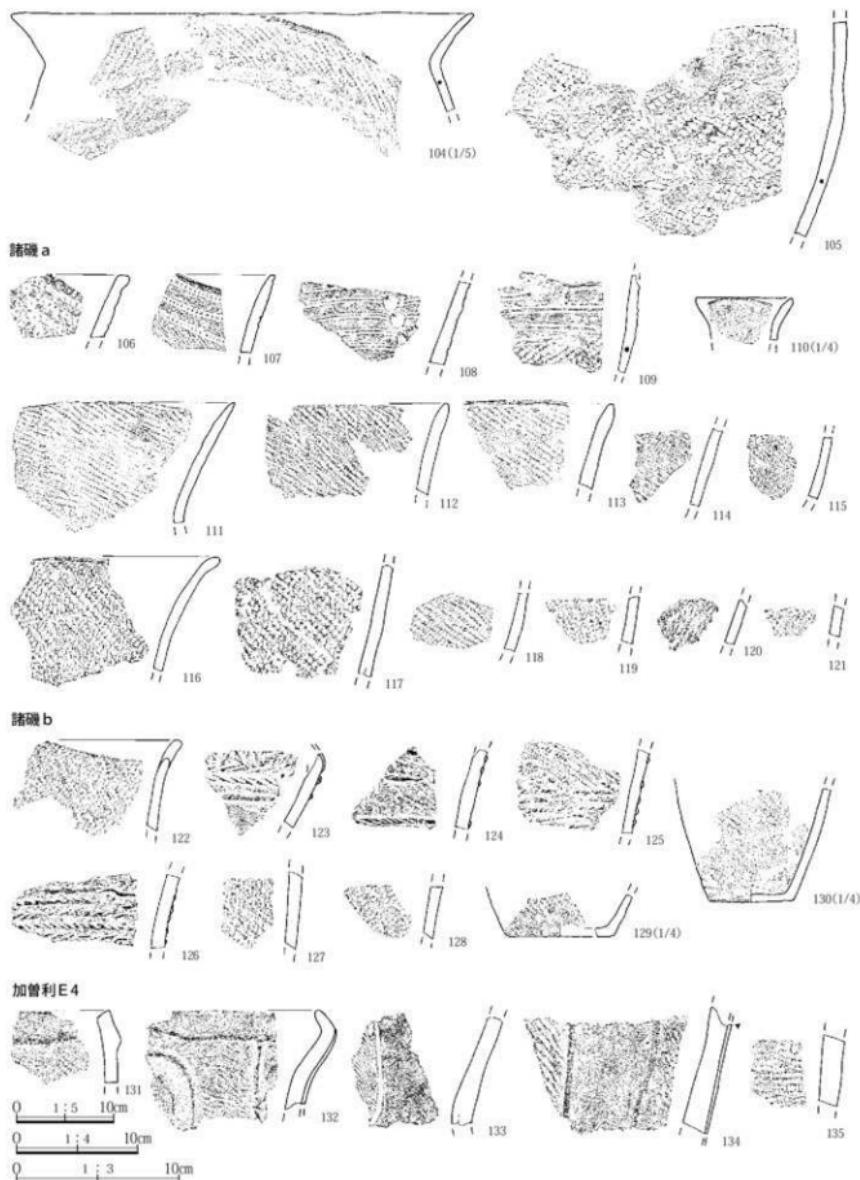
土器：掲載した土器は、早期条痕文系（第97図168～173）、前期前葉の二ツ木式（第97・98図174～186）、関山1式（第98図187～194）、関山式併行（第98図195）、前期

中葉の黒浜式（第98・99図196～217）、黒浜併行（第99図218～222）、积迦堂Z3式（第99図223）、有尾式（第99図224～226）、神ノ木式（第99図227）、大木6式（第99図）、前期後葉の諸磯a式（第99図229）、諸磯b式（第99・100図230～240）、中期中葉の加曾利E3式（第100図241～244）、中期後葉の加曾利E4式（第100図245～249）、後

有尾

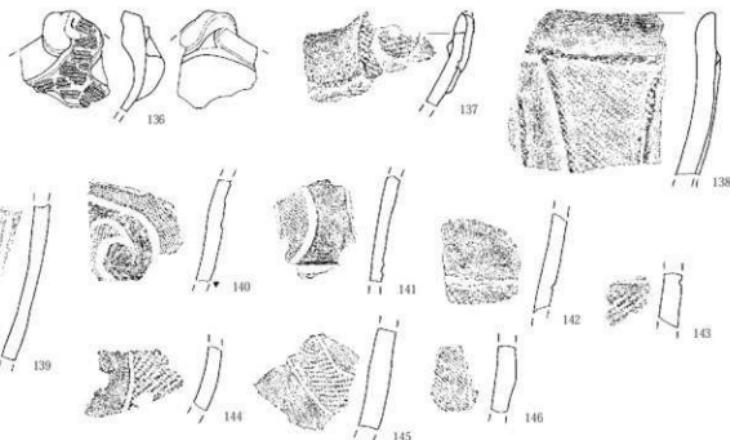


第93図 C区遺構外縄文時代出土遺物図(3)

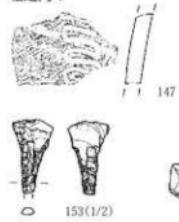


第94図 C区遺構外縄文時代出土遺物図(4)

称名寺1併行



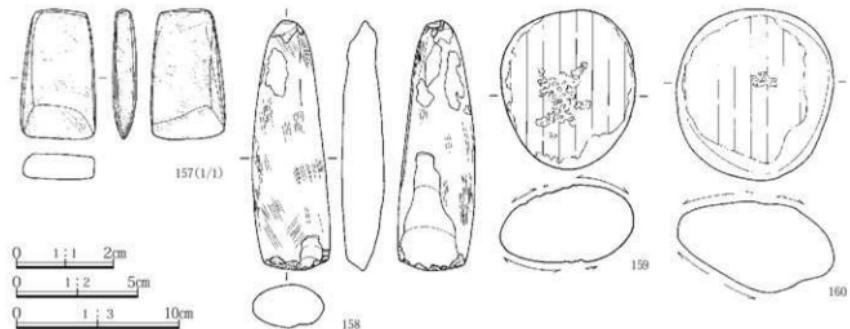
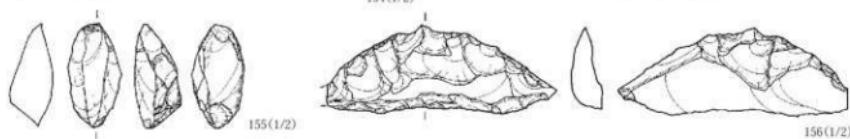
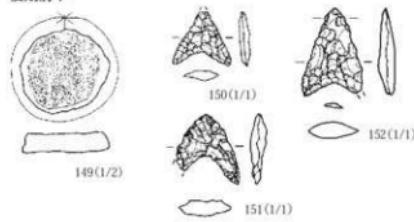
堀之内1



堀之内2

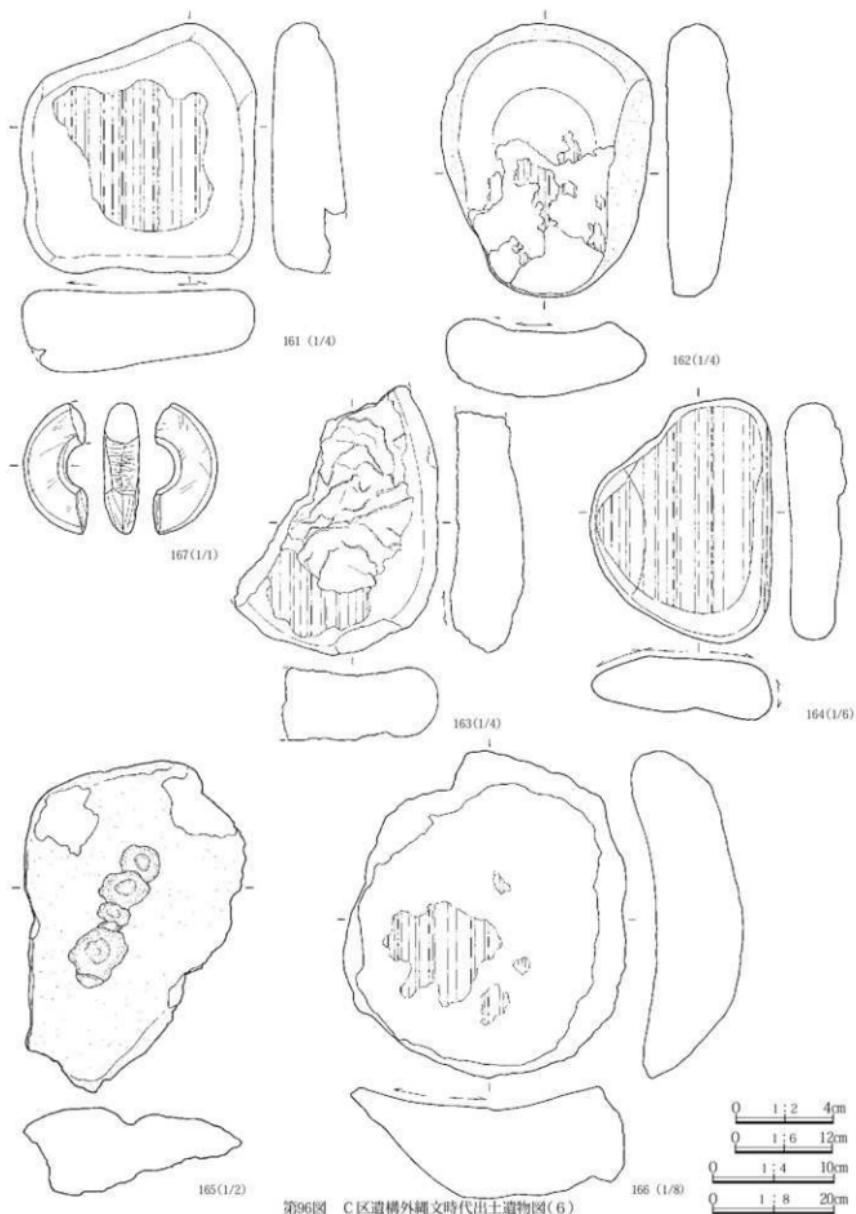


後期前半



0 1:1 2cm
0 1:2 5cm
0 1:3 10cm

第95図 C区遺構外縄文時代出土遺物図(5)



第96図 C区遺構外縄文時代出土遺物図(6)

期前葉の壺之内 I式(第100図250～256)、土製円盤(第100図257)である。

非掲載の土器出土は、総数として早期末葉が20点、前期前葉が37点、前期中葉が827点、異系統の前期中葉が17点、前期後葉が173点、中期が259点、中期中葉が2点、中期中葉～後期初頭が11点、中期後葉が19点、後期が49点、後期前葉子段階が49点、後期前葉新段階が3点、時期不明が359点である。

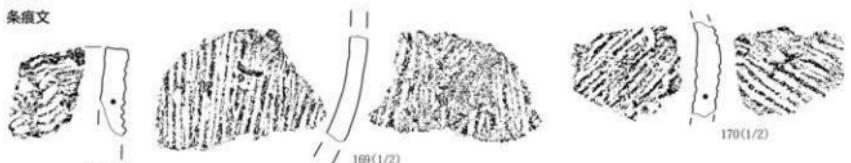
D区の建物は、D26(早期後葉)、D32(前期前葉ニツ木式)、D33(前期前葉関山II式)、D29(前期中葉黒浜式)、D30(前期前葉～中葉黒浜・有尾式)である。前期前葉～中葉に集中している。非掲載の遺構外土器を見ると、やはり前期中葉が多く、遺構との関係性が同える。

石器：掲載した石器は、打製石斧(第100図258)、黒色頁

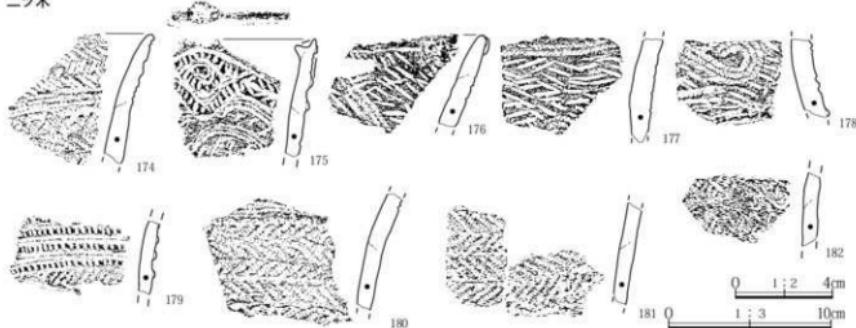
岩製のスクレイパー(第100図259)、凹石(第101図260・261・262・263・264・265・266・267)、磨石(第101図268・270)、石皿(第100図271)である。非掲載の遺構外の石器は多種多様である。C区同様、粗粒輝石安山岩製の石器が中心であるが、石器の用途により石材の選択が行われている。

D区

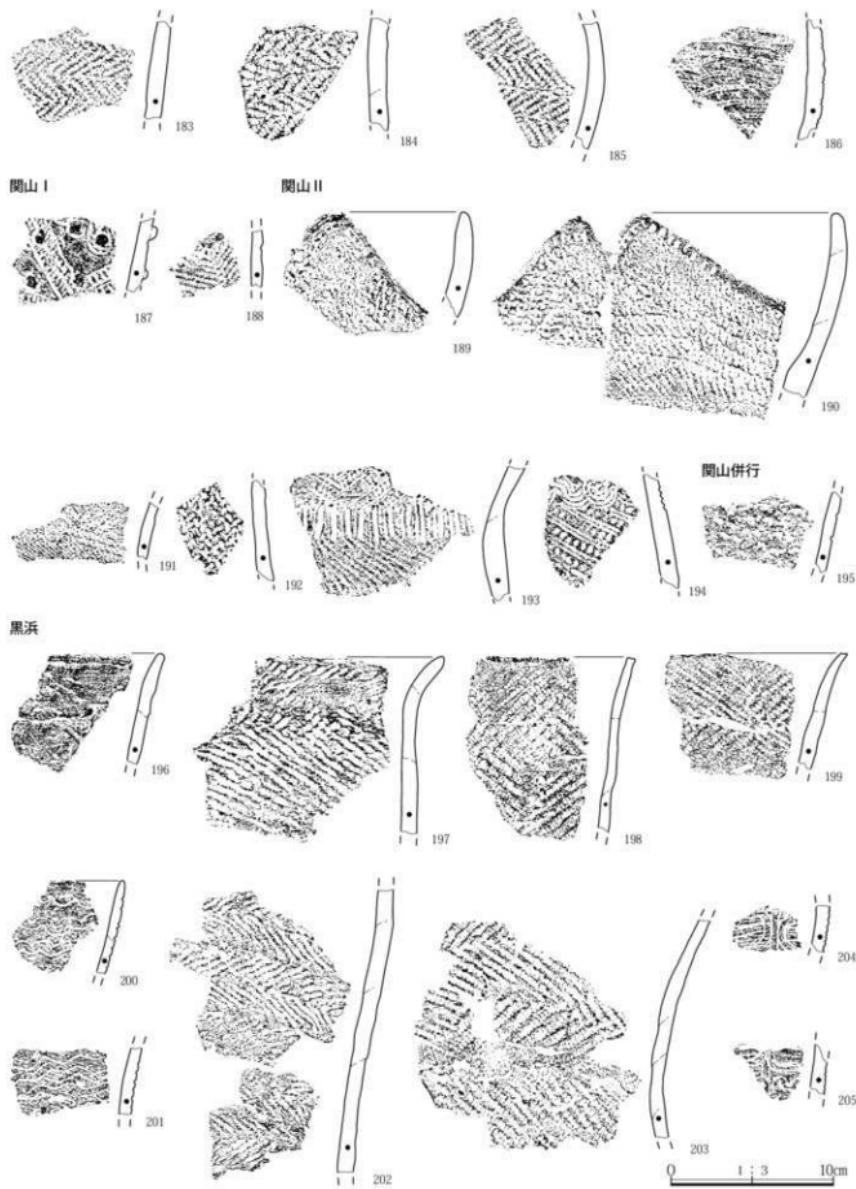
条痕文



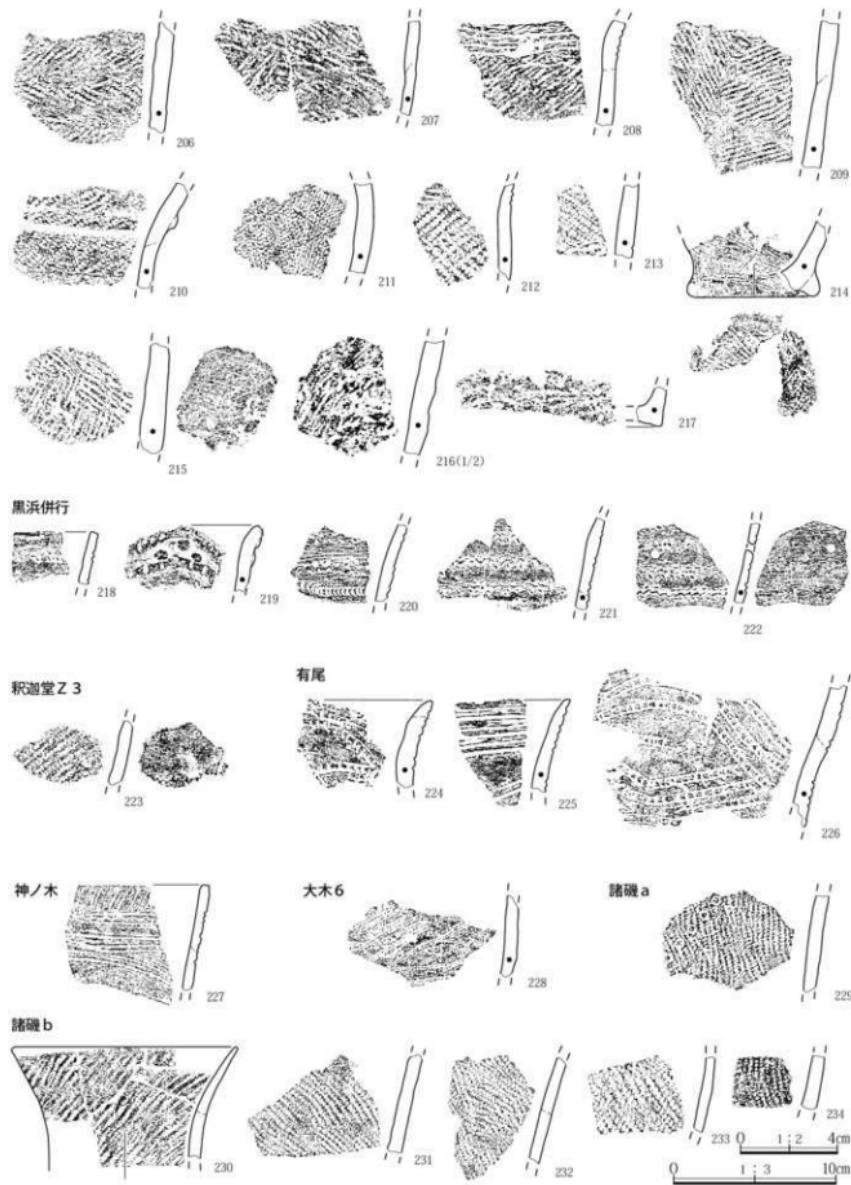
ニツ木



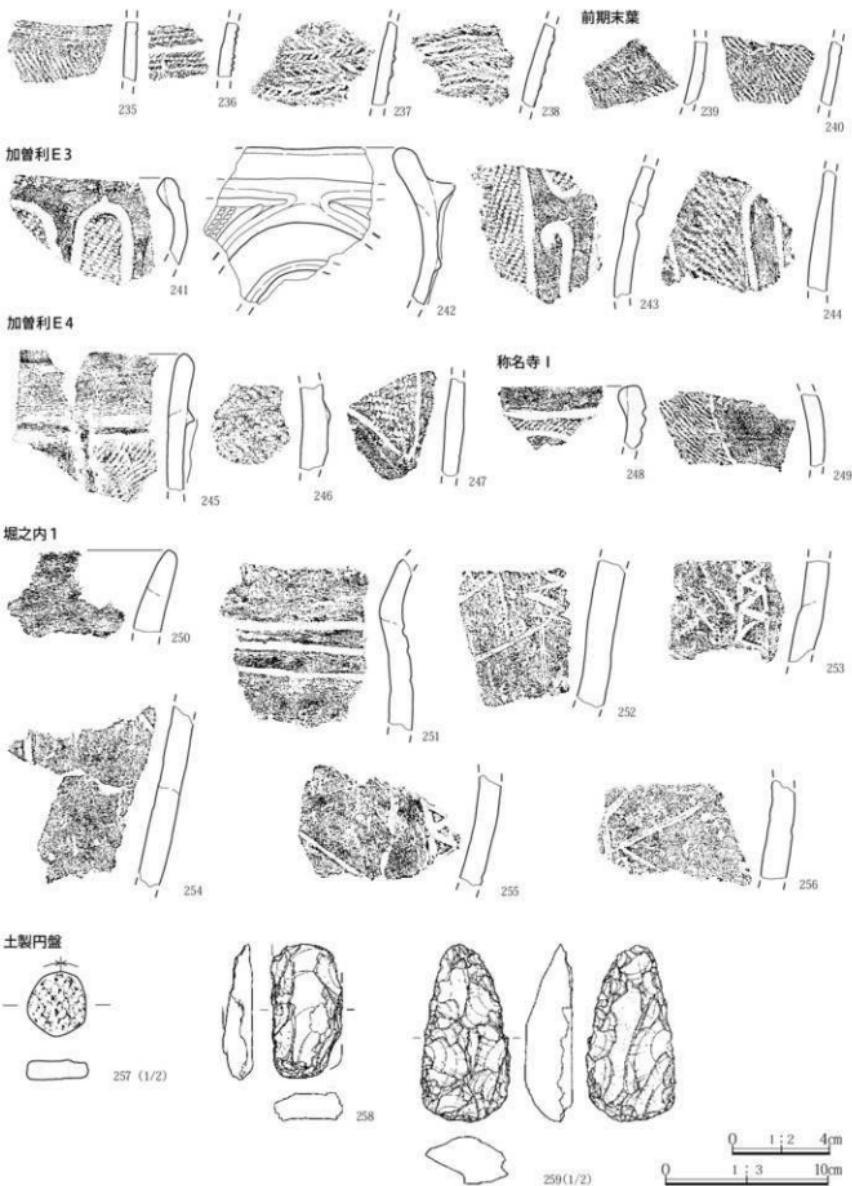
第97図 D区遺構外縄文時代出土遺物図(1)



第98図 D区遺構外縄文時代出土遺物図(2)



第99図 D区遺構外縄文時代出土遺物図(3)



第100図 D区遺構外縄文時代出土遺物図(4)



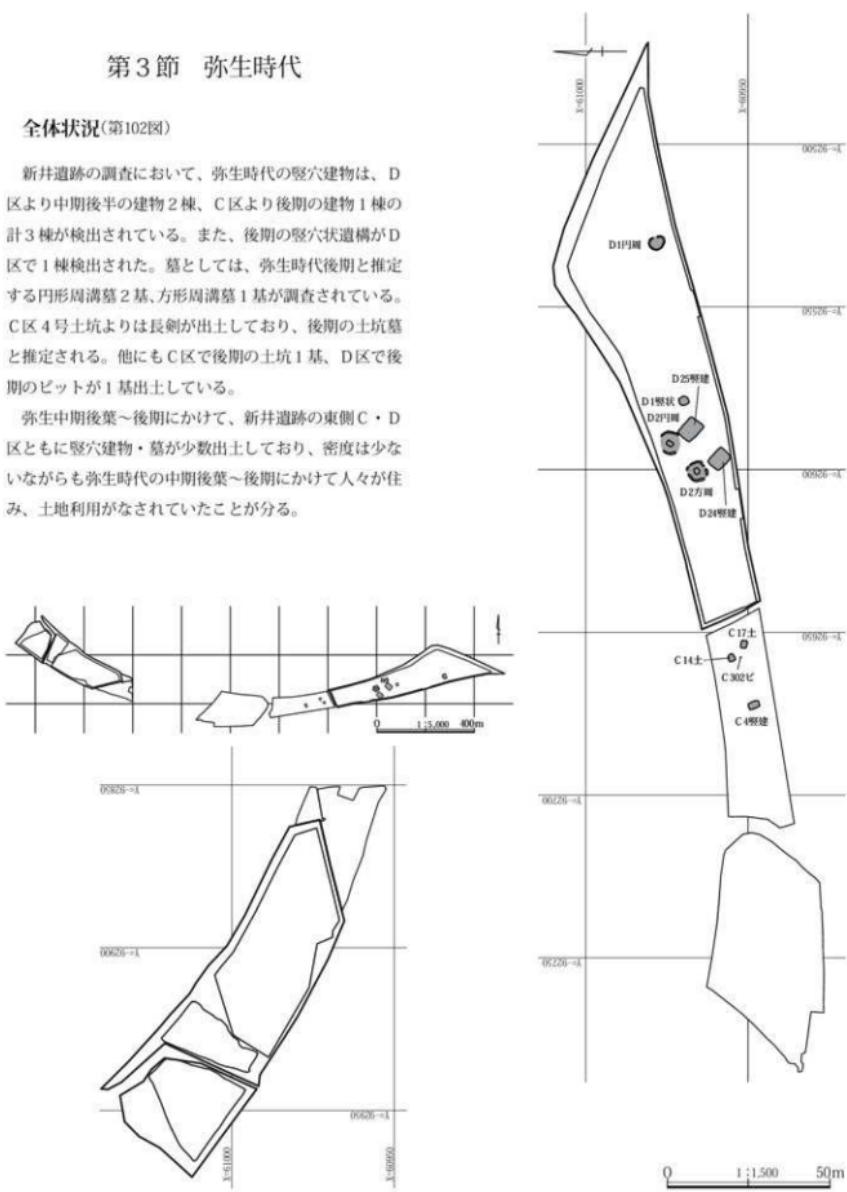
第101図 D区遺構外縄文時代出土遺物図(5)

第3節 弥生時代

全体状況(第102図)

新井遺跡の調査において、弥生時代の竪穴建物は、D区より中期後半の建物2棟、C区より後期の建物1棟の計3棟が検出されている。また、後期の竪穴状遺構がD区で1棟検出された。墓としては、弥生時代後期と推定する円形周溝墓2基、方形周溝墓1基が調査されている。C区4号土坑よりは長剣が出土しており、後期の土坑墓と推定される。他にもC区で後期の土坑1基、D区で後期のピットが1基出土している。

弥生中期後葉～後期にかけて、新井遺跡の東側C・D区ともに竪穴建物・墓が少数出土しており、密度は少ないながらも弥生時代の中期後葉～後期にかけて人々が住み、土地利用がなされていたことが分る。

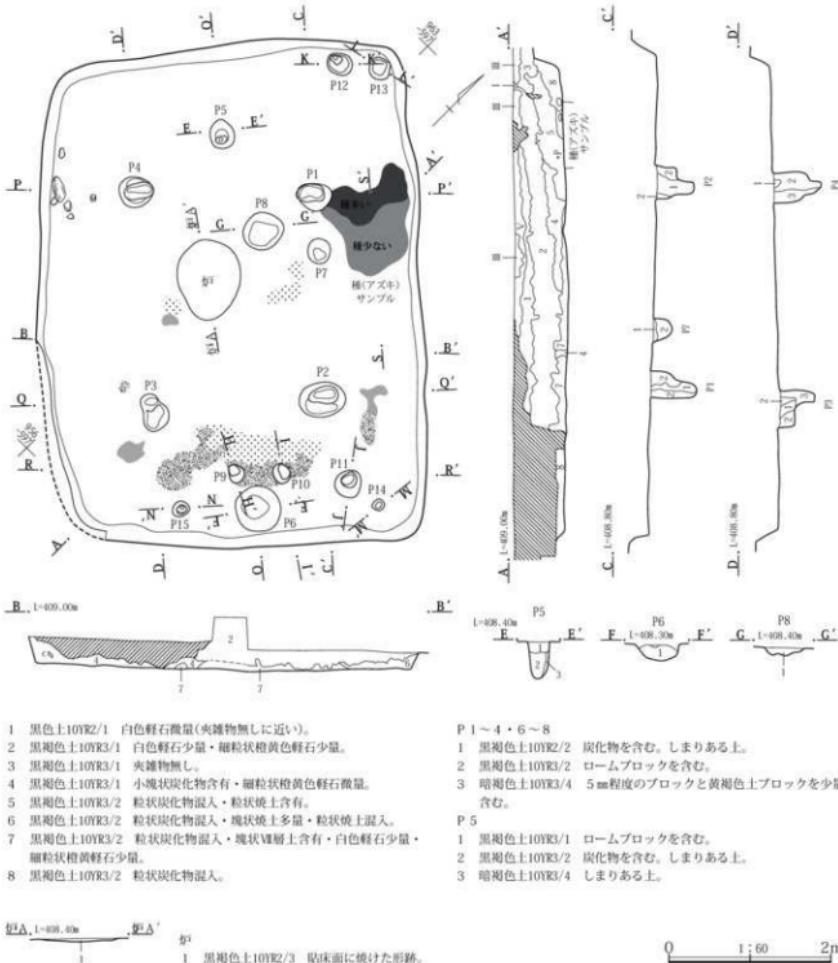


第102図 弥生時代遺構分布図

竪穴建物

D24号竪穴建物(第103・108図 P.L. 59~64・172~174)
 位 置 D区中央や西側南部に位置する。25号建物が北東に位置する。座標値 X=60955~60692 Y=-92592~92599 遺存状況・重複 竪穴建物全体が調査対象である。重複は無い。形 状 様円長方形 規 模

東西6.23m、南北4.74m 長軸方向 N-48°-W 床面積 25.182m² 床面・壁 床面は基本土層Ⅶ②層を掘り込んでいる。掘方は無い。入口部付近に粘土が張ってある箇所と、床面が硬化している箇所がある。他にも床面4本主柱穴付近を中心に、硬化面・粘土・焼土面が小範囲に形成されている。壁高は、17~37cmの範囲で残り、あまり壁の残りは良くない。炉 炉は、建物内中央や

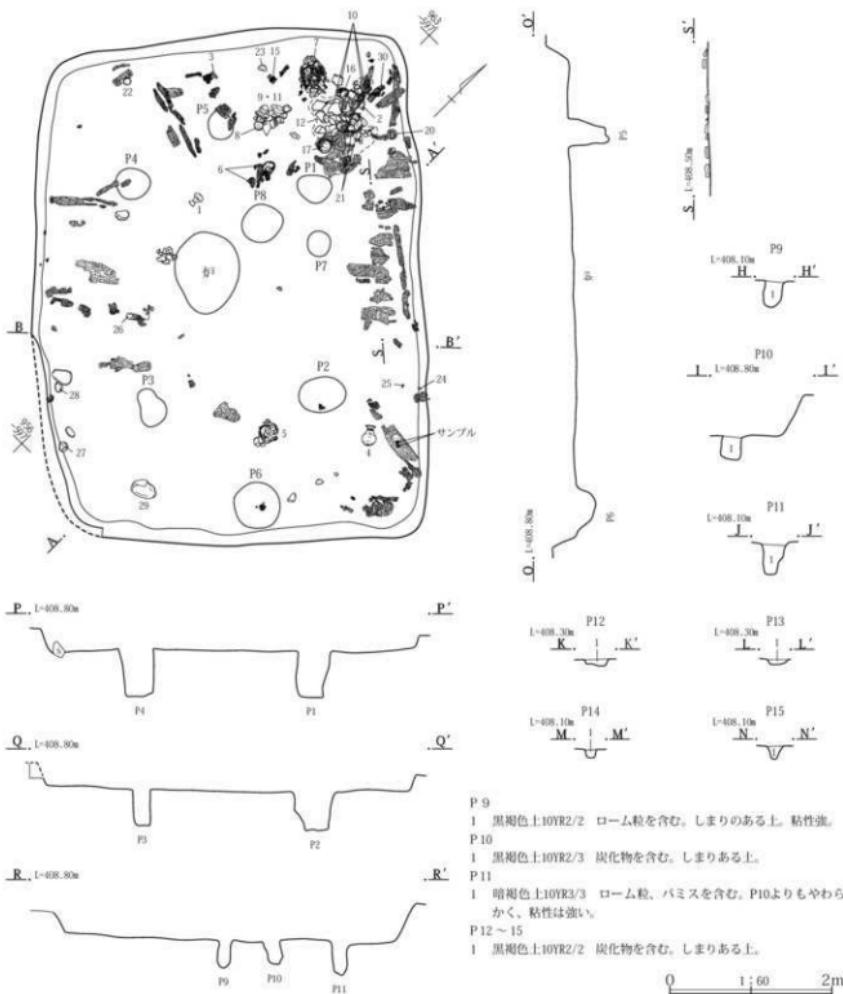


第103図 D24号竪穴建物平面図・土層断面図

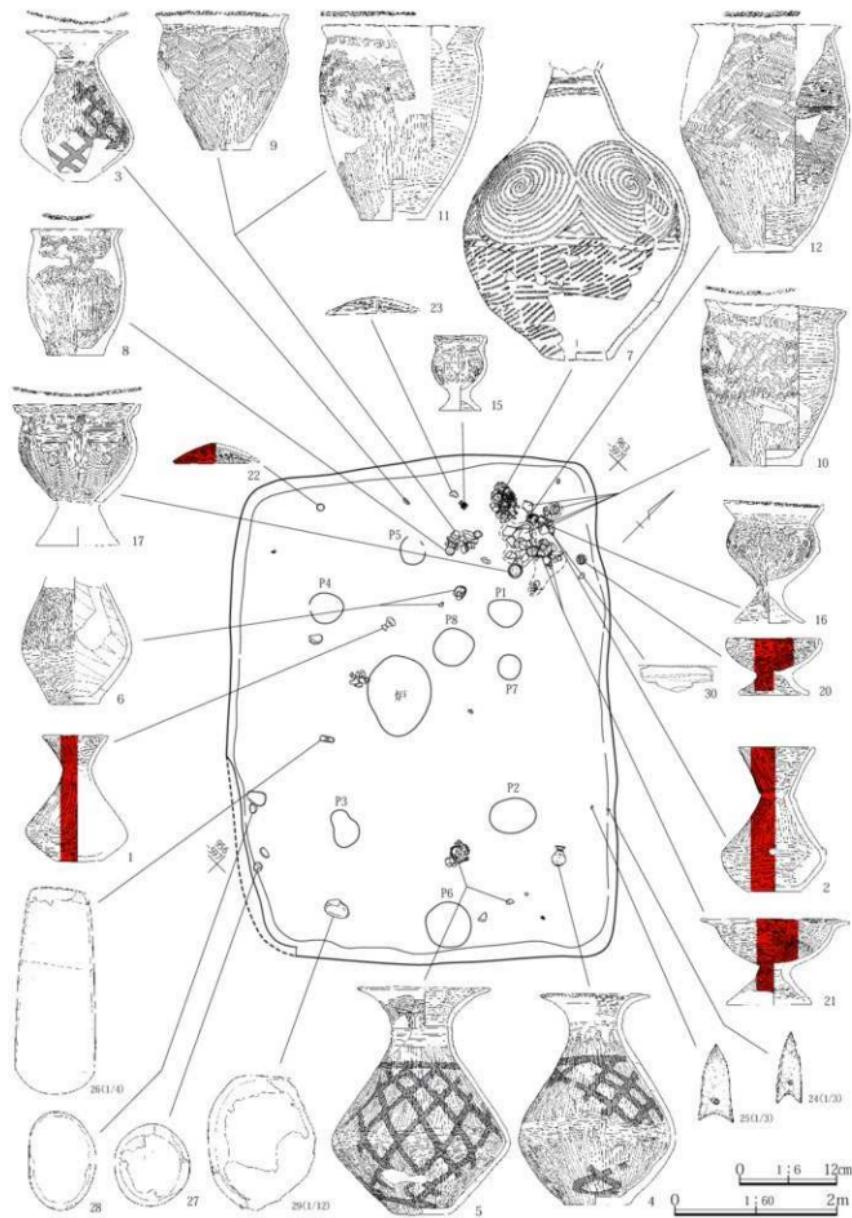
第5章 発見された遺構と遺物

北西側に、長径99cm×短径79cm、深さ4cmの軒が確認された。張床面に焼けた跡が明瞭に残っている。柱穴他P1～P4の4本主柱穴である。長径は42～57cm、短径は34～43cm、深さは45～58cmあり深い。またP3を除く主柱穴の形から長方形断面のいわゆる五平柱であることか想定される。長軸北西側にP5があり、四戸遺跡など

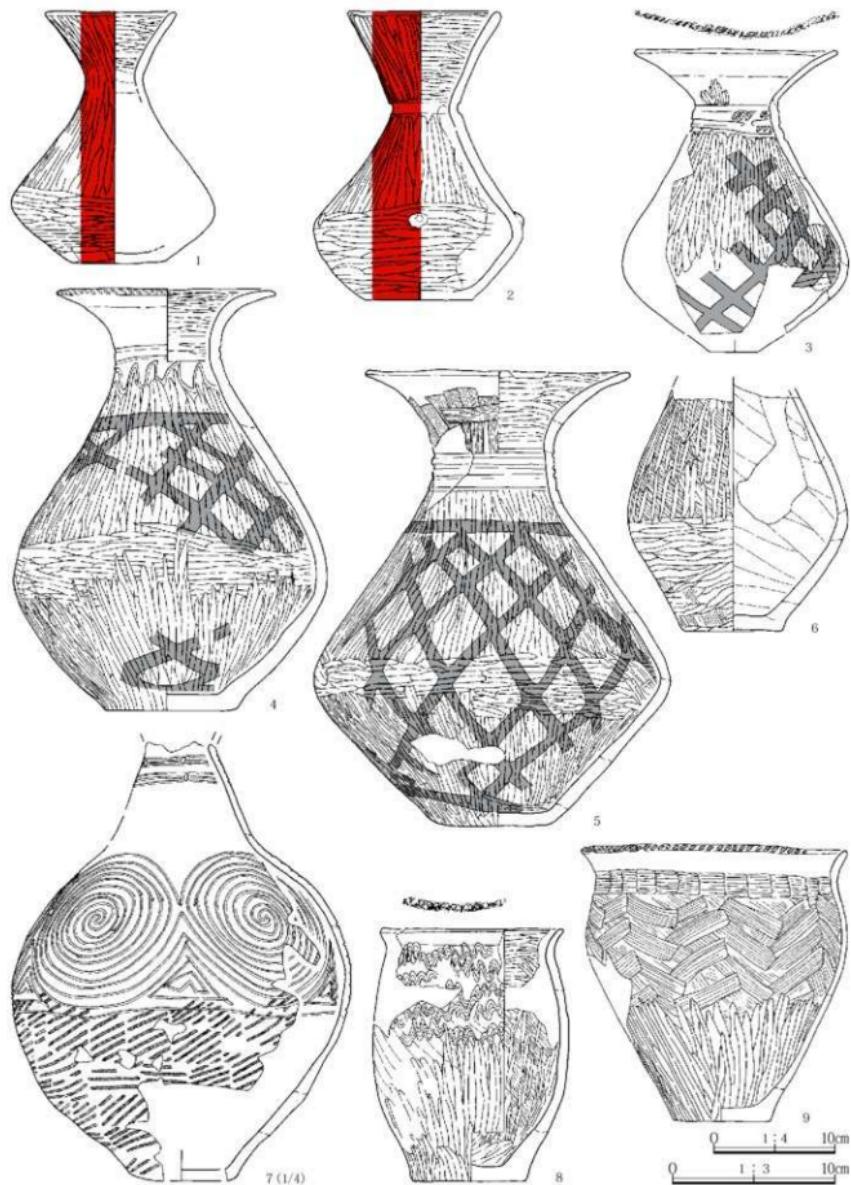
で確認された屋内棟持柱である。また、入口部に大きさは異なるが2本のビットが確認されており、補強の柱と推定される。それとは別に入口の梯子を支える小ビットが並列して入口から入って北西側70cmの所にある。他にも床面に数箇所ビットが確認されているが用途は不明である。



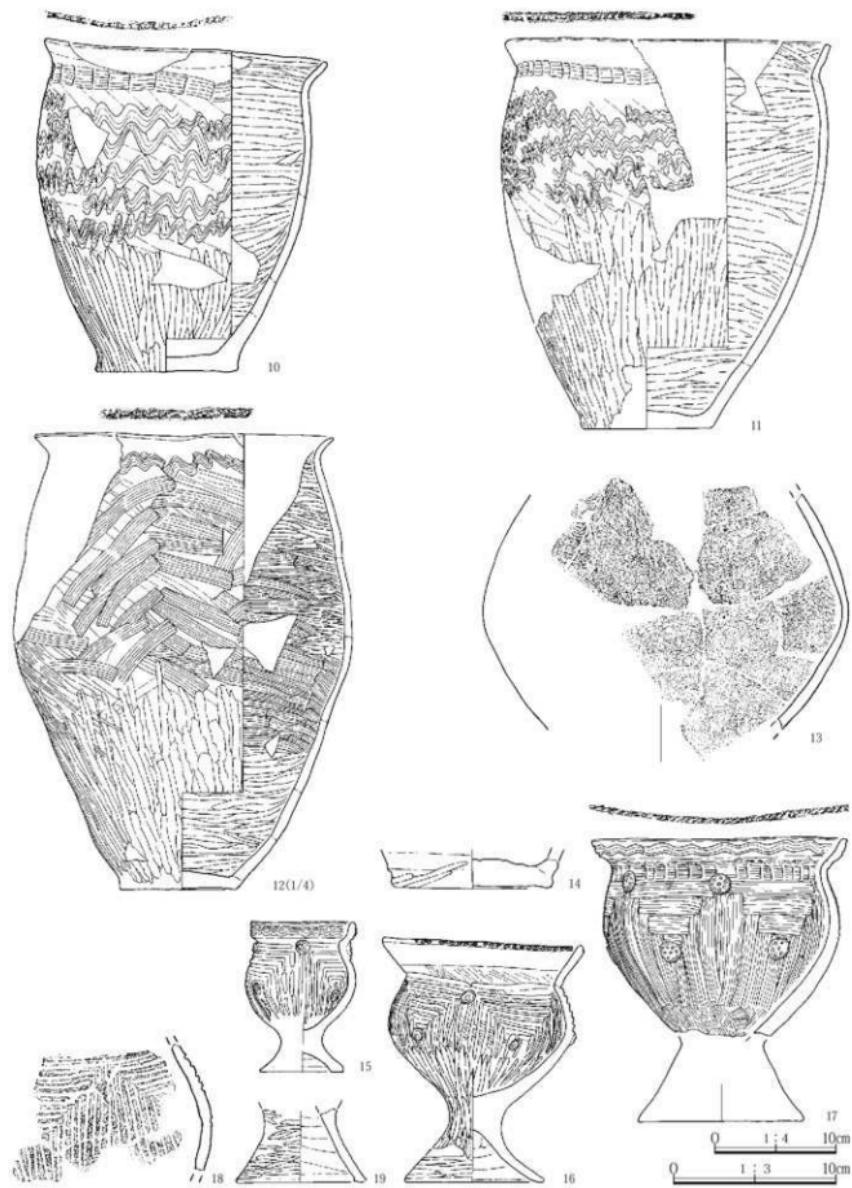
第104図 D24号竪穴建物遺物・炭化材出土状況図・断面図



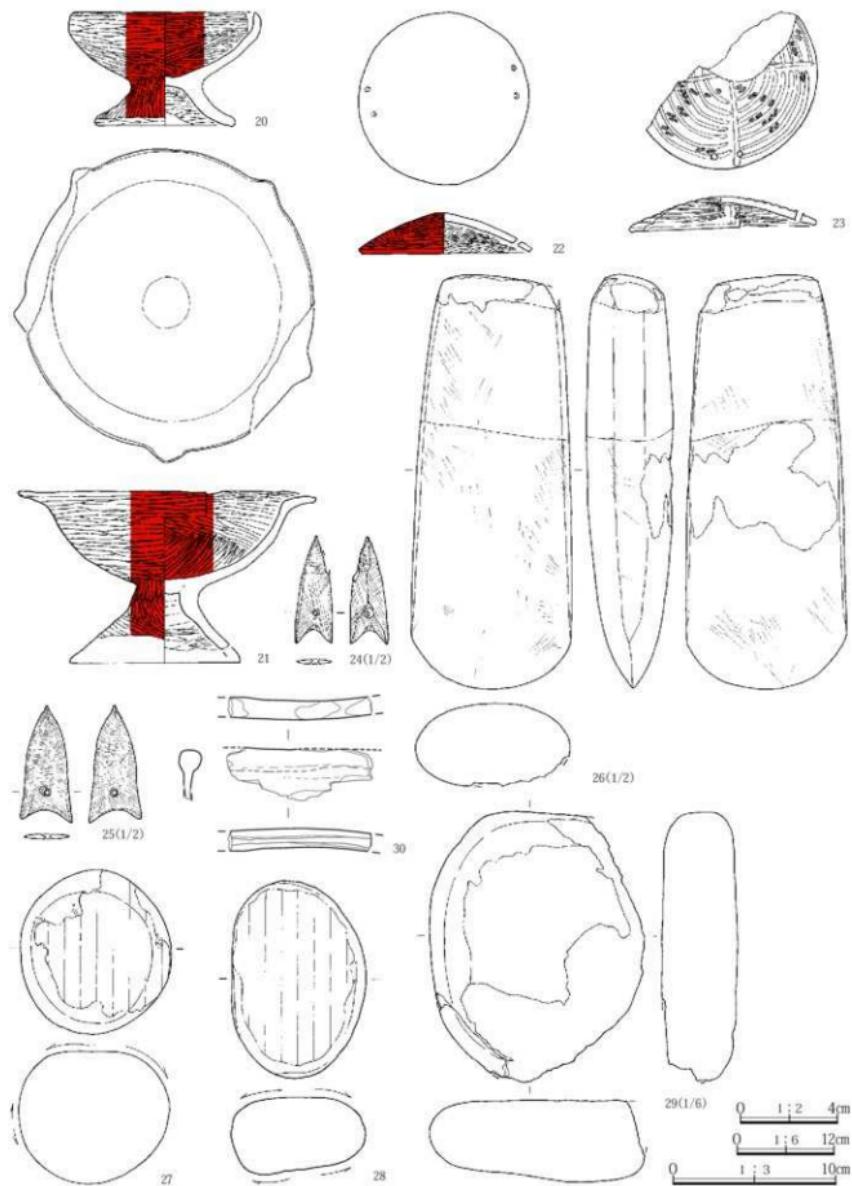
第105図 D24号窯建物遺物出土状況図



第106図 D24号竖穴建物出土遺物図(1)



第107図 D24号竪穴建物出土遺物図(2)



第108図 D24号竖穴建物出土遺物図(3)

土器・石器出土状況 焼失家屋の為に、土器・石器が多く遺存した。土器・石器ともに床直出土のものがほとんどである。火災時の土器の配置の状況のままと想定される。特に注意されるのは、会津系統の土器である溝文土器(7)で、潰れているが、復元するとほぼ完形の状態で建物北東部から出土した。その内部にクリが果実27点強、子葉381点強と相当の量があったことが種実同定(第6章第4節参照)の結果判明した。弥生時代におけるクリの大量出土は珍しく、小さいクリが果実の状態で土器内に保管されていて、焼失に伴い炭化したとされている。この北東部集中部には、他に壺(3)、小型台付甕(16・19)、甕(10・12)、高杯(20・21)と多器種の土器が集中配置されている。さらに、この集中部のすぐ西側に壺(3)と甕(8・9・11)、及びそのまま北側には小型台付甕(15)、蓋(23)、壺(3)が出土している。さらに、北壁西側には蓋(22)、炉の北側には壺(1・6)が出土している。南側には、入口付近や東側から壺が2点(4・5)出土する。石器は、磨製石鐵が東壁沿い南部に2点(24・25)、南壁沿いには台石(29)が、東壁沿い南側には磨石(27・28)、炉の南部には磨製石斧(26)が出土している。

炭化材・種実出土状況 この建物からは、焼失建物のため、多くの炭化材が出土している。炭化材は、主に東側長側壁際から西側に倒れるように長さ最大で50cmほどの材が出土している。また、西長側壁や、南北短側壁からも少し炭化材が出土している。樹種同定(台6章第5節参照)によると、ケヤキが48点、クリが32点、ヤナギ属とキハダが2点、ケンボナシ属とイネ科が各1点である。ケヤキが最も多くクリが2番手である。県内外で、ケヤキの使用はあまり認められず、遺跡周辺に生息していた樹木の活用例とされている。

また、アズキがP1と東側の長側壁の間からまとめて出土した。おそらく袋などにまとめて納められていたアズキが火災にともない散らばったものと推定されている。

織具(30)である縫打具が北東部の土器集中区の炭化材の中から出土している。

土器 土器は計22点の土器を掲載した。会津系統の溝文系土器(7)が特徴的である。溝文系土器は、陣場式の新段階相当と小玉秀成氏に教示を得た。他に壺が6点(1～6)、甕が7点(8～14)、小型台付甕(15～19)5

点、高杯2点(20・21)、蓋2点(20・21)が出土している。焼失建物の為に土器の出土量が多い。中期後半の土器のセットを知る良い資料である。いずれも栗林式(竜見町式)に比定されるものである。非掲載の土器は、壺片16点、甕片27点、高杯片6点、不明18点が出土している。

石器 石器は、珪質準片岩製の磨製石鐵2点(24・25)、変輝緑岩製の磨製石斧(26)、磨石2点(27・28)、台石1点(29)の計6点を掲載した。非掲載のものは、磨石2点がある。

時期 土器により中期後葉に比定される。

年代 分析編の放射性炭素年代測定によれば、当建物の炭化クリ子葉2点、アズキ種子の加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行い、その層年較正の結果、クリ子葉・アズキ炭化種子とともに弥生中期中葉～後期初頭に収まるという年代の結果が出ている。

D25号竪穴建物(第109・118図 P L. 65～69・174～177)

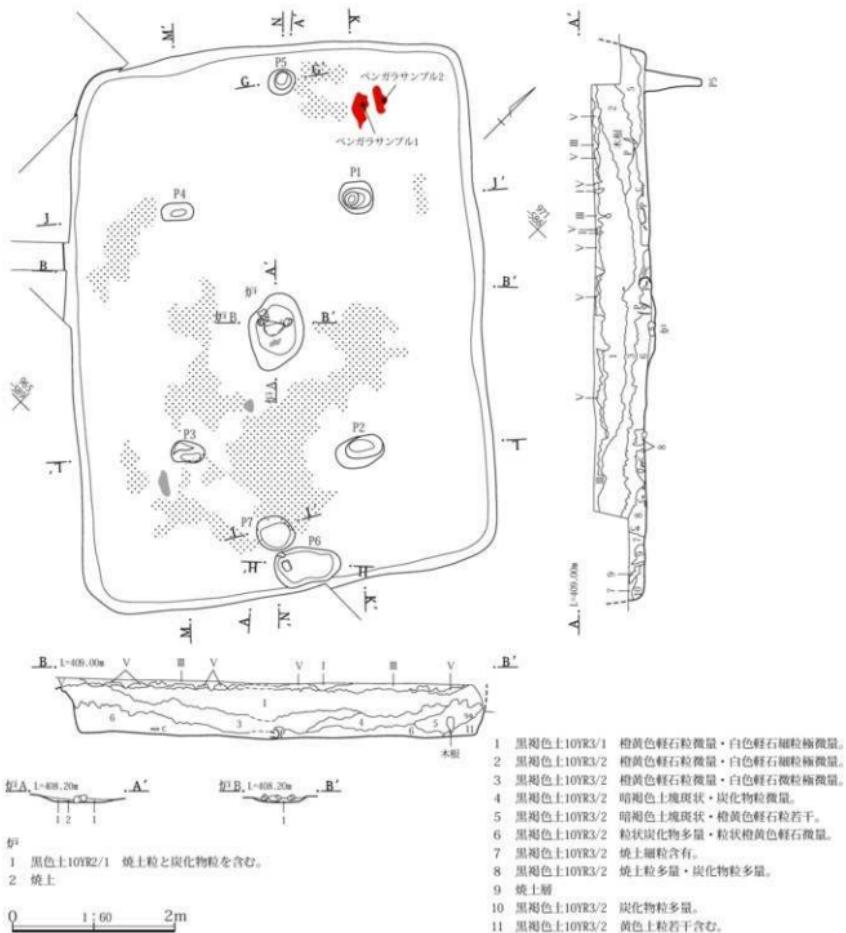
位置 D区中央やや西側に位置する。24号建物が南西側に位置する。座標値 X=60963～60971 Y=-92583～-92591 **遺存状況・重複** 竪穴建物全体が調査対象である。重複は無い。形狀 亂円長方形 規模 東西5.26m、南北6.90m 長軸方向 N-47°-W 床面積 30.879m² 床面・壁 入口部付近に硬化面があり、そのまま炉の東西部まで硬化面がある。また北側の棟持柱のP5の東側及び柱穴P1・P5の壁側に硬化面がある。壁高は、最大壁高54cmで残っている。掘方は無い。炉建物中央部に位置する。長径99cm、短径79cm、深さ4cmである。炉中央部に少量の焼土あり。小砾3個とともに、長25cm、幅17cm、厚さ9cmの平たい石が炉内部に炉の主軸方向に直交するように置かれている。**柱穴他** 柱穴は1回立て替えがある。新しい2次床面から説明する。2次床面に伴うP1～P4の4本主柱穴は、長径42～57cm、短径34～43cm、深さ45～58cmあり、P1以外はやや長方形状の柱穴で、五平柱であった可能性がある。入口には、P6・7があり、入口に伴うピットである可能性が高い。長軸北西側に長径35cm、短径30cm、深さ52cmの屋内棟持柱のP5がある。古い1次床面に伴う柱穴は、P9～P13まである。うち、長径25～47cm、短径20～44cm、深さ4～33cmのP8～10・P13がセットで4本主柱穴を構成する。残りの2穴は、南東部の2つの柱を建て替えてるもので、長径25～47cm、短径20～44cm、深さ4～33cmのP11・12はP10・8柱穴を建て替えた際の柱穴である。

また、南東部入口部中央壁寄りにP14~16の小ピットがあり、入口に伴う穴と想定する。

土器・石器出土状況 焼失建物であるため、D24号建物同様多くの土器・石器が出土した。2次床に伴う遺物である。ほとんどが床面上から出土である。

北東隅付近に壺(8)、小型台付甕(20)、小型甕(15)、鉢(18)がまとめて出土している。この土器群の南に磨製石鏡(23~26)4本がまとめて出土している。屋内棟

持柱の北側に甕(17)、南西側に砥石(30)が出土している。この建物で最も目を引く赤色塗彩の美しい小型台付甕(19)が砥石の西側から出土している。これらの土器・石器を棟持柱付近に置いていることに注意する必要がある。北側の柱穴P1・2周辺に、壺が集中する。P1付近に壺口辺部(5・6)、壺体部(9)、P1とP4の間から壺(3)、壺口辺(7)、P4付近に、壺頭部片(14)、壺上部(4)、壺体部(13)、高杯脚部(21)が出土している。



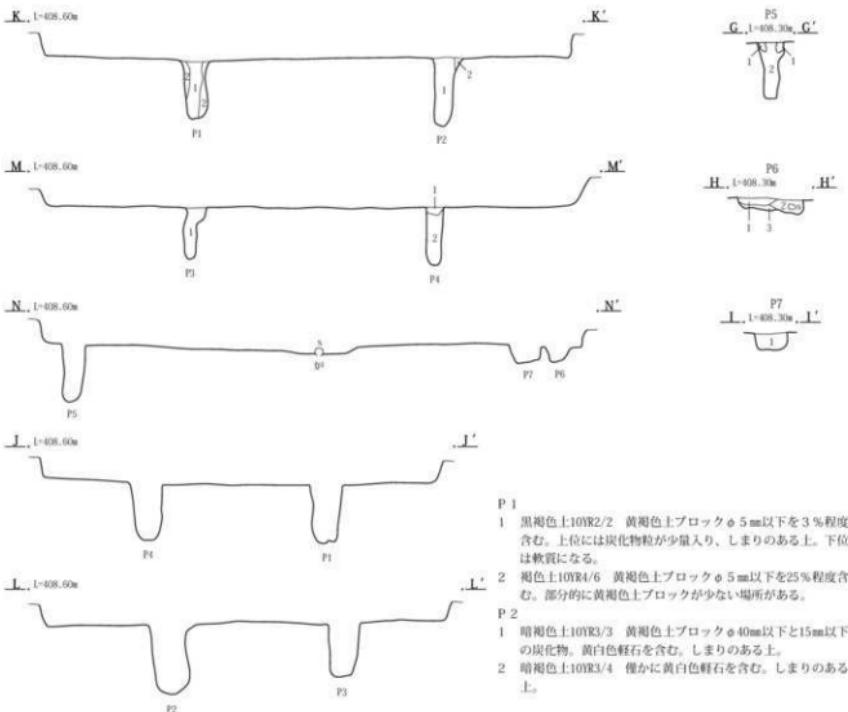
第109図 D25号窓穴建物平面図・土層断面図

このような壺が特定の箇所に集中することが興味深い。

柱周辺に、壺(2)、壺体部(11)、甕(16)がある。南側のP 3 柱穴周辺に石器が集中する。変質蛇紋岩製の磨製石斧(27)、変はんれい岩製の環状石斧(31)、凝灰質砂岩製の石皿(28)、台石(29)、やや東側に変輝緑岩製の磨製石斧(22)がある。この石器集中も入口西側付近の柱周辺に環状石斧の存在を含めて重要である。

炭化材・種実出土状況 この建物からは、24号竪穴建物

同様、焼失建物のため、多くの炭化材・炭化種実が出土している。炭化材は、建物北側・西側・南西側から出土している。炭化材の樹種は樹種同定(第6章第5節参照)によりクリが53点、ケヤキが11点とクリの使用が多い。24号建物がケヤキの使用が主体であることと異なり、古墳時代の渋川周辺の建築部材の使用でクリが多用されることが示されており、弥生時代まで遡ってクリの使用が吾妻川流域のこの地で使用されていた可能性を示すもの



P 3

1 黒色土10YR2/1 白色礫物粒と黄褐色土ブロックφ 5mmを少量含む。しまりはある。

P 4

1 暗褐色土10YR3/4 ロームブロックと炭化物を少量含む漏れた上。

2 暗褐色土10YR3/3 黄褐色土ブロックφ 20mmを少量とロームブロック含む。

P 5

1 明黃褐色土10YR6/8 黄白色軽石を多く含む。

2 黒色土10YR2/1 ローム粒と炭化物を含む。

P 6

1 黒色土10YR2/1 炭化物を含む。

2 黑褐色土10YR3/1 ロームブロック、燒土ブロックを含む。円窓が混入する。

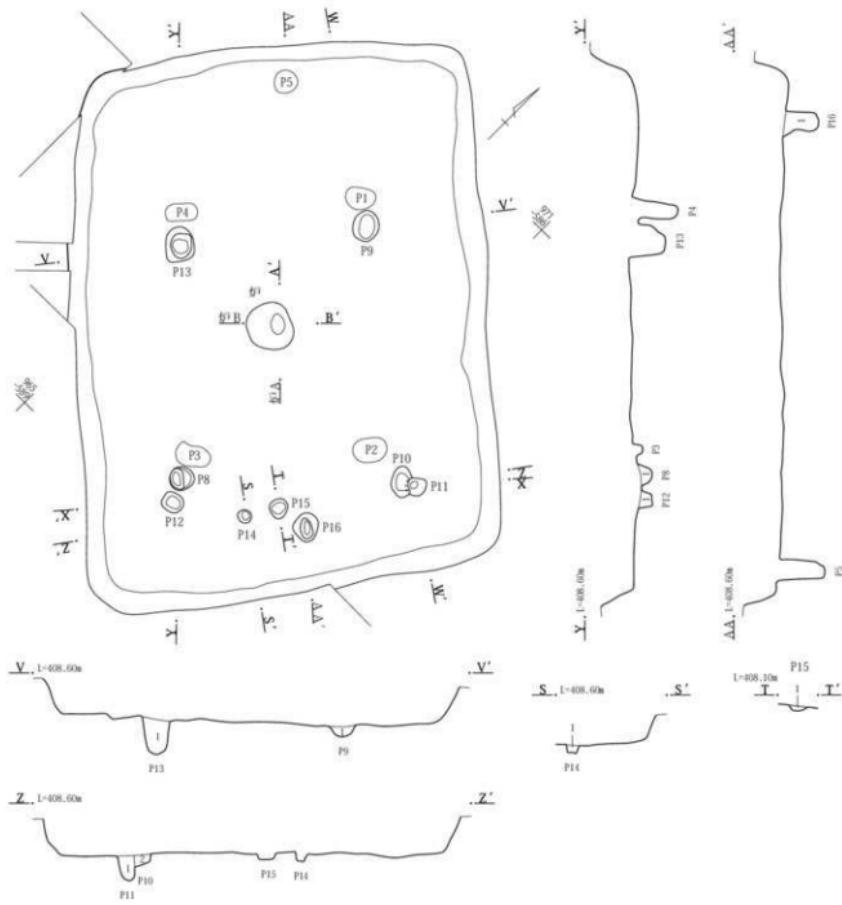
3 暗褐色土10YR3/4 5mm程度の明赤褐色土ブロックと黄褐色土ブロックを少量含む。

P 7

1 黑褐色土10YR2/2 10mm前後の黄白色軽石と炭化材を含む。

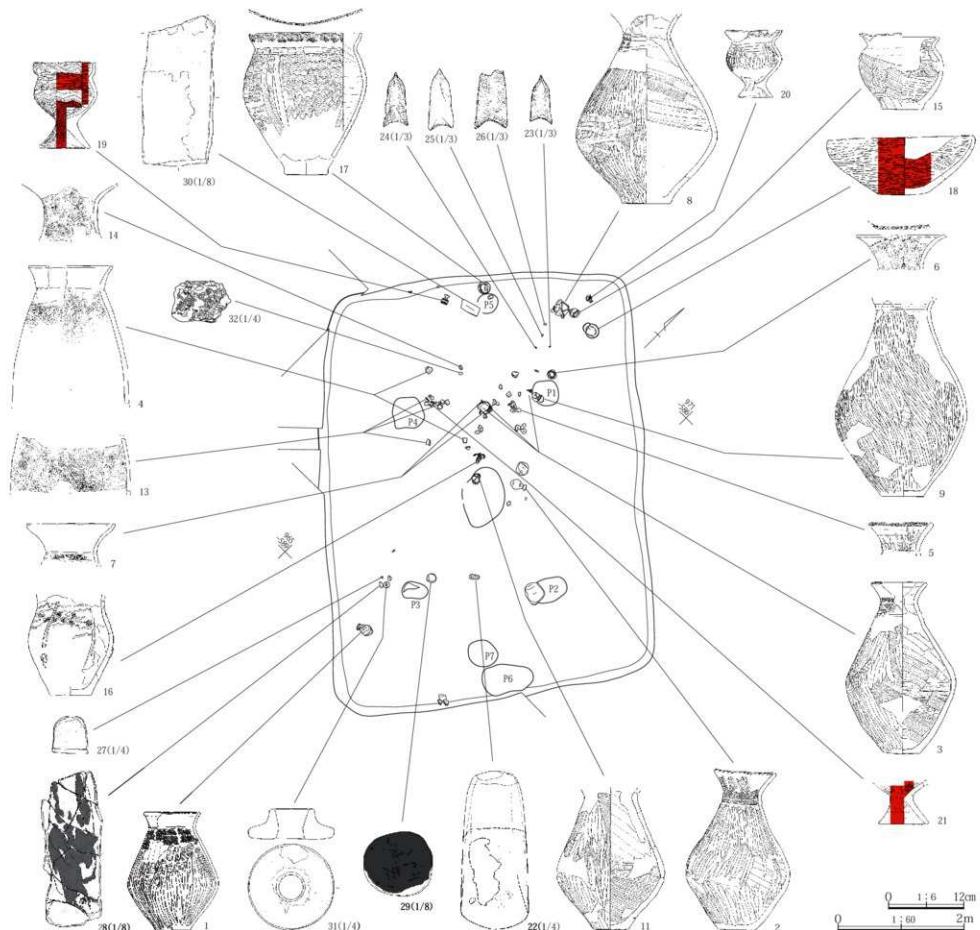
0 1:60 2m

第110図 D25号竪穴建物土層断面図・断面図

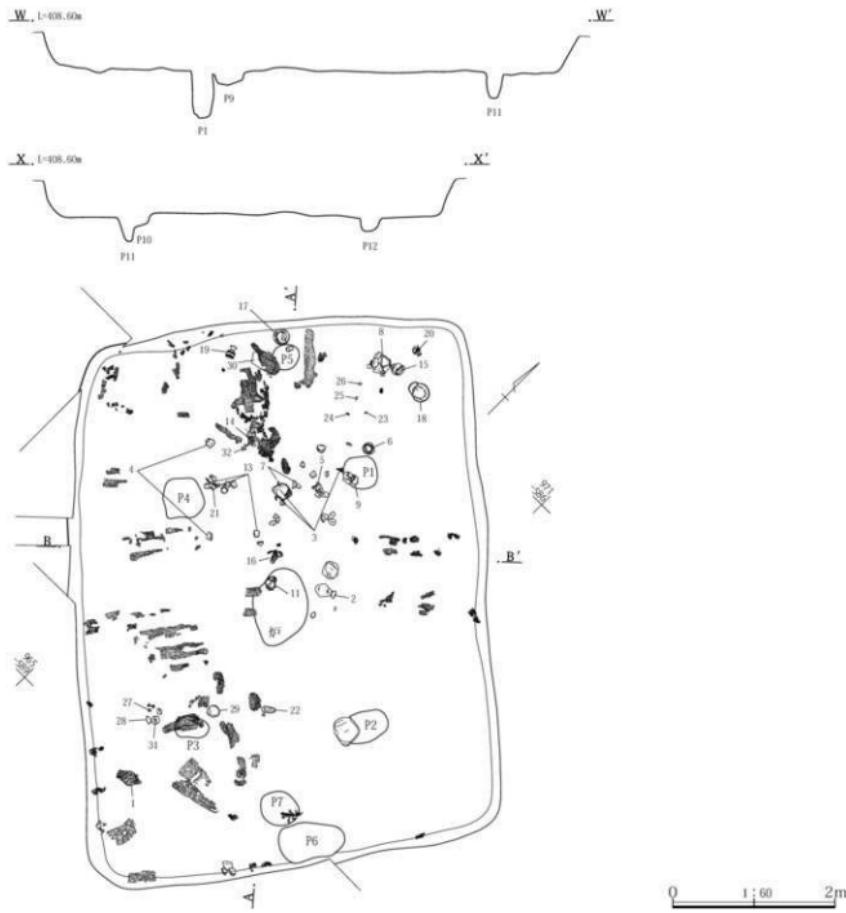


第111図 D25号竪穴下層建物平面図・土層断面図・断面図

134



第112图 D25号竖穴建筑遗物出土状况图



第113図 D25号竖穴建物遺物・炭化材出土状況図・断面図

である。炭化米塊が、P1・P4柱穴の間やや北よりから炭化材とともに出土している。土器 土器は計21点の土器を掲載した。壺14点(1~14)、甕3点(15~17)、鉢(18)、小型台付甕2点(19・20)、高杯(21)である。破片も含めてであるが、壺の点数が多く、また出土状況で述べたように北側柱穴付近に壺が集中して出土することは興味深い。小型台付甕(19)は、赤色塗彩が美しく、精巧に造作されており、祭儀など特殊な用途を有するものと推定する。いずれも栗林式(竜見町式)に比定されるもの

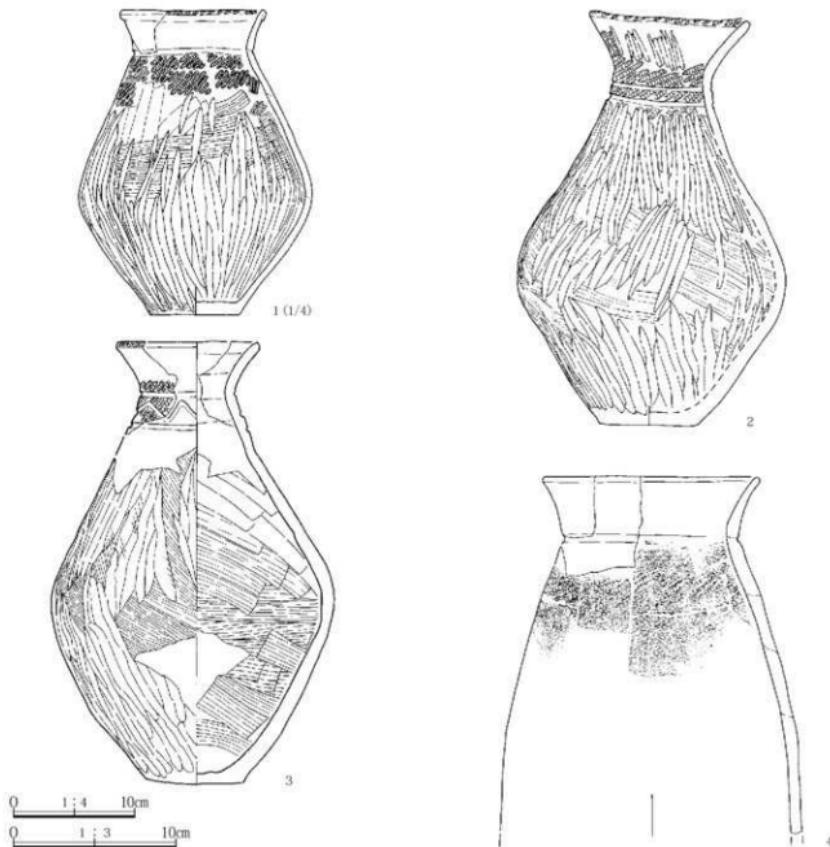
である。非掲載の土器は、壺・甕片9点、不明破片18点である。石器 石器は計10点を掲載した。磨製石鏨4点(23~26)、磨製石斧2点(22・27)、石皿(28)、台石(29)、砥石(30)、環状石斧(31)である。磨製石鏨4点は石材が黒色準片岩(24・25)、緑色片岩(26)、珪質準片岩(27)と片岩製のものである。4点まとめて置いてあったことが興味深い。環状石斧(31)は、祭具として位置付けられる重要なものである。非掲載のものは、石核1点、二次加工ある剥片2点がある。炭化種実 炭化米塊は種実同定

(第6章第4節)により、すべて炭化米で、膨張と変形が著しく、端面が平坦に潰れている状況から炊かれた米と判断している。またこの炭化米塊の側面にイネ科の草本である編組製品があり、容器として米を入れていた可能性が樹種同定により推定されている。考察編で、佐々木氏により、この製品のC T画像の解析から、土器にかご状の編組製品を入れて米を蒸した可能性を指摘されている。蒸して調理された炭化米の例として弥生時代中期後半まで遡った例として重要である。時期 土器により中期後葉に比定される。年代 分析編の放射性炭素年

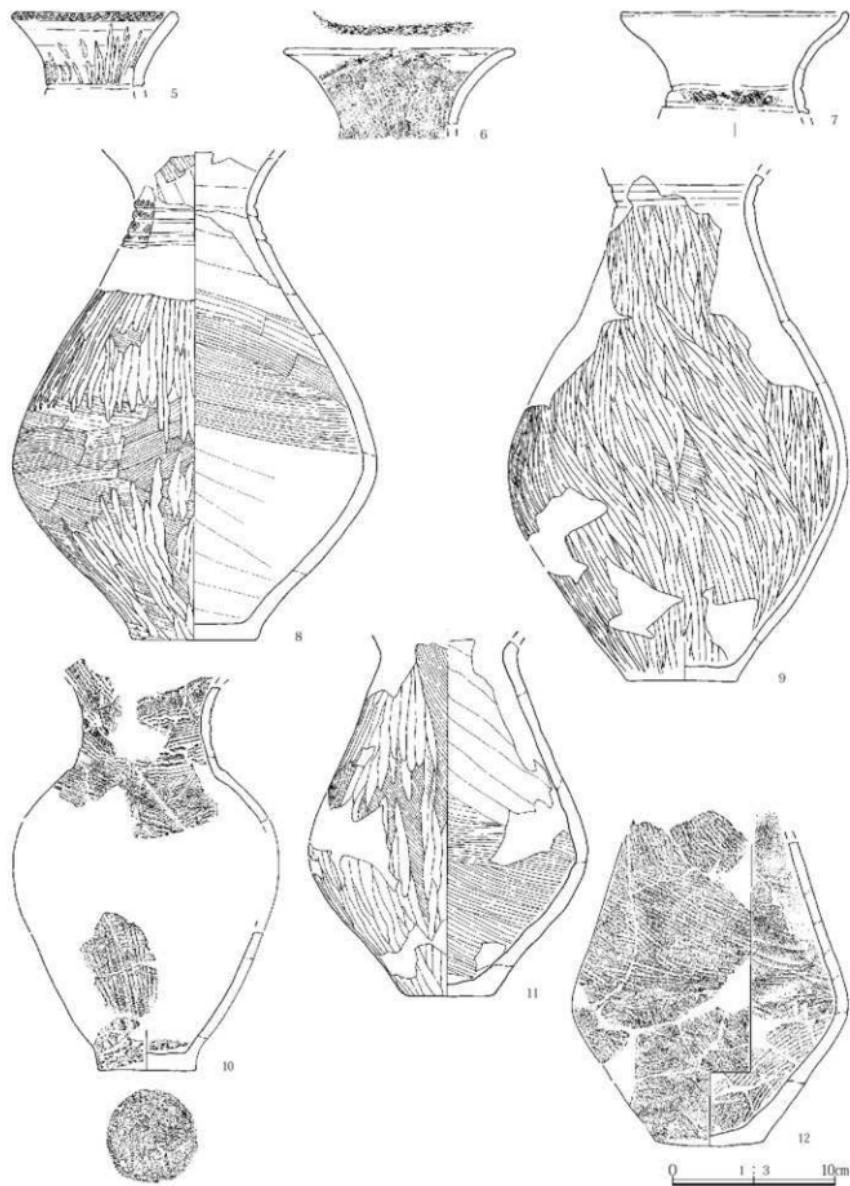
代測定によれば、当建物の炭化イネ種子2点の加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行い、その暦年較正の結果、イネ種子①②とともに弥生中期中葉～後期初頭に収まる年代の結果が出ている。

C 4号竪穴建物(第119図 P.L. 70・71・178)

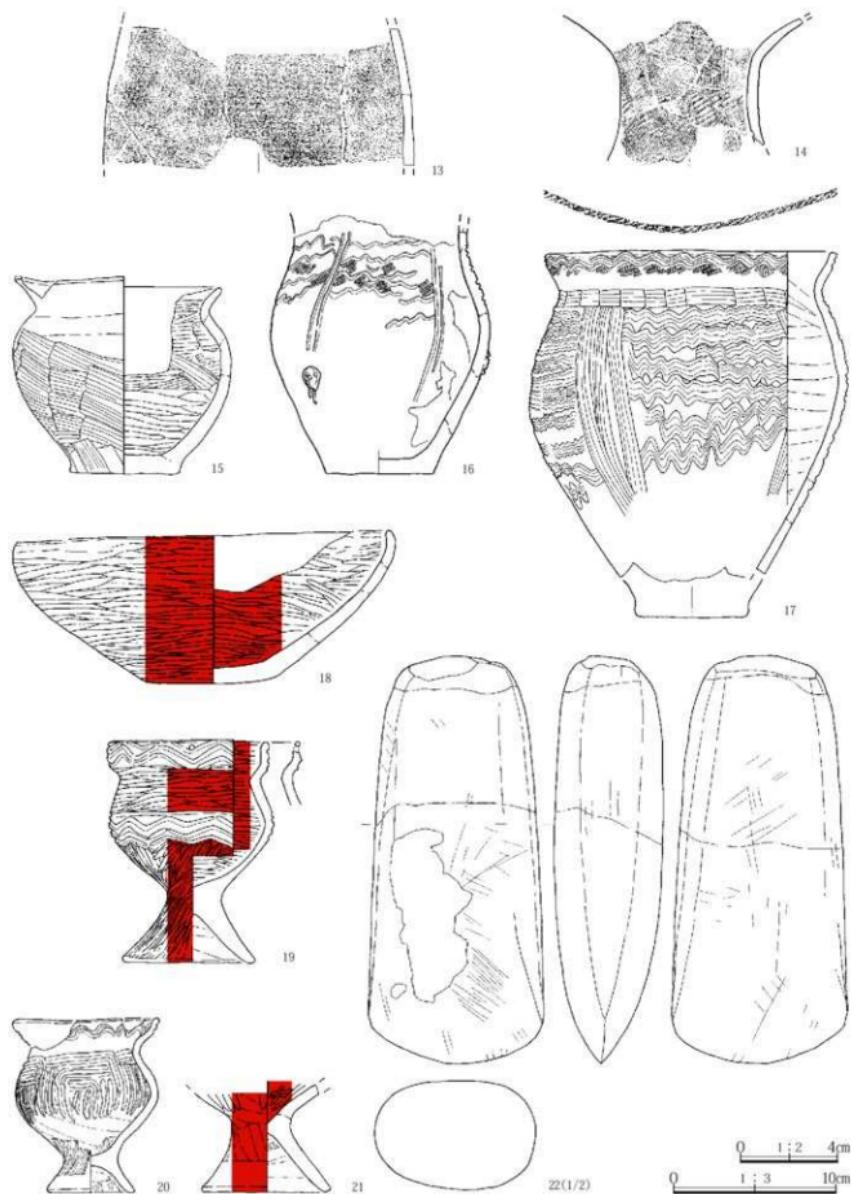
位置 C区中央や東側に位置する。座標値 X=60946～60950 Y=-92670～-92673 遺存状況・重複竪穴建物全体が調査対象である。重複は無い。形状 圓円長方形 規模 東西2.15m、南北3.38m 長軸方向 N-22°-W 床面積 5.616m² 床面・壁 床面は



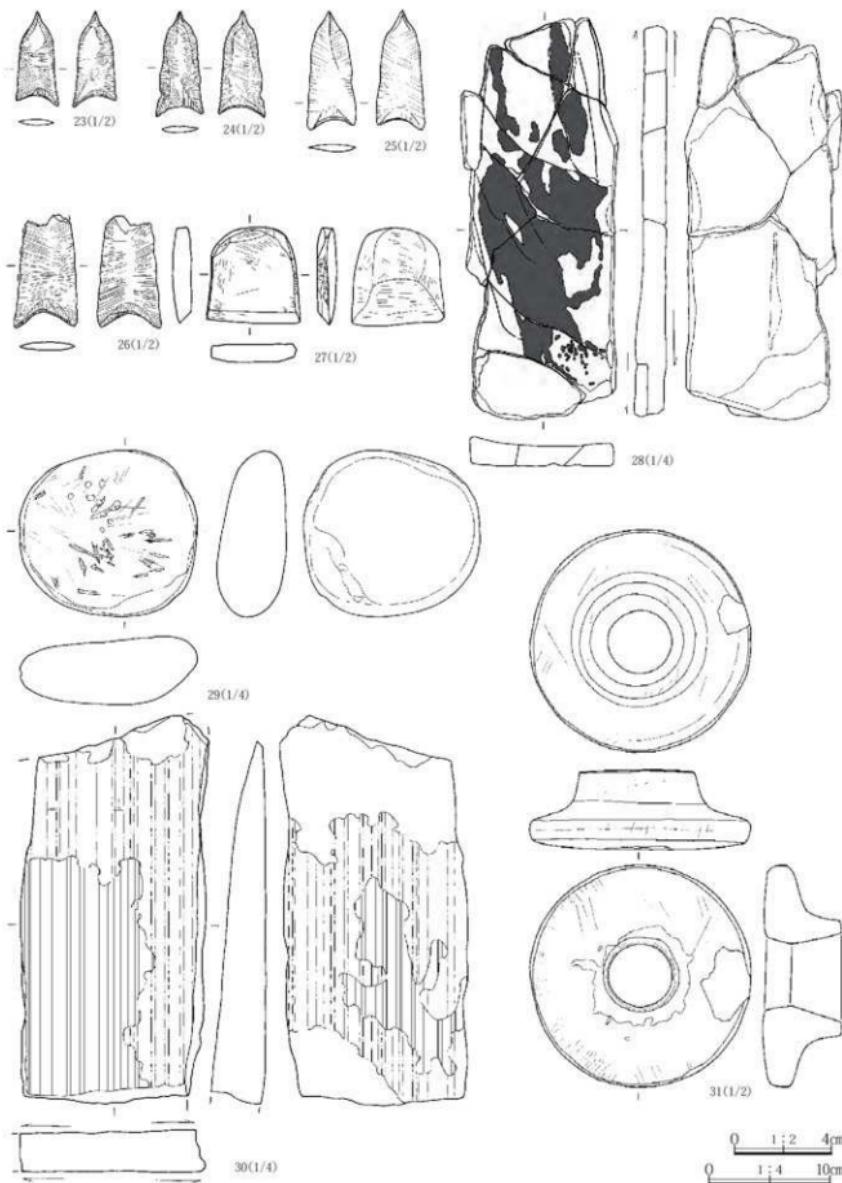
第114図 D25号竪穴建物出土遺物図(1)



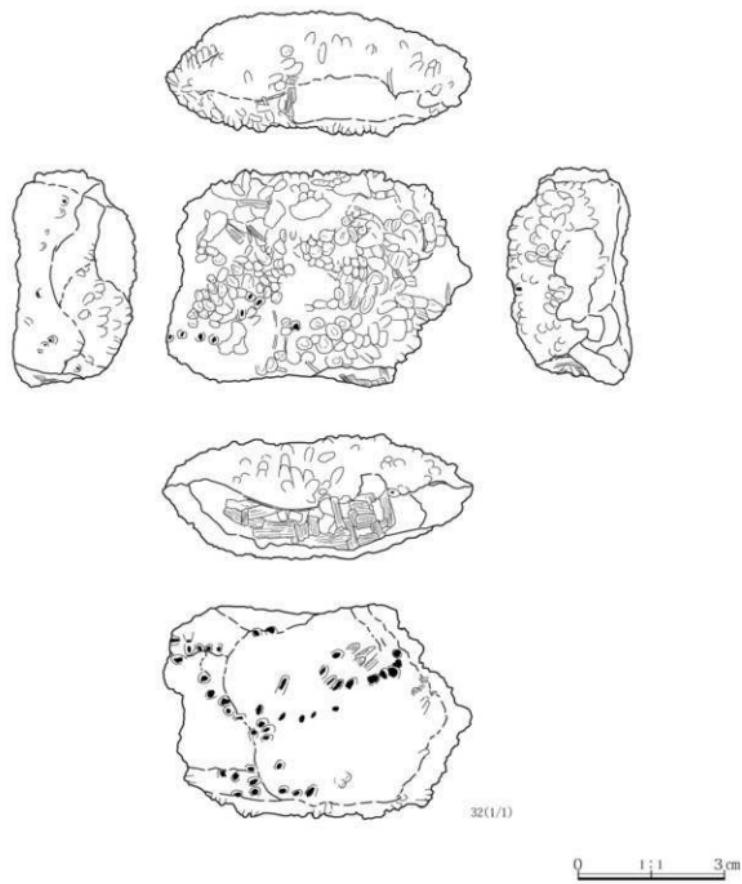
第115図 D25号竖穴建物出土遺物図(2)



第116図 D25号竖穴建物出土遺物図(3)



第117図 D25号竖穴建物出土遺物図(4)



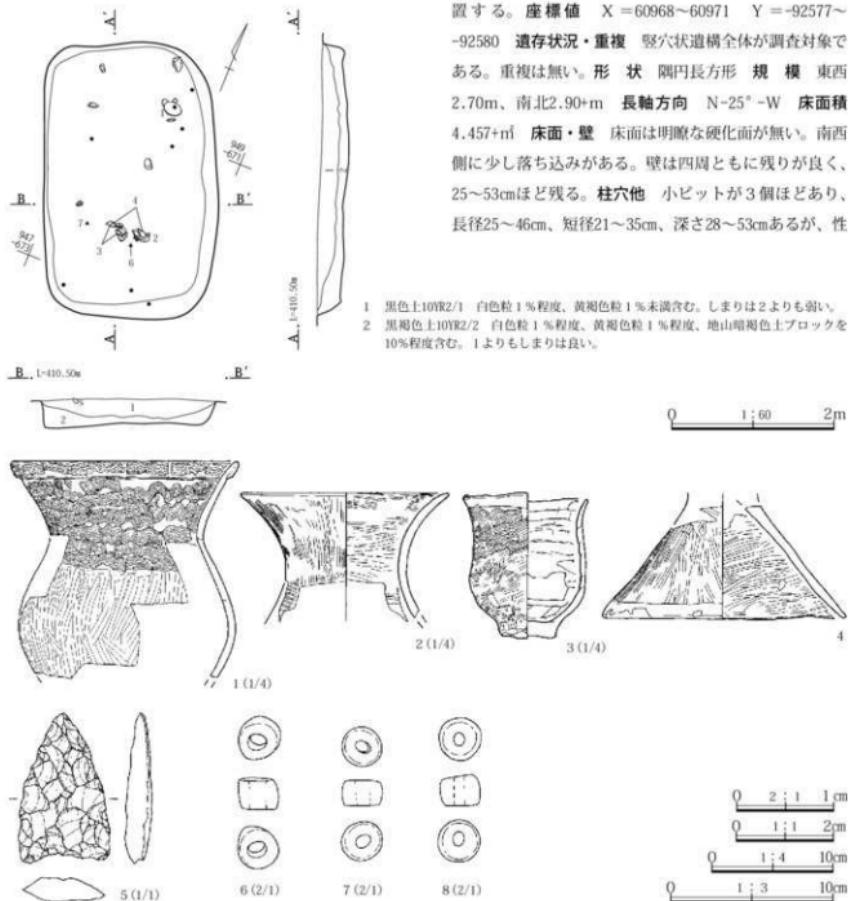
第118図 D25号竪穴建物出土遺物図(5)

明瞭な硬化面がない。壁は四周ともに残りが良く、19~34cmほど残る。炉 確認できなかった。柱穴他 確認できなかった。**遺物出土状況** 土器は、北東部に甕(1)が、南側入口から少し入った箇所に、壺(2)、小型甕(3)、高杯脚部(4)が集中して出土している。いずれも床面から離れた中・上層からの出土である。石器は、先ほどの南側の土器集中の中から石鎚(6)が出土し、これらも床面よりやや上からの出土である。**土器** 土器は計4点の出土である。甕上部(1)、壺口辺部(2)、小型甕(3)、

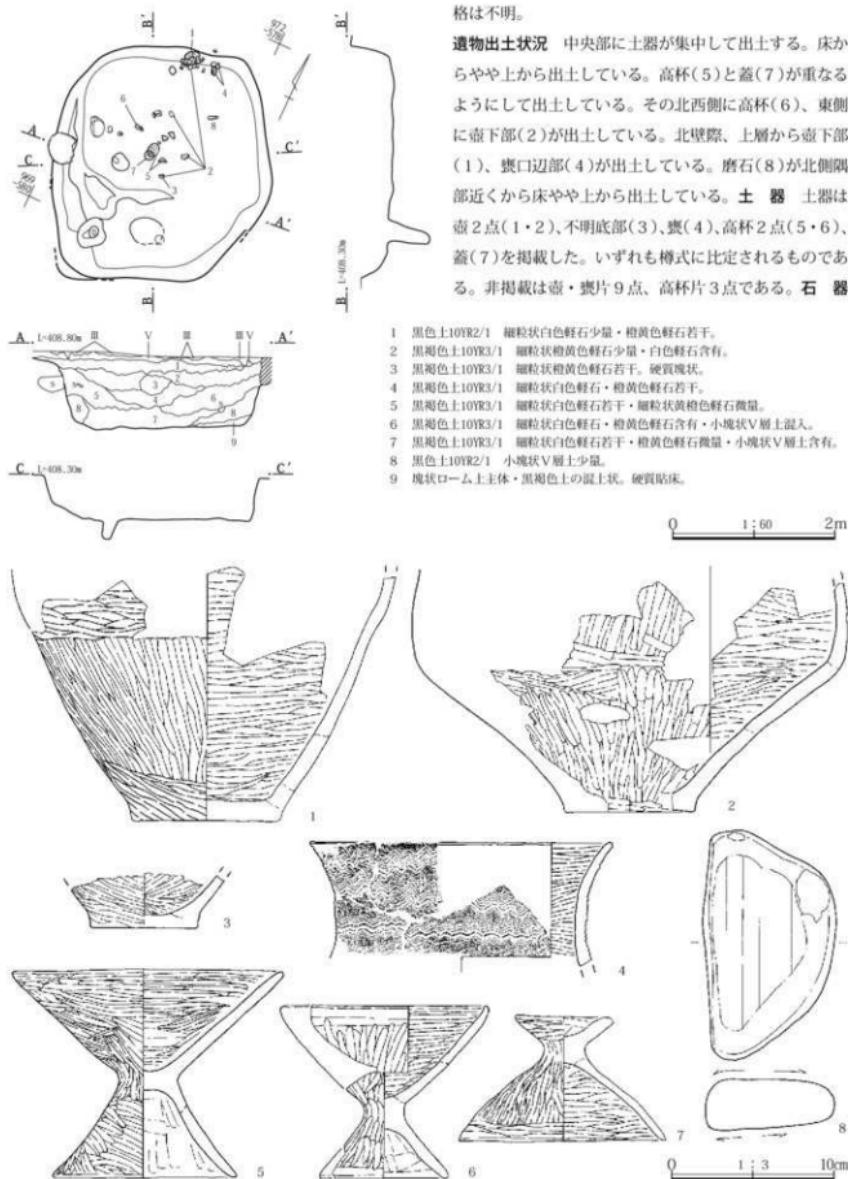
高杯脚部(4)である。いずれも縦式に比定されるものである。非掲載の土器は、中期~中期後半20点、後期1点である。**石器** 石器は、細粒輝石安山岩製石鎚(5)を掲載した。**ガラス製品** ガラス玉が3個(6~8)出土した。分析編の蛍光X線分析により、銅着色のカリガラス(Group P II)に比定される。**時期** 土器により後期に比定される。

D 1号竪穴状遺構(第120図 P.L. 72・73・178)

位置 D区中央や西側、25号竪穴建物の東に位置する。座標値 X=60968~60971 Y=-92577~-92580 **遺存状況・重複** 竪穴状遺構全体が調査対象である。重複はない。形狀 圓円長方形 規模 東西2.70m、南北2.90+m 長軸方向 N 25° W 床面積 4.457+ml 床面・壁 床面は明瞭な硬化面がない。南西側に少し落ち込みがある。壁は四周ともに残りが良く、25~53cmほど残る。**柱穴他** 小ピットが3個ほどあり、長径25~46cm、短径21~35cm、深さ28~53cmあるが、性



第119図 C 4号竪穴状遺構平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図



第120図 D1号竪穴状遺構平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図

石器は磨石1点(8)を掲載した。非掲示の石器は磨石1点、台石2点である。時期 土器により後期に比定される。

C 4号土坑(第121図 P L74・179)

位置 C区東部、C 17号土坑の北西に位置する。座標

値 X=60954~60956 Y=-92656~92659 遺存状況

・重複 完存 C 78号ピットと重複 形状 暗円方形

規模 長径221cm、短径200cm、深さ33cm 長軸方

向 N-64°-E 遺物出土状況 鉄長剣(3)が床面やや

より茎を北に剣先を南に向けて出土している。後期の

壺片が2片(1・2)出土している。1は床面すぐ上から、

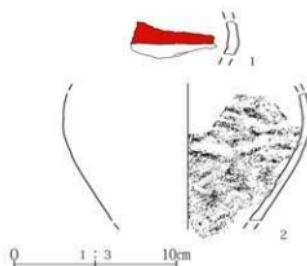
2は上層からである。長剣 剣切先及び茎端が欠損。全

長28.1+cm、剣身長24.5+cmを復元すると剣身のみで30cm



- 1 黒褐色土10YR2/1 黄褐色粒を1%未満含む。しまりは比較的良い。
- 2 黑褐色土10YR2/2 黄褐色粒をほとんど含まない。しまりは1よりもさらに良い。

0 1:40 1m



0 1:3 10cm

はあるかと思われる。弥生時代後期での長剣例として重要である。土器 2点あるがいずれも樽式土器に比定される。性格 鉄長剣が出土したことからすると、墓になる可能性が高い。土壤墓と推定する。時期 土器から後期に比定される。

C 17号土坑(第122図 P L75・178)

位置 C区東部、C 4号土坑の南東に位置する。座標

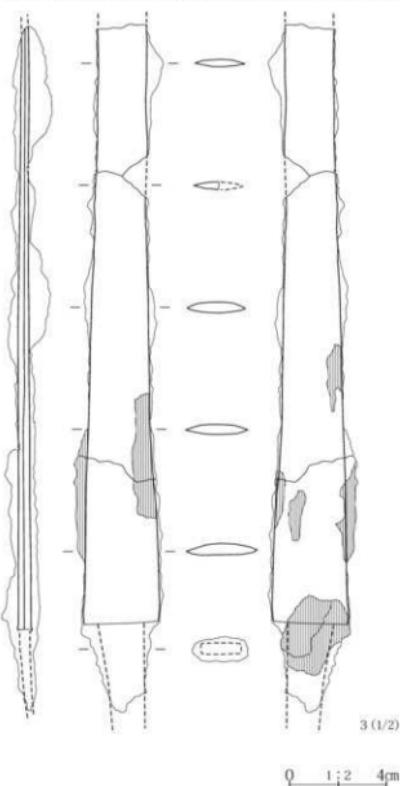
値 X=60950~60953 Y=-92652~92654 遺存状況

完存 形状 暗円長方形 規模 長径230cm、短径

190cm、深さ44cm 長軸方向 N-79°-W 遺物出土状況

高杯(1)、小型甕(2)が、中央やや南の床面よりかなり上層より出土している。土器 赤色塗彩した高杯

(1)、小型甕(2)、壺頸部(3)3点あるがいずれも樽式



第121図 C 4号土坑平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図

第5章 発見された遺構と遺物

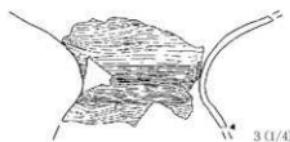
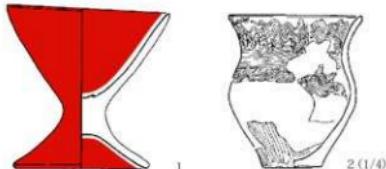
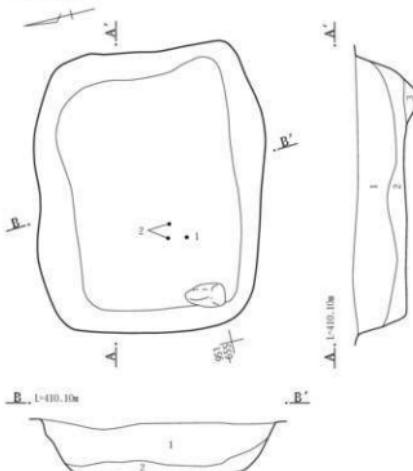
土器に比定される。時 期 土器から後期に比定される。

C302号ピット(第123図P L75・179)

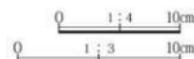
位 置 C区東部、C 4号土坑南、C 17号土坑の西に位置する。座標値 X=60952 Y=-92657 遺存状況

完存 形 状 円形 規 模 長径29cm、短径24cm、深さ24cm 遺物出土状況 壱がピット上部に横倒しになっていた。土 器 貴(1)で樽式土器である。時 期 土器より後期に比定される。

C 17号土坑

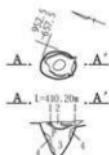


- 1 黒色土10YR2/1 白色粒1%程度、黄褐色粒2%程度含む。しまりは弱い。
- 2 黒褐色土10YR2/2 白色粒1%程度、黄褐色粒1%程度含む。地山暗褐色土ブロックを10%程度含む。しまりは良い。
- 3 黑褐色土10YR2/3 2よりもやや明るい。白色粒1%程度、黄褐色粒1%程度含む。地山暗褐色土ブロックを10%程度含む。しまりは2よりも弱い。

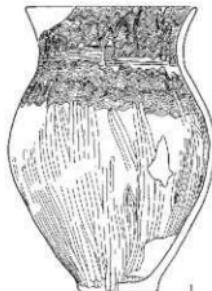


第122図 C 17号土坑平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図

C302号ピット



- 1 10YR2/2黒褐色土 白色粒1%、黄褐色粒1%程度含む。しまりは弱い。
- 2 10YR1.7/1黒色土 白色粒及び黄褐色粒をほとんど含まない。粒が細かく、粘性を有する。しまりは悪い。
- 3 10YR2/1黒色土 白色粒1%強、黄褐色粒1%強含む。1、2よりもしまりは良い。
- 4 10YR2/3黒褐色土 白色粒2%程度、地山暗褐色土ブロックを40%程度含む。しまりは良い。



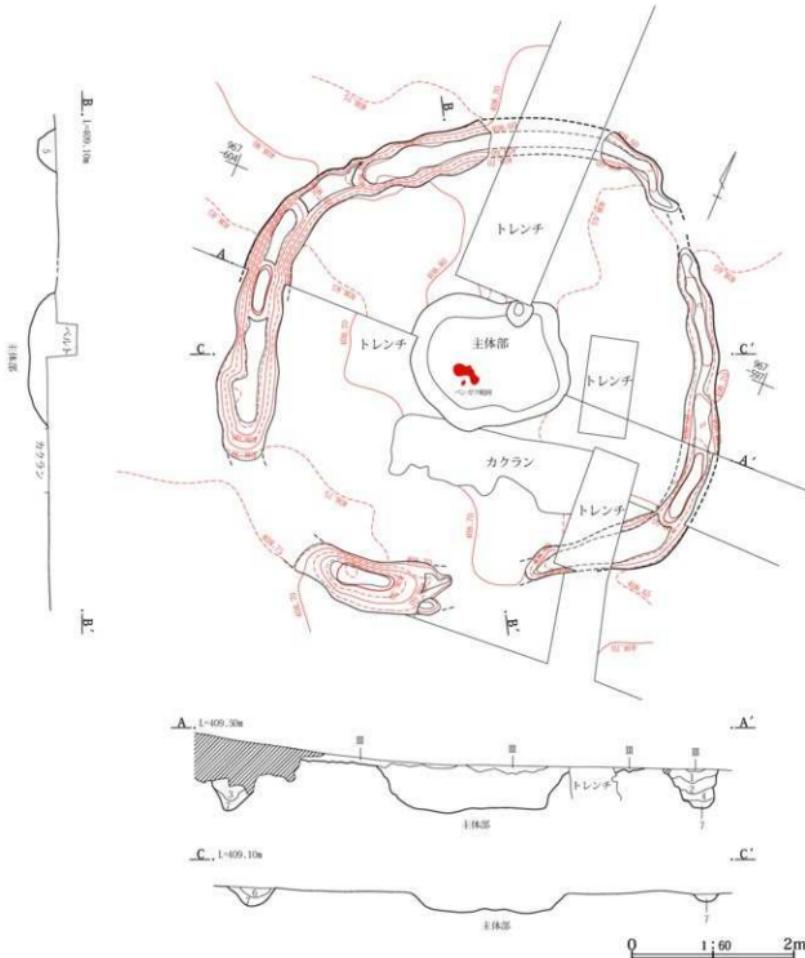
第123図 C 302号ピット平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図

方形周溝墓・円形周溝墓

D区に、方形周溝墓1基、円形周溝墓2基が検出された。D区は弥生時代後期から墓域として利用された。

D2号方形周溝墓(第124・125図 P.L. 76・77・179)
位 置 D区西部、D2号円形周溝墓の西に位置する。

**座標値 X=60962~60969 Y=-92597~-92603 遺存
状況・重複** 周溝墓全体が調査対象である。重複は無い。
形 状 圓円方形 規 模 内周 南北4.75m、東西
5.10m 外周 南北5.68m、東西6.20m 面 積 墳丘
部 21.704m² 溝外周部 30.184m² 周溝規 模 上幅28
~74cm 下幅9~34cm、深さ3~42cm 長軸方向 N-
29°-W 周 溝 周溝の平面形は、圓円方形で、深い



第124図 D2号方形周溝墓平面図・土層断面図

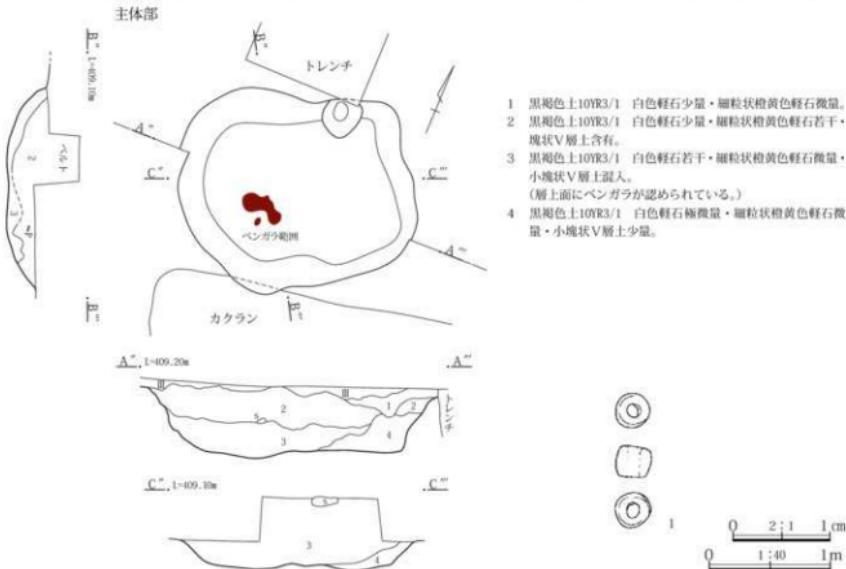
箇所でも50cm未満で浅い。溝は、北東部隅や、南東部変中央、西南部隅や北部などで、溝が立ち上がって切れている。溝の掘削の単位が掘削痕跡から分るが、周溝のいくつかの箇所から分かる。南西部隅で、0.6m、1.3m幅で、4回の掘削単位、南部の西端に0.7mの単位、南東辺に南から0.8mの4つの掘削単位が分かる。

墳丘 墳丘はほとんど削平されていて残っていない。主体部 主体部は、墳丘中央に位置する。主軸方位 N-61°-E 規 模 底面長155cm、東部幅108cm、中央部幅110cm、西部幅110cm 床面積 1.488m² 上場での規模は、長さ190cm、東部幅134cm、中央部幅150cm、西部幅163cmである。主体部平面形は隅円長方形状だが、長辺部が短い。西短側邊平面形がやや円弧状を呈している。床面での東西の幅はほぼ同じで頭位の推定は難しいが、ベンガラが、西端より床直上より東西35cm、南北10~15cmの範囲で出土している。ベンガラは頭部付近に置かれることが多いので、西頭位の可能性がある。床は断面が緩い円弧状を呈している。遺 物 ガラス玉(1)が1点周溝から出土している。分析篇での蛍光X線分析に対する大賀克彦氏の同定により、銅着色のカリガラス

(Group PII)であることが分かった。ベンガラは、分析篇での分析により、パイプ状ベンガラであることが分かった。時 期 土器などの遺物の出土をみないので明瞭には言えないが、主体部が、あまり長辺が長くない長方形であることは、弥生時代の主体部の系統に繋がるものである。ベンガラがパイプ状ベンガラであることは、弥生時代から古墳時代前期に含まれる可能性が高い。また、ガラス玉が銅着色のカリガラスであることなども、弥生時代後期~古墳時代前期である可能性が高いことを示すものである。当周溝墓は、以上の主体部の形態や周溝が途切れることなどから弥生時代後期の可能性が高い。

D 2号円形周溝墓(第126図 P.L. 78・179)

位 置 D区西部、D 2号方形周溝墓の東に位置する。
座標値 X=60962~60969 Y=-92597~ -92603 遺存
状況・重複 周溝墓全体が調査対象である。重複はない。
形 状 圓圓方形 規 模 内周 南北(6.00)m 東西6.15m 外周 南北(6.80)m 東西7.12m 面 積 墳丘部(29.184)m² 溝外周部(37.552)m² 周溝規模 上幅33~60cm 下幅10~33cm、深さ 3~12cm 長軸方向 N-18°-W 周 溝 周溝の平面形は、北西部と南部が



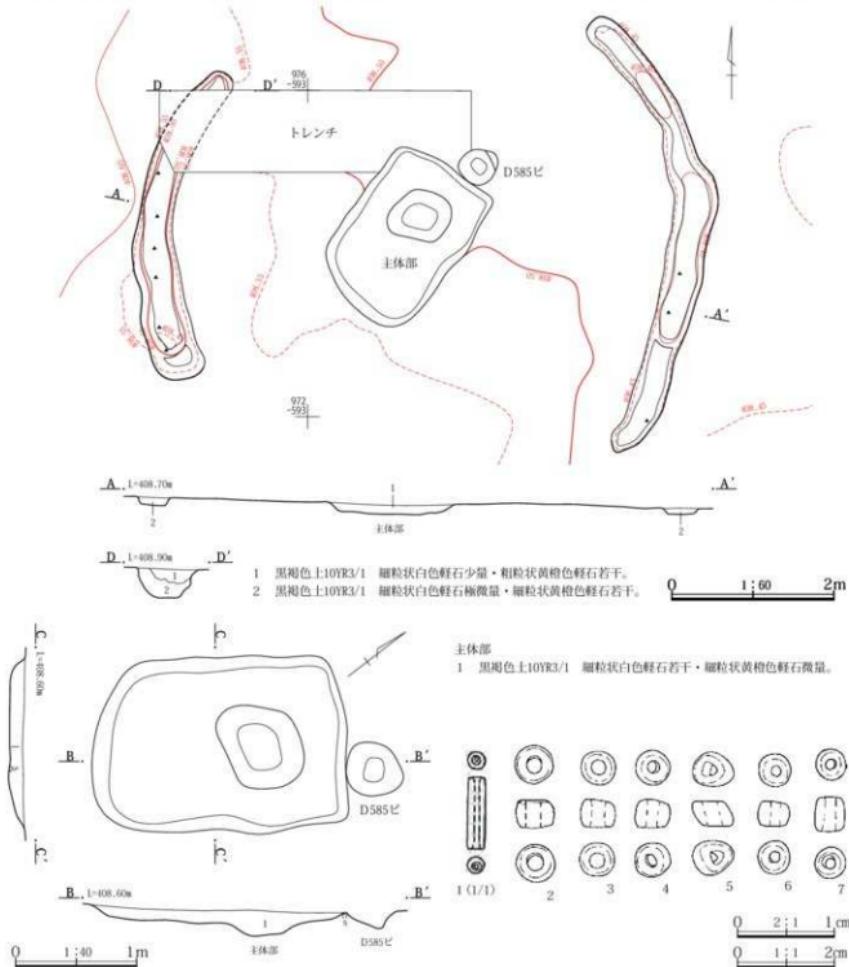
第126図 D 2号円形周溝墓主体部平面図・土層断面図・出土遺物図

途切れてしまい、はっきりしないが、東側溝及び西側溝の下部が弧状になっているので、円形周溝墓と推定した。溝は深い箇所でも12cm未溝で浅い。溝の掘削の単位が掘削痕跡から分るが東側周溝で、南から1.45m、2.15mの長さで掘削されている。

墳丘 墳丘はほとんど削平されていて残っていない。

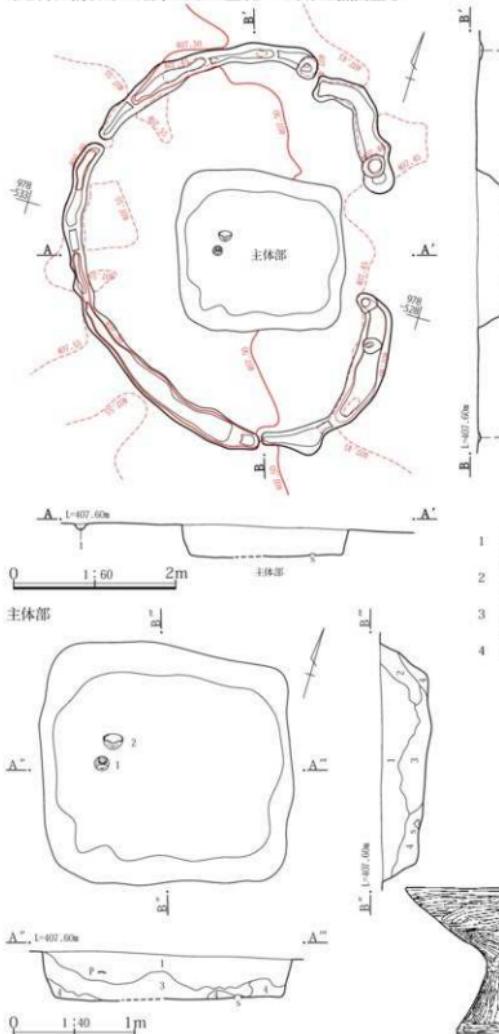
主体部 主体部は、墳丘中央に位置する。**主軸方位**

N-37°-E 規模 底面長181cm、東部幅123cm、中央部幅124cm、西部幅131cmである。床面積 2.114m² 上場での規模は、長さ207cm、東部幅138cm、中央部幅144cm、西部幅140cmである。主体部平面形は楕円長方形状だが、D2号墳同様、長辺部が短い。西側邊平面形がやや円弧状を呈している。床面での東西の幅は西側がやや幅広い。西頭位の可能性がある。床はほぼ平坦である。主体



第126図 D2号円形周溝墓断面図・主体部断面図・出土遺物図

部中央やや東よりに浅い窪みがある。また、主体部東側に接して長径68cm、短径65cm、深さ19cmのD 585ビットが検出され、この主体部との関係が注目される。遺物出土遺物は主体部より、碧玉製の管玉1点(1)(出土時は2片に割れていた)、ガラス玉(2~7)が6点出土し



第127図 D 1号円形周溝墓平断面図・主体部平断面図・出土遺物図

ている。蛍光X線分析により、ガラス玉は銅着色のカリガラス(Group P II)である。弥生時代後期のC 4号竪穴建物、D 2号方形周溝墓からの出土例と同じ素材・着色料である。いずれも主体部からの出土であるが、明確な場所は不明である。時期 土器の出土は無く、周溝の形態と細形の管玉と銅着色のカリガラス(Group P II)製ガラス玉から推定するに弥生時代後期と推定する。

D 1号円形周溝墓(第127図 P.L. 79・179)

位置 D区東側、1号古墳と2号古墳の間に位置する。座標値 X=60975~60980 Y=92528~92532 遺存状況 円形周溝墓全体が調査対象。かつてあった低墳丘部はほぼ削平されている。形状 偏円形
規模 内周 南北(長径) 4.52m、東西(短径) 3.40m、外周 南北(長径) 5.00m、東西(短径) 4.00m、主体部長軸方向 N-76°-W 内周墳丘部面積 12.320m²
主体部規模 土坑上部 全長205cm、西部幅195cm、中央部幅193cm、東部幅178cm、床面 全長176cm、西部幅138cm、中央部幅

- 1 黒褐色土10YR3/1 粒状ローム土混入・橙5YR7/8色粒状軽石含有・浅黄橙7.5YR8/6色粒状軽石若干。
- 2 黒褐色土10YR3/1 粒状ローム土混入・橙5YR7/8色粒状軽石・浅黄橙7.5YR8/6色粒状軽石若干。
- 3 黑褐色土10YR3/1 粒状ローム土微量・橙5YR7/8色粒状軽石・浅黄橙7.5YR8/6色粒状軽石若干。
- 4 黑褐色土10YR3/1 粒状ローム土少量・塊状Ⅲ層土含有。

152cm、東部幅135cm、面積2,480m²である。周溝 周溝上幅 15~42cm、周溝下幅4~27cm、深さ2~8cmと狭く浅い溝である。西は円弧状を呈するが、東側になると急角度で屈曲して、途中で立ち上がり東側は周溝が途切れている。周溝間の立ち上がり幅81cmである。主体部 主体部と想定される土坑は、平面開円長方形状で、西側が東側に比べて3cmほど幅広くなっている。土坑の深さは30~40cmと東側に向けて低くなっている。床面の全長は176cmあるので、少し短いが伸展葬は可能であろう。基本的にこの時期は東頭位が多いが、主体部の深さや幅から見ると、西側に頭を置いた可能性も考慮する必要がある。**遺物出土状態** 土坑西側上層から高杯(1)は逆になり、壺(2)は口辺を失っているが正位で出土した。埋葬後、土を被せた後に安置した可能性も考えたい。**土器** 土器が丁寧な調整の高杯(1)と赤彩された壺(2)が出土している。樽式に比定できる。**時期** 土器から後期後半に比定される。

遺構外出土遺物(第128~131図 P L 179~181)

遺構外の遺物は区ごとに概述する。

A区 中期前葉の土器(第128図1~15)、後期の土器(第129図16~27)、有茎石鏃(28)、石鏃(29・30)を掲載している。非掲載の土器は中期が133点、後期が233点である。

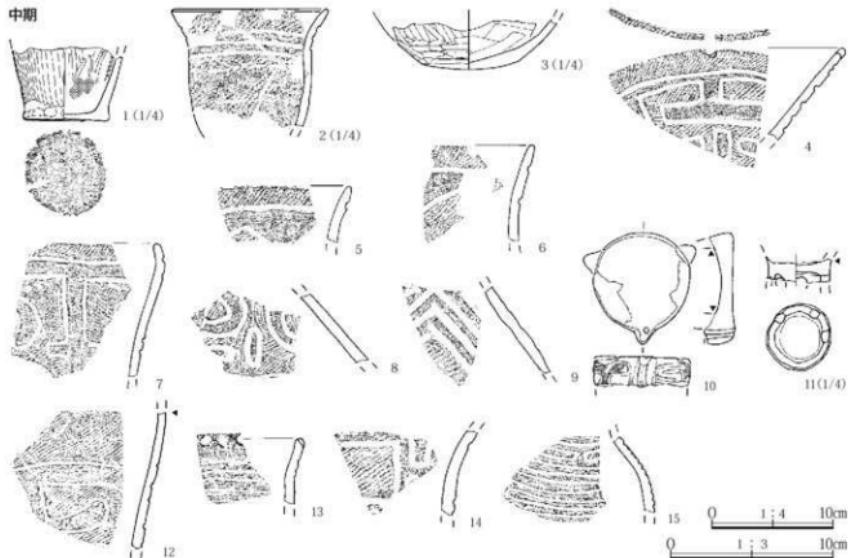
B区 図示しなかったが非掲載土器で後期が1点ある。

C区 中期の土器(31・32)、後期の土器(33~35)、変玄武岩製の磨製石斧(36・37)、珪質頁岩製の石製品(38)、頁岩製の敲石(39)、石鏃(40・41)などが出土している。縄文時代の石器の可能性もある。非掲載の土器は、中期39点、後期62点である。

D区 中期後半~後期の土器(40~57)、未固結凝灰岩製の磨製石斧(58)、変玄武岩製の磨製石斧(59)を掲載した。非掲載の土器は中期~後期の壺片162点、甕片154点、高杯片17点、壺・甕片152点である。

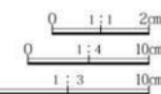
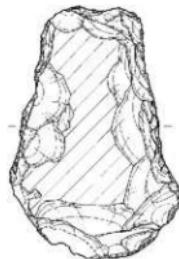
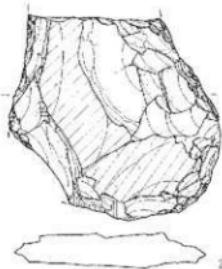
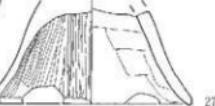
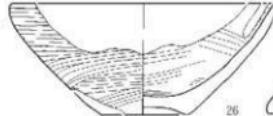
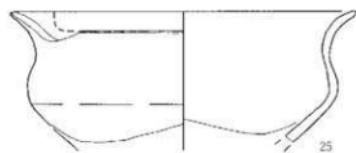
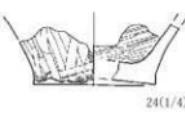
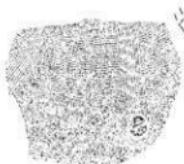
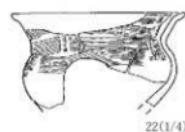
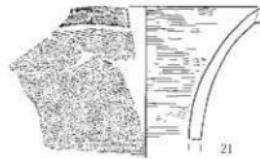
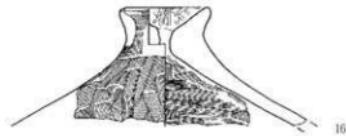
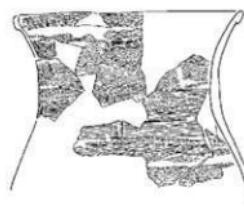
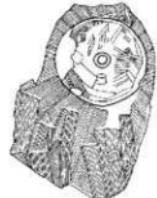
A区

中期



第128図 A区遺構外出土遺物図(1)

構

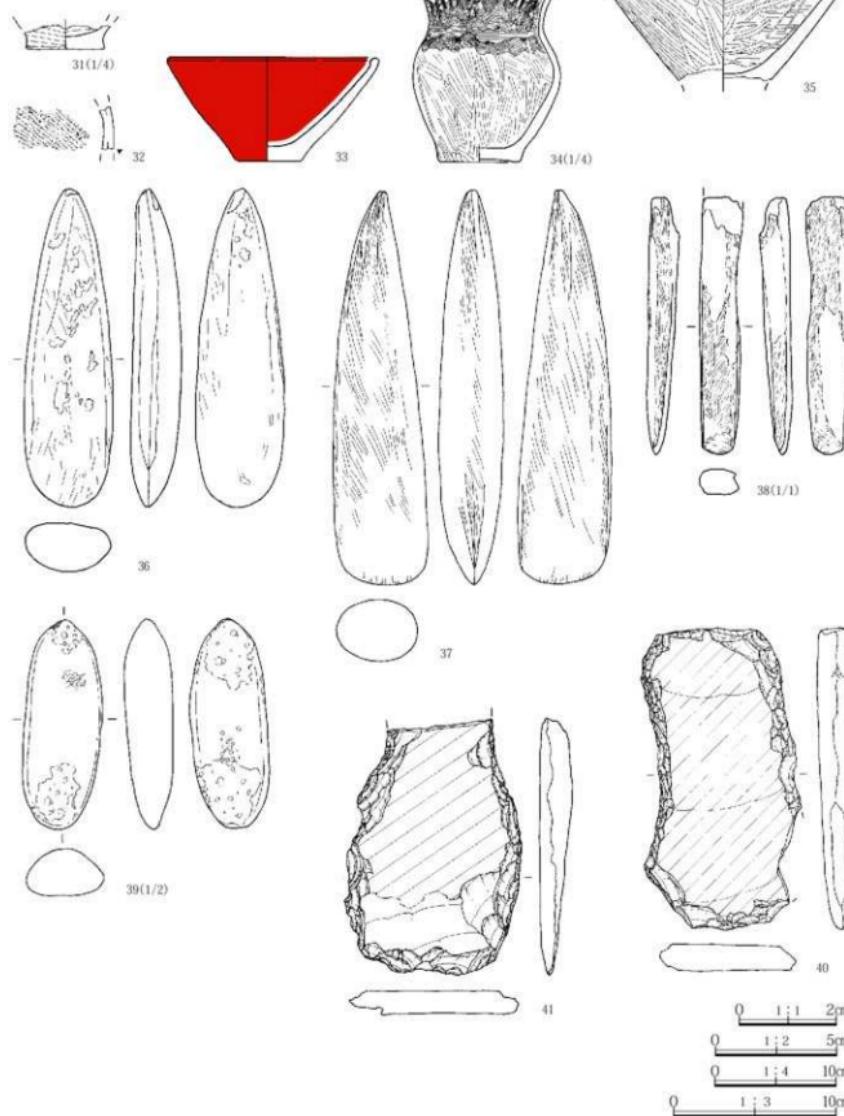


第129図 A区遺構外出土遺物図(2)

C区

中期

櫛



第130図 C区遺構外出土遺物図

D区

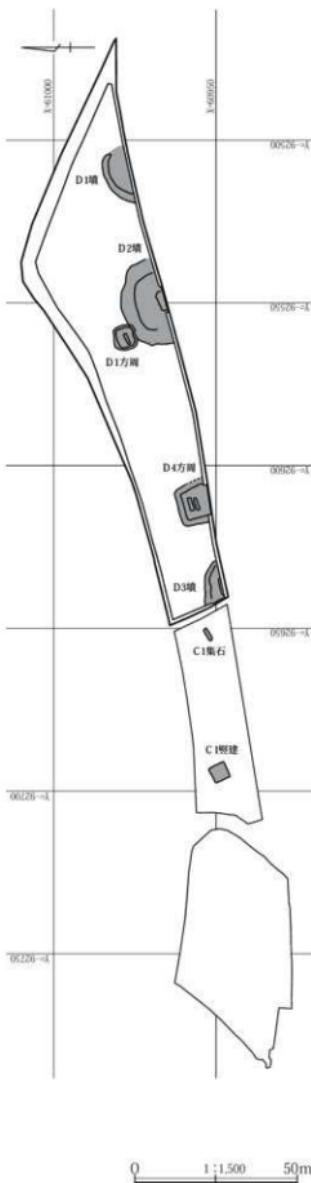
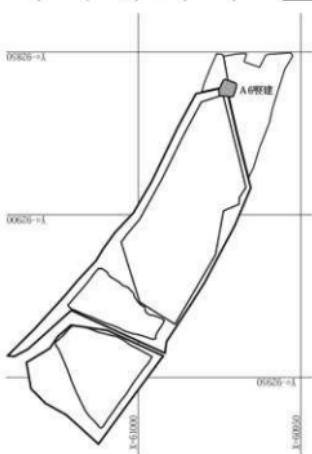
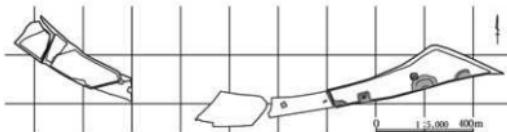


第131図 D区遺構外出土遺物図

第4節 古墳時代

全体状況(第132図)

古墳時代の堅穴建物は、A区より前期の建物が1軒、C区西側より5世紀後半の建物が1軒の計2軒のみが検出されている。居住域は新井遺跡では西部に限定されていた可能性がある。D区には方形周溝墓2基と古墳3基が集中する。方形周溝墓は、D区中央やや東にD 1号方形周溝墓があり、D 2号墳により一部壊されている。それから西にD 4号方形周溝墓が検出され、D区中央～西部にかけて2基が東西に並ぶように構築されている。前期に比定される。また同じ前期のC 1号集石から、土器及び鉄製品が出土し、墓である可能性がある。5世紀後半から6世紀に入るとD区に3基の古墳が構築される。D 1号古墳は、D区東側に位置し、弧状の周堀の北側一部のみの調査であるが、周堀内側の立ち上がりに葺石が葺かれている円墳である。D 2号古墳は、D 1号古墳の西側に位置する方墳で、古墳北側のみが調査され、主体



第132図 古墳時代遺構分布図

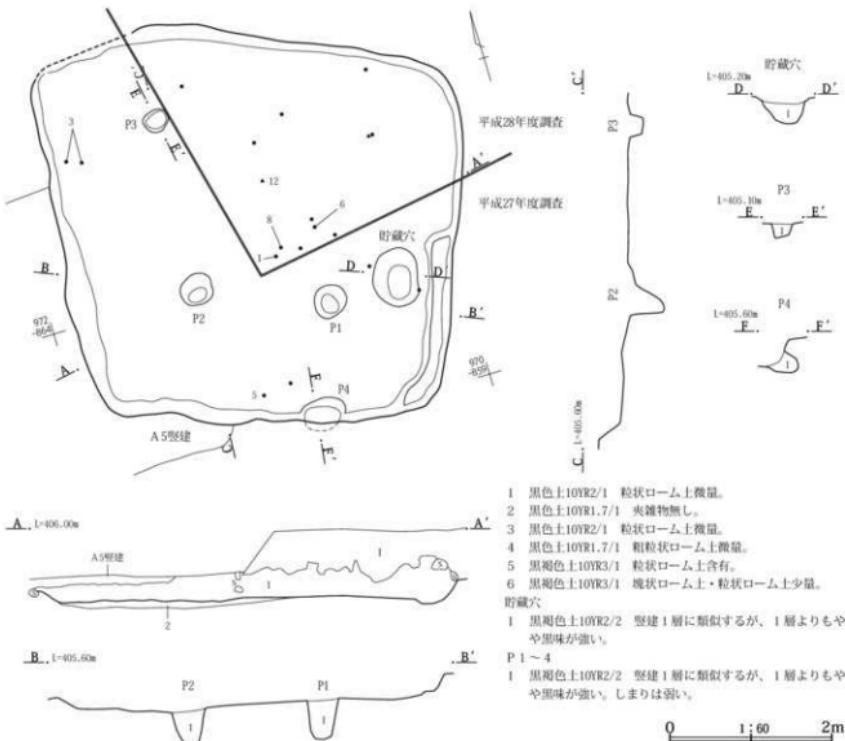
部の北側一部もその下部が調査された。横穴式石室の基底部の可能性が高い。方墳と推定している3号墳はD区西端に位置しており、周囲の北東部隅の一部と葺石が確認できた。須恵器が周囲より出土している。方墳と推定しているいずれの古墳も6世紀代と推定する。D区は基本的に前期より後期にかけて墓域として利用された地区である。

竪穴建物

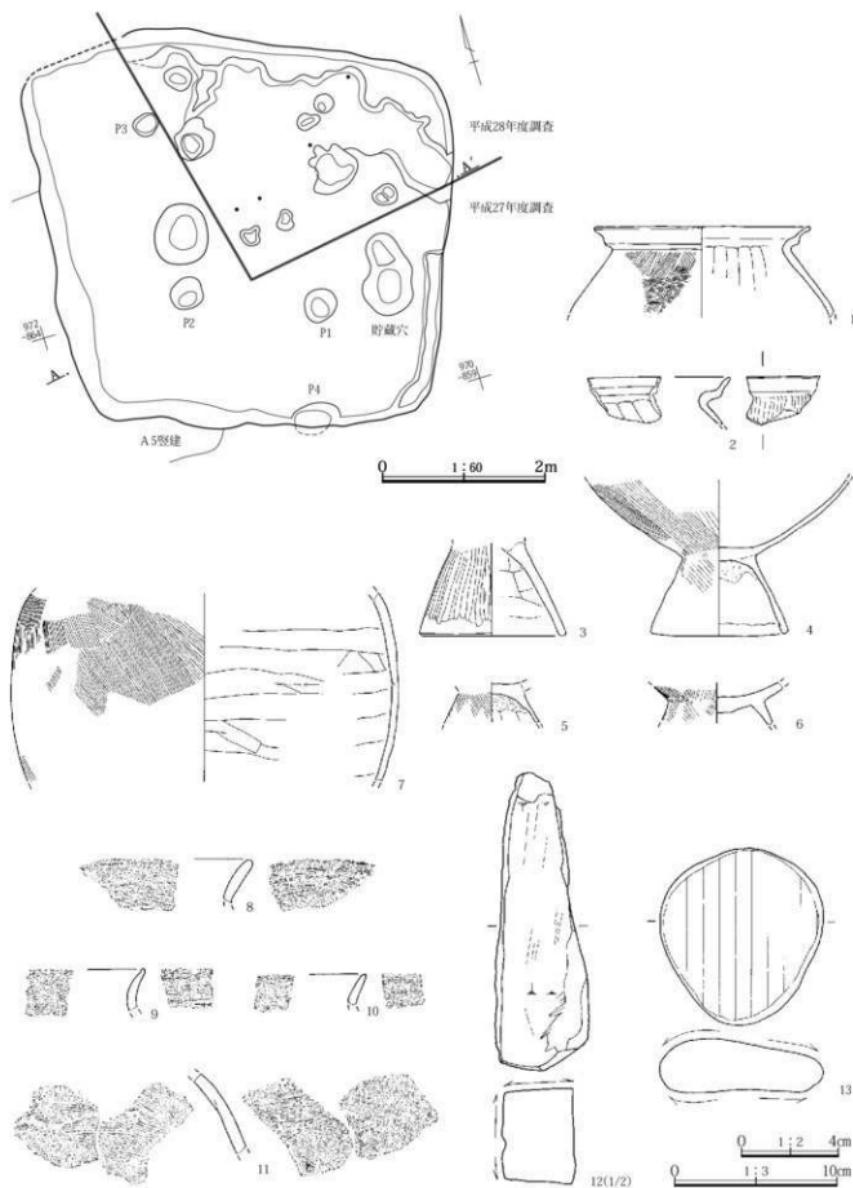
A 6号竪穴建物(第133・134図 P.L. 80~82・182)

位 置 A 3区東側北部に位置する。**座標値** X = 60969~60975 Y = -92858~ -92863 **調査状況** 平成27年度と平成28年度に分割して調査を行う。**遺存状況・重複** 竪穴建物全体が調査対象である。A 5号竪穴建

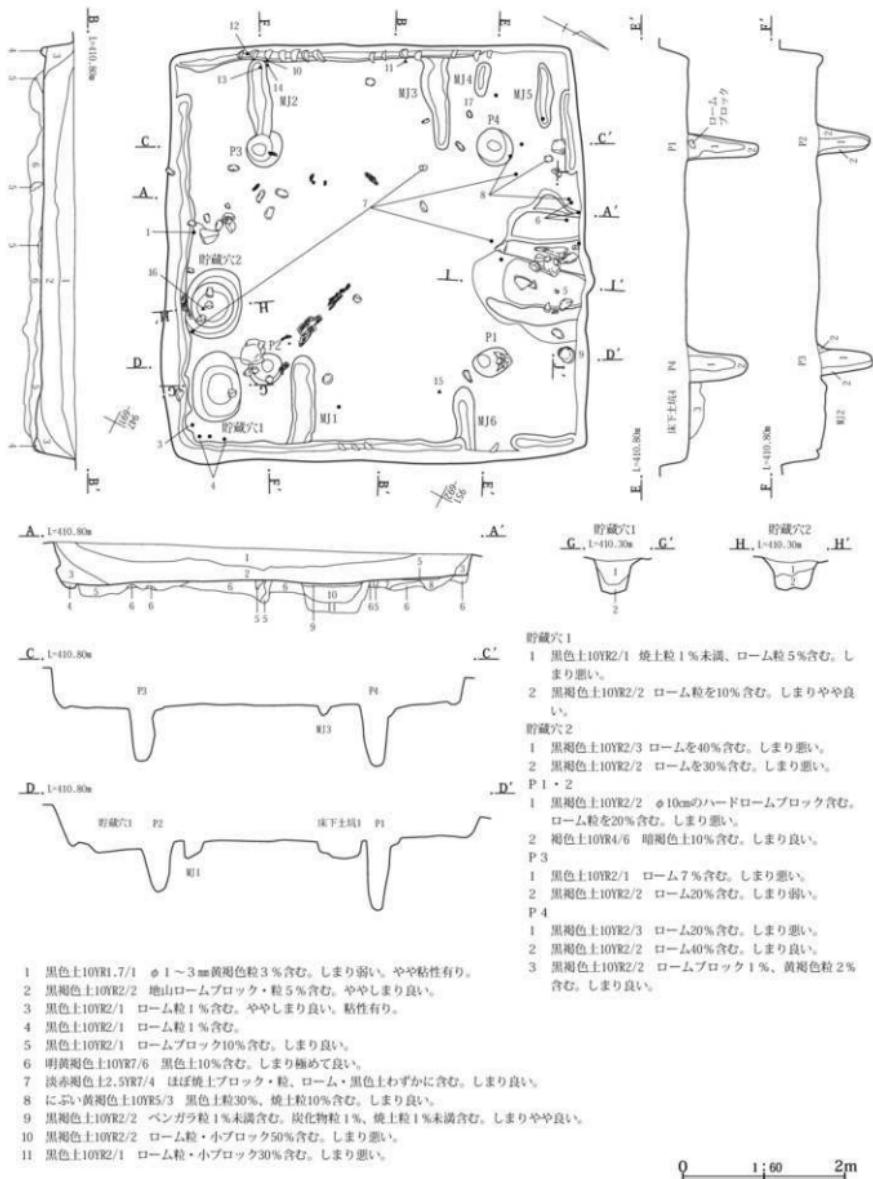
物、A 16号土坑が重複する。**形 状** 不整圓円方台形
規 模 東西5.33m 南北4.90m 長軸方向 N-75°-W
床面積 19.481m² **床面・壁** 床面は平坦である。特記すべき硬面化は無い。壁の残りはある程度あり、残存壁高15~27cm、幅27~30cm、深さ24cmの壁際溝が南東部に一部残る。**炉** 不明である。**柱穴** P 1~P 3は柱穴と推定する。長径31~42cm、短径27~38cm、深さ16~51cmである。残念ながら、北東部の柱穴は確認できなかった。**P 4** は入口部を南と想定すると、その関連の施設に伴う穴と推定する。**P 4** は南壁に少し食い込む形で掘られており、長径55cm、短径40cm、深さ11cmである。南入口入って右(東)側中央部に貯藏穴かと推定する長径73cm、短径55cm、深さ35cmの施設がある。**掘 方** 掘方は、特に北東部に堀りくぼめた跡が残る。**遺物出土状況**



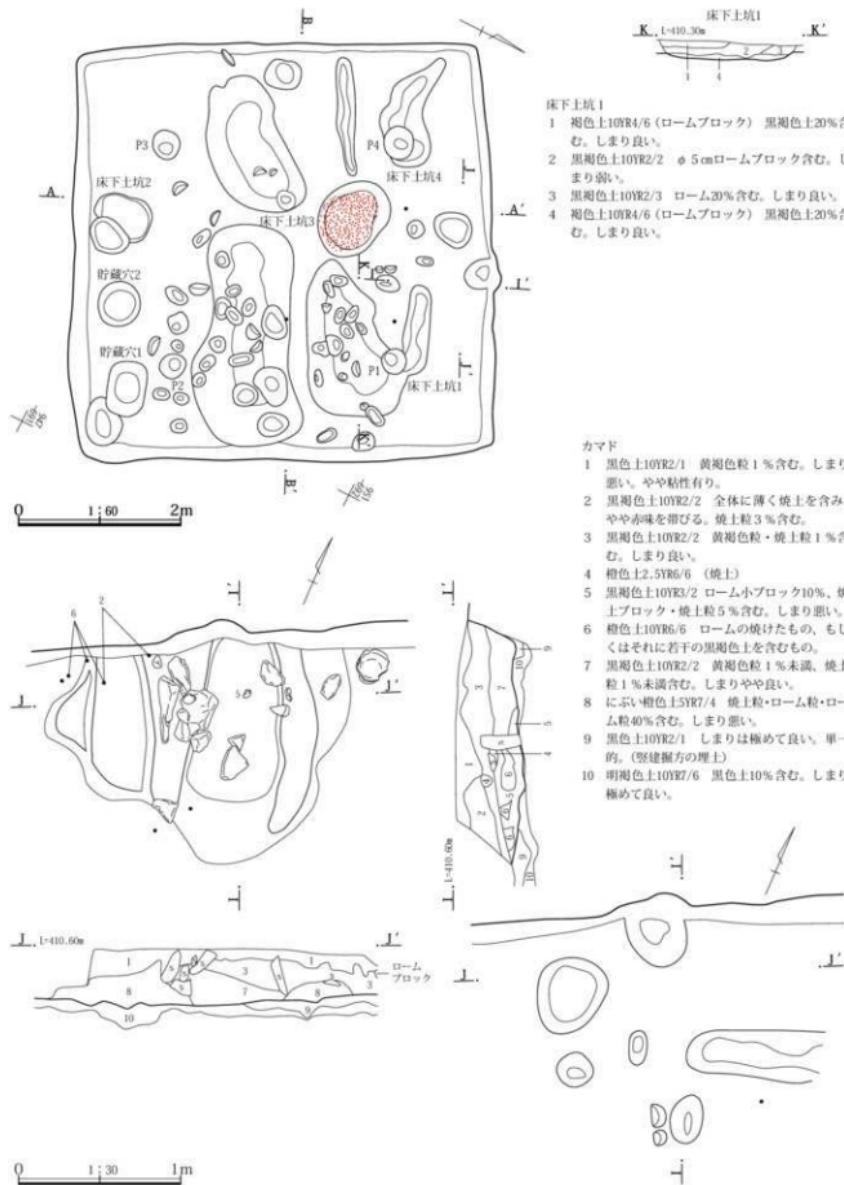
第133図 A 6号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図



第134図 A6号竪穴建物掘方平面図・出土遺物図



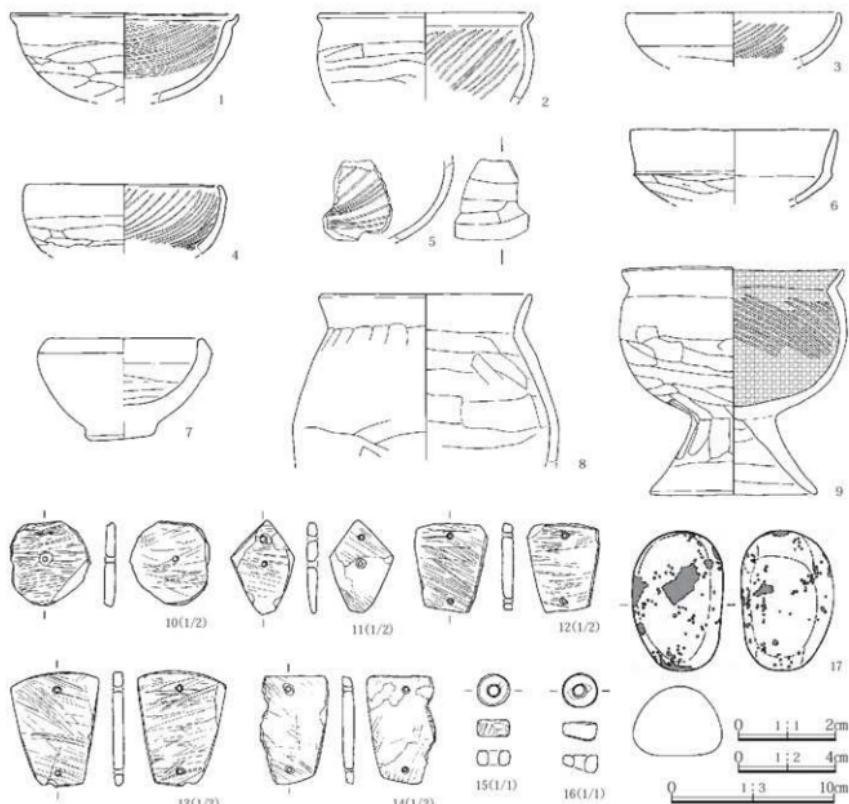
第135図 C1号竖穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図



第136図 C1号竖穴建物掘方平面図・カマド平面図・土層断面図

貯蔵穴付近の台付腰脚部(4)、北東部西壁際出土の台付腰脚部(3)、中央やや北側出土の砥石(12)は床面直上からの出土品である。他の遺物は床やや上からの出土である。遺 物 土器は、S字状口縁片付腰片(1～7)が中心で、他に單口縁腰片他(8～11)がある。石器は、正面が使い込まれて研ぎ減りによりやや内湾した流紋岩製の砥石(13)、磨石(12)が出土している。時 期 前期4世紀代に比定される。

C 1号竪穴建物(第135～137図 P L. 83～86・182)
位 置 C区西側に位置する。座標値 X=60945～60952 Y=-92691～-92697 遺存状況・重複 竪穴建物全体が調査対象である。**形 状 方形 規 模 東**



第137図 C 1号竪穴建物出土遺物図

西5.15m、南北5.22m 長軸方向 N-36°W 床面積 20.957m² 床面・壁 入口はカマド及び貯蔵穴の位置からすると東側になる。床面は平坦で明瞭な硬化部は認められ無い。壁は四周が残るが残存壁高は26～52cmである。壁際溝がカマド以外の部分を一部溝が途切れながらもほぼ一周している。幅8～15cm、深さ1～7cmほどである。床面小溝が主柱穴のP 1～P 4沿いに柱穴から付近から壁方向にP 1～P 3では1本ずつ、P 4では3本の小溝が造られている。掘 方 壁際溝にU字形鏿先による掘方の痕跡が残っている。この竪穴がU字形鏿により掘削されたことを示す。掘方は主柱穴のP 1～P 4付近に浅い掘り込みがあり、長径72～197cm、短径54～122cm、深

さ10~30cmの床下土坑1~4が東西方向に主軸を持って造られる。カマド 建物北辺やや東に位置する。カマド本体部の破壊が激しく、復元で幅91cm、長さ105cmである。袖に礫を入れて粘土で周りを固めている。焼成部には焼土が残っている。煙道は壁を斜めに削るような形で急激に上がる形態である。貯藏穴 西南隅から西壁にかけて並列して2基が配置されている。1号貯藏穴は長径86cm、短径59cm、深さ47cmである。2号貯藏穴は長径85cm、短径70cm、深さ43cmである。柱穴他 柱穴P1~4の4本の主柱穴である。長径43~48cm、短径33~42cm、深さ63~90cmである。**土器・石製品他出土状況** カマド周辺に多くの遺物(2・5・6・8・9)が出土している。カマド内部に杯片(5)、カマド左袖付近に椀(2)、須恵器模倣杯(6)が出土し、少し離れて甕(8)が床面直上で出土している。カマド右袖付近には台付椀が床面直上で出土している。東側入口部入ってすぐ右側から、滑石製白玉(15)が床面直上で出土した。南側の1号貯藏穴南からやや浮いた状態で、内湾口縁杯(3・4)、2号貯藏穴内部床上4cmの所より滑石製白玉(16)が出土している。2号貯藏穴すぐ西側の床下土坑2内より内斜口縁杯(1)が出土している。主柱穴P3から西に延びる2号床面小溝の西壁に突き当たる付近の壁際溝内や床面から15cm以上上の覆土から石製模造品の側縁が不定形の有孔円板(10)、上部が平坦面を呈する剣形品(12~14)が出土した。また、2号小溝から北側に位置する3号床面小溝の南、西壁付近からほぼ床面直上に上部が尖る形態の剣形石製模造品(11)が出土している。小型鉢は、床面直上であるが、南北に破片が分散して出土している。磨石(17)は3号床面小溝と4号床面小溝の間から床面直上から出土している。なお、中央部の床下土坑よりごく少量のベンガラが出土している。**土器** 土器は、内斜口縁杯(1)、内湾口縁杯(3・4)、須恵器模倣杯(6)があり、他に椀(2)、不明杯(5)、小型鉢(7)、甕(8)、台付椀(9)の構成である。内斜口縁杯は、口唇端部があがる古い要素である。また須恵器模倣杯も口辺がほぼ直に上にあがる形態で古い要素を持つ。台付椀は、内面黒色処理を施した珍しいもので、長野か沼田地域の影響を受けていると思われる。

石製模造品 石製模造品は、有孔円板(10)は、側縁の加工が粗く、不整形状になっている。剣形石製模造品は、中心は、茎先端部が平坦面(12・14)あるいは円弧状(13)

を呈するものであるが、先端が尖る形態(11)も共存する。模造品の中では新しいものである。赤色顔料(ベンガラ)ベンガラは、分析篇を参照してもらうと良いが、当遺跡の他のベンガラがパイプ状ベンガラであるのに対して、火山性の硫黄・ヒ素・明礬石などを含む、火山性の堆積土を素材にしたベンガラであることが分かった。5世紀の特に後半以降、多用される赤色顔料の素材である。吾妻川を下っての下流域にある渋川市金井東裏遺跡から出土した赤玉の素材と同じである。時 期 土器の杯の様相及び石製模造品の様相から、5世紀末に比定される。

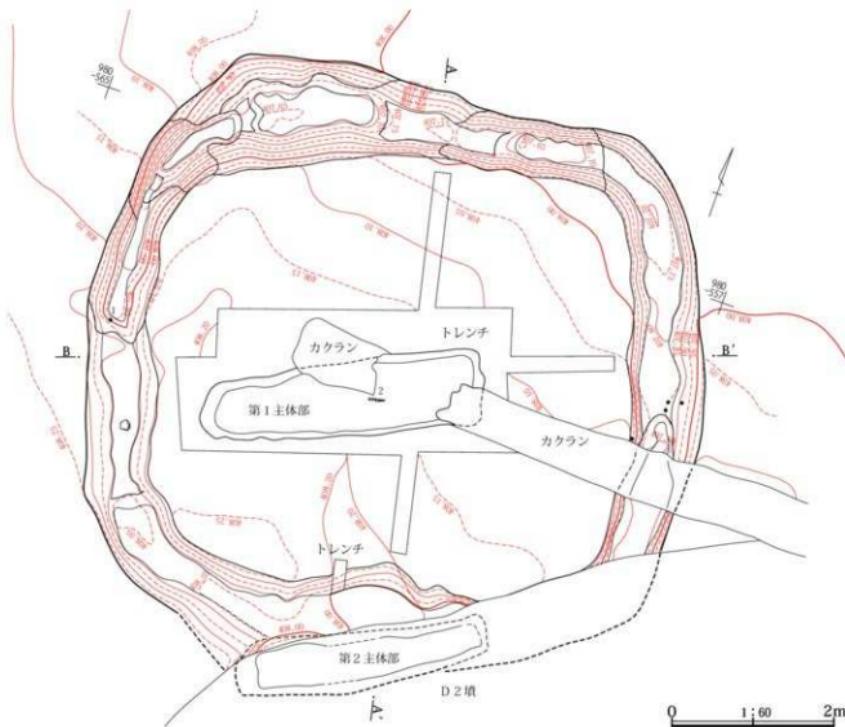
方形周溝墓

2基の方形周溝墓が、D区で西から4・1号と配置されている。以下1号から説明する。

D1号方形周溝墓(第138~140図 P.L. 87~89・182)
位 置 D区中央部やや東、2号墳に接する。座標値 X=60974~60981 Y=-92556~ -92564 遺存状況・重複 2号墳に南部端の溝及び第2主体部が壊される。2号墳が新しい。形 状 四円方形 規 模 内周 南北5.28m、東西5.92m 外周 南北7.36m、東西7.68m 面 積 墳丘部 28.448m² 溝外周部 47.584m² 周溝規模 上幅57~144cm、下幅11~54cm、深さ12~47cm 長軸方向 N-14°-W 周 溝 周溝の平面形は、四円方形である。溝の深さは深い所でも、現状では50cmいかない。溝の掘削の様子が掘削痕跡から分るのが周溝の西側から北側にかけて7ヶ所ほどある。西南隅から見ていくと、西溝を2.0m、2.1m、1.1mの長さで掘削し、北西隅から北溝を1.2m、1.35m、1.3mの長さで掘削している様子が良く分かる。掘削する方向は不明である。周溝南部がD2号墳より壊されているが、溝は全周すると推定する。周溝西側中央部から壊し想定される土器が出土した。墳 丘 墳丘はほとんど削平されていて不明である。主体部の立ち上がりもすでに削平されていると想定されることから墳丘も残っていないと考えている。残りの良い渋川地区の方形周溝墓を見ると、本来は1mほどの低墳丘が残っていたものと想定している。**第1主体部** 第1主体部は、墳丘の中心や南側から検出された。主軸方位 N-64°-E 規 模 底面長さ318cm、東部幅75cm、中央部幅(79)cm、西部幅54cmである。床面積2.144m² 上場での長さ350cm、東部幅92cm、中央部幅(92)

cm、西部幅73cmである。主体部の規模は大きい。東部が幅広いことから、被葬者は東頭位と想定する。棺床は断面が緩い円弧状を呈している。この主体部に南東方向から北西方向にかけて新しい掘削があり、主体部上部からかなり下位まで影響を受けている。主体部床面上中央やや東から、切先を西に向けて短剣が出土している。被葬者の腰位に切先を足に向けて崩葬している状況を示している。**第2主体部** 第2主体部は、周溝南側にあるが、やや周溝の方向とずれている。D 2号古墳の周堀内主体部の可能性も考えたが、2号墳の周堀の際ぎりぎりの所に位置することなどから、D 1号方形周溝墓に伴うものと結論づけた。**主軸方位 N-60°-E 規 模 底面で長さ2.76m、東部幅32cm、中央部幅46cm、西部幅45cmである。床面積 1.184m²** 上場での規模は、長さ310cm、東部幅(50)cm、中央部幅(70)cm、西部幅(66)cmである。

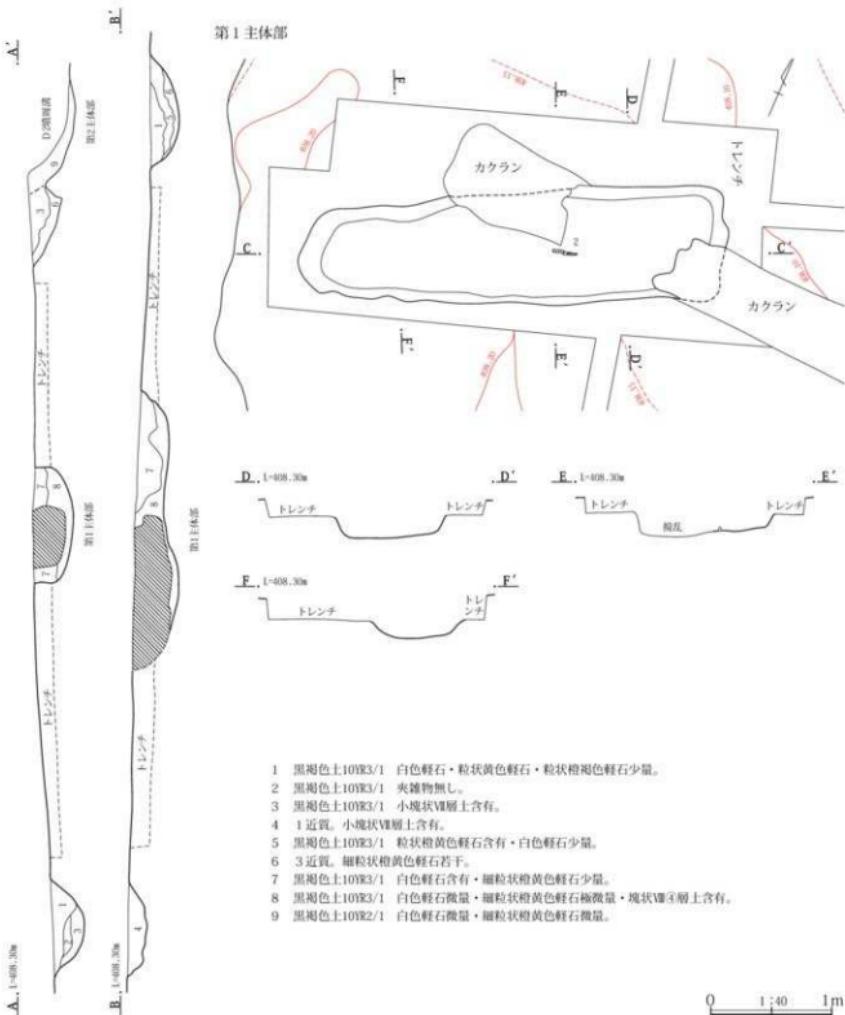
。南に隣接するD 2号墳の周堀に掘削され上半部が削平されている。現状では、想定床面西側の幅が広く、西頭位の可能性もある。副葬品は無い。遺 物 周溝から出土した土器はあまり類例の無いもので、壺と推定される土器であるが、時期比定は難しい。短剣は、全長17.9cm、刃長13.9cmと短い剣である。県内の弥生後期から古墳時代にかけての短剣(一部槍)の例と比較しても短めである。茎部及び刃部での木質の付着があり、木装で、鞘に入れてあったものと想定する。時 期 時期比定の資料は、周堀からの出土土器と第1主体部の副葬品である短剣である。土器はあまり類例の無いもので、時期比定は難しいが、弥生時代に含まれるものでは無い。短剣は、その長さからすれば弥生時代に入る可能性があるが、周溝が全周する他の方形周溝墓の時期比定からすると古墳時代前期に入るものと想定した。



第138図 D 1号方形周溝墓平面図・遺物出土状況図

D 4号方形周溝墓(第141~144図 P L. 90~93・183)
位 置 D区西部にあり、2号円形周溝墓を東に、3号古墳を西にして挟まれている。座標値 X=60952~60962 Y=-92603~-92618 遺存状況・重複 周溝墓南側が調査区外となる。重複は無い。形 状 圓円方形

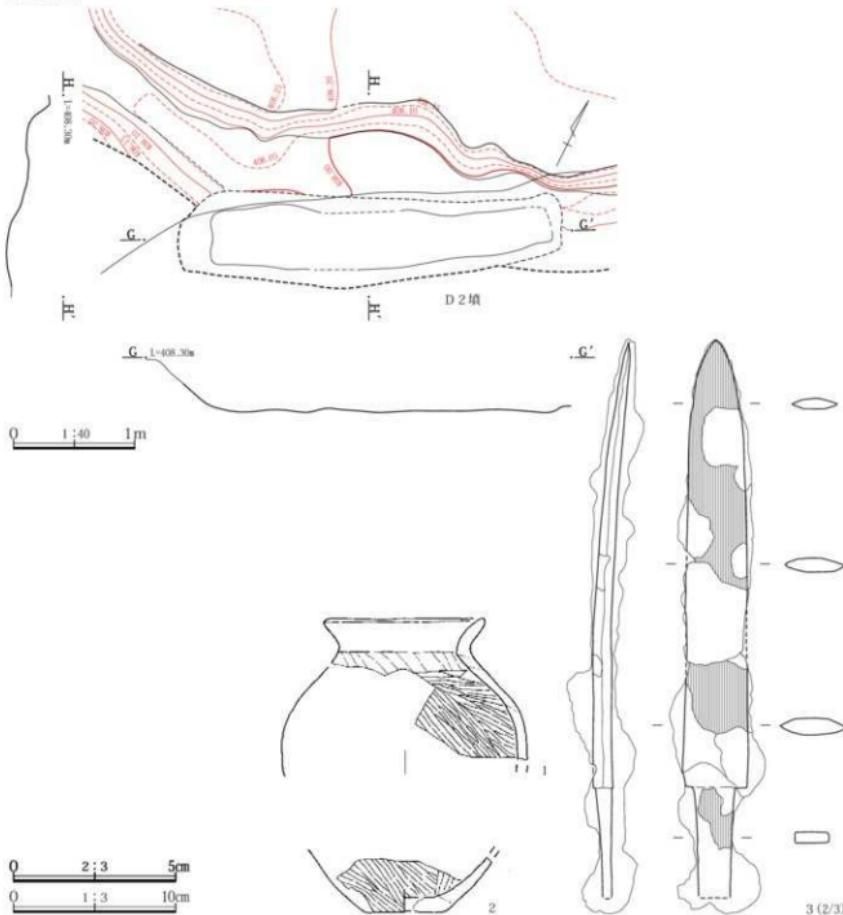
規 模 内周 南北7.60+m、東西9.40m 外周 南北9.60+m、東西13.60+m 面 積 塗丘部66.603+mf 溝外周部28.187+mf 周溝規模 上幅160~210cm、下幅26~78cm、深さ61~120cm 長軸方向 N-16°-W 周溝は南側の調査区外となり不明であるが、溝の掘削深



第139図 D 1号方形周溝墓第1主体部平面・遺物出土状況図・土層断面図

度などから全周していると推定する。溝の掘削が深いために上部の削平から免れて溝が残ったものと思われる。溝掘削の単位は、周溝北部の中央に1.90mの長さの単位が確認できる。溝底の標高を見ると、掘削の単位が分る深く掘りくぼめている箇所を除くと、30cmほどの高低差で、周溝底が廻っており、溝底を平坦にしようとする意図を感じる。高杯形部(2)・小型腰口辺部(4)は周溝覆土上層から出土している。

第2主体部



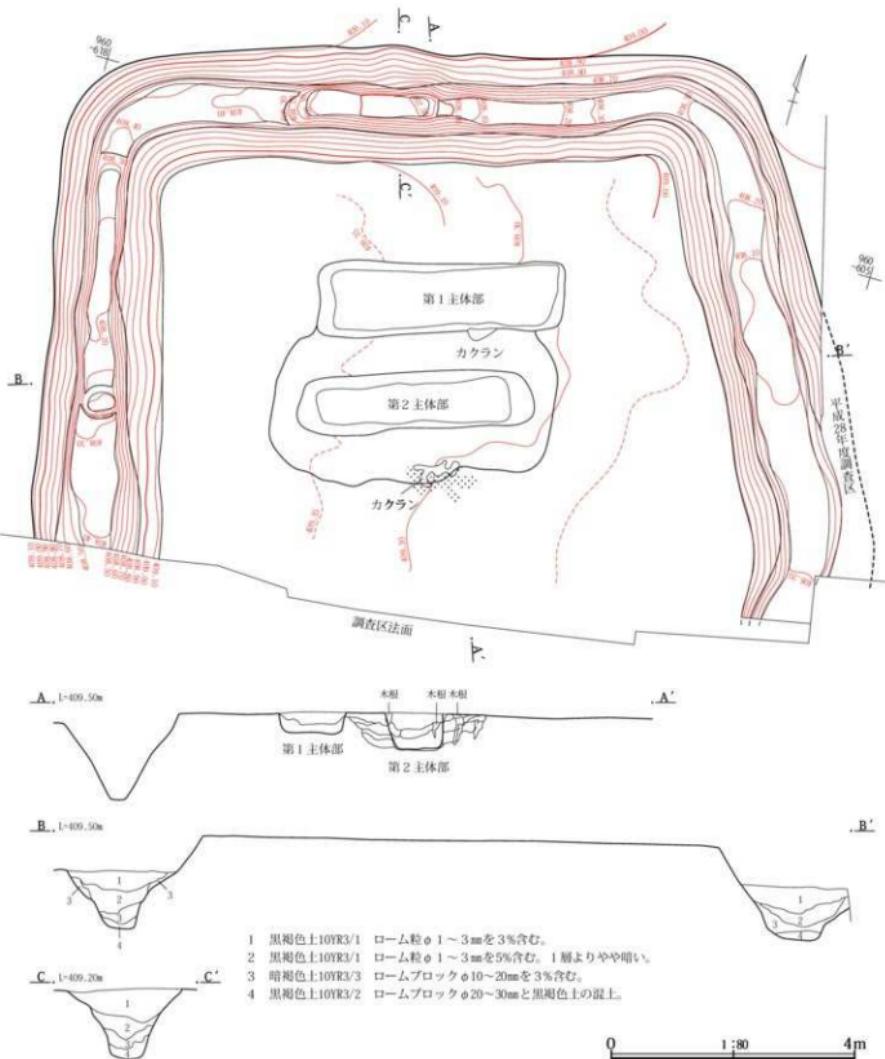
墳丘 墳丘はほとんど削平されて無い。

主体部は2つ検出された。

第1主体部 墳丘の中央やや北よりにある。第2主体部の土坑の北側辺を一部壊して構築している。**主軸方位** N-75°-E **規模** 底面 長さ360cm、東部幅96cm、中央部幅86cm、西部幅98cmである。床面積 3.243m² 上場での規模は、長さ404cm、東部幅112cm、中央部幅110cm、西部幅126cm 主体部の規模は大きい。西部が少

し幅広い。床面 平坦である。鉢(1)が床面から30cmほど上から底部を上にして出土している。被葬者は木棺に埋葬されていたと想定しているが、その棺の埋納後に、埋土上に置いてあった土器が棺の腐朽とともに崩落した

ものと推定する。また、玉髓製環玉(6)が東部南側から床面上30cm位の箇所から出土している。これも上からの崩落と想定する。他にガラス玉7点(13~19)がフライをかけて出土した。他に、小碟がいくつか床面直上で出土



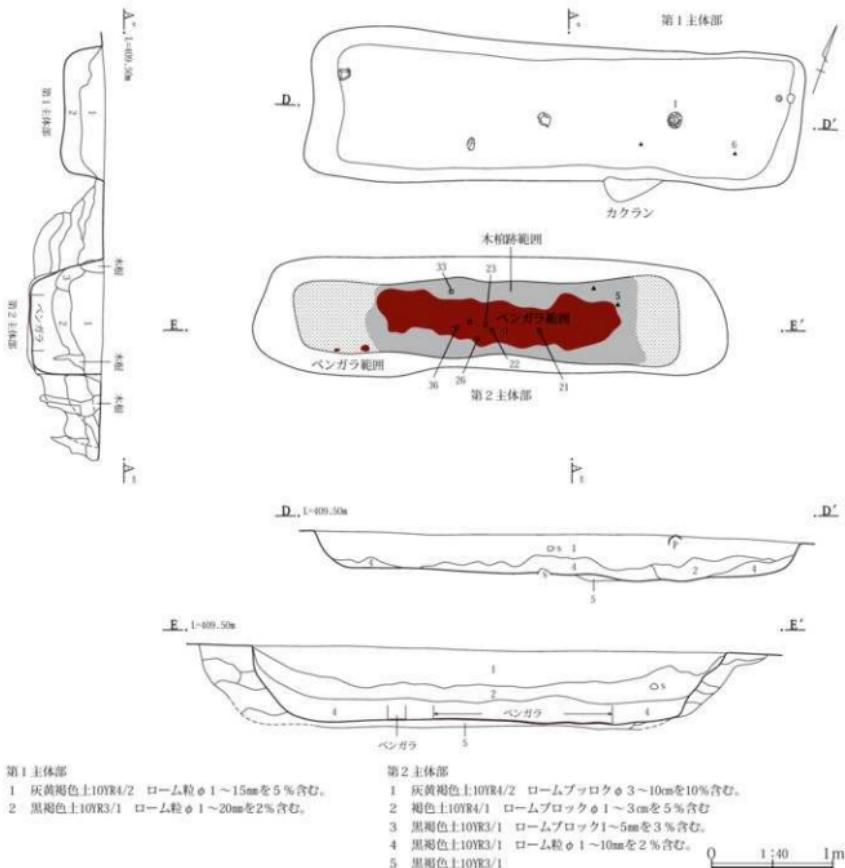
第141図 D 4号方形周溝墓平面図・土層断面図

している。

第2主体部 第2主体部は墳丘の中央部と推定する箇所から検出したもので、この墓の構築契機となった被葬者の主体部である。第1主体部に先行して構築されている。

主軸方向 N-72°-E 規模 底面 長さ292cm、東部幅74cm、中央部幅72cm、西部幅56cm 床面積 1.879 m² 上場での規模は、長さ390cm、東部幅90cm、中央部幅92cm、西部幅94cmである。この埋葬主体部を構築する際の土坑の規模は、底面で長さ375cm、東部幅114cm、中央部幅136cm、西部幅135cmである。上場で長さ471cm、

東部幅223cm、中央部幅244cm、西部幅236cmである。土坑の規模は大きい。土坑内の主体部の中で木棺の痕跡らしき断面がA-Eセクションを観察すると確認でき、そこから平面的に木棺の痕跡として確認した木棺の範囲が長さ221cm、東部幅71cm、中央幅58cm、西部幅54cmである。東部が幅広く、頭位が東と推定する。木棺の中には、赤色顔料(パイプ状ベンガラ)が長203cm、幅30~47cmの範囲で検出されている。この範囲内に遺体を置いていたと思われる。ベンガラは床面上に水平に出土している。おそらく床面上の上にまいたか、木棺の内部底面にま



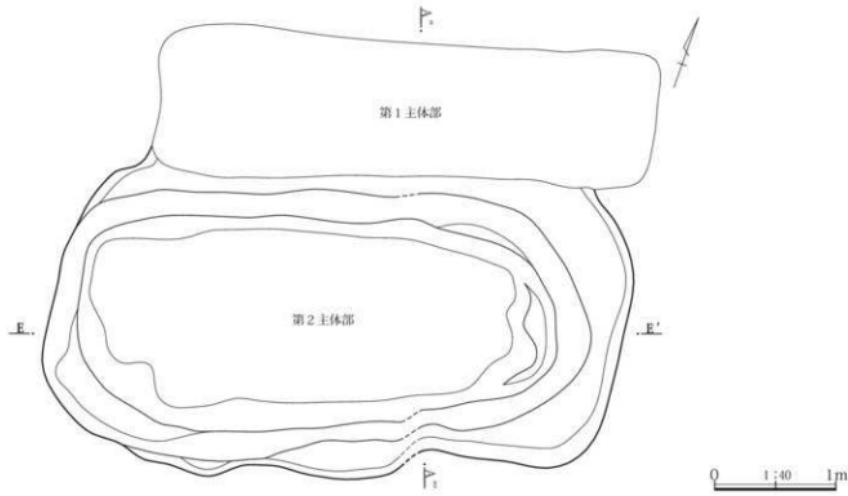
第142図 D-4号方形周溝墓主体部平面・遺物出土状況図・土層断面図

かれていたものと思われる。遺物出土状況であるが、まず、木棺痕跡東側の床面直上からヒスイ製勾玉が出土している。この勾玉の西側に、勾玉から1~5cm下部からガラス玉が7個(21・22・23・26・33・36、1点は小破片の為作図できず)出土している。フリイに掛けて見ると、上述したガラス玉を含めて総数18個のガラス玉が出土している。また、フリイから、石英製の算盤玉3個(7~9)も出土している。これら玉類は、勾玉を中心にして構成された一群と想定されるが、勾玉・ガラス玉とともに、1m以上の範囲にわたり分散しているので、使用方法は不明である。また東部やや北の床面から50cmほど上から大形のガラス玉1個(20)が出土している。2号主体部からは他に、壺口辺部小片(3)が出土している。遺物 豊富な副葬品がある。まず、第2主体部をみると、半球形に近いヒスイ製勾玉(5)、石英製の算盤玉3点(7~9)、ガラス玉18点(21~36、うち1点は小破片の為作図できず)が出土している。他に上より崩落したと推定するガラス玉(20)が出土し、壺口辺部片(3)が主体部内覆土から出土している。ヒスイ製の勾玉と石英製の算盤玉という貴重な石材を加工した玉類が出土していることが重要である。ガラス玉は、分析篇の蛍光X線分析に対する大賀克彦氏の同定により、20~24、32・34がコバル

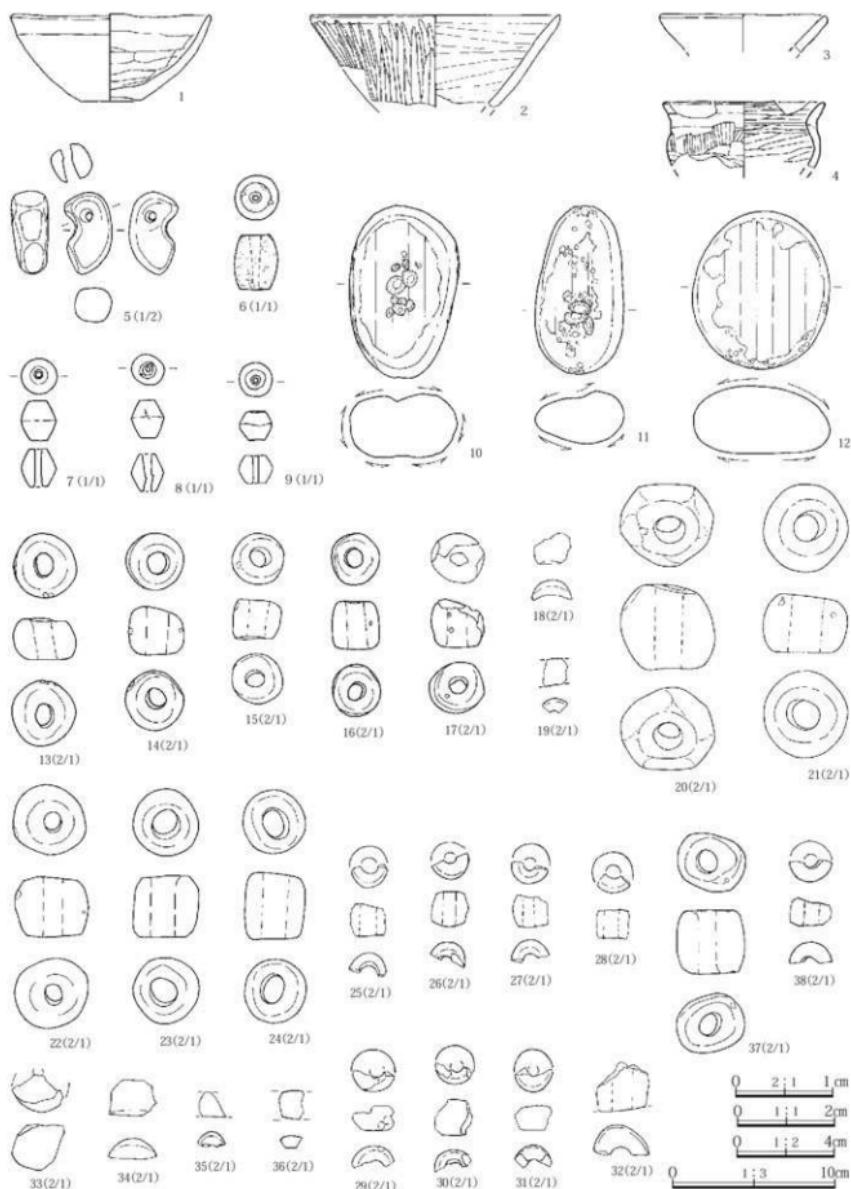
ト着色のカリガラス(Group P1)と推定された。第1主体部からは、棺上より鉢(2)が1個、玉軸製壺玉(6)が1個出土しており、ガラス玉が7個(13~19)のみである。周溝からは、土器類として高杯杯部(2)・小型壺口辺部(4)、ガラス玉2個(37・38)が出土している。37はコバルト着色のカリガラス(Group P1)と推定されている。時 期 勾玉の形態からさかのぼる可能性はあるが、玉類の構成及び土器類や全周と想定される周溝などから古墳時代前期と推定する。

C 1号集石造構(第145図、P L102・183)

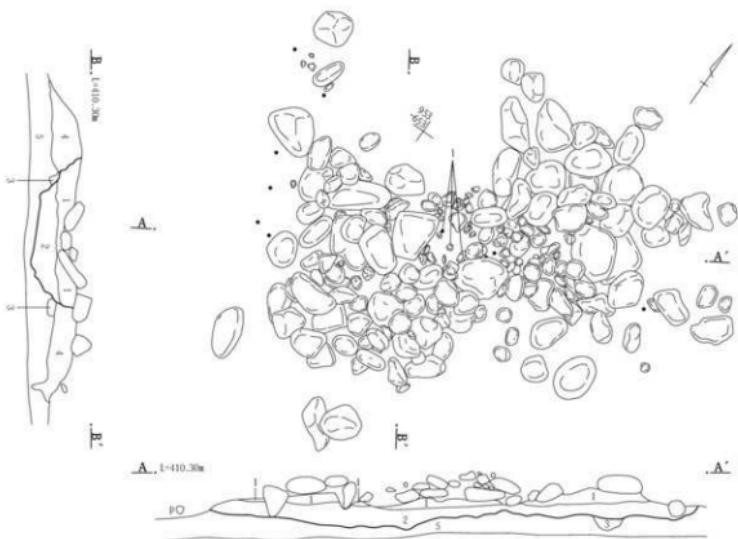
位 置 C区東端部にある。座標値 X=60950~60954 Y=-92649~-92654 遺存状況・重複 一部石が動いている。重複は無い。形 状 挖方は長方形で、礫は全体を覆っている。規 模 長軸430cm、短軸362cm、深さ37cm 長軸方向 N-58°-W 挖 方 長方形を呈している。長軸幅403cm、短軸辺(北東)幅107cm、中央部幅117cm、短軸辺(南西)幅98cmと、東側が西側に比べてやや広い。深さ17~27cmと浅い。底面も凹凸があり、西側に向けてやや上がる。集 石 この掘方の上に黒褐色土を載せた上に、3~52cmの礫を集積する。平面形態は、すでに動かされている石もあるのではっきりとしたことは言えないが、長方形の掘方をすべて石で覆い、さ



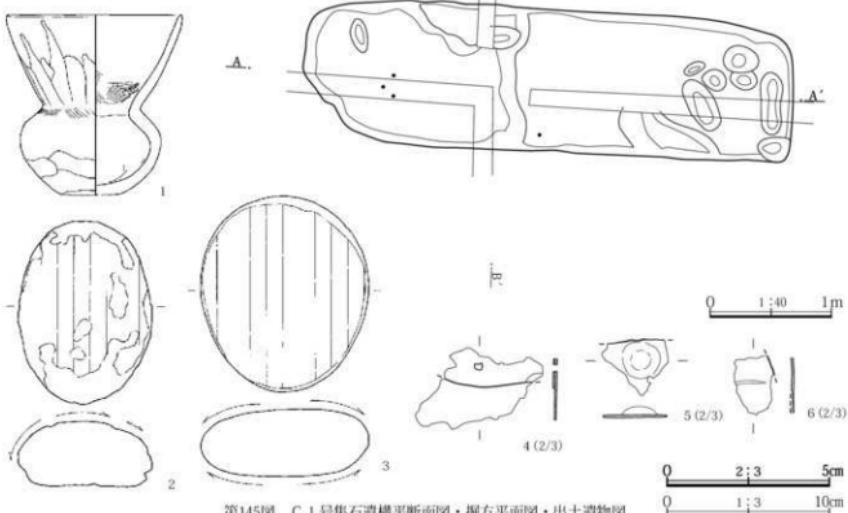
第143図 D 4号方形周溝墓第2主体部土坑平面図



第144図 D 4号方形周溝墓出土遺物図



- 1 黒褐色土10YR2/1 白色粒1%、黄褐色粒3%含む。しまり弱い。
- 2 黒褐色土10YR2/2 白色粒1%未満、黄褐色粒1%程度含む。しまり良い。
- 3 黒褐色土10YR2/2 2に類似するが、わずかに暗く。しまり弱い。
- 4 黒褐色土10YR2/1 (地山?) 1に類似するが、わずかに明るく、黄褐色粒やや少額。しまり良い。
- 5 黒褐色土10YR2/3 (地山)白色粒1%未満、黄褐色粒1%含む。しまり極めて良い。



第145図 C 1号集石遺構平面図・掘方平面図・出土遺物図

らに外方に折げるような形で礫を置いていると想定している。本来の外見は石を積み上げた積石塚のように見えたものと考えている。集石中央部礫下部からは、壇形土器(1)が出土している。鉄製の板状品が3点(4・5・6)出土している。用途不明品である。磨石(2・3)が4点出土し、集石の礫として使用されている。図示はしていないが、黒曜石製の石鏃2点も出土した。

性 格 磚の集積の状況や壇の出土などを見ると、礫壇状の墓の可能性と、祭儀に伴う集石の可能性を考えている。**時 期** 土器から4世紀後半と推定する。

古墳

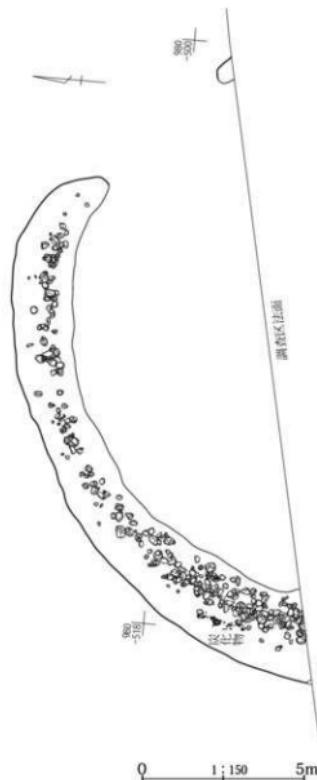
古墳は、D区で、東からD1～3号墳と東西に並列して構築されている。

D1号古墳(第146～149図 P.L. 94～97)

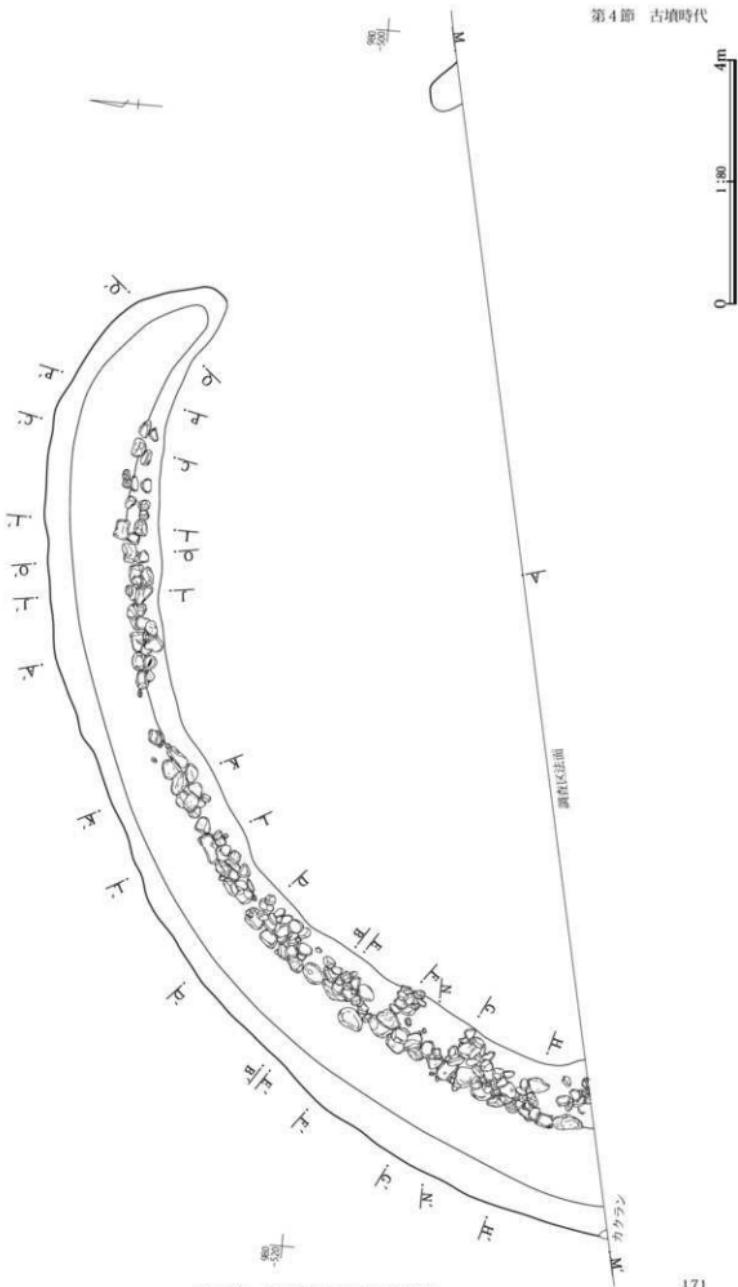
位 置 D区東端部にある。座標値 X=60974～60984 Y=-92500～-92519 遺存状況・重複 周堀北側が調査区内となり、想定される主体部及び南側周堀は調査区外である。D117号が重複する。**形 状** 北側周堀円弧形 **規 模** 内周 南北5.92m、東西15.68m 外周 南北7.80m、東西19.40m **面 積** 墳丘部68.608m²、堀外周部108.544m²、周堀規模 上幅60～185cm 下幅30～117cm、深さ34～81cm **墳 丘・主 体 部** 墳丘は削平されて一切残っていない。主体部も北側の削平の状況を見れば、調査区外の南側においても残っていないものと想定する。周 堀 周堀は北側のみの調査となっている。緩やかな円弧状を呈している。調査区の南西端から、周堀は円弧状に掘削されており、東北部で一旦途切れている。周堀が途切れた地点から2.2mほどの先の円弧状の延長線上にまた、堀の掘り込みが見え始めた所で、調査区外となる。この堀を、復元して、古墳の規模を推定すると、墳丘径約15m、堀外周を含めた規模は径約16.5mの円墳となる。周堀内の掘削痕跡から、周堀内部のI～10の番号を降った箇所が掘削痕跡の単位で、0.8～2.4mの単位が残る。

周堀で特徴的のは、根石が周堀底部内側立ち上がりから周堀の傾斜に沿って配置され廻っていることである。上からの崩落で落石したものという想定や、葺石が配列状態のまま、ずり落ちたという可能性もあるが、根

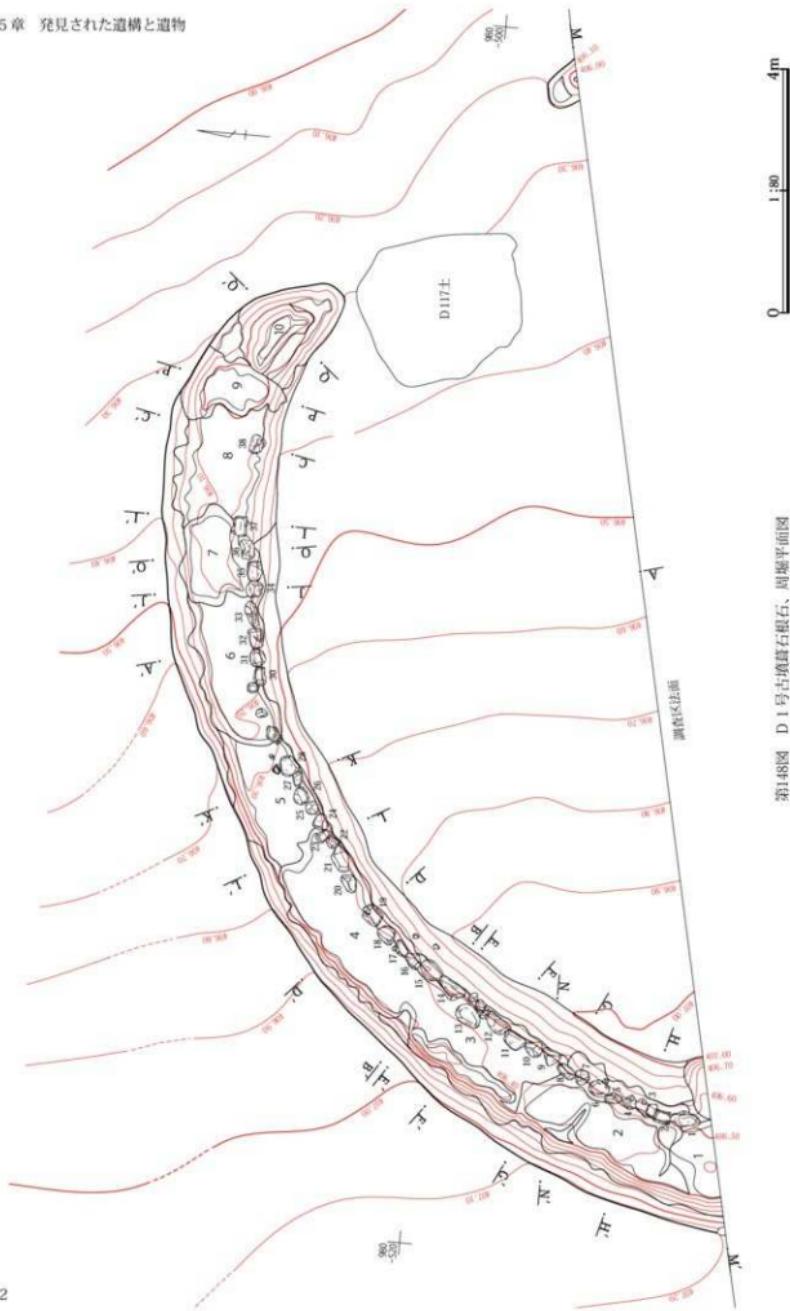
石の配列がそろっており、その上に載る石もしっかりと積み上げていることなどから、周堀内側に配置された葺石と判断した。調査時の石が大量に出土した状況の浮いた石を含めた様子を示したのが第146図である。石列は、周堀掘削後、直接周堀の地山面に石を差し込むような形で設置したのではない。周堀掘削後、周堀底面の凹凸を修正して平坦にするための黒色土を敷き、さらに内側立ち上がりの傾斜部に黒、黒褐色色土を敷いた後に、その上に根石を2～4段、周堀の傾斜に合せるように積み上げているものである。第149図の石列の断面図を見ていただくと分かる。平面図で見ると、浮いた石を取り上げて、根石及びその上に積み上げた石の配置状況を示した



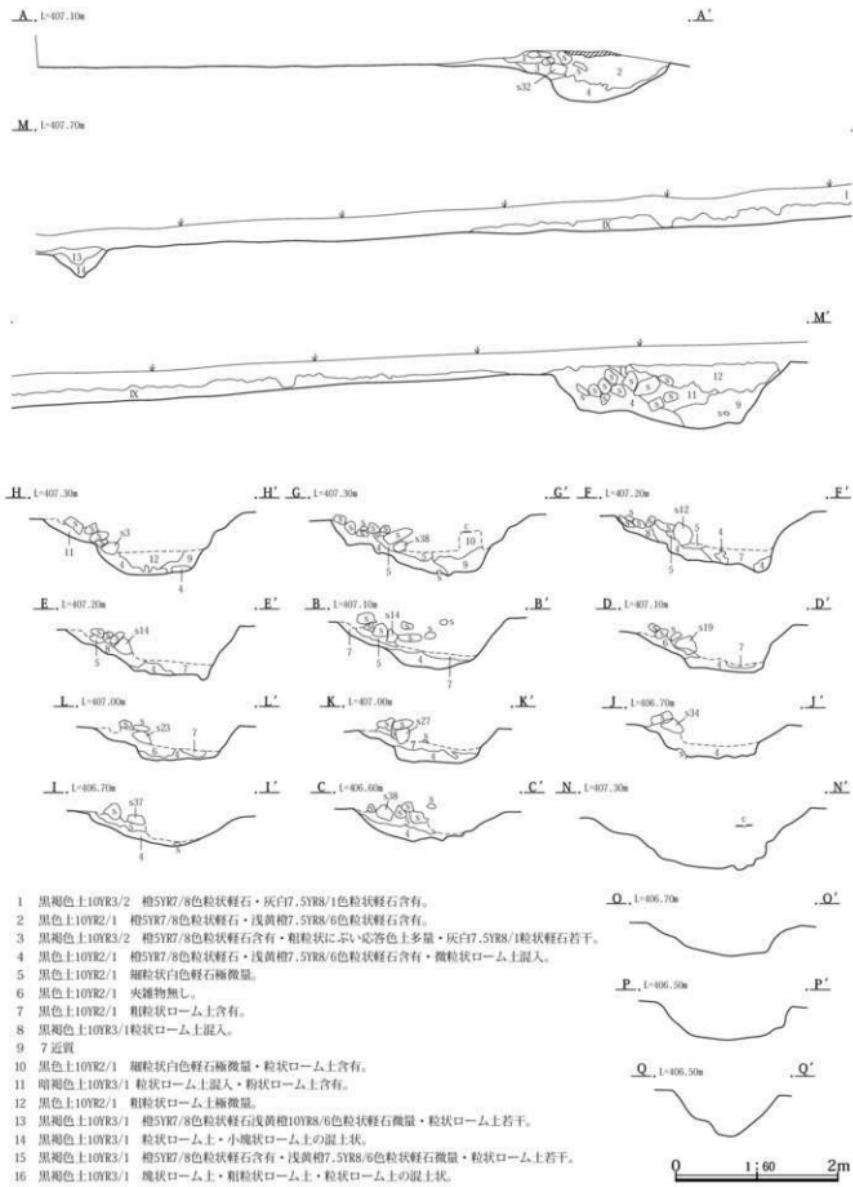
第146図 D1号古墳葺石及び浮石出土状況平面図



第147図 D 1号古墳葺石出土状況図



第148図 D1号古墳填石銀石、周壁平面図



第149図 D 1号古墳土層断面図・断面図

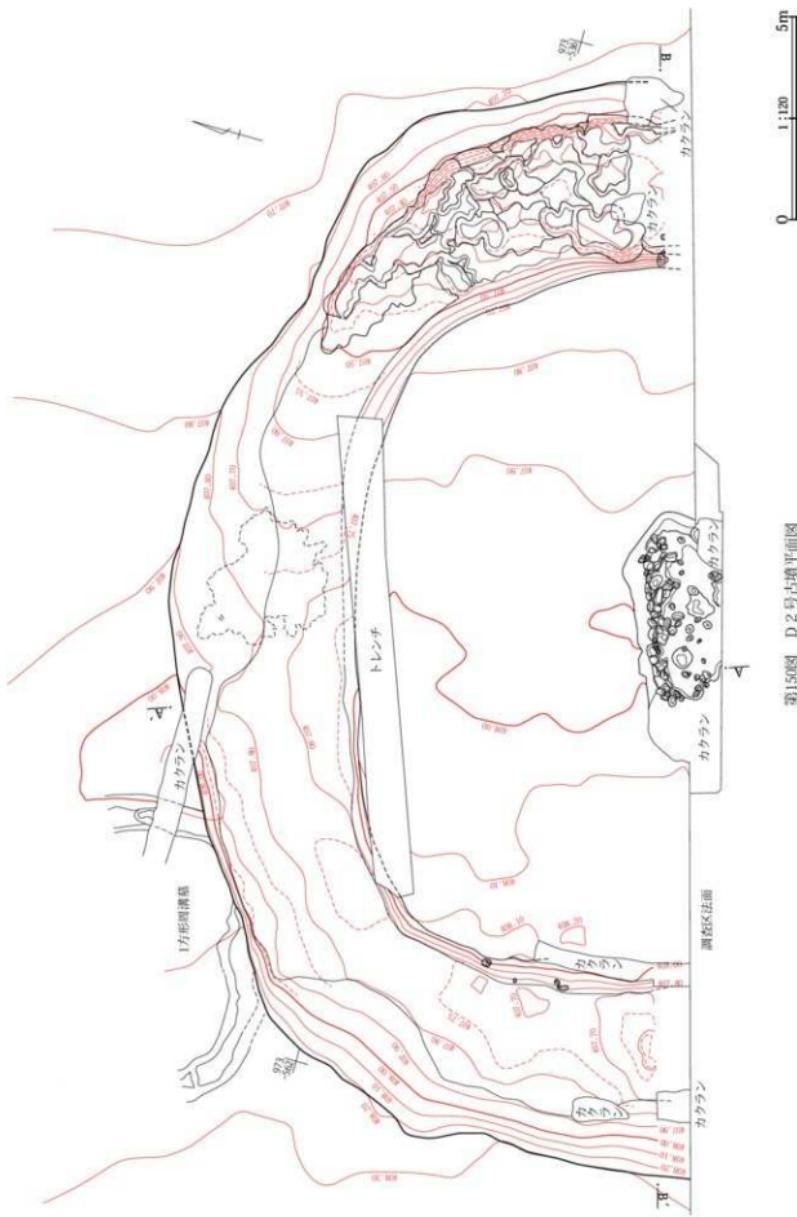
のが第147図である。石の配置状況が分る。さらに、積み上げた石列を外し、最下段の根石のみを示したのが、第148図である。このように、周堀の円弧に沿って、根石が、周堀内側立ち上がりに沿って配置されている様子が良く分かる。このような、周堀内側立ち上がりから葺石を施すことが分かる例は少ないが、遠見山古墳・前二子古墳などで見られるものである。この類の周堀内側の葺石について時期・分布など今後検討する必要がある。

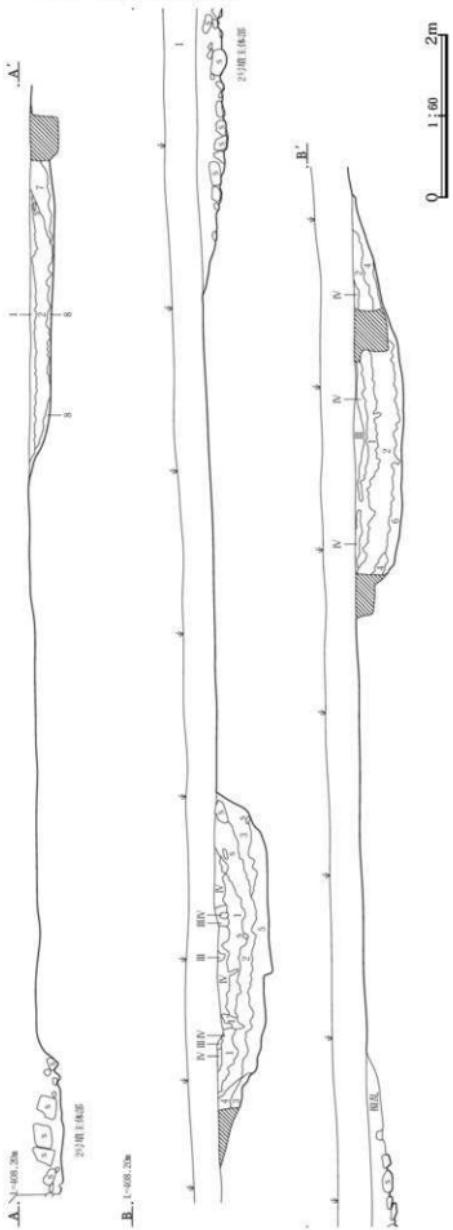
時期 遺物は一切出土していないので、年代比定は難しいが、墳丘径15mの円墳で、周堀の掘削が丁寧であることなどから、5世紀後半～6世紀代とする。

D2号古墳(第150～154図 P.L. 98～100・183)

位置 D区東部、D1号墳の西約20mの箇所にある。弥生時代のD1号円形周溝墓が東約10mに位置する。座標値 X=60963～60979 Y=-92536～-92562 遺存状況・重複 周堀北側が調査区内となる。主体部の一部も調査区内に入る。主体部南部及び周堀南部は調査区外である。D1号方形周溝墓が重複している。D2号墳が新しく、D1号方形周溝墓の南東部周溝及び、周溝内第2主体部の南半部を壊している。**形状** 北側周堀は隅円方形を呈する。**規模** 内周 南北8.96+m、東西17.36m 外周 南北13.60+m、東西26.96+m **面積** 墳丘部117.6696+m²、堀外周部260.843+m²、**周堀規模** 上幅312～496cm、下幅155～268cm、深さ17～65cm **長軸方向** N-15°-W **墳丘** 墳丘は削平されて一切残っていない。主体部の確認面を見ると、盛土による墳丘はさらに上位にあるものと推定する。墳丘部は、東西方向の周堀がほぼ原位置で確認できているので、方形を意識した堀として、一辺17.4mほどの方墳と推定する。**周堀** 周堀は北側のみの調査となっている。直線を意識した周堀の側線である。外周は凹凸があるが、基本は直線を意識しているものと考える。堀幅は、方形周溝墓の溝幅が1m未溝のものが多く、幅広くても上溝幅が2mを超えるものがD4号方形周溝墓にあるが、基本的に狭いものである。対してD2号古墳例は、3m～5m近い上幅を有し、底面幅も1.5mから2.7mと幅広い。深さはD4号方形周溝墓が、1.2mの深さを有するが、それ以外は全て50cm未溝なのに対して、D2号古墳の周堀深さは、最大で65cmあり、深さもある程度有する。方形周溝墓の周溝とは幅・深さともに違いがある。周堀東側は、掘削

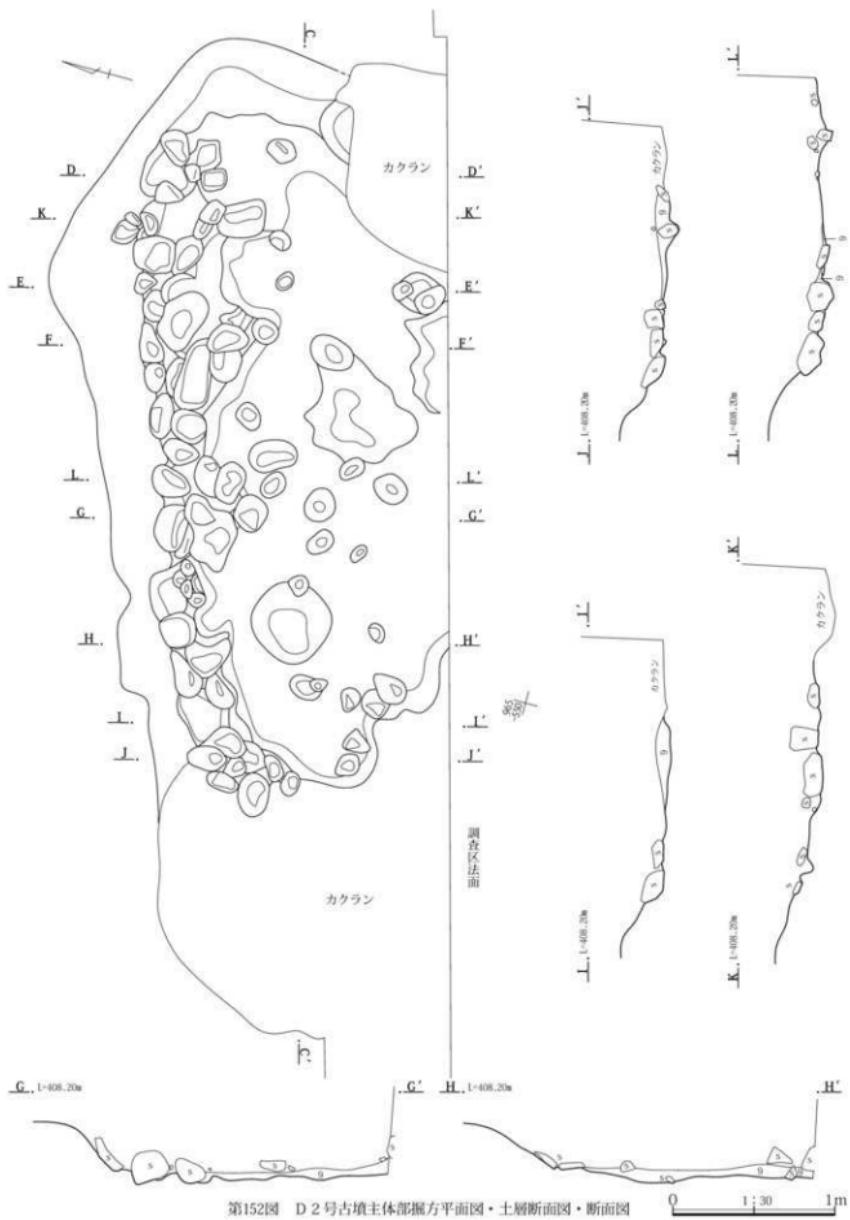
の痕跡のある凹凸が確認できたが、鋤先痕跡などは確認できなかった。この凹凸は、周堀の完成時には、埋められて平坦になっていた可能性がある。**主体部** 主体部の痕跡が墳丘中央から確認できた。主体部の痕跡は、1～5cmほどの小礫を主に中央部から南部に置き、その上に、5～34cmの平石を置いている。平石は特に15～30cmほどの大きさが主体となるものである。北側の東西南向の側線に沿って丁寧に並べられている。このような在りかたは横穴式石室の、下部の敷石(舗石)として位置付けられることが多い。主体部の掘方は明らかに地山面を土坑状に掘削した後に、底面に平石を置いている造作が断面Bからうかがえる。主体部の規模は、石敷床面で、全長410+cm、東部幅206+cm、中央部幅188+cm、土坑上場で462+cm、東部幅242+cm、中央部幅1208+cmである。この痕跡を復元するのに2案ある。一つは南方向に開口する横穴式石室の基底部とする案である。もう一つは、東西方向に延びる礫床状の主体部である。それぞれの案で復元してみる。**①横穴式石室と想定した場合** 石室の開口方向は、原則に従えば南となり、その場合は主体部の掘方の幅が4m越で、南北方向の長さも、復元墳丘長の17.4mからすると、主体部痕跡の掘方土坑の北側開始が、周堀北内側の立ち上がりから約7mで、残り10mほどが墳丘面である。ここに南に向いた横穴式石室が構築された可能性である。**②豎穴系の埋葬施設と想定した場合** 掘方の土坑の内側にある石は、平たい石を選んで床面に敷いた礫床状のものを想定する。頭位は東と推定され、全長は西側のカクランで不明であるが、少なくとも長さ4m以上、幅は2m以上ある石敷面がある。ここから上の構造は不明であるが、礫部状のものを想定している。以上の2案のうち、②案は、平石で平坦面を構成しているが、そのような例は保渡田八幡塚古墳等の礫層状施設では見られない。また、他の豎穴系の施設でもこのような敷石状の施設は見られない。故に、①案の横穴式石室の基底部と想定するものである。なお、これらの石を剥がすと、石の据え置き穴(第152図)が検出されている。これらの敷石(舗石)を敷いた後に、南北方向に横穴式石室を築いた可能性が高い。調査で検出された施設は、奥壁北側の掘方土坑の中に置かれた敷石(舗石)と想定する。対岸の四戸の古墳群などを参考にすると、横穴式石室は、南北方向に主軸を置いた、全長6mほどで、石室





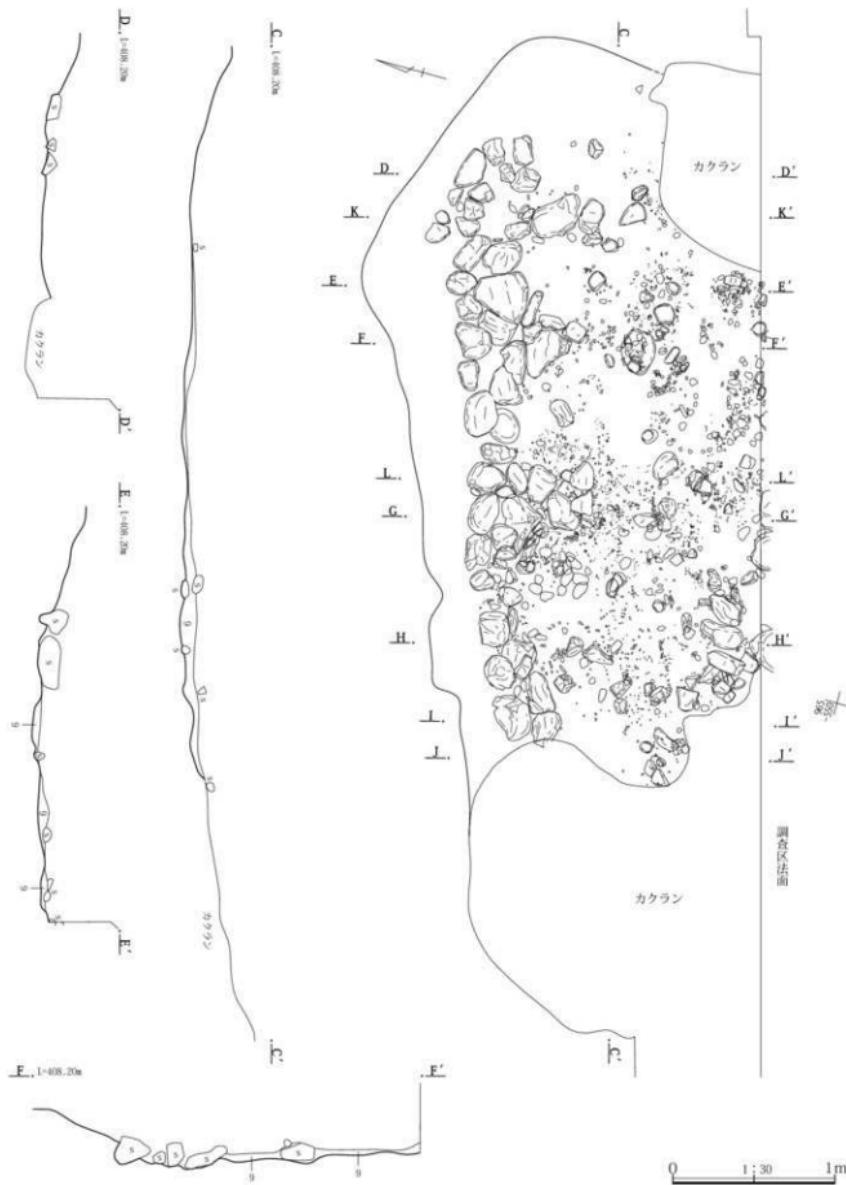
1. V字上部面。繊維状白色軽石若干・繊維状の土塙水分を帯びる。
- 1' 黒褐色+1.0mR2/1 光滑面。
2. 黑褐色+1.0mR3/1 細粒ロームの泥土・粒状ローム・少量。
3. 黑褐色+1.0mR3/1 細粒ロームの泥土・粒状ローム。
4. 黑褐色+1.0mR3/1 細粒ロームの泥土。
5. 黑褐色土+1.0mR3/1 細粒ロームの泥土。
6. 粒状層土・土体原状。
7. 黒褐色+1.0mR2/1 繊維状黄褐色・含石有。
8. 5箇+1.0mR2/1 黒褐色土+1.0mR2/2・繊維状土。
9. 黑褐色土+1.5mR2/2 小量10%含む。

第151図 D 2号古墳土塙断面図



第152図 D2号古墳主体部掘方平面図・土層断面図・断面図

0 1:30 1m



第153図 D 2号古墳敷石(舗石)平面図・土層断面図・断面図

幅は玄室幅で1.5mほどの大きさのものと推定する。**出土遺物** 周堀から2片の円筒埴輪片が出土している。肉眼観察で片岩・海綿骨針が確認できず、薄片作成胎土分析を行った結果でも、片岩類の確認はできなかったので、藤岡産の埴輪では無い。残念ながら蛍光X線分析による埴輪产地同定は時間の関係から行えなかったが、温側対岸の四戸の古墳群の埴輪は藤岡産であったのに対して、温川を間に挟んだすぐ東側に位置する新井遺跡出土古墳の埴輪の产地が異なることは興味深い。埴輪は小片で、編年は難しいが6世紀代と推定され、円筒埴輪のタガの造りがしっかりと突出度も高いので、6世紀中頃以前の可能性がある。ガラス玉が1個主体部と推定された箇所より出土しているが、方形周溝墓出土のガラス玉類とは異なる素材であると大賀氏により指摘された。

時期 時期は埴輪片・横穴式石室と想定された主体部などから、6世紀代でも後半以前の可能性が想定される。

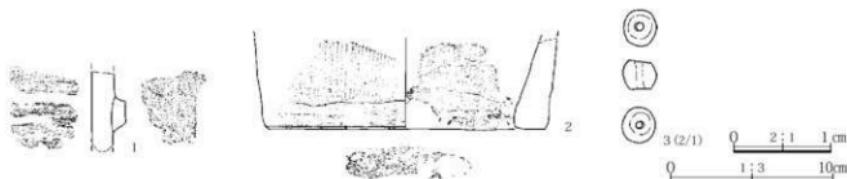
D 3号古墳(第155・156図 P.L. 101・183)

位置 D区西端部、D 4号方形周溝墓の西約15mの箇所にある。**座標値** X=60947~60953 Y=-92628~-92876 **遺存状況・重複** 周堀北東側が調査区内となる。北東埴丘部の一部も調査区内に入る。**形状** 北東側周堀外側立ち上がりのラインは円弧状を呈する。周堀底部の内外のラインは直線状を呈している。埴丘部も直線状を呈しており方形の可能性がある。**規模** 内周 南北4.40+m、東西9.92+m 外周 南北6.32+m、東西12.16+m **面積** 墓丘部11.392+ml 堀外周部55.872+ml **周堀規模** 上幅422~595cm、下幅55~210cm、深さ59~84cm **長軸方向** N-20°-W **墳丘** 墓丘は北東部のごく一部に削平され、崩落した葺石が少し検出されたのみである。堀の内周のライン及び墓丘部の北東隅が直角状に鋭角に屈曲し、墓丘北側ラインは直線状を

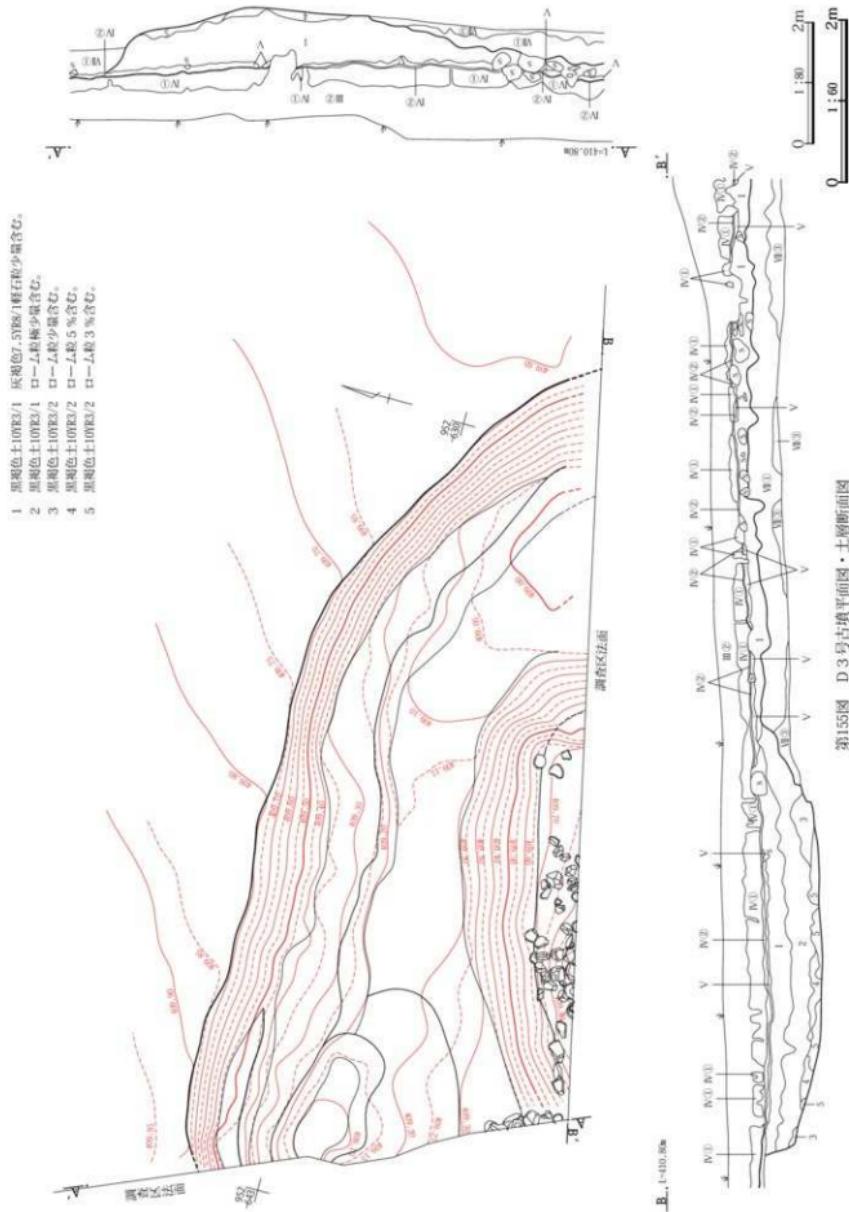
呈していることからすると、方墳の可能性がある。想定規模は不明である。**周堀** 周堀は先述したように、外周のたちあがりラインは円弧形であるが、周堀底面部の内外の立ち上がりラインは直線状を呈している。また北東隅のコーナーも直角状に屈曲している様子が見える。故に小範囲からの推測であるが、方墳である可能性がある。堀幅は、D 2号墳の時も述べたが、方形周溝墓の溝幅が1m未満のものが多く、幅広くても上溝幅が2mを超えるものがD 4号方形周溝墓にあるとはいえ、基本的に狭いものである。対してD 3号古墳例は、4~6m近い周堀の上幅を有し、底面幅も0.5~2mと幅広い。深さはD 4号方形周溝墓が、1.2mの深さを有するが、それ以外は全て50cm未満なのに対して、D 3号古墳の周堀深さは、最大で84cmあり、深さもある。方形周溝墓の周溝とは幅・深さとともに違いがあるので方形周溝墓ではない。葺石の存在も古墳と認定する要素の一つである。**時期** 須恵器が2片出土している。小片の為、時期比定は難しいが、6世紀代と推定する。

遺構外遺物(第157図 P.L. 184)

土師器杯(1~3)や高杯脚部片(4)、器台片(5)などがあり、5世紀後半~6世紀代のものが多い。ガラス玉はC区30号土坑覆土から出土したもので、コバルト着色のカリガラス(Group P 1)と同定されている。砥沢石製の中央に穿孔のある石製品(7)が出土している。砥沢石製ということから古墳時代以降とした。紡輪の可能性が高い。古墳時代の遺構外遺物の出土量は少ない。



第154図 D 2号古墳出土遺物図

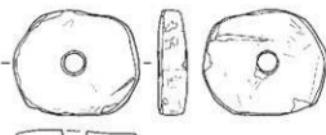
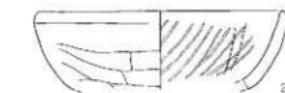
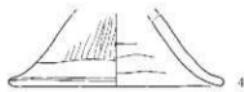
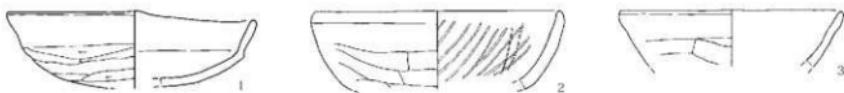


第155図 D3号古墳平面図・土層断面図



第156図 D 3号古墳出土遺物図

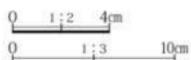
A区



C区



7 (2/1)



第157図 古墳時代遺構外出土遺物図